

平成24年度

講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	12
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	42
4	教養科目（情報科目）	46
5	日本語日本文学専攻専門科目	52
6	英語英文学専攻専門科目	76
7	生活科学科共通科目	109
8	食物栄養専攻専門科目	111
9	生活科学専攻専門科目	132
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	154
11	経済専攻専門科目	165
12	経営情報専攻専門科目	177
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	186
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	193
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	198
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	199
17	第二部商経学科専門科目	201
18	商経学科の演習・実習科目	227
19	教職に関する科目	230

文学科日本語日本文学専攻

【教養科目】		日本文法論	54
(人文)		日本語学講義	55
日本の歴史	1	日本語学講読Ⅰ	55
こころの科学	2	日本語学講読Ⅱ	56
芸術論	2	日本語学演習Ⅰ	56
かごしまカレッジ教育	3	日本語学演習Ⅱ	57
(社会)		日本語学演習Ⅲ	56
日本国憲法	3	日本語学演習Ⅳ	57
法学概論	4	日本語学演習Ⅴ	58
社会学	4	日本語学演習Ⅵ	57
生活と経済	5	日本語表現法	58
キャリアデザイン	5	日本語表現法演習	59
(自然)		対照言語学	59
数学の世界	6	(日本文学「古典」科目群)	
物理の世界	6	日本文学史・古典Ⅰ	60
生物の科学	7	日本文学史・古典Ⅱ	60
化学の世界	7	日本文学講義Ⅰ	61
食生活と健康	8	日本文学講読Ⅰ	61
(総合)		日本文学講読Ⅱ	62
現代人権論	8	日本文学講読Ⅲ	62
鹿児島学	9	日本文学演習Ⅰ	63
かごしま教養プログラム	9	日本文学演習Ⅱ	63
かごしまフィールドスクール	10	日本文学演習Ⅲ	63
社会活動	10	(日本文学「近代」科目群)	
企業研修	11	日本文学講義Ⅱ	64
(外国語科目)		日本文学講読Ⅴ	64
英語Ⅰ(A)	12~13	日本文学講読Ⅵ	65
英語Ⅰ(A)	12~13	日本文学講読Ⅶ	66
英語Ⅰ(A)	12~13	日本文学講読Ⅷ	66
英語Ⅰ(A)	12~13	日本文学講読Ⅸ	66
英語Ⅱ(A)	17~18	日本文学演習Ⅳ	67
英語Ⅱ(A)	17~18	日本文学演習Ⅴ	67
英語Ⅱ(A)	17~18	日本文学演習Ⅵ	68
英語Ⅱ(A)	17~18	(地域文学・中国文学科目群)	
英語Ⅲ(D)	23	南九州の文学Ⅰ	68
英語Ⅲ(E)	24	中国文学史Ⅰ	69
英語Ⅲ(F)	24	中国文学史Ⅱ	69
英語Ⅲ(G)	25	中国文学講読Ⅰ	70
英語Ⅲ(H)	25	中国文学講読Ⅱ	70
英語Ⅳ(A)	26	中国文学演習Ⅰ	71
英語Ⅳ(B)	26	中国文学演習Ⅱ	71
英語Ⅳ(F)	28	中国文学演習Ⅲ	71
英語Ⅳ(G)	29	(卒業研究)	
異文化コミュニケーション(英語)	30	卒業研究Ⅰ	72
異文化コミュニケーション(中国語)	30	卒業研究Ⅱ	72
(スポーツ・健康科目)		(関連科目群)	
スポーツ・健康論	42	英文学史	72
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	42	米文学史	73
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	44	比較文化	73
(情報科目)		書道Ⅰ	74
情報リテラシーⅠ(A)	46	書道Ⅱ	74
情報リテラシーⅡ(A)	49	書道Ⅲ	75
【専門科目】		書道Ⅳ	75
(専門基礎科目群)		【教職に関する科目】	
日本文学概論	52	教職入門	230
言語学概論	52	教育原理	231
(日本語学科目群)		教育心理学	232
日本語学概論	53	教育行政学概論	232
日本語教育概論	53	教育課程論	233
日本語史	54	国語科教育法	233
		道徳教育の研究	235
		特別活動の研究	236
		教育方法学概論	237
		教育相談	237
		生徒指導論	238
		教職実践演習(中)	239
		教育実習	241

文学科英語英文学専攻

【教養科目】

(人文)			
日本の歴史	1	オーラルコミュニケーションⅢ	80～81
こころの科学	2	オーラルコミュニケーションⅣ	81～82
芸術論	2	L L 演習Ⅰ	82
かごしまカレッジ教育	3	L L 演習Ⅱ	83
(社会)		L L 演習Ⅲ	83
日本国憲法	3	コミュニケーション概論	84
法学概論	4	ビジネス英語	84
社会学	4	通訳入門	85
生活と経済	5	(英語学科目群)	
キャリアデザイン	5	英語学概論	85
(自然)		英文法	86
数学の世界	6	英語史	86
物理の世界	6	英語音声学	87
生物の科学	7	英語表現法Ⅰ	87～88
化学の世界	7	英語表現法Ⅱ	88～89
食生活と健康	8	英語表現法Ⅲ	89～90
(総合)		英語学演習Ⅰ	90～91
現代人権論	8	英語学演習Ⅱ	91～92
鹿児島学	9	(英米文学科目群)	
かごしま教養プログラム	9	英文学概論	92
かごしまフィールドスクール	10	英文学史	93
社会活動	10	米文学史	93
企業研修	11	英米文学講読Ⅰ	94
(外国語科目)		英米文学講読Ⅱ	94
英語Ⅲ (A)	22	英米文学講読Ⅲ	95
英語Ⅲ (B)	22	英米文学講読Ⅳ	95
英語Ⅲ (C)	23	英語講読	96
英語Ⅲ (D)	23	英米文学演習Ⅰ	96～97
英語Ⅲ (E)	24	英米文学演習Ⅱ	97～98
英語Ⅲ (F)	24	(比較文化科目群)	
英語Ⅲ (G)	25	比較文学	98
英語Ⅲ (H)	25	比較文化	99
英語Ⅳ (A)	26	比較文化講読	99
英語Ⅳ (B)	26	イギリス事情	100
英語Ⅳ (C)	27	アメリカ事情	100
英語Ⅳ (D)	27	ヨーロッパ事情	101
英語Ⅳ (E)	28	比較文化演習Ⅰ	101
英語Ⅳ (F)	28	比較文化演習Ⅱ	102
英語Ⅳ (G)	29	(関連科目群)	
異文化コミュニケーション (英語)	30	日本語学概論	102
異文化コミュニケーション (中国語)	30	日本語教育概論	103
ドイツ語Ⅰ	31	対照言語学	103
ドイツ語Ⅱ	31	日本文学史Ⅰ	104
フランス語Ⅰ	32	日本文学史Ⅱ	104
フランス語Ⅱ	32	英文文書処理	105
中国語Ⅰ (B)	33	国際関係論	105
中国語Ⅰ (H)	36	国際経済論	106
中国語Ⅱ (B)	37	(卒業研究)	
中国語Ⅱ (H)	40	卒業研究	106～108
中国語Ⅲ	41	【教職に関する科目】	
中国語Ⅳ	41	教職入門	230
(スポーツ・健康科目)		教育原理	231
スポーツ・健康論	42	教育心理学	232
生涯スポーツ実習Ⅰ (B)	42	教育行政学概論	232
生涯スポーツ実習Ⅱ (B)	44	教育課程論	233
(情報科目)		英語科教育法	234
情報リテラシーⅠ (B)	46	道德教育の研究	235
情報リテラシーⅡ (B)	49	特別活動の研究	236
【専門科目】		教育方法学概論	237
(専門基礎科目群)		教育相談	237
スタディスキルズ	76	生徒指導論	238
言語学概論	76	教職実践演習 (中)	239
(コミュニケーション科目群)		教育実習	241
オーラルコミュニケーションⅠ	77～78		
オーラルコミュニケーションⅡ	78～79		

生活科学科食物栄養専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	調理学	114
日本の歴史	1	調理学実習Ⅰ	114
こころの科学	2	調理学実習Ⅱ	115
芸術論	2	調理学実習Ⅲ	115
かごしまカレッジ教育	3	〈消化・吸収・代謝に関する科目〉	
(社会)		栄養学総論	116
日本国憲法	3	栄養学各論	116~117
法学概論	4	栄養学実習	117
社会学	4	解剖生理学	118
生活と経済	5	解剖生理学実験	118
キャリアデザイン	5	生化学Ⅰ	119
(自然)		生化学Ⅱ	119
数学の世界	6	生化学実験	120
物理の世界	6	〈健康と運動に関する科目〉	
化学の世界	7	健康と運動	120
食生活と健康	8	健康管理概論	121
(総合)		公衆衛生学	121
現代人権論	8	運動生理学	122
鹿児島学	9	(応用科目)	
かごしま教養プログラム	9	〈給食の管理に関する科目〉	
かごしまフィールドスクール	10	給食管理	122
社会活動	10	給食管理実習Ⅰ	123
企業研修	11	給食管理実習Ⅱ	123
(外国語科目)		給食管理実習Ⅲ	124
英語Ⅰ(B)	14	〈栄養の指導〉	
英語Ⅰ(B)	14	栄養教育論	124
英語Ⅱ(B)	19	栄養指導論	125
英語Ⅱ(B)	19	栄養指導論実習Ⅰ	126
英語Ⅲ(A)	22	栄養指導論実習Ⅱ	126
英語Ⅲ(B)	22	公衆栄養学	127
英語Ⅲ(C)	23	栄養情報処理	127
英語Ⅳ(A)	26	〈臨床関連科目〉	
英語Ⅳ(B)	26	臨床栄養学Ⅰ	128
英語Ⅳ(F)	28	臨床栄養学Ⅱ	128
英語Ⅳ(G)	29	臨床栄養学実習	129
異文化コミュニケーション(英語)	30	病理学	129
異文化コミュニケーション(中国語)	30	〈栄養教諭関連科目〉	
フランス語Ⅰ	32	学校栄養教育論	130
フランス語Ⅱ	32	〈その他〉	
中国語Ⅰ(F)	35	有機化学概論	131
中国語Ⅰ(H)	36	生物概論	131
中国語Ⅱ(F)	39		
中国語Ⅱ(H)	40		
(スポーツ・健康科目)			
生涯スポーツ実習Ⅰ(C)	43	【教職に関する科目】	
生涯スポーツ実習Ⅱ(C)	44	教職入門	230
(情報科目)		教育原理	231
情報リテラシーⅠ(C)	47	教育心理学	232
情報リテラシーⅡ(C)	50	教育行政学概論	232
		教育課程論	233
		道徳教育論	235
		特別活動論	236
		教育方法学概論	237
		教育相談	237
		生徒指導原論	238
		教職実践演習(栄養教諭)	240
		栄養教育実習	242
		栄養教育実習の事前事後の指導	242
【専門科目】			
(生活科学科目)			
生活科学概論	109		
生活経営学	109		
人間関係論	110		
社会福祉論	110		
(基礎科目)			
〈食物に関する科目〉			
食品学Ⅰ	111		
食品学Ⅱ	111		
食品学実験	112		
食品衛生学	112		
食品衛生学実験	113		
食品加工学	113		

生活科学科生活科学専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
生活と経済	5
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	6
物理の世界	6
食生活と健康	8
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	9
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	10
社会活動	10
企業研修	11
(外国語科目)	
英語Ⅰ(A)	12～13
英語Ⅰ(A)	12～13
英語Ⅰ(A)	12～13
英語Ⅰ(A)	12～13
英語Ⅱ(A)	17～18
英語Ⅱ(A)	17～18
英語Ⅱ(A)	17～18
英語Ⅱ(A)	17～18
英語Ⅲ(A)	22
英語Ⅲ(B)	22
英語Ⅲ(C)	23
英語Ⅳ(A)	26
英語Ⅳ(B)	26
英語Ⅳ(F)	28
英語Ⅳ(G)	29
異文化コミュニケーション(英語)	30
異文化コミュニケーション(中国語)	30
フランス語Ⅰ	32
フランス語Ⅱ	32
中国語Ⅰ(G)	36
中国語Ⅰ(H)	36
中国語Ⅱ(G)	40
中国語Ⅱ(H)	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習Ⅰ(D)	43
生涯スポーツ実習Ⅱ(D)	44
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ(D)	47
情報リテラシーⅡ(D)	50

【専門科目】

(学科共通)	
生活科学概論	109
生活経営学	109
人間関係論	110
社会福祉論	110

(専門基礎系)

生活化学	132
生活化学実験	132
色彩学	133
コンポジション	133
デジタル造形基礎	134
テキスタイルサイエンス	134
ファッション造形基礎	135
(ライフデザイン系)	
衣生活学	135
生活コロイド学	136
食物と栄養	136
調理学	137
卒業研究	137～138
(ビジュアル・ファッションデザイン系)	
ビジュアルデザイン論	139
ビジュアルデザインⅠ	139
ファッションデザイン論	140
ファッション造形Ⅰ	140
デジタルデザイン論	141
デジタルデザイン	141
卒業研究	142
(建築デザイン系)	
住生活学	142
住居史	143
住居・インテリア設計学	143
設計製図Ⅰ	144
設計製図Ⅱ	144
住居構造学Ⅰ	145
住居構造学Ⅱ	145
住居環境学	146
住居環境学演習	146
建築材料学	147
建築生産	147
建築法規	148
CAD設計	148
卒業研究	149
(旧カリキュラム)	
消費者問題	149
衣生活学実習	150
衣造形実習Ⅲ	150
生活造形史	151
調理実習Ⅰ	151
調理実習Ⅱ	152
環境生物学	152
地球環境論	153

【教職に関する科目】

教職入門	230
教育原理	231
教育心理学	232
教育行政学概論	232
教育課程論	233
家庭科教育法	234
道徳教育の研究	235
特別活動の研究	236
教育方法学概論	237
教育相談	237
生徒指導論	238
教職実践演習(中)	239
教育実習	241

商経学科経済専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	経済政策	156
日本の歴史	1	社会政策	157
こころの科学	2	社会思想	157
芸術論	2	民法	158
かごしまカレッジ教育	3	商法	158
(社会)			
日本国憲法	3	産業心理学	159
法学概論	4	簿記論 I	159
社会学	4	経営学総論	160
キャリアデザイン	5	〈情報基礎〉	
(自然)			
数学の世界	6	情報科学概論	161
物理の世界	6	文書作成実習	161
生物の科学	7	統計学	162
化学の世界	7	応用文書処理	162
食生活と健康	8	PCデータ活用	163
(総合)			
現代人権論	8	PCデータ活用実習	163
鹿児島学	9	PCアプリケーション実習	164
かごしま教養プログラム	9	(専攻専門科目)	
かごしまフィロドスクール	10	〈経済理論〉	
(外国語科目)			
英語 I (C)	15~16	日本経済論	165
英語 I (C)	15~16	財政学	165
英語 I (C)	15~16	金融論	166
英語 I (C)	15~16	経済学史	166
英語 II (C)	20~21	経済学特講 II	167
英語 II (C)	20~21	簿記論 II	167
英語 II (C)	20~21	〈国際環境〉	
英語 II (C)	20~21	国際経済論	168
英語 II (C)	20~21	国際立地論	168
英語 III (D)	23	アジア経済論	169
英語 III (E)	24	外国貿易論	169
英語 III (F)	24	国際関係論	170
英語 III (G)	25	比較文化	170
英語 III (H)	25	アジア事情	171
英語 IV (C)	27	国際経済特講	171
英語 IV (D)	27	〈地域政策〉	
英語 IV (E)	28	地域経済論	172
英語 IV (F)	28	地域産業政策	172
英語 IV (G)	29	地域史	173
異文化コミュニケーション (英語)	30	地方財政論	173
異文化コミュニケーション (中国語)	30	非営利組織論	174
中国語 I (C)	34	労働法	175
中国語 I (E)	35	地域研究特講	175
中国語 I (H)	36	地方自治法	176
中国語 II (C)	38	〈演習・実習〉	
中国語 II (E)	39	基礎演習	227~228
中国語 II (H)	40	演習 I	227~228
中国語 III	41	演習 II	227~228
中国語 IV	41	卒業研究	227~228
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	42	社会活動	229
生涯スポーツ実習 I (E)	43	企業研修	229
生涯スポーツ実習 II (E)	45		
(情報科目)			
情報リテラシー I (E)	48		
情報リテラシー II (E)	51		

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

経済学	154
文化と社会	154
経済情報論	155
消費者問題	155
行政法	156

商経学科経営情報専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	経済政策	156
日本の歴史	1	社会政策	157
こころの科学	2	社会思想	157
芸術論	2	民法	158
かごしまカレッジ教育	3	商法	158
(社会)			
日本国憲法	3	産業心理学	159
法学概論	4	簿記論Ⅰ	159
社会学	4	経営学総論	160
キャリアデザイン	5	〈情報基礎〉	
(自然)			
数学の世界	6	情報科学概論	161
物理の世界	6	文書作成実習	161
生物の科学	7	統計学	162
化学の世界	7	応用文書処理	162
食生活と健康	8	PCデータ活用	163
(総合)			
現代人権論	8	PCデータ活用実習	163
鹿児島学	9	PCアプリケーション実習	164
かごしま教養プログラム	9	(専攻専門科目)	
かごしまフィヨルドスクール	10	〈経営理論〉	
(外国語科目)			
英語Ⅰ(C)	15~16	簿記論Ⅱ	177
英語Ⅰ(C)	15~16	経営管理論	177
英語Ⅰ(C)	15~16	労務管理論	178
英語Ⅰ(C)	15~16	管理会計論	178
英語Ⅱ(C)	20~21	原価計算	179
英語Ⅱ(C)	20~21	経営学特講Ⅰ	179
英語Ⅱ(C)	20~21	経営学特講Ⅱ	180
英語Ⅱ(C)	20~21	〈情報分析〉	
英語Ⅱ(C)	20~21	情報管理論	180
英語Ⅲ(D)	23	経営戦略論	181
英語Ⅲ(E)	24	企業論	182
英語Ⅲ(F)	24	財務会計論	182
英語Ⅲ(G)	25	マーケティング論	183
英語Ⅲ(H)	25	〈情報活用〉	
英語Ⅳ(C)	27	経営工学	183
英語Ⅳ(D)	27	コンピュータ会計	184
英語Ⅳ(E)	28	応用データ活用	184
英語Ⅳ(F)	28	プログラミング	185
英語Ⅳ(G)	29	情報論特講	185
異文化コミュニケーション(英語)	30	〈演習・実習〉	
異文化コミュニケーション(中国語)	30	基礎演習	227~228
中国語Ⅰ(D)	34	演習Ⅰ	227~228
中国語Ⅰ(E)	35	演習Ⅱ	227~228
中国語Ⅰ(H)	36	卒業研究	227~228
中国語Ⅱ(D)	38	社会活動	229
中国語Ⅱ(E)	39	企業研修	229
中国語Ⅱ(H)	40		
中国語Ⅲ	41		
中国語Ⅳ	41		
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	42		
生涯スポーツ実習Ⅰ(F)	43		
生涯スポーツ実習Ⅱ(F)	45		
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(F)	48		
情報リテラシーⅡ(F)	51		

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

経済学	154
文化と社会	154
経済情報論	155
消費者問題	155
行政法	156

第二部商経学科

【教養科目】

(教養一般)

人間と文化	186
日本の歴史	186
日本文学	187
こころの科学	187
比較文化	188
アジア文化論	188
日本国憲法	189
数学の世界	189
環境問題	190
かごしまカレッジ教育	190
かごしま教養プログラム	191
かごしまフィールドスクール	191
キャリアデザイン	192

(外国語科目)

英語 I (A)	193
英語 I (B)	193
英語 II (A)	194
英語 II (B)	194
異文化コミュニケーション (英語)	195
異文化コミュニケーション (中国語)	195
中国語 I (A)	196
中国語 I (B)	196
中国語 II (A)	197
中国語 II (B)	197

(スポーツ・健康科目)

生涯スポーツ実習 I	198
生涯スポーツ実習 II	198

(情報科目)

情報リテラシー I	199
情報リテラシー II	199~200

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

現代社会論	201
経済学	201
経済情報論	202
行政法	202
社会政策	203
社会思想	203
民法	204
商法	204
産業心理学	205
簿記論 I	205
経営学総論	206

〈情報基礎〉

情報科学概論	206
文書作成実習	207
応用文書処理	207
PCデータ活用	208
PCデータ活用実習	208
PCアプリケーション実習	209

(専門応用科目)

〈経済理論〉

日本経済論	210
財政学	210
金融論	211
経済学史	211
経済学特講	212

〈地域と国際〉

国際経済論	212
国際立地論	213
アジア経済論	213
外国貿易論	214

国際関係論	214
アジア事情	215
地域経済論	215
地域産業政策	216
地域史	216
地方財政論	217
非営利組織論	217
労働法	218
地域研究特講	218
地方自治法	219

〈経営理論〉

簿記論 II	219
経営管理論	220
労務管理論	220
管理会計論	221
経営学特講	221

〈情報分析・活用〉

情報管理論	222
経営戦略論	223
企業論	223
応用データ活用	224
プログラミング	224
財務会計論	225
情報論特講	225
マーケティング論	226

〈演習・実習〉

基礎演習	227~228
演習 I	227~228
演習 II	227~228
卒業研究	227~228
社会活動	229
企業研修	229

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	中谷 彩一郎・轟 義昭・土肥 克己・木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 日頃本をあまり読まないのに、「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思っていませんか。また、「文学」には興味はあるけれど、なんだか難しそうだと思っていませんか。そのような皆さんに少しでも「文学」に親しんでもらおうと、担当教員5名は、「旅と文学」をキーワードにして、日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解きます。</p> <p>【到達目標】 日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解き、「文学」に親しみをもってもらおう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。適宜、プリントを配布します。</p> <p>(2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、放浪する古代ギリシアの英雄：ホメロス『オデュッセイア』</p> <p>第2回 放浪する古代ローマの英雄：ウェルギリウス『アエネイス』</p> <p>第3回 放浪する地中海世界の恋人たち：古代ギリシア恋愛小説の世界</p> <p>第4回 ビカレスク小説の先駆け：古代ローマ小説の世界</p> <p>第5回 旅とイギリス文学 (その一)：G.チョーサーの『カンタベリー物語』</p> <p>第6回 旅とイギリス文学 (その二)：J.スウィフトの『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第7回 中国文学における「旅と文学」(1)：中国伝統劇の紹介</p> <p>第8回 中国文学における「旅と文学」(2)：家族で旅芸人</p> <p>第9回 中国文学における「旅と文学」(3)：組織で旅芸人</p> <p>第10回 神々の旅：記紀神話「イザナギの冥府行き」「オオクニスシの旅」</p> <p>第11回 英雄の旅：記紀神話「ヤマトタケル」</p> <p>第12回 旅の苦しみ、旅の楽しみ：『万葉集』の中の旅</p> <p>第13回 一人旅、二人旅、家族の旅：『源氏物語』『更級日記』『赤染衛門集』</p> <p>第14回 お江戸の旅、薩摩の旅：『垂邑詩集 (すいゆうししゅう)』</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポートの提出 (70点) および講義に関する毎回の感想・意見等 (30点) で評価します。レポートは4名が課したのものから2つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く

(注) 受講生が100人を超えた場合は人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の文化—特に美術—について、トピックスごとに紹介する。</p> <p>【概要】 日本美術の特徴について、I 絵画 (物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵)・II 仏像 (仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像)・III 暮らしと美術 (茶の湯と美術・薩摩焼) の3点から紹介する。講義では、教科書とともにスライドやビデオなどを用い、具体的な作品鑑賞を行う。この際、作品の見方や考え方についても解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本文化—絵画・彫刻 (仏像)・工芸—の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本の美術』 (田中日佐夫監修 東京美術 平成11年)</p> <p>(2) 『日本美術のことば案内』 (日高薫 小学館 2003年)</p> <p>『日本のやきもの 薩摩』 (渡辺芳郎 淡交社 2003年)</p> <p>『新潮世界美術辞典』 (新潮社 昭和60年1月)</p>		
授業スケジュール	<p>■ 授業スケジュール</p> <p>第1回 ：オリエンテーリング</p> <p>第2回～第9回 ：I 絵画について 1) 物語絵と絵巻 2) 仏画 3) 詩画軸と水墨画 4) 狩野派土佐派 5) 浮世絵</p> <p>第10回～第12回 ：II 仏像について 1) 仏様の世界 2) 藤原時代までの仏像 3) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第13回～第14回 ：III 暮らしと美術 1) 茶の湯と美術 2) 薩摩焼</p> <p>第15回 ：まとめ</p>		
成績評価の方法	講義ごとの感想文 (40%) 及びレポート (60%)		

(注) 受講登録が100人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらい実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：さまざまな対人関係</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	「レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)」		

(注) 受講登録が100人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	芸術論	担当者	丸山 容爾
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 普段、鑑賞することの少ない芸術作品に触れ、芸術を味わう楽しさを経験する。</p> <p>【概要】 映像表現された作品を中心に、一般的に馴染み深い作品 (デザインのジャンルも含めて) を引用し、様々な視点からその芸術性を探っていく。</p> <p>【到達目標】 何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し、モノを観る真の目を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布。テキストは使用しない。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。講義中、PowerPoint・DVDを活用する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」：講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「ショートフィルム 1」：世界のショートフィルム</p> <p>第3回 「錯視」：古典的錯視作品、身の周りの錯視・だまし絵</p> <p>第4回 「舞妓」：京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史</p> <p>第5回 「日本の伝統芸能・落語」：落語の小道具、歴史</p> <p>第6回 「造形作家の制作風景」：創造する喜びと生みの苦しみ</p> <p>第7回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 1」：歌舞伎の魅力と小道具</p> <p>第8回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 2」</p> <p>第9回 「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」：太夫・三味線・人形遣いの役割</p> <p>第10回 「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」：その流行と時代背景</p> <p>第11回 「世界のコマーシャル・フィルム」：世界各国のコマーシャルの比較</p> <p>第12回 「チャールズ・チャップリン 1」</p> <p>第13回 「チャールズ・チャップリン 2」</p> <p>第14回 「ショートフィルム 2」</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)、レポート (70%) で評価。		

(注) 受講登録が100人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する</p> <p>【概要】 「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】 (1)「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際の話合いの場で実践できる(2)グループの話合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。(3)レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。(4)レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。(5)事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	<p>第1回 導入 : 「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介、日本語リテラシー能力</p> <p>第2回 自己紹介: グループごとに、グループ代表者が他班に</p> <p>第3回 地図 : 略地図を書く、地図を口頭で説明する</p> <p>第4回 漢字 : 難読漢語をどう調べるか、音か罰か</p> <p>第5回 インターネット: ドメインについて、電子メール利用の注意点</p> <p>第6回 調査方法: 担当課題の発表と班分け、ネットで調べる、図書館で調べる、引用・書誌情報</p> <p>第7回 調査実施: 課題について実際に調査を行う</p> <p>第8回 中間報告: 口頭発表と質疑</p> <p>第9回 図表 : 統計などの数字の扱い、図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第10回 レポート: 文形・文体について</p> <p>第11回 レポート: アウトラインの作り方</p> <p>第12回 レポート: パラグラフの書き方</p> <p>第13回 レポート: 第1回提出</p> <p>第14回 レポート: 第2回提出</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験（パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する）の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 受講者数は、20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1年、2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】 日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問われている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】 日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント (2)江頭憲治郎他編、『ポケット六法(平成24年度版)』、有斐閣		
授業スケジュール	<p>第1回 日本国憲法の意義：立憲主義、民主主義、自由主義、法の支配の理念</p> <p>第2回 憲法概論：国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念</p> <p>第3回 基本権総論：私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論</p> <p>第4回 包括的権利・参政権：幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等、選挙に関する憲法原則</p> <p>第5回 精神的自由権(1)：思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則</p> <p>第6回 精神的自由権(2)：表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由</p> <p>第7回 経済的自由権：職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権</p> <p>第8回 受益権：裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権</p> <p>第9回 社会権：生存権、環境権、教育を受ける権利、労働基本権</p> <p>第10回 国会(1)：国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越</p> <p>第11回 国会(2)：国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能</p> <p>第12回 内閣：内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任</p> <p>第13回 裁判所：最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制</p> <p>第14回 財政：財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止</p> <p>第15回 憲法改正：憲法改正の手続、憲法改正の限界</p>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。		

(注) 教職必修

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ジェンダーと法</p> <p>【概要】 「ジェンダー」概念の導入が、近代の法の概念や法的思考、制度にどのような変化をもたらしたかを概観する。</p> <p>【到達目標】 現代社会の生き難さの原因の一つに、性差についての固定観念や偏見（ジェンダー・バイアス）があることを、法学や司法の領域で発見し、それを批判的に検討する視点を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	辻村みよ子『ジェンダーと法〔第2版〕』（不磨書房）		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：ジェンダーとは 第 2回 フェミニズム運動の到達点：女性の権利の展開と女性差別撤廃条約 第 3回 「男女平等」とは？：世界各国の男女共同参画政策とポジティブ・アクション 第 4回 ジェンダー・ギャップ指数とは？：日本の男女共同参画社会基本法と諸政策 第 5回 ジェンダー・エンパワーメント指数とは？：ポジティブ・アクションの問題点と展望 第 6回 「女性差別」と「性差別」：日本国憲法の平等原理と性差別の違憲審査基準 第 7回 「保護」と「平等」のバランス：雇用とジェンダー 第 8回 日本型福祉社会論とは？：社会保障とジェンダー 第 9回 憲法 24 条と家族法：家族とジェンダー 第 10回 身体をめぐるジェンダー：リプロダクティブ・ライツ 第 11回 親密性と暴力：ドメスティック・バイオレンス 第 12回 セクシュアリティの多様性：セクシュアル・ハラスメント 第 13回 「性の商品化」を法規制できるか？：ポルノ/買春 第 14回 ジェンダー正義はどこから生じるのか？：第三世界のフェミニズム 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	社会学	担当者	佐々木 陽子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会学の基本的概念を学ぶ。</p> <p>【概要】 具体的な事例を提示し、葛藤に満ちている現代社会の諸問題を社会的視点（主に歴史社会学、家族社会学、医療社会学など）から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的現象を多角的視点から見ることで、自明視している「常識」に疑問を持つようになる。 社会に氾濫している情報や調査を批判的に読み解くことができる。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	特定のテキストは使用せず。 授業時に提示する。		
授業スケジュール	第 1回 社会学とはどんな学問か：常識を疑うとは・視点ずらしとは 第 2回 社会学の手法としての社会調査Ⅰ：貧困調査の威力 第 3回 社会学の手法としての社会調査Ⅱ：市場調査と我々の欲望 第 4回 社会学の手法としての比較：鹿児島カルチャーショック・1回目テスト 第 5回 生命倫理をめぐる葛藤Ⅰ：生殖医療の進展と人間の欲望の肥大化 第 6回 生命倫理をめぐる葛藤Ⅱ：生命の選別と中絶問題 第 7回 家族問題は個人の問題か：戦前の家父長制と金子みすずの自殺 第 8回 時事問題から見出す社会学・2回目テスト 第 9回 セクシュアリティをめぐる政治Ⅰ：G I D（性同一性障害） 第 10回 セクシュアリティをめぐる政治Ⅱ：セクシュアルマイノリティとカミングアウト 第 11回 歴史と社会学：ハンセン病差別と優生思想 第 12回 歴史と社会学：戦死する国民と非国民 第 13回 歴史と社会学：沖縄の集団自決をめぐる 第 14回 時事問題から見出す社会学・3回目テスト 第 15回 社会学とは何だったのか		
成績評価の方法	授業内に実施する3回の論文及びテスト (100%)		

(注) 受講登録が 100 人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生活と経済	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
テーマ及び概要	〔単位〕 2単位		
(1) テキスト (2) 参考文献	〔必修/選択〕 選択 (注)		
授業スケジュール	〔授業形態〕 講義方式		
成績評価の方法			

(注) 商経学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
	〔履修年次〕 1年		〔学期〕 通年
テーマ及び概要	〔単位〕 2単位		
授業スケジュール	〔必修/選択〕 選択		
成績評価の方法	〔授業形態〕 講義方式及びワークショップ		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>〔講師陣は平成23年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月29日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうなのかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 木戸裕子(文学科教授), 内田昌廣(商経学科教授), 西村道子(株式会社 昴) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 前田幸一(株式会社 鹿島印刷), 丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 田原武志(株式会社 アシップ), 野元一臣(株式会社 ビルメン鹿児島) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月20日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 宇都泰礼(株式会社 健康家族), 北川隆巳(京セラ株式会社), 青山栄一(株式会社 フォーバル), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫), 本学卒業生8人(中学校教員, 栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員 <p>※24年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】 数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは、物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身に付ける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は、諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。そこで、数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は、前者に力点を置くことが望ましい。すなわち、数学とは何かとか、何のために数学を学ぶのか等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】 1 教科としての数学と、学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成並びに社会生活に役立つ数学的な物の見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 量的な面を考慮して、特に定めない (2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する		
授業スケジュール	第1回 1 数学という学問 第2回 ・数学の要請 ・数学的帰納法 ・デカルトの発見的方法 第3回 2 数学の魅力と素数分解の一意性 第4回 ・数学の源 ・零0の発見 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数 第5回 3 三平方の定理の魅力 第6回 ・ピタゴラス数の折り紙表現 第7回 4 フェルマーの定理の魅力と現代数学 第8回 ・フェルマー数 ・フェルマー予想の証明 第9回 5 経済や社会の動向を探る現代数学 第10回 ・行列論 (行列と行列式) 第11回 ・行列の経営学への適用とケーキ作り 第12回 ・クラメルの定理と行列式による3元連立1次連立方程式の解 第13回 ・マルコフの推移行列とマーケット・シェア 第14回 6 特講: ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界 第15回 まとめ	履修状況調査と小論文	「数学の世界」小論文
成績評価の方法	筆記試験 (90%) , 小論文 (10%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井 伸平
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】 ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか? 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてシャボン玉にはきれいな色がつくのでしょうか? このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、2, 3のゆかぬい実験も行う予定です。お楽しみに。</p> <p>【到達目標】 物理学を身近に感じる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (適宜プリントを配布) (2) 藤城敏幸著「生活の中の物理」東京教学社。 そのほか、適宜授業中に紹介。		
授業スケジュール	第01回 ……講義の概要, 科学的記法 第02-03回 ……地球・月・太陽の大きさと距離 第04-06回 ……日本の春夏秋冬 第07-09回 ……みのまわりの磁石 第10-12回 ……みのまわりの放射線 第13-15回 ……コンピュータの豆知識 2, 3のゆかぬい実験も計画していますのでお楽しみに。		
成績評価の方法	レポート		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生物の科学	担当者	塚原 潤三
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脊椎動物の進化とヒトのなりたち</p> <p>【概要】本講義では、ヒトのなりたちを理解するために、脊椎動物の進化の流れを概観し、次いで霊長類のグループの進化を取り上げ、その中でヒトがどのように進化し、ヒトとしての特性を獲得してきたかについて、生物学の側面から解説する。</p> <p>【到達目標】脊椎動物の進化の流れを理解し、その中でヒトがどのように形成されてきたかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 無し (あらかじめプリント集を配布する)</p> <p>(2) 『ヒトの進化・・・新しい考え』ロジャー・レウイン著 岩波書店 『脊椎動物の進化』E.H. コルバート&M. モラレス著 築地書館</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地球史概観 : 気候変動や大陸移動</p> <p>第2回 地質年代の測定 : 相対的年代測定と絶対的年代測定</p> <p>第3回 進化の不思議な大爆発 : カンブリア紀における脊椎動物の出現</p> <p>第4回 脊椎動物の特徴と概観 : 脊髄神経系の発達</p> <p>第5回 魚類の進化 : 水中動物の発達</p> <p>第6回 両生類の進化 : 陸上生活への移行過程</p> <p>第7回 は虫類の進化 : 完全な陸上生活の獲得と環境への適応</p> <p>第8回 ほ乳類の進化 : 子育ての革新的進化</p> <p>第9回 霊長類の進化 : サル類の共通的特性とヒトへのつながり</p> <p>第10回 ヒト進化の研究の歴史 : ヒト化石との出会い</p> <p>第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1) : 下半身の構造と機能の進化</p> <p>第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2) : 上半身の構造と機能の進化</p> <p>第13回 脳の進化と言語の発達 : 大脳の発達と機能分化</p> <p>第14回 情報伝達と社会形成 : ヒトはなぜ群れをつくるのか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) と小論文 (20%)		

(注) 生活科学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	化学の世界	担当者	井余田 秀美・木下 朋美
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、生活に潤いをもたらす茶や香りについて、講義を行う。</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会編、『日本茶のすべてがわかる本』、農文協 財団法人 日本ホテル教育センター編、『世界・お茶の基本』、プラザ出版</p>		
授業スケジュール	<p>1 身近な物質 (井余田)</p> <p>第1回 自然の恩恵 (暮らしと化学物質 天然資源の利用)</p> <p>第2回 化学の基礎 (自然と生命の物質—無機物と有機物 物質の成り立ち, 状態や性質, 変化)</p> <p>第3回 生活と化学 (1日の生活 衣食住)</p> <p>2 身近な現象 (井余田)</p> <p>第4回 物質の変化 (溶ける・煮る・焼く・洗う・染める・さびる)</p> <p>第5回 洗濯の科学 (界面化学 洗剤の働き)</p> <p>第6回 光と色 (染料と染色 シャボン玉 花火)</p> <p>3 茶と香りの化学 (木下)</p> <p>第7回 茶に隠された化学を探る</p> <p>第8回 様々な茶を生み出した歴史 茶製法の変遷</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (1)</p> <p>第10回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (2)</p> <p>第11回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工 (ブレンド・焙煎)</p> <p>第12回 茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴</p> <p>第13回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析</p> <p>第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康	担当者	有村 恵美・倉元 綾子・多田 司・木下 朋美
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】 バランスの取れた栄養、運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で、安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 健康な食生活：健康とは何か？食生活が健康に及ぼす影響（有村） 第2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素（有村） 第3回 健康な食生活：食品の特性（木下） 第4回 健康な食生活：食の安全（木下） 第5回 私たちの食生活トピックス1；ワークショップ（倉元） 第6回 私たちの食生活トピックス2；ワークショップ（倉元） 第7回 私たちの食生活トピックス3；ワークショップ（倉元） 第8回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1（多田） 第9回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2（多田） 第10回 健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント（有村） 第11回 健康な食生活：あなたの食生活チェック（有村） 第12回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法（有村） 第13回 健康な食生活：生活習慣病（有村） 第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動（有村） 第15回 まとめ：健康な食生活とは（有村）		
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して、荷重平均。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	現代人権論	担当者	疋田 京子・森田 豊子・田口 康明
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人権の主体に注目する（女性、外国人、子ども）</p> <p>【概要】 「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」（世界人権宣言第1条）すなわち人権は普遍的である。しかし平等は「等しいものは等しく、等しからざる者は等しからざるように取り扱え」が基本的テーマであるといわれる。ここに、「誰と誰が等しく、誰と誰が異なるのか？」という問いが生まれる。そして差異ある人々にも同様に保障されるべき「自由」「尊厳」「権利」とはどのようなものか。この講義では、人権を、制度の中に固定的にあるものと捉えるのではなく、新たな権利の担い手の出現と時代が支持する思想によって、歴史的に発展してきたものと捉え、その権利の担い手として「女性」「外国人」「子ども」に注目する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グローバル化する社会の中で、女性、外国人、子どもがどのような人権問題に直面しているのか、その原因と背景を踏まえ、そうした状況に対して、国際社会はどのように対応しようとしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日それぞれの担当者が指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：人権とは何か？（第1回～第5回：疋田） 第2回 人権の主体とは誰か？：リベラル・フェミニズムの挑戦 第3回 女性的価値の再評価：カルチュラル・フェミニズムの挑戦 第4回 セクシュアルな関係も政治的：ラディカル・フェミニズムの挑戦 第5回 ひとつではない女の性：ポスト・モダン・フェミニズム 第6回 世界の外国人移民：世界および日本における外国人移民の歴史的経緯と現状（第6回～第10回：森田） 第7回 在日外国人の抱えている問題：外国人の在留資格、法的地位、参政権についての問題 第8回 在日外国人の抱えている問題：医療、教育における問題 第9回 世界の移民の人権（1）：世界における女性の移民が抱える問題 第10回 世界の移民の人権（2）：世界および日本におけるイスラーム教徒移民が抱える問題 第11回 「子ども」とは何か：子どもの定義（日本と諸外国）（第11回～第15回：田口） 第12回 近代日本における子どもの権利：明治憲法体制下から今日まで 第13回 国連・子どもの権利条約：国連子どもの権利条約の成立と内容 第14回 子どもの教育・福祉と人権：人権という観点からの日本における子どもの教育・福祉の状況の検討 第15回 人権教育の課題：さまざまな差別と子どもの権利擁護に向けた教育的な課題		
成績評価の方法	「レポート」：各担当者ごとに課題を出し、合計して評価する（100%）。出席状況によって受験資格を制限する。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	鹿児島学	担当者	田中 史朗・有川 唱次・浜畑 剛・島津 義秀
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 郷土鹿児島を地域経済, 食, 歴史の三分野から多角的に解析し, 鹿児島の過去, 現在, 未来を見つめていきたい。 【概要】 経済のグローバル化が進展する中で, 鹿児島の地域経済および農業の現状と課題に言及するとともに, 鹿児島の郷土史に焦点を当て, 時代の変革の中で今, 何が求められているのかを明らかにしたい。 【到達目標】 郷土鹿児島の理解を深め, 世界, そして日本の中での鹿児島のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	特になし。 各担当者が資料を用意する。		
授業スケジュール	第 1 回 鹿児島学の講義内容の説明と映像でみる鹿児島県の歩み (田中) 第 2 回 全国比較でみる鹿児島の姿 (浜畑) 第 3 回 人口減少時代の鹿児島 (浜畑) 第 4 回 鹿児島の産業構造 (浜畑) 第 5 回 鹿児島観光新時代 (浜畑) 第 6 回 鹿児島の風土と食と農の現状 (有川) 第 7 回 歴史からみた鹿児島の食 (有川) 第 8 回 マーケットからみた食と農 (有川) 第 9 回 鹿児島の食材 (有川) 第 10 回 鹿児島の食と農のまとめ (有川) 第 11 回 SATSUMAISM (サツマイズム) の源流, 薩南学派といは歌にせまる (島津) 第 12 回 チェストとは何か。関ヶ原から幕末までを駆けめぐる (島津) 第 13 回 幕末以降を駆けめぐる (島津) 第 14 回 時代の節目に薩摩が動く。再び時代の立役者は現れるのか (島津) 第 15 回 まとめ (田中)		
成績評価の方法	4人の担当者のレポートまたは試験の総得点を100%として評価する		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は, 人数を制限することがあります。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
	[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【概要】 鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた, 鹿児島を素材にした授業を持ち寄り, 「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で, 講義とグループ学習(チューターの支援あり)を行います。さらに, 夜間はディベートなどを取り入れ, 学生間でよく話し合い, 切磋琢磨しながら学習します。 なお, 4, 500円程度の宿泊経費等が必要となります。 【学習目標】 ①講義で提示される鹿児島独自の文化, 自然, 社会, 産業などのテーマについて, 内容をよく理解し, 自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により, テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い, グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ, それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について, 受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成23年度実施概要 (平成24年度については未定。若干の変更の予定があります。) 日程 : 平成23年8月22日(月)～24日(水) 場所 : 県立青少年研修センター 定員 : 県内12大学等の学生 300人		
成績評価の方法	講義ノート(レポート以外の部分) 30%, グループ討論・発表内容(40%), レポート(30%)として評価を行い, それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】 地域産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>平成23年度実施概要（平成24年度は未定。若干の変更の予定があります。）</p> <p>日程：平成23年8月25日（木）～27日（土） 場所：県内8箇所のフィールド 定員：県内12大学等の学生 300人</p>		
成績評価の方法	<p>地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。</p> <p>実地調査等30%（学習目標①）、グループ討論・発表20%と提案内容20%（学習目標②）、レポート30%（学習目標③）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。</p>		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立つことを狙いとしている。</p> <p>【概要】 公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】 自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定 (事前指導のなかで指示する)		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

(注) 県短独自分は2年生も履修可

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で自己表現</p> <p>【概要】大学生活に即した英文テキストを用いて、リスニング力や発音力を向上させるとともに、伝えたい情報や自分の考えを恥ずかしがらずに言えるように訓練する。重要な文法事項についても適宜復習したい。</p> <p>【到達目標】英語で自己表現できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	八木克正・Richard Hodson 他, <i>Express Yourself in English: A Fresh Start to Your College Life</i> (英宝社)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 0 Looking ahead 第 2回 Unit 1 Orientation and getting to class 第 3回 Unit 2 In the classroom 第 4回 Unit 3 In the cafeteria 第 5回 Unit 4 On the way to school 第 6回 Unit 5 Getting to know each other 第 7回 Unit 6 Working part-time 第 8回 Unit 7 Talking about your future 第 9回 Unit 8 A summer trip to London – Plans and departure 第 10回 Unit 9 A summer trip to London – Shopping with friends 第 11回 Unit 10 A summer trip to London – Eating out 第 12回 Unit 11 Introducing Japan to overseas friends – Food 第 13回 Unit 12 Introducing Japan to overseas friends – Culture and Customs 第 14回 Unit 13 Introducing Japan to overseas friends – Visiting historic sites 第 15回 Unit 14 Review		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (35%)、宿題および定期的におこなう小テスト (筆記・オーラルを含む) (65%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	だいたい2回でテキスト1ユニットずつ進む予定です。また, ビデオと音読を組み合わせることで授業を進めます。ビデオの進捗は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 1-2. ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説 3-4. A New Neighbour 5-6. To the Rescue 7-8. Dinner for Two 9-10. Change of a Dress 11-12. A Long Weekend 13. 復習 14. 復習 15. まとめ <p>【注意】LL教室を使っている授業なので, 遅刻は厳禁です。</p>		
成績評価の方法	授業中の複数回の小テスト (70%) + 授業中の発言 (30%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初歩的な英文を読んで、英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、テーマごとに関連する語彙を習得する。また、リスニングの練習も同時に行い、リーディングとリスニングを関連づける。</p> <p>【概要】必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、初歩的な英文の内容を把握できる。 初歩的な英文を聞いて、内容が把握できる。 英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Neil J. Anderson & Kawamata Masayuki / <i>Elementary Skills for Reading</i> (成美堂) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 He's the Boss: Scanning の練習 第 2回 Working Holiday: Understanding Main Ideas の練習 第 3回 Doing Something Different: Recognizing Purpose の練習 第 4回 The Learning Center: Skimming の練習 第 5回 Sepak Takraw: Reading for Details の練習 第 6回 Are Sports Important?: Making Inferences の練習 第 7回 A Postcard from Hong Kong: Understanding the Order of Events の練習 第 8回 The Burj Al Arab Hotel: Scanning の練習 第 9回 Table Manners: Comparing and Contrasting の練習 第 10回 Homestay Diary: Making Inferences の練習 第 11回 Ask Emma: Skimming の練習 第 12回 Peer Pressure: Making and Checking Predictions 第 13回 A Real Life Superhero: Understanding the Order of Events の練習 第 14回 The Tiffin Men: Scanning の練習 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)」		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	森 孝晴
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニングとスピーキングの基礎力の養成</p> <p>【概要】実際に英語で話すことを楽しみ、笑える話を聞いて英語を聞き取る集中力を高めていく。</p> <p>【到達目標】文法や発音に多少の誤りがあっても恥ずかしくがらずに話せるようになり、英語を聞きとる基本的な姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Masakazu Someya, Fred Ferrasci & Paul Murray <i>Humorous Homestay Stories</i> 「リスニングで楽しむホームステイ体験記」 南雲堂 1400円+税 (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について。リスニングとスピーキングのコツと注意点について 第 2回 テキスト Unit 1. グループでの英会話 第 3回 テキスト Unit 2. グループでの英会話 第 4回 テキスト Unit 3. グループでの英会話 第 5回 テキスト Unit 4. グループでの英会話 第 6回 テキスト Unit 5. グループでの英会話 第 7回 テキスト Unit 6. グループでの英会話 第 8回 テキスト Unit 7. グループでの英会話 第 9回 テキスト Unit 8. グループでの英会話 第 10回 テキスト Unit 9. グループでの英会話 第 11回 テキスト Unit 10. グループでの英会話 第 12回 テキスト Unit 11. グループでの英会話 第 13回 テキスト Unit 12. グループでの英会話 第 14回 テキスト Unit 13. グループでの英会話 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	口頭試験 (90%) + 授業への参加状況[積極度等] (10%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 前半・鹿児島を英語で紹介 後半・オーストラリアの紹介を通して、基礎的英語運用能力を培う。</p> <p>【概要】 前半は、鹿児島の英文での紹介を基に、よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は、オーストラリアの文化、生活などを扱ったビデオ教材を基軸に、基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては、随時説明を行う。</p> <p>【到達目標】 鹿児島の英語での紹介、およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Kumiko T. Sato, Steve Lia, <i>Australia, Here We Come!</i> 朝日出版社 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 Introduction (はじめに) 第2回 Street Life (街の生活) 第3回 Public Transport—Commuting (公共交通機関—通勤・通学) 第4回 University Life—The University of Sydney (大学生活—シドニー大学) 第5回 Australian Home (オーストラリアの家) 第6回 Supermarket—Coles (スーパーマーケット—コールズ) 第7回 Daily Life (日常生活) 第8回 Taronga Zoo—Australian Animals (タロンガ動物園—オーストラリアの動物) 第9回 Leisure Time at the Park (海辺でのレジャー) 第10回 Education Programs in Taronga Zoo (タロンガ動物園体験プログラム) 第11回 Leisure Time at the Park (公園でのレジャー) 第12回 Australian Family (オーストラリアの家庭) 第13回 Discussion (ディスカッション) 第14回 Discussion (ディスカッション) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と授業の発言内容 (40%)、レポート(60%)で評価する。		

(注) 教職必修、食物栄養専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で自己表現</p> <p>【概要】 大学生活に即した英文テキストを用いて、リスニング力や発音力、読解力を向上させるとともに、伝えたい情報や自分の考えを正確に表現できるように訓練する。</p> <p>【到達目標】 英語で正確に自己表現できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	八木克正・Richard Hodson 他, <i>Express Yourself in English: A Fresh Start to Your College Life</i> (英宝社)		
授業スケジュール	第1回 Unit 0 Looking ahead 第2回 Unit 1 Orientation and getting to class 第3回 Unit 2 In the classroom 第4回 Unit 3 In the cafeteria 第5回 Unit 4 On the way to school 第6回 Unit 5 Getting to know each other 第7回 Unit 6 Working part-time 第8回 Unit 7 Talking about your future 第9回 Unit 8 A summer trip to London—Plans and departure 第10回 Unit 9 A summer trip to London—Shopping with friends 第11回 Unit 10 A summer trip to London—Eating out 第12回 Unit 11 Introducing Japan to overseas friends—Food 第13回 Unit 12 Introducing Japan to overseas friends—Culture and Customs 第14回 Unit 13 Introducing Japan to overseas friends—Visiting historic sites 第15回 Unit 14 Review		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (35%)、宿題および定期的におこなう小テスト(筆記・オーラルを含む) (65%)		

(注) 教職必修、食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。</p>		
授業スケジュール	<p>だいたい2回でテキスト1ユニットずつ進む予定です。また, ビデオと音読を組み合わせる授業を進めます。ビデオの進度は以下のとおり。</p> <p>1-2. ガイダンスおよび練習法(シャドーイングなど)の解説 3-4. A New Neighbour 5-6. To the Rescue 7-8. Dinner for Two 9-10. Change of a Dress 11-12. A Long Weekend 13. 復習 14. 復習 15. まとめ</p> <p>【注意】LL教室を使っての授業なので, 遅刻は厳禁です。</p>		
成績評価の方法	授業中の複数回の小テスト (70%) + 授業中の発言 (30%)		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日4限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力, 発音力, 文法力を総合的に鍛えることで, スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング, 文法, 読解を総合的に学習することで, バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習, 基本的, 発展的な文法事項の確認, 「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して, 総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において, 相手の情報や考えを理解でき, プロソディ一面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>Braven Smillie, 土屋武久 著 『What's Happening USA アメリカ再発見』 金星堂 刊 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 Reliving History 第3回 Yoga, Old but New 第4回 Local Currency 第5回 The Megachurch 第6回 One or Many? 第7回 NASCAR 第8回 Food and Cuisine 第9回 Slang 第10回 Medical Tourism 第11回 Marked for Life 第12回 Holidays 第13回 School at Home 第14回 Jackpot Justice 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 5限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら、リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのある文脈において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	JACET リスニング研究会 著 『Power-Up English <Basic> 総合英語パワーアップ<基礎編>』 NANUN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞1) 第 12回 Sports (助動詞2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修、経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、チャンツ・パラレルリーディングなどの発話練習で、英語の音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習に取り組んでいきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。</p>		
(1) テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> . 出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第 1回: オリエンテーション: 授業内容と進め方について 第 2回: Do You Have a Reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現 第 3回: Would You Like Soup or Salad?: レストランでの食事の注文に使う表現 第 4回: Where's the Fitting Room?: ショッピングに使う表現 第 5回: Good to See You!: 挨拶に使う表現 第 6回: I Enjoyed My Stay: ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7回: You Are One of the Family Now: ホームステイ先での会話表現 第 8回: I Want to Help!: 申し出る・申し出を受ける表現 第 9回: When Do I Have to Return This?: 図書館での本の貸し出しに使う表現 第 10回: Would You Like to Join Us?: 人を誘う・誘いに応じる際の表現 第 11回: Let's Keep in Touch, OK?: 別々に使う表現 第 12回: 映画を利用したリスニング演習: その (1) 第 13回: 映画を利用したリスニング演習: その (2) 第 14回: 映画を利用したリスニング演習: その (3) 第 15回: まとめ		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 教職必修、経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『ICON』 International Communication Through English Donald Freeman, Kathleen Graves, Linda Lee 税込 円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: What's in a name? 第3回 Unit 2: Do you have good balance? 第4回 Unit 3: Baked, boiled, or friend? 第5回 Unit 4: I was overdressed! 第6回 Unit 5: To buy or not to buy? 第7回 Unit 6: It was a box-office hit. 第8回 Unit 7: That's my ex-girlfriend. 第9回 Unit 8: Tell me about yourself.. 第10回 Unit 9: That's so rude! 第11回 Unit 10: High tech or low tech? 第12回 Unit 11: Have you ever broken a bone? 第13回 Unit 12: It's a landmark. 第14回 Review 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況40% 授業態度20% 会話テスト40%		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリアの諺が教示しているように, 誰も, 一晩や「有名な先生」の指導で突然, 完璧なウクライナ語や英語で有意義な対話に成功したのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば, 将来の仕事) や動機 (例えば, 素敵な彼氏や彼女, 又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため, タガロ語やドイツ語も簡単さ) という志が極めて効果的である。...では, 楽しく, 大生らしく, 勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の75%以上理解し, 身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, "Impact Issues 2", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9931-8) 必要に応じて配布する		
授業スケジュール	第1回 演習の内容, 方法と成績について。ミニ演習。 第2回 U10 Why Go to College/University? (英和訳, 読解等 ◇) 第3回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習 ◎) 第4回 U1 First Impressions (◇ ◎) 第5回 U6 What Are Friends For? (◇ ◎) 第6回 U11 An International Relationship (◇ ◎) 第7回 グループ習熟 第8回 U5 A Single Forever? (◇ ◎) 第9回 U8 Cyber Bullying (◇ ◎) 第10回 U20 A Mother's Sad Story (◇ ◎) 第11回 グループ習熟 第12回 U18 Finding the Right One (◇ ◎) 第13回 St. Valentine's Day (◇ ◎) 第14回 受講生が選択したテーマの学習 (M) 第15回 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of this course is to provide students with a grounding in natural communicative English in a variety of situations.</p> <p>【概要】 By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Outfront English Education Press		
授業スケジュール	第 1 回 Classroom language/ Personal information 第 2 回 Family and home. Describing one's home and community 第 3 回 Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely. 第 4 回 Times and dates. Discussing schedules. 第 5 回 Shopping. Working with numbers. Dealing with numbers. 第 6 回 Routines. Discussing frequency of activities. 第 7 回 Mid term review. / self-study 第 8 回 Vacations. Discussing past experiences. 第 9 回 Locating buildings. Following / giving simple directions 第 10 回 Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages. 第 11 回 Inviting. Accepting and refusing invitations. 第 12 回 Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits. 第 13 回 Health Describing the body. Illness. Offering suggestions. 第 14 回 Final review/ self study. 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	Class participation 20% Written work 50% Final oral Presentation 30%		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Talking about one's own ideas and feelings.</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics.</p> <p>【到達目標】 To improve students' skills in communicating their ideas and feelings in English.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Active Skills for Communication Intro by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher: Heinle (Cengage Learning)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 Students will choose the units from the book that they will study 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻・生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で鹿児島を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills.</p> <p>【概要】 学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人 ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima.</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無印良品ノート (21×14,5 cm) (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回: 紹介 Introduction 第2回~第6回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 第7回: 小テスト(文法問題や内容把握等) 第8回~第14回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 第15回: 小テスト(文法問題や内容把握等)		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】 リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】 会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Steven Gershon & Chris Mares, <i>New English Upgrade 2</i> , Macmillan Language House		
授業スケジュール	第1回 Introduction, Unit 1A 第2回 Unit 1B 第3回 Unit 1C, Quiz/presentations 第4回 Unit 2A 第5回 Unit 2B 第6回 Unit 2C, Quiz/presentations 第7回 Unit 3A 第8回 Unit 3B 第9回 Unit 3C, Quiz/presentations 第10回 Unit 4A 第11回 Unit 4B 第12回 Unit 4C, Quiz/presentations 第13回 Unit 5A 第14回 Unit 5B 第15回 Unit 5C, Quiz/presentations		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合 (35%), クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of this course is to provide students with a base of key phrases that they can drill in class and practice at home to help them master simple, natural English.</p> <p>【概要】 With clear examples and visual reinforcement students will be able to use drills to improve the retention of key phrases used everyday.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for the completion of this course would be for students to show a solid grounding in basic grammar and vocabulary that they can produce in a variety of everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Side by side Third edition 2A with workbook..Longman		
授業スケジュール	第1回 Classroom language. Review of tenses 第2回 Like to. Time expressions. Indirect object pronouns. 第3回 Count/ Non count nouns 第4回 Buying food. Describing food. 第5回 Eating in a restaurant. 第6回 Future tense. Telling about the future. Probability. 第7回 Midterm review and mini test. 第8回 Possibility 第9回 Comparatives. Advice. Expressing opinions 第10回 Agreement and disagreement. 第11回 Describing people, places, things. Superlatives. 第12回 Imperatives. Getting around town. 第13回 Directions. Public transport. 第14回 Review. Self-study. 第15回 Final test.		
成績評価の方法	Classroom work 70% Final oral presentation 30%		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『Four Corners』 Jack C.Richards, David Bohlke 税込 円		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Education 第3回 〃 第4回 Unit2: Personal stories 第5回 〃 第6回 Unit 3: Style and fashion 第7回 〃 第8回 Unit4: Interesting lives 第9回 〃 第10回 Unit5: Our world 第11回 〃 第12回 Unit6: Organizing your time 第13回 〃 第14回 Review 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリアの諺が教示しているように, 誰も, 一晚や「有名な先生」の指導で突然, 完璧なウクライナ語や英語で有意義な対話に成功したのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば, 将来の仕事) や動機 (例えば, 素敵な彼氏や彼女, 又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため, タガロ語やドイツ語も簡単さ) という志が極めて効果的である。...では, 楽しく, 大生らしく, 勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し, 身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Richard R. Day 他, "Impact Issues 2", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9931-8) 必要に応じて配布する		
授業スケジュール	第 1回 演習の内容, 方法と成績について。ミニ演習。 第 2回 U10 Why Go to College/University? (英和訳, 読解等 ◇) 第 3回 同題 (教官と共に コミュニケーション練習 ◎) 第 4回 U1 First Impressions (◇ ◎) 第 5回 U6 What Are Friends For? (◇ ◎) 第 6回 U11 An International Relationship (◇ ◎) 第 7回 グループ習熟 第 8回 U5 A Single Forever? (◇ ◎) 第 9回 U8 Cyber Bullying (◇ ◎) 第 10回 U20 A Mother's Sad Story (◇ ◎) 第 11回 グループ習熟 第 12回 U18 Finding the Right One (◇ ◎) 第 13回 St. Valentine's Day (◇ ◎) 第 14回 受講生が選択したテーマの学習 (M) 第 15回 前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	English II (C)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1 st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第 1回-第 7回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第 8回 Review Quiz 第 9回-第 14回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第 15回 Final Oral Review Practice		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 教職必修, 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー・マクセイ
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】 前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Steven Gershon & Chris Mares, <i>New English Upgrade 2</i> , Macmillan Language House		
授業スケジュール	第1回 Introduction, Unit 7A 第2回 Unit 7B 第3回 Unit 7C, Quiz/presentations 第4回 Unit 8A 第5回 Unit 8B 第6回 Unit 8C, Quiz/presentations 第7回 Unit 9A 第8回 Unit 9B 第9回 Unit 9C, Quiz/presentations 第10回 Unit 10A 第11回 Unit 10B 第12回 Unit 10C, Quiz/presentations 第13回 Unit 11A 第14回 Unit 11B 第15回 Unit 11C, Quiz/presentations		
成績評価の方法	出席&授業での参加の度合 (35%), クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(B)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 この授業のテーマは、ショートドラマや映画など楽しめる教材を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用する「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング力を中心にコミュニケーションに必要な英語力をつけていくことです。</p> <p>【概要】 授業前半は、洋楽で楽しみながら英語の音になじむことから始め、次に、パラレルリーディングやシャドーイングなどの発話練習で英語の音やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半では、ニューヨークに住む6人の男女が繰り広げるショートドラマによるリスニング演習で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常生活で役立つ会話表現や語彙を学習していきます。さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組み、ストーリーを楽しみながら、よりナチュラルな「生きた自然な英語」のリスニング演習に取り組むとともに、口語表現を学んでいきます。なお、この授業ではパソコンを使用し自分にあったペースで取り組めるので、リスニングが苦手な人でも心配はいりません。</p> <p>【到達目標】 日常生活になじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での発話の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目指します。</p>		
(1) テキスト	Susan Stempleski 著, <i>World Link Video Course Intro WORKBOOK</i> . 出版社: トムソン		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第1回: オリエンテーション: 自然な英語はなぜ聞き取りにくい? / 授業内容と進め方について 第2回: Please Call me Dave.: 自己紹介 第3回: Where is it?: 英語でゲーム 第4回: A Cool Gift : ショッピングで使う表現 (1) 第5回: Takeshi's Food Video : 食べ物・食習慣を英語で表現 第6回: Meals & Likes and Dislikes : 食習慣についての簡単なインタビューを聴く 第7回: Welcome to New York! : 住生活・友達との再会 第8回: Dear Mum and Dad : 日常生活を英語で表現 (1) 第9回: Mike's "Busy" Day : 日常生活を英語で表現 (2) 第10回: Times and Schedules : 日常生活についての簡単なインタビューを聴く 第11回: What do I wear to the party? ショッピングで使う表現 (2) 第12回: 映画を利用したリスニング演習: その (1) 第13回: 映画を利用したリスニング演習: その (2) 第14回: 映画を利用したリスニング演習: その (3) 第15回: まとめ		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	[学期] 後期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して、日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング、リスニング、ライティングに関連づけた活動を行う。</p> <p>【概要】主に、必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、英文の内容を把握できる。英文を聞いて、内容を把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / <i>Gateway to Britain</i> (南雲堂) 特になし		
授業スケジュール	第1回 Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第2回 What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第3回 A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第4回 Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第5回 Shop'n'Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第6回 More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第7回 Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第8回 Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第9回 Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第10回 Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第11回 The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第12回 Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第13回 The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第14回 Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	[学期] 後期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 (初中級 ~中級レベル)</p> <p>【概要】(1)ビデオ等の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材等で日常の会話で使用される生の英語語彙を、英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。 (2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで、英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材および副教材を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。 【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し、情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント等による。 (2) 授業中に適宜指示する。		
授業スケジュール	1. ガイダンス 2-13. シャドーイング等によるリスニング・スピーキングの訓練 14. 復習 15. まとめ 【注意】LL教室を使つての授業なので、遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	授業中の複数回の小テスト (70%) + 授業中の発言 (30%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン・デイビット
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English.</p> <p>【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主に行う。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。</p> <p>【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第 1回 Interests and Hobbies 第 2回 Health 第 3回 Holidays 第 4回 Shopping 第 5回 Movies 第 6回 Sports 第 7回 Travel 第 8回 Hotel 第 9回 Social Issues 第 10回 Culture 第 11回 Appearances 第 12回 Work 第 13回 Memories 第 14回 Restaurant 第 15回 まとめ ※トピックは変わる可能性がある。		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略 (言い換え, 繰り返し, 強調等) をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『Let's Talk 3』 Second Edition Leo Jones 税込 円		
授業スケジュール	第 1回 Unit1: Getting acquainted 第 2回 Unit2: Expressing yourself 第 3回 Unit3: Crime and punishment 第 4回 Unit4: Surprises and superstitions 第 5回 Unit5: Education and leaning 第 6回 Unit6: Fame and fortune 第 7回 Unit7: Around the world 第 8回 Unit8: Technology 第 9回 Unit9: Mind and body 第 10回 Unit10: Spending money 第 11回 Unit11: The news 第 12回 Unit12: Relationships 第 13回 Unit13: Adventure 第 14回 Unit14: Self-improvement 第 15回 Unit15: Travel and tourism, Employment		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 Students will practice everyday conversation and the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Communicate by David Poul (2) Publisher:Compass</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 The class will proceed at a pace matched to the students ability levels. 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回</p>		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様な題材を扱った英文を精読することで, 英文を正確に速読する力を養う。</p> <p>【概要】 英文を読むとき, 意味のまとまり (フレーズ) ごとに区切って, 前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず, 「フレーズ・リーディング」することで, 意味のまとまりを意識し, より正確にまたより迅速に英文を読解できるようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け, 身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に, 幅広い語彙力を養いながら多読, 速読の技術を修得します。</p> <p>【到達目標】 多様なジャンルの英文を, より迅速により深く読めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田村朋子 他著 <i>Phrase Reading</i> センゲージラーニング 刊 (2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 Extreme Ironing 第3回 Food and Culture 第4回 Life after Death? 第5回 Addicted to the Mall 第6回 The Working Poor 第7回 A Child Hero 第8回 Don't Be Fooled Again 第9回 The Government Department of Dating and Marriage 第10回 Undercover Marketing 第11回 A Healthy Diet for Everyone 第12回 Anger around the World 第13回 Online Dating Goes Mainstream 第14回 リーディング力UP講座 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%), 提出物 (10%), 授業への取組み態度 (10%) で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、中級程度(レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検2級)のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】 このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能(スキル)を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素(文法能力、社会言語能力、談話能力、方略能力)をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	第1回: Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明) 第2回: "Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1)) 第3回: "Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2)) 第4回: "Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1)) 第5回: "Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2)) 第6回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1)) 第7回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第8回: "Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1)) 第9回: "Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2)) 第10回: "In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1)) 第11回: "In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2)) 第12回: "Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1)) 第13回: "Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2)) 第14回: "Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3)) 第15回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + クラス活動への参加(30%)を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Thorough Understanding and A Meaningful Conversation.(徹底した理解と意味のある会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が導示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で専門的な討論に成功したのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標(例えば、将来の仕事)や動機(例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガログ語やドイツ語も簡単さ)という志が極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の75%以上理解し、身につけること(詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Mieko Muramatsu, "Cultures – Interviews with people from around the world", Kirihara Shoten (ISBN 978-4-342-77290-0) [村松 美映子, "Cultures – Interviews with people from around the world", 桐原書店]		
授業スケジュール	第1回 演習の内容、方法と成績について。ミニ演習。 第2回 An Interview with A Chinese Student (英和訳、読解等◇) 第3回 同題 (教官の指導でコミュニケーションの練習◎) 第4回 An Interview with A Pakistani Engineer (◇◎) 第5回 An Interview with A Canadian Teacher (◇◎) 第6回 An Interview with the Myanmar Youths (◇) 第7回 同題 (◎) 第8回 An Interview with A Kuwaiti Chemist (◇◎) 第9回 An Interview with A Colombian Hair Stylist (◇◎) 第10回 An Interview with A Swede Businessman (◇) 第11回 同題 (◎) 第12回 An Interview with A Zambian Diplomat (◇◎) 第13回 St. Valentine's Day (◇)(◎) 第14回 受講生が選択したテーマの学習 (MorC) 第15回 前期学習[The Cultural Values]のまとめ等 ★ 参加者の言語的力と上達に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	James Scott
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明) 第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1)) 第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2)) 第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1)) 第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2)) 第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1)) 第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2)) 第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1)) 第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2)) 第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1)) 第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2)) 第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1)) 第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2)) 第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3)) 第15回：まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】映画を使った英語学習には、(1) ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな(本物の)英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、(3) 会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があり、英語が苦手な人でも楽しんで取り組める理想的な教材だと言えます。</p> <p>授業では、映画『ゴースト』（サスペンス・ラブストーリー）を教材として使用し、毎回ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組みるとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに、日・英セリフの対比や、日本語セリフ作成演習で、口語表現力を高めていきます。</p> <p>また、この授業では各自「ポートフォリオ」（「学習ファイル」と「自己学習記録」）を毎回作成し、自分の取り組み具合をモニターしながら、自律的に英語力の向上を目指していきます。</p> <p>【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる/自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<毎回、LL教室を使用> 第1回：オリエンテーション：映画を使った英語学習 / 授業内容と進め方について 第2回：The Loft：友人同士の会話（新居） 第3回：Unchained Melody：同僚との会話（オフィス） 第4回：Propose：恋人同士の会話（路上） 第5回：Eternal Good-bye：友人同士の会話（自宅） 第6回：Spiritual Adviser：初対面の相手との会話（店内） 第7回：The Truth：初対面の相手との会話（店内） 第8回：At Molly's Apartment：知人との会話（自宅） 第9回：The Police Station：警察官との会話（警察） 第10回：Rita Miller：顧客との会話（銀行） 第11回：Revenge：友人との会話（自宅） 第12回：The Penny：知人との会話（自宅） 第13回：With All my Heart：知人との会話（自宅） 第14回：Last Chance：恋人との会話 第15回：まとめ		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + ポートフォリオ作成 (10点) + 定期試験 (40%)		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジネスで使える英語を学ぶ。</p> <p>【概要】 オフィスでの簡単な英会話から、電話の応対、FAX・電子メールのやり取りをアクティビティを通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 限定された、職場において必要とされる英語を理解し、日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『GLOBAL LINKS 1』 English for International Business Keith Adams, Rafael Dovale 税込 2,982 円		
授業スケジュール	第1回 Unit1: Introductions in the Business World 第2回 Unit2: Describing Your Company 第3回 Unit3: Office Routines 第4回 Unit4: Business in Progress 第5回 Unit5: Describing Company History 第6回 Unit6: Making Telephone Arrangements 第7回 Unit7: Describing Locations 第8回 Unit8: Getting to a Meeting 第9回 Unit9: Overseas Business Travel 第10回 Unit10: Socializing 第11回 Unit11: Explaining Your Culture 第12回 Unit12: Comparing Workplaces and Products 第13回 Unit13: Executive Advice 第14回 Unit14: Business Plans and Predictions 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 期末テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、英検2級取得を目指せるように、学生の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回1章ずつ進むので、予習が必要となる。担当者が解説を試み、間違った箇所をチェックさせることで、受講生の英語力のアップをはかり、学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるようにLL教室を使用する。</p> <p>【到達目標】 受講生が英検2級の取得を目指せるような英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 坂部俊行, 岡島徳昭, W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂 適宜, プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション: 授業の進め方の説明, プリント学習 (受講生のレベルを確認) 第2回 Lesson 1: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第3回 Lesson 2: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択 第4回 Lesson 3: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第5回 Lesson 4: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第6回 Lesson 5: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の応答文選択 第7回 Lesson 6: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第8回 Lesson 7: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第9回 Lesson 8: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択 第10回 Lesson 9: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第11回 Lesson 10: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第12回 Lesson 11: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択 第13回 Lesson 12: 短文の語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択 第14回 実践形式の練習 (その一) : 筆記とリスニング 第15回 実践形式の練習 (その二) : まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 予習を含む授業への取り組み (40%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文読解力と語彙力の養成</p> <p>【概要】4年制大学編入を視野に入れて、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読み練習をする。</p> <p>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業で指示する。 (2) <i>World in motion: Life in the 21st century</i> , Michael Hood, Takako, Mori, 金星堂 <i>Reading Fusion 1</i> , Andrew Bennet, Nan'un-do <i>Thoughts and Feelings</i> , Jim Knudsen, Takaichi Okada, Nan'un-do <i>Skills for Better Reading</i> , Yumiko Ishitani 他, Nan'un-do <i>Reading Pass 2</i> , Andrew Bennett, Nan'un-do		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業の進め方と評価方法を説明する 第2回 英文読解演習(1) 教材英文を精読し、要約を作成する 第3回 英文読解演習(2) 教材英文を精読し、要約を作成する 第4回 小テスト(1) 第5回 英文読解演習(3) 教材英文を精読し、要約を作成する 第6回 英文読解演習(4) 教材英文を精読し、要約を作成する 第7回 英文読解演習(5) 教材英文を精読し、要約を作成する 第8回 英文読解演習(6) 教材英文を精読し、要約を作成する 第9回 小テスト(2) 第10回 英文読解演習(7) 教材英文を精読し、要約を作成する 第11回 英文読解演習(8) 教材英文を精読し、要約を作成する 第12回 英文読解演習(9) 教材英文を精読し、要約を作成する 第13回 英文読解演習(10) 教材英文を精読し、要約を作成する 第14回 英文読解演習(11) 教材英文を精読し、要約を作成する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	小テスト (40%) + 試験 (30%) + 授業への参加状況 (30%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2011年度の実績 日程：9月6日(火)～9月22日(木) 参加者：26名 研修費用：約29万円(授業料, 往復航空券, 宿泊費, 平日の朝・昼食費)</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前ガイダンス：特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートやESTA(電子渡航認証システム)の取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題(研修中の日記、研修後のレポート作成)の指示など。</p> <p>海外研修：9月を予定(約2週間)。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業(フラダンス、レイ作り、ハワイの文化)。その他、学外授業として博物館や真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌・体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語を学び、運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2011年度中国研修の実績 ・日程：8月27日(土)～9月10日(土) [15日間] ・参加者：4名(文科学科日本語日本文学専攻1名, 商経学科経済専攻2名, 生活科学専攻1名) ・費用：約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用)</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明 [3] 課題(レポート作成)の指示など</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題、および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語 I	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元氣よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 保坂良子 『ドイツ・サラダ [DVD付]』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第2回 発音と綴り字 第3～5回 第1課 第6～8回 第2課 第9～11回 第3課 第12～14回 第4課 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語 II	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元氣よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 保坂良子 『ドイツ・サラダ [DVD付]』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 第2～4回 第5課 第5～7回 第6課 第8～10回 第7課 第11～13回 第8課 第14回 復習と試験準備 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	小澤 晃
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次		〔学期〕 前期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	<p>第1回～第3回 あいさつの表現、名詞、冠詞、縮約冠詞 第4回～第6回 主語人称代名詞、être、所有形容詞 第7回～第9回 提示の表現、avoir、形容詞 第10回～第12回 第一群規則動詞、否定文 第13回～第14回 人称代名詞強勢形、il y a 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（期末試験）		

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	小澤 晃
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	<p>第1回～第3回 指示形容詞、疑問文、prendre 第4回～第6回 非人称構文、aller、venir、疑問形容詞 第7回～第9回 中性代名詞、命令法、faire、疑問副詞 第10回～第12回 疑問代名詞、補語人称代名詞、finir 第13回～第14回 複合過去形、比較級、最上級 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（期末試験）		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2回 発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第 3回 発音（2）：複母音の導入，練習 第 4回 発音（3）：子音の導入，練習 第 5回 挨拶ことば：発音の復習，初対面の挨拶と簡単な会話の導入，練習（教科書第1課） 第 6回 自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入，練習（教科書第2課） 第 7回 疑問詞：疑問詞を使った疑問文の導入，練習（教科書第2課） 第 8回 復習（1）：第1課～第2課の復習 第 9回 動詞述語文：動詞を使った表現の導入，練習（教科書第3課） 第10回 連動文：連動文の導入，練習（教科書第3課） 第11回 願望を表す表現：願望を表わす助動詞「想」の導入，練習 第12回 復習（2）：第3課の復習と応用練習 第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第14回 復習（3）：全体の復習 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%，期末試験：50%		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』（白水社） (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション，声調，短母音 第 2回 子音，複合母音，-n，-ng を伴う母音 第 3回 簡単な挨拶，自分の名前を中国音で読む 第 4回 決まり文句 第 5回 「あなたのお名前は？」第1課 (1) 第 6回 「あなたのお名前は？」第1課 (2) 第 7回 「これは何？」第2課 (1) 第 8回 「これは何？」第2課 (2) 第 9回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (1) 第10回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (2) 第11回 「この指輪いくら？」第4課 (1) 第12回 「この指輪いくら？」第4課 (2) 第13回 「ご飯食べた？」第5課 (1) 第14回 「ご飯食べた？」第5課 (2) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)，授業での発音内容 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n, -ngを伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第4回 決まり文句 第5回 「あなたのお名前は？」第1課 (1) 第6回 「あなたのお名前は？」第1課 (2) 第7回 「これは何？」第2課 (1) 第8回 「これは何？」第2課 (2) 第9回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (1) 第10回 「あなたは何処へいくの？」第3課 (2) 第11回 「この指輪いくら？」第4課 (1) 第12回 「この指輪いくら？」第4課 (2) 第13回 「ご飯食べた？」第5課 (1) 第14回 「ご飯食べた？」第5課 (2) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%) , 授業での発言内容 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 邢玉芝・王鳳蘭『ほあんいん! 中国語』<会話篇> (郁文堂)		
授業スケジュール	<p>第1回 発音篇 1~2 中国語の声調(1)、単母音 第2回 発音篇 3~4 中国語の子音、複合母音、鼻母音 第3回 発音篇 5~6 中国語の声調(2) 軽声、声調変化 総合練習 第4回 ~第5回 本文篇 第1課 人称代名詞、形容詞述語文 第6回 ~第7回 本文篇 第2課 動詞述語文(1)、疑問文のいろいろ 第8回 ~第9回 本文篇 第3課 動詞述語文(2)、連動文、語気助詞(1) 第10回~第11回 本文篇 第4課 動詞述語文(3)、指示代名詞、名詞述語文、構造助詞「的」 第12回~第13回 本文篇 第5課 動詞述語文(5)、場所を表す言葉 第14回 中国映画鑑賞 第15回 前期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	三木 夏華
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース</p> <p>【概要】 中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピンイン、声調記号が読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	「始めよう！中国語」白水社 南雲智、趙暉 著 授業で紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 発音、声調 第 2回 発音、声調 第 3回 人称代名詞、指示代名詞 第 4回 疑問詞 第 5回 名詞半断文 第 6回 動詞、助動詞 第 7回 “的” について 第 8回 形容詞述語文 第 9回 助動詞 第 10回 日付、曜日、時刻の言い方 第 11回 “有” 構文 第 12回 “在” 構文 第 13回 比較文 第 14回 反復疑問文 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験 50% + 授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 単語で作文 I</p> <p>【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>もちろん外国語ですから最初は発音から入り、それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか、理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。</p> <p>中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語をはじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 発音1：授業の進め方について 第2回 発音2：声調と母音 第3回 発音3：子音 第4回 発音4：発音のまとめ 第5回 発音5：表記の規則 第6回 作文1：クラス名簿、あいさつ (1) 第7回 作文2：クラス名簿、あいさつ (2) 第8回 作文3：数字、お金、時刻 (1) 第9回 作文4：数字、お金、時刻 (2) 第10回 作文5：数字、お金、時刻 (3) 第11回 作文6：簡単な動詞の文 (1) 第12回 作文7：簡単な動詞の文 (2) 第13回 作文8：意思表示、誘いかけ (1) 第14回 作文9：意思表示、誘いかけ (2) 第15回 作文10：まとめ		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉																																						
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>																																								
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 邢玉芝・王鳳蘭『ほあんいん! 中国語』<会話篇> (郁文堂)																																								
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音篇</td><td>1～2</td><td>中国語の声調(1), 単母音</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音篇</td><td>3～4</td><td>中国語の子音, 複合母音, 鼻母音</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>発音篇</td><td>5～6</td><td>中国語の声調(2) 軽声, 声調変化 総合練習</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>～第5回</td><td>本文篇 第1課</td><td>人称代名詞, 形容詞述語文</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>～第7回</td><td>本文篇 第2課</td><td>動詞述語文(1), 疑問文のいろいろ</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>～第9回</td><td>本文篇 第3課</td><td>動詞述語文(2), 連動文, 語気助詞(1)</td></tr> <tr><td>第10回～第11回</td><td>本文篇 第4課</td><td>動詞述語文(3), 指示代名詞, 名詞述語文, 構造助詞「的」</td></tr> <tr><td>第12回～第13回</td><td>本文篇 第5課</td><td>動詞述語文(5), 場所を表す言葉</td></tr> <tr><td>第14回</td><td colspan="3">中国映画鑑賞</td></tr> <tr><td>第15回</td><td colspan="3">前期のまとめ</td></tr> </table> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			第1回	発音篇	1～2	中国語の声調(1), 単母音	第2回	発音篇	3～4	中国語の子音, 複合母音, 鼻母音	第3回	発音篇	5～6	中国語の声調(2) 軽声, 声調変化 総合練習	第4回	～第5回	本文篇 第1課	人称代名詞, 形容詞述語文	第6回	～第7回	本文篇 第2課	動詞述語文(1), 疑問文のいろいろ	第8回	～第9回	本文篇 第3課	動詞述語文(2), 連動文, 語気助詞(1)	第10回～第11回	本文篇 第4課	動詞述語文(3), 指示代名詞, 名詞述語文, 構造助詞「的」	第12回～第13回	本文篇 第5課	動詞述語文(5), 場所を表す言葉	第14回	中国映画鑑賞			第15回	前期のまとめ		
第1回	発音篇	1～2	中国語の声調(1), 単母音																																						
第2回	発音篇	3～4	中国語の子音, 複合母音, 鼻母音																																						
第3回	発音篇	5～6	中国語の声調(2) 軽声, 声調変化 総合練習																																						
第4回	～第5回	本文篇 第1課	人称代名詞, 形容詞述語文																																						
第6回	～第7回	本文篇 第2課	動詞述語文(1), 疑問文のいろいろ																																						
第8回	～第9回	本文篇 第3課	動詞述語文(2), 連動文, 語気助詞(1)																																						
第10回～第11回	本文篇 第4課	動詞述語文(3), 指示代名詞, 名詞述語文, 構造助詞「的」																																							
第12回～第13回	本文篇 第5課	動詞述語文(5), 場所を表す言葉																																							
第14回	中国映画鑑賞																																								
第15回	前期のまとめ																																								
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)																																								

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍																														
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>我是上海人</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>我叫王平</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>这里是南京路</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>现在几点了?</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>今天是星期几?</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>你家有几口人?</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>没关系 (映画)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>香港的夏天热吗? (映画)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>四川菜很好吃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>我经常散步</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>牌价是多少?</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>汉语难不难?</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>我没吃蒜</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>我想去超市</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>			第1回	我是上海人	第2回	我叫王平	第3回	这里是南京路	第4回	现在几点了?	第5回	今天是星期几?	第6回	你家有几口人?	第7回	没关系 (映画)	第8回	香港的夏天热吗? (映画)	第9回	四川菜很好吃	第10回	我经常散步	第11回	牌价是多少?	第12回	汉语难不难?	第13回	我没吃蒜	第14回	我想去超市	第15回	まとめ
第1回	我是上海人																																
第2回	我叫王平																																
第3回	这里是南京路																																
第4回	现在几点了?																																
第5回	今天是星期几?																																
第6回	你家有几口人?																																
第7回	没关系 (映画)																																
第8回	香港的夏天热吗? (映画)																																
第9回	四川菜很好吃																																
第10回	我经常散步																																
第11回	牌价是多少?																																
第12回	汉语难不难?																																
第13回	我没吃蒜																																
第14回	我想去超市																																
第15回	まとめ																																
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする																																

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 相原茂・陳淑梅・飯田教子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、前期の復習 第2回 願望を表す表現：願望を表わす助動詞「想」の導入、練習（教科書第4課） 第3回 形容詞述語文：形容詞を使った表現の導入、練習（教科書第4課） 第4回 買い物に用いられる表現の導入、練習（教科書第4課） 第5回 数字（1～100）及び年齢を尋ね合う表現の導入、練習（教科書第5課） 第6回 家族構成を尋ね合う表現の導入、練習（教科書第5課） 第7回 比較の言い方「比」の導入、練習（教科書第5課） 第8回 復習（1）：第4、5課の復習。 第9回 経験を表す表現：経験を表わす「過」の導入、練習（教科書第6課） 第10回 必要を表す表現：必要を表わす「要」の導入、練習（教科書第6課） 第11回 年月日・曜日の言い方：年月日・曜日の言い方の導入、練習（教科書第7課） 第12回 時刻の言い方：時刻の言い方および文末の「了」の導入、練習（教科書第7課） 第13回 前置詞「在」の導入、練習（教科書第7課） 第14回 復習（2）：第6、7課の復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』（白水社） (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 「あなたは今晚用事ある？」第6課 (1) 第3回 「あなたは今晚用事ある？」第6課 (2) 第4回 「何処に住んでいるの？」第7課 (1) 第5回 「何処に住んでいるの？」第7課 (2) 第6回 「1週間に何日バイトする？」第8課 (1) 第7回 「1週間に何日バイトする？」第8課 (2) 第8回 「アメリカ行ったことある？」第9課 (1) 第9回 「アメリカ行ったことある？」第9課 (2) 第10回 「お酒は飲める？」第10課 (1) 第11回 「お酒は飲める？」第10課 (2) 第12回 「何しているの？」(1) 第13回 「何しているの？」第11課 (2) 第14回 「北京は上海より人が多い？」第12課 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業での発言内容 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著《最新2訂版》『中国語はじめの一步』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 「あなたは今晚用事ある？」第6課 (1)</p> <p>第3回 「あなたは今晚用事ある？」第6課 (2)</p> <p>第4回 「何処に住んでいるの？」第7課 (1)</p> <p>第5回 「何処に住んでいるの？」第7課 (2)</p> <p>第6回 「1週間に何日バイトする？」第8課 (1)</p> <p>第7回 「1週間に何日バイトする？」第8課 (2)</p> <p>第8回 「アメリカ行ったことある？」第9課 (1)</p> <p>第9回 「アメリカ行ったことある？」第9課 (2)</p> <p>第10回 「お酒は飲める？」第10課 (1)</p> <p>第11回 「お酒は飲める？」第10課 (2)</p> <p>第12回 「何しているの？」 (1)</p> <p>第13回 「何しているの？」第11課 (2)</p> <p>第14回 「北京は上海より人が多い？」第12課</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%) , 授業での発言内容 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画 (1回) を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 邢玉芝・王鳳蘭『「ほんいん! 中国語」<会話篇> (郁文堂)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 本文篇 第6課 数詞、金額の言い方、量詞</p> <p>第3回～第4回 本文篇 第7課 時点の表現、時間量の表現</p> <p>第5回～第6回 本文篇 第8課 主述述語文、動態助詞「了」と語気助詞「了」、動量補語</p> <p>第7回～第8回 本文篇 第9課 助動詞「会」「能」「要」、様態補語</p> <p>第9回～第10回 本文篇 第10課 動態助詞「过」、助動詞「想」、結果補語</p> <p>第11回～第12回 本文篇 第11課 可能補語、動詞の重ね型、助動詞「可以」、方向補語</p> <p>第13回～第14回 本文篇 第12課 “是…的”構文</p> <p>第14回 中国映画鑑賞 & 中国茶会</p> <p>第15回 後期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木 夏華
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	「始めよう！中国語」白水社 南雲智、趙暉 著 授業で紹介する。		
授業スケジュール	第1回 前置詞1 第2回 完了表現 第3回 動詞の重ね型 第4回 連動文 第5回 様態補語 第6回 経験を表す表現 第7回 前置詞2 第8回 1～7回までの復習 第9回 選択疑問文 第10回 動詞の進行を表す表現 第11回 状態の持続を表す表現 第12回 結果補語 第13回 方向補語 第14回 長文読解 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。作文のほか、理解度を確保するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 作文1：連続動作、意向確認 (1) 第2回 作文2：連続動作、意向確認 (2) 第3回 作文3：なに？ どこ？ だれ？ (1) 第4回 作文4：なに？ どこ？ だれ？ (2) 第5回 作文5：モノ (1) 第6回 作文6：モノ (2) 第7回 作文7：場所 (1) 第8回 作文8：場所 (2) 第9回 作文9：状態 (1) 第10回 作文10：状態 (2) 第11回 作文11：態度、ある瞬間 (1) 第12回 作文12：態度、ある瞬間 (2) 第13回 作文13：1年間の復習 (1) 第14回 作文14：1年間の復習 (2) 第15回 作文15：まとめ		
成績評価の方法	作文と小テスト50%、定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 邢玉芝・王鳳蘭『ほんいん! 中国語』〈会話篇〉(郁文堂)		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 本文篇 第6課 数詞、金額の言い方、量詞 第3回～第4回 本文篇 第7課 時点の表現、時間量の表現 第5回～第6回 本文篇 第8課 主述述語文、動態助詞「了」と語気助詞「了」、動量補語 第7回～第8回 本文篇 第9課 助動詞「会」「能」「要」、様態補語 第9回～第10回 本文篇 第10課 動態助詞「过」、助動詞「想」、結果補語 第11回～第12回 本文篇 第11課 可能補語、動詞の重ね型、助動詞「可以」、方向補語 第13回～第14回 本文篇 第12課 “是…的”構文 第14回 中国映画鑑賞 & 中国茶会 第15回 後期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注)	[学期] 後期	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似で練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級、漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準四級』アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語の体系を把握する</p> <p>【概要】 この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験4級を取得することを旨とすると同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第2回 模擬検定試験：中国語検定試験準4級の問題を解いてみる 第3回 前置詞：～から、～までの導入、練習 第4回 時間量の言い方：時間量の言い方の導入、練習 第5回 動詞「在」：動詞「在」の導入、練習 第6回 場所を表すことば：場所の言い方の導入、練習 第7回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習 第8回 中国語の時制：時制の復習と「是・・・的」構文の導入、練習 第9回 これまでの復習：検定試験に臨み、これまで習った内容の復習を行う。 第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読み練習 第13回 中国語で寸劇④：台本を読み練習、通し稽古 第14回 中国語で寸劇⑤：発表 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度 30%、発表評価：20%、筆記試験：50%		

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で枕草子</p> <p>【概要】于雷（う・らい）氏による中国語訳で『枕草子』を読みます。奥ゆかしい情感を中国語でどの程度再現できるのか、試みに読んでみましょう。</p> <p>日本語の原文と中国語の発音をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。授業はわたしが一方的に説明するのではなく、みなさんの発表に答える形で進めます。十分に予習をしてあらかじめ疑問点を用意しておいてください。質問を考える過程がみなさんの中国語理解を深めるはずで。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 枕草子1：授業の進め方について 第2回 枕草子2：第八段 (1) 第3回 枕草子3：第八段 (2)，第九段 第4回 枕草子4：第十段 (1) 第5回 枕草子5：第十段 (2) 第6回 枕草子6：第二十段 (1) 第7回 枕草子7：第二十段 (2) 第8回 枕草子8：第二十段 (3) 第9回 枕草子9：第二十段 (4) 第10回 枕草子10：第二十段 (5) 第11回 枕草子11：第二十段 (6) 第12回 枕草子12：第二十段 (7) 第13回 枕草子13：第二十段 (8) 第14回 枕草子14：第二十段 (9) 第15回 枕草子15：まとめ		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	瀬戸口 照夫
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において、健康問題が取り上げられているが、その原因を追求する。そして、人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。そして、人間と身体活動の関係をスポーツ人類学的に理解することを旨とする。</p> <p>【概要】健康を維持する為にはいかなる方策があるかを講じ、運動不足が生活習慣病の原因の一つであることを講じる。また、スポーツがその原初形態において人類にとって必要不可欠なものであったことを講じる。</p> <p>【到達目標】健康な生活を維持する為の方策を理解すること。また、人類的にスポーツの原初形態が何であったかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 健康とは何か 健康概念の変遷 第2回 健康問題と現代社会 第3回 運動と心の健康 第4回 スポーツの起源と伝播 第5回 スポーツと身体文化 第6回 スポーツと神話・儀礼・宗教 第7回 スポーツと文化化・教育 第8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + レポート (20)		

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く。7.5回。

授業科目	生涯スポーツ実習 I (A, B)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし、お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係、リーダーシップの重要性を学び、実際の生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料を添付する。		
授業スケジュール	第1回：グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第2回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。 第3回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。 第4回：ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。 第5回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。 第6回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。 第7回：ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー（方向）の練習。 第8回：ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第9回：ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第10回：ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。 第11回：ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。 第12回：サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと。 第13回：正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。 第14回：正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度 (40%) , 出席状況や授業への取り組み状況 (30%) グループにおける協力関係、リーダーシップ (30%)		

(注) 教職必修

(注) 文学科

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C, D, E, F)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実技方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】実技では、今まで実習したことのない種目を選定し、特に、ゴルフと硬式テニスを課す。</p> <p>【到達目標】ゴルフの打法とアプローチの実践ができること。、硬式テニスでは、サーブが確率的に高く入るゲームが出来るようになることが最終目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 2 種目のビデオ, 指導教本や技術書の抜粋プリントと各種目のルール集		
授業スケジュール	第1回：ゴルフの概要 ・ゴルフの歴史やゲームの方法, 各クラブの機能の説明, 練習上の注意事項 第2回：ショートアイアンの打法の解説と実践 ・9, 7 番アイアンの打法とグリップの習得 第3回：ミドルアイアンの打法の解説 ・前回のショートアイアンの復習と5 番アイアンの打法の解説と実践 第4回：フェアウェイクラブの打法 ・スプーンとクリークスの打法の解説と実践 第5回：ドライバーの打法 ・今までのクラブの打法とドライバーの打法の違いの概説と実践 第6回：アプローチの実践 ・ショートアイアンによる実践 第7回：アプローチのゲーム ・打数によるゲーム 第8回：テニスの概要 ・テニスの歴史とゲームに必要な打法の解説 第9回：フォアハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをフォアサイドで打ち返す練習 第10回：バックハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをバックサイドで打ち返す練習 第11回：サーブの練習 ・フォアハンド, バックハンドストロークの練習とアンダーサーブの練習 第12回：ダブルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第13回：シングルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第14回：ダブルスゲーム 第15回：まとめ		
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準と, 総合的に評価する。		

(注) 教職必修

(注) 生活科学科, 商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A, B, C, D)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代		
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実技方式				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得を目標とする。</p> <p>【概要】卓球、バレーボール、バドミントン等の種目から一種目を選択し実習する。</p> <p>【到達目標】卓球: カットサーブから始まるゲームができること, バドミントン: ショート, ロングサーブを使い分けてゲームができること バレーボール: 誰もがアタックを打ち、チームフォーメーションが理解できること</p>				
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 各種目のビデオ (2)				
授業スケジュール	回数 /教材	卓球	バドミントン	バレーボール	
	1	オリエンテーション・準備、後片づけの確認 (安全な使用)	・グループ分け (リーダ決定, グループノート活用について)	・試しのゲーム	・次週の計画を立てる
	2	卓球に技術について (様々な打法の理解と上回転の練習)	バドミントンの技術について (様々な打法の理解とハイクリアーの練習)	バレーボールの技術について (A アタックから: アタックのイメージの転換)	
	3	様々な打法の練習(1) 上回転と下回転の理解と練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(1) (ハイクリアー・スマッシュ・簡易ゲーム)	A クイックの習熟(1) トスの高さジャンプのタイミングを意識化→2:2→3:3	
	4	様々な打法の練習(2) (1)の練習に加えてスマッシュ練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(2) (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・簡易ゲーム)	A クイックの習熟(2) (トスの場所の変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)	
	5	様々な打法の練習(3) (2)の練習に加えてサーブの練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習-3 (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・ドライブ・ヘアピン・簡易ゲーム)	A クイックの習熟(3) (トスの場所, 高さの変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)・投げられサーブ, キャッチングレシーブ	
	6	様々な打法の練習(4) (3)の練習に加えてカットサーブのリターン練習・ゲーム	シングルゲームの解説とゲーム(リーグ戦)→ゲーム結果をもとにチーム分け	アタックの習熟とブロックの解説と練習 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	7	シングルスゲームの解説とゲーム(1)	ダブルスゲーム解説とゲーム(二人のコンビネーションについての課題の発見) (1)	アタックレシーブの場所, アンダーパスの方法の解説 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	8	シングルスゲーム(2)	ダブルスゲーム(2)	ゲーム(ポジション決定)	
	9	ダブルスゲームの解説とゲーム(1)	コンビネーションの解説と練習→ダブルスゲーム(チーム内リーグ戦)	セッターの決定とアタックとサーブのレシーブの違いの解説と練習・サーブ練習	
	10	ダブルスゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(1) (シングルス, ダブルス混合)	ゲーム ポジションの確認と作戦	
	11	チーム対抗ゲームの解説とゲーム(1)	チーム対抗ゲーム(2) データを元に作戦を立てる	フォーメーションの解説とチーム作戦を立てゲームをする	
	12	チーム対抗ゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(1)	
	13	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(2)	
	14	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(5)	チーム対抗ゲーム(3)	
	15	まとめ	まとめ	まとめ	
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。				

(注) 教職必修

(注) 文学科, 生活科学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (E, F)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 スポーツと体力・運動能力づくり／健康づくり</p> <p>【概要】 前期の実習Ⅰを踏まえ、後期には前半7回と後半7回（まとめ：1回）で2種類の異なるスポーツを選択し、グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球、バトミントン、バレーボール、バスケットボールなどの中から2種目選択し、ゲーム中心に進めていく。</p> <p>【到達目標】 選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方、戦術、作戦の立て方、パートナーやチームの協力のあり方などを学習し、楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き、練習の過程とグループ（ペア）の関与に目を向けられるようになること。当番の役割、リーダーシップの必要性、重要性を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に必要なし</p> <p>(2) 必要なし</p> <p>※必要に応じて、資料は配付する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：1回目グループ編成、実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。</p> <p>第2回：準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第3回：準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第4回：準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム、ミニゲーム。</p> <p>第5回：準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム、ミニゲーム。</p> <p>第6回：準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第7回：準備運動、ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。</p> <p>第8回：2回目のグループ編成、実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。</p> <p>第9回：準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第10回：準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第11回：準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム、ミニゲーム。</p> <p>第12回：準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム、ミニゲーム。</p> <p>第13回：準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第14回：準備運動、ダブルスによる総当たりのゲーム。</p> <p>第15回：授業のまとめと評価</p>		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方 (40%)、出席状況や授業への取り組み状況 (30%) グループにおける協力関係、リーダーシップ (30%)		

(注) 教職必修

(注) 商経学科

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシーI (A)	担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、表計算、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第9回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第10回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第11回 画像を利用した文書作り (1) 第12回 画像を利用した文書作り (2) 第13回 表計算ソフト Excel 第14回 プレゼンテーションソフト PowerPoint 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題と試験 (2:1) の総合評価		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーI (B)	担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、表計算、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第9回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第10回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第11回 画像を利用した文書作り (1) 第12回 画像を利用した文書作り (2) 第13回 表計算ソフト Excel 第14回 プレゼンテーションソフト PowerPoint 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題と試験 (2:1) の総合評価		

(注) 教職必修, 英語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)	担当者	青山 究
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel PowerPoint の各ソフトが使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word と Excel を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない。日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 鶴見直司他著「30 時間でマスター Word & Excel2010」実教出版 この授業専用の USB フラッシュメモリ を用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Windows 7 の基礎</p> <p>第 2 回 Word の起動と終了</p> <p>第 3 回 日本語入力システムの設定</p> <p>第 4 回 文字の入力</p> <p>第 5 回 文章の入力</p> <p>第 6 回 入力の訂正 (訂正, 挿入, 削除)</p> <p>第 7 回 特殊な入力方法 (記号の入力 2, 数式, 手書き入力)</p> <p>第 8 回 いろいろな辞書の利用 (人名, 住所, 顔文字)</p> <p>第 9 回 文の入力 (ページ設定, 文の入力, 改行)</p> <p>第 10 回 文書の保存と読み込み, 印刷 (ページ設定, 余白の設定, 印刷レイアウト, 印刷)</p> <p>第 11 回 複写・削除・移動</p> <p>第 12 回 編集機能 1 (右揃え, 中央揃え)</p> <p>第 13 回 編集機能 2 (印刷フォント, 下線, 表の作成, 均等割り付け)</p> <p>第 14 回 表の編集 (行・列の挿入)</p> <p>第 15 回 ビジュアルな文書 (ワードアート, クリップアート, ページ罫線)</p>		
成績評価の方法	期末実技試験 (60%) + 授業中に課せられる課題 (40%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)	担当者	遠矢 守
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】 現代人にとってコンピュータとインターネットなどは、情報の収集、分析 (解決)、情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では、これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。 コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め、インターネット (メール、情報検索) や応用ソフト (ワープロ、表計算ソフト) に関して、これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき基礎事項について学習し体得する。</p> <p>【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能の基礎を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (授業の方針・目標、受講上の注意)、コンピュータの仕組みと簡単な操作</p> <p>第 2 回 タッチタイピング、Windows の基本的操作、保存メディア、ショートカットキー</p> <p>第 3 回 日本語入力 (部分確定・文節の切り替え、文字列の編集加工、単語登録、再変換など)、簡単なファイル処理</p> <p>第 4 回 Word による文書作成 1 (Word の基礎)</p> <p>第 5 回 電子メールの仕組み、ファイル添付、メールに関する情報モラル</p> <p>第 6 回 Web を利用した情報検索の方法 1、ブラウザの効果的操作方法</p> <p>第 7 回 Web を利用した情報検索の方法 2、調査事項の文書化</p> <p>第 8 回 ネット犯罪とセキュリティ</p> <p>第 9 回 ペイント系ソフトの技法、絵入り文書の作成など</p> <p>第 10 回 Word による文書作成 2 (図形描画ツールに関する技法)</p> <p>第 11 回 Word による文書作成 3 (表、インデント、段組み、Word のショートカットキー)</p> <p>第 12 回 Excel の基礎 1 (簡単な縦横計算)</p> <p>第 13 回 Excel の基礎 2 (簡単なグラフ作成、Word 文書への表やグラフの貼り付け)</p> <p>第 14 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のための Word 2007』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のための Word 2007』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に指示します。		
授業スケジュール	第1回 電子メール : 日本語入力、漢字コード、文字エンコード、ネットワークセキュリティ 第2回 情報の調べ方 : ネットの仕組み、情報検索 第3回 文書作成 : MS Wordでレポート作成 第4回 文書作成 : ふりがな、フォント、多言語文書 第5回 表計算ソフト : 関数の利用 第6回 表計算ソフト : グラフの作成、ワープロ文書との連携 第7回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトの利用法 第8回 Webによる情報発信 : ページの作成 第9回 Webによる情報発信 : javascript と Web2.0 第10回 Webによる情報発信 : CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 : アクセシビリティ 第12回 情報教育 : 学校教育のICT化、中学校でのICT利用 第13回 オープンソース : オープンソースとは、主なオープンソースソフトウェア 第14回 オープンソース : 政府・自治体・学校などでのオープンソース利用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に指示します。		
授業スケジュール	第1回 電子メール : 日本語入力、漢字コード、文字エンコード、ネットワークセキュリティ 第2回 情報の調べ方 : ネットの仕組み、情報検索 第3回 文書作成 : MS Wordでレポート作成 第4回 文書作成 : ふりがな、フォント、多言語文書 第5回 表計算ソフト : 関数の利用 第6回 表計算ソフト : グラフの作成、ワープロ文書との連携 第7回 プレゼンテーション : プレゼンテーションソフトの利用法 第8回 Webによる情報発信 : ページの作成 第9回 Webによる情報発信 : javascript と Web2.0 第10回 Webによる情報発信 : CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 : アクセシビリティ 第12回 情報教育 : 学校教育のICT化、中学校でのICT利用 第13回 オープンソース : オープンソースとは、主なオープンソースソフトウェア 第14回 オープンソース : 政府・自治体・学校などでのオープンソース利用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修、英語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)	担当者	青山 究
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】 Word, Excel PowerPoint の各ソフトが使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word と Excel を、実習を通して使えるようにする。 「情報リテラシーⅠ (C)」と連続講義で一つの授業として実施する。</p> <p>【到達目標】 高度な知識や能力を要求するわけではない。日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 鶴見直司他著「30時間でマスター Word & Excel2010」実教出版 この授業専用のUSBフラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Windows 7 の基礎 第2回 Windows 7 の活用 第3回 電子メール 第4回 インターネット, Internet Explorer, 検索 第5回 データ入力の基礎 (数値データ, 文字列データ, データの消去) 第6回 基本的なワークシートの編集 (セルの挿入・削除, 移動・コピー, データの修正, 連続データの入力, 数式の入力) 第7回 ワークシートの書式設定 (列幅と行の高さ, 表示形式, 文字の配置とフォント, 罫線・塗りつぶし) 第8回 グラフの作成 (グラフの用途と基本構成, 棒グラフ, 円グラフ) 第9回 グラフの変更 (系列, 数値軸目盛, グラフの種類, データ系列, 軸ラベル, 凡例, フォント, データラベル) 第10回 オートSUM ボタン (最大, 最小, 平均, データの個数) 第11回 関数の挿入 (順位づけ, 四捨五入, 判定, 条件による集計, 表の検索) 第12回 データベース機能 (並べ替え, フィルター, 条件付き書式, テーブル) 第13回 データの集計 (ピボットテーブル, クロス集計, レポートフィルター) 第14回 アプリケーション間のデータ活用 (Word 文書への Excel データ活用, Word 文書への Web データ活用) 第15回 新機能の活用 (スクリーンショット機能, PDF ファイル作成機能)</p>		
成績評価の方法	期末実技試験 (60%) + 授業中に課せられる課題 (40%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)	担当者	遠矢 守
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】 本科目は、情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは、Ⅰで学んだことをもとに、Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに、デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて、Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。</p> <p>【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習 第2回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション1 (文字だけのプレゼンテーション, テキストアニメーション) 第3回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション2 (図・表・動画の活用, 図やグラフのアニメーション) 第4回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション3 (効果的プレゼンテーションとは) 第5回 Excel による縦横計算1 (関数の利用1) 第6回 Excel による縦横計算2 (関数の利用2, Excel のショートカットキー) 第7回 Excel による縦横計算3 (演習) 第8回 Excel によるグラフ作成, グラフ入り文書の作成1 第9回 Excel によるグラフ作成, グラフ入り文書の作成2 第10回 Excel によるデータベース処理1 第11回 Excel によるデータベース処理2 第12回 エディタによるホームページの作成 第13回 ファイルの整理 (ファイルの圧縮解凍), OS の概念 第14回 マクロプログラミング入門 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せて初級(初心者)と中級(経験者)にクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト 第14回 インターネットの活用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題と試験(2:1)の総合評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト 第14回 インターネットの活用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	2回の課題と試験(2:1)の総合評価		

(注) 経営情報専攻

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】日本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社(担当者:木戸) 村松定孝『文学概論』双文社出版		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション:本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い 第2回 古典文学を学ぶとは:仮名史について くずし字の読み方1 第3回 文献学(写本と板本)について:くずし字の読み方2 第4回 書誌学について:くずし字の読み方3 第5回 くずし字小テスト:物語・日記・随筆 古典文学の分類について 第6回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり1:くずし字の読み方4 第7回 中国古典文学との関わり2:くずし字の読み方5 第8回 総括1:前半のまとめ 第9回 総論:近代文学とは何か 第10回 近代文学1:小説について 第11回 近代文学2:詩について 第12回 近代文学3:短歌・俳句について 第13回 近代文学4:文学批評について 第14回 近代文学5:近代文学研究の方法・論文の書き方(後半のまとめ) 第15回 総括2:後半のまとめ		
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート(感想文等)20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50%の合計で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション:言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第2回 音声学・音韻論(1):調音音声学、子音・母音・モーラおよび音素、音韻規則 第3回 音声学・音韻論(2):連濁、枝分かれ制約 第4回 形態論:派生、複合など単語を生み出す仕組み 第5回 統語論:文の骨組みを作る仕組み 第6回 意味論(1):単語の意味 第7回 意味論(2):文と文の間の意味関係 第8回 語用論(1):間接的言語行為と協調の原則 第9回 語用論(2):会話の含意 第10回 語用論(3):ポライトネスと敬語 第11回 言語コミュニケーションと社会:対人関係と地域差 第12回 言語獲得のメカニズム:生成文法と普遍文法、母語獲得、外国語獲得 第13回 バイリンガリズム:言語習得の臨界期、コードスイッチング、加算・減算的バイリンガリズム 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言や参加度:30%、小テスト30%、期末試験:40%		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 日本語日本文学専攻は必修(注)、英語英文学専攻は選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学(特に古典文学)を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻(音声言語)に関する事項と、それを書き表す文字・表記(アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である)について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>【到達目標】 日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 鈴木一彦・林巨樹 監修『概説日本語学 改訂版』明治書院</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本語学とは : 国語/日本語と国語学/日本語学</p> <p>第2回 現代語の音声・音韻1 : 発音器官, 国際音声字母 ※</p> <p>第3回 現代語の音声・音韻2 : 母音 ※</p> <p>第4回 現代語の音声・音韻3 : 子音 ※</p> <p>第5回 現代語の音声・音韻4 : 韻律 ※</p> <p>第6回 文字・表記 : 現代日本語の表記の特徴 ※</p> <p>第7回 前半のまとめ</p> <p>第8回 現代語の語彙・意味1 : 語種</p> <p>第9回 現代語の語彙・意味2 : 語彙の体系</p> <p>第10回 現代語の文法1 : 品詞論・敬語論</p> <p>第11回 現代語の文法2 : 構文論</p> <p>第12回 文章・文体 : 口語/文語・文章語, 書き言葉/話し言葉</p> <p>第13回 方言 : 国語(公用語)と方言, 新方言, 言語地理学</p> <p>第14回 言語生活 : 流行語, 若者言葉, 名付け</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※印=パソコン教室で実施。</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語教育概論	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 佐々木泰子 『ベーシック日本語教育』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育: 少子高齢化, 定住外国人の増加, ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育: 帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 言語と社会: バイリンガル/マルチリンガル, 言語政策, 言語変種</p> <p>第5回 文化と日本語教育: カルチャーショック, ステレオタイプ, 高/低コンテキスト文化</p> <p>第6回 日本語教育とコミュニケーション教育: 文化相対主義 異文化トレーニング コミュニケーション・スタイル</p> <p>第7回 日本語教育と文法: 語順 日中対照 言語学</p> <p>第8回 第二言語としての日本語の習得: 誤用分析 言語転移 外国語学習の適性</p> <p>第9回 日本語教育法(1) コースデザインとニーズ分析, シラバス・デザイン, カリキュラム</p> <p>第10回 日本語教育法(2) 教授法: 直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第11回 日本語教育法(3) 教材分析・開発: 機能シラバス 構造シラバス 場面シラバス</p> <p>第12回 日本語教育法(4) 授業の計画と実施①初級レベルの場合: 導入 基本練習 応用練習</p> <p>第13回 日本語教育法(5) 授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合: ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第14回 日本語教育法(6) 評価法: 熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト: 50%, 期末試験: 50%		

授業科目	日本語史	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史的変遷を概観する。古典辞典いずれか1冊を毎回持参すること。 テキストが分野別の記述になっているので、各自、歴史年表の上に投影してみる。特に、日本史が苦手だというひとは、政治史や文化史などの復習も必要である。 開放科目としての受講など「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち日本語史で扱わない部分についてよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 鈴木一彦・林巨樹 監修『概説日本語学 改訂版』明治書院 (2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料 : 古辞書, 古典文学作品 第2回 表記の歴史 : 漢字の受容から仮名の誕生へ 第3回 古代語の音韻・音韻史1 : 上代特殊仮名遣い, 手習い歌・五十音図 第4回 古代語の音韻・音韻史2 : 子音・母音の変遷 第5回 古代語の音韻・音韻史3 : アクセントと仮名遣い 第6回 古代語の語彙・語彙史1 : 形容詞 第7回 古代語の語彙・語彙史2 : 代名詞, 親族語彙 第8回 古代語の語彙・語彙史3 : 語構成, 借用語 第9回 古代語の語彙・語彙史4 : 語形変化, 語義変化, 文体と位相 第10回 古代語の文法・文法史1 : 品詞論 第11回 古代語の文法・文法史2 : 形態論 第12回 古代語の文法・文法史3 : 統語論 第13回 文章・文体 : 和文体・漢文訓読体・和漢混濁文, 共通語の成立と方言の消長 第14回 日本語研究史 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本文法論	担当者	望月 正道
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する</p> <p>【概要】中学校の国語の時間に習った(はずの)「口語文法」は、多くの生徒にとって、退屈なだけで日常生活においてほとんど役に立たない存在である。しかし、文法研究を一生の仕事とした人が少なからずいることを考えれば、意外に文法も面白いものかもしれない。 また、日本語教育や外国語学習の場面では、より実態に近い(役に立つ)日本語文法理論をわきまえておくべきであろう。 この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新書1冊を取り上げ、近代以降の主な文法学説についても概観しつつ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尾上圭介『大阪ことば学』岩波現代文庫 (2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 学校文法の確認: 中学校国語「口語文法」の内容について再確認 第2回 主な文法学説1: 大槻文彦/国語元年, 山田孝雄/陳述 第3回 主な文法学説2: 松下大三郎/断句, 橋本進吉/文節 第4回 主な文法学説3: 時枝誠記/文章論, 三上章/主語廃止論 第5回 テキストについての検討(1): 共通語と方言 第6回 テキストについての検討(2): いてる, アスペクト 第7回 テキストについての検討(3): ねん, 終助詞 第8回 テキストについての検討(4): 言うて, 依頼・命令 第9回 テキストについての検討(5): かみます, 情報伝達のわかりやすさ 第10回 テキストについての検討(6): よう言わんわ, 不可能 第11回 テキストについての検討(7): ぼちぼち行こか, 勧誘 第12回 テキストについての検討(8): 待ってられへんかな, ことばのリズム 第13回 テキストについての検討(9): 大阪弁は非能率的か 第14回 テキストについての検討(10): 大阪弁は非論理的か 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義	担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】韓国語(朝鮮語)の概要を学ぶことをとおして、日本語をより深く理解する</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊だ」と思い込んでしまう人が多いように見受けられる。しかし、現代の英語は、例えば二人称代名詞が1つしかないなど、ある意味では西欧語の中でも「特殊」である。英語だけ(あるいは英語と中国語だけ)を見ていては、公平な判断ができない。そういうときに、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語によく似ている(が、微妙に違う)韓国語(朝鮮語)を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。</p> <p>また、世間では「古代韓国語で万葉集を解説する」といったたぐいの本もある。が、実は古代の韓国語(朝鮮語)の姿はほとんどわかっていないのである。これら、日本語の歴史に関して考察する場合の韓国(朝鮮)資料の価値についても考える。</p> <p>なお、授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが、ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第1回 「ハングル」とは：誕生日、構造 第2回 日本語と韓国語1：口蓋音化、音節構造 第3回 日本語と韓国語2：漢字音、固有語・漢字語・外来語 第4回 日本語と韓国語3：擬声語・擬態語、色彩形容詞 第5回 日本語と韓国語4：連濁とサイシオツ 第6回 日本語と韓国語5：代名詞と指示語、コソアドの体系 第7回 日本語と韓国語6：品詞分類、助詞 第8回 日本語と韓国語7：助動詞(語尾)、サ変動詞・形容動詞(하다動詞・形容詞) 第9回 日本語と韓国語8：待遇表現(敬語、文体) 第10回 日本語と韓国語9：数詞、助数詞 第11回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」1：記紀歌謡・万葉集と郷歌 第12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」2：数詞 第13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」3：トンデモ学説について 第14回 言語の起源・日本語の起源：どこまでわかっているか 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかかわり等について出題する)の成績(80%)に、授業での発言や小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義 I	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどんなことを問題をとって取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業時には学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。授業は基本的には講義形式で進めますが、適宜グループディスカッションや質疑応答も行います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場をしたいと思います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方の説明 第2回 ことばの性差 第3回 ことばの地域差 第4回 比喩とはなにか 第5回 比喩を考える 第6回 意味用法の変化と若者語 第7回 発音のしくみ 第8回 音韻と音声のちがい 第9回 日本語の音を数える単位 第10回 鹿児島方言のアクセント 第11回 とりたて詞 第12回 テンス 第13回 ヴォイス 第14回 方言文法の変化 第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。 メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：80% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	日本語学講読Ⅱ	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える</p> <p>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。</p> <p>【到達目標】 教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。この授業を通じて、①歴史認識 ②日本語学の方法 ③プレゼンテーションスキルなどを学ぶことになります。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明 第2回 「正しい日本語」とはなにもの？ 第3回 副詞の種類－2つの「とても」 第4回 副詞「全然」の語史 第5回 役割語とは何か 第6回 研究発表準備 第7回 「博士」のことば（研究発表①） 第8回 博士語の成立 第9回 標準語と非標準語（1） 第10回 標準語と非標準語（2） 第11回 「中国人」のことば（研究発表②） 第12回 異人たちのことば 第13回 さまざまな役割語（研究発表③） 第14回 役割語とステレオタイプ 第15回 講義内容のまとめ</p> <p>以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。</p> <p>メールによる予習課題の提出：50% 研究発表と発表概要の提出：50%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅰ、Ⅲ	担当者	望月 正道
	[履修年次] 演習Ⅰは1年、演習Ⅲは2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える。</p> <p>【概要】大英図書館蔵『天草版 平家物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。後期は、巻第二を読む。</p> <p>【到達目標】ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 授業中に指示する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入：底本の紹介と読み方（2年生が1年生に） 第2回 演習：2年生担当 第3回 " : " 第4回 演習：1年生担当 第5回 " : " 第6回 " : " 第7回 " : " 第8回 " : " 第9回 " : " 第10回 " : " 第11回 " : " 第12回 " : " 第13回 " : " 第14回 " : " 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える。</p> <p>【概要】 大英図書館蔵『天草版 平家物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。前期は、巻第一を読む。</p> <p>【到達目標】 ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業中に指示する。 (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第 1回 導入：底本の紹介と読み方 第 2回 演習：教員が担当 第 3回 演習：学生による発表 第 4回 " : " 第 5回 " : " 第 6回 " : " 第 7回 " : " 第 8回 " : " 第 9回 " : " 第 10回 " : " 第 11回 " : " 第 12回 " : " 第 13回 " : " 第 14回 " : " 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学演習Ⅳ, Ⅵ	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 演習Ⅳは1年、演習Ⅵは2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の語用論に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語教育に対する理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第 2回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 3回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 4回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 5回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 6回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 7回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 8回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 9回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 10回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 11回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 12回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 13回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 14回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の語用論に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め、論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語及び日本語教育に対する理解を深め、簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第3回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第4回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第5回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第6回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第7回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第8回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第9回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第10回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第11回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第12回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第13回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第14回 担当者による発表：担当者が日本語教育の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】発表、面接、論文、エッセーなどの課題にグループで取り組みながら、ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を考察する。 なお、表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。 この授業は講義方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので、一部演習も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また、原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 口頭表現：自己紹介/発音、姿勢、歩き方 第2回 口頭表現：自己アピールをする 第3回 口頭表現：口頭で道案内をする 第4回 口頭表現：ディスカッション 第5回 口頭表現：表現の自由と人権 第6回 口頭表現：口頭表現のまとめ 第7回 文章表現：現代語表記と原稿のきまり 第8回 文章表現：メールで問い合わせる 第9回 文章表現：使いやすいまニュアルとは 第10回 文章表現：企画や提案を出す(1)形式 第11回 文章表現：企画や提案を出す(2)グループ討論を経て 第12回 文章表現：資料を探す(1) 図書館で探す 第13回 文章表現：資料を探す(2) インターネットで調べる 第14回 文章表現：論理の展開とレトリック 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】 日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）		
授業スケジュール	第1回 参考文献：参考文献を読む 第2回 参考文献：参考文献を引用する 第3回 プレゼンテーション：何を使うか 第4回 課題レポート1：作成 第5回 課題レポート1：発表 第6回 課題レポート1：討論 第7回 課題レポート2：作成 第8回 課題レポート2：発表 第9回 課題レポート2：討論 第10回 課題レポート3：作成 第11回 課題レポート3：発表 第12回 課題レポート3：討論 第13回 試験レポート：資料収集 第14回 試験レポート：テーマに関する討論 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	対照言語学	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語の共通点・相違点を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第5回 日英中の対照（4）：時に関する比較 第6回 日英中の対照（5）：受動態に関する比較 第7回 日英中の対照（6）：否定に関する比較 第8回 日英中の対照（7）：接続に関する比較 第9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第13回 英語母語話者、中国語母語話者に対する日本語教育 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、レポート：50%		

授業科目	日本文学史・古典Ⅰ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・古典Ⅰは上代(奈良時代以前)から中古(平安時代)の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】 上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成23年度日本文学史・近代Ⅰ,Ⅱと同じ) (2)授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション:文学の発生 第2回 上代の文学その1:概観,古事記 第3回 上代の文学その2:日本書紀,風土記 第4回 上代の文学その3:万葉集1 第5回 上代の文学その4:万葉集2 第6回 上代の文学その5:万葉集3 第7回 上代の文学その6:上代の漢詩,説話 第8回 中古の文学その1:概観,古今集以前 第9回 中古の文学その2:和歌,三代集まで 第10回 中古の文学その3:和歌,八代集 第11回 中古の文学その4:和歌,私撰集,歌謡 第12回 中古の文学その5:源氏物語以前の歌物語 第13回 中古の文学その6:源氏物語以前の作り物語 第14回 中古の文学その7:源氏物語 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・古典Ⅱは中古(平安時代)の和歌史・物語史から中世(鎌倉・室町時代)文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】 中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成23年度日本文学史・近代Ⅰ,Ⅱと同じ) (2) 授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 中古の文学その1:源氏物語 第2回 中古の文学その2:源氏物語以降の物語 第3回 中古の文学その3:歴史物語 第4回 中古の文学その4:日記 第5回 中古の文学その5:随筆 第6回 中古の文学その6:漢詩文 第7回 中世の文学その1:概観 第8回 中世の文学その2:和歌,連歌 第9回 中世の文学その3:漢詩文 第10回 中世の文学その4:軍記 第11回 中世の文学その5:随筆 第12回 中世の文学その6:物語 第13回 中世の文学その7:説話 第14回 中世の文学その8:能・狂言 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】菅原氏と大江氏 平安時代の学問の家</p> <p>【概要】天神さままで知られる菅原道真は学問の家菅原氏の三代目であった。平安時代にはもう一つ、学問の家として大江氏があった。この二つの家はライバル関係でもあり、学者の地位を守るために協力もした。菅原氏と大江氏の代表的な人物の事績を見ていながら、平安時代の文学の主流であった漢文学の流れを追っていく。</p> <p>【到達目標】菅原氏、大江氏について概略を理解する。平安時代の漢文学についての知識を身につける。菅原氏、大江氏が平安時代の文学に及ぼした影響を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料を配付する (2) 人物叢書『菅原道真』『大江匡衡』吉川弘文館 その他、授業中に提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：平安時代の学者像：『源氏物語』『うづほ物語』から 第2回 菅原清公と菅原是善：菅原氏の始まり 第3回 大江音人：大江氏の始まり 第4回 大江千古と大江千里：白氏文集と句題和歌 第5回 菅原道真その1：詩人として 第6回 菅原道真その2：政治家として 第7回 菅原道真その3：大宰府左遷～神格化へ 第8回 大江朝綱と大江維時：従兄弟同士の結びつき 第9回 菅原文時：道真の孫 第10回 大江維時と大江匡衡：稽古の力 第11回 菅原輔正：菅原氏の儒者 第12回 大江匡衡その2：帝師への道 第13回 大江匡衡その3：赤染衛門と子どもたち 第14回 大江氏の子孫たち：挙周と匡房 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業の感想レポート（毎回）20% レポート80%		

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻七の講義を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻七は、現存しない「柿本人麿歌集」の影響のもとに編纂されたと考えられる巻で、すべての歌に作者名が記されていない。「雑歌」「譬喩歌」「挽歌」の三部立になっており、さまざまな場面での歌が採られている。本講義は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。天平時代の歴史的事柄と万葉歌の関係を考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(四)』集英社文庫 (2) 第1回目の授業で提示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 『萬葉集』について（編者、諸本、万葉仮名など） 第2回 巻七について。教員による模範演習 第3回 『萬葉集』巻六輪読その1：雑歌1 第4回 その2：雑歌2 第5回 その3：雑歌3 第6回 その4：雑歌4 第7回 その5：雑歌5 第8回 その6：譬喩歌1 第9回 その6：譬喩歌2 第10回 その7：譬喩歌3 第11回 その8：譬喩歌4 第12回 その9：譬喩歌5 第13回 その10：譬喩歌6 第14回 その11：挽歌 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%		

授業科目	日本文学講読Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では近世最初期の絵入り木活字本である「嵯峨本」の影印（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。木活字本の変体仮名は形がはっきりしていて比較的読みやすいので、変体仮名の読み方についても学んでいきたい。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年嵯峨本第一種（影印）』和泉書院 (2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など） 第2回 初段：昔男の登場 変体仮名の読み方1 第3回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方2 第4回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方3 第5回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方4 第6回 六段：二条後の物語その4 変体仮名の読み方小テスト 第7回 六段：二条後の物語その5 第8回 七・八段：東下りその1 浅間の山 第9回 九段：東下りその2 八橋・宇津の山 第10回 九段：東下りその3 富士の山・隅田川 第11回 六九段：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト 第12回 六九段：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり 第13回 一六段：男の友情 第14回 八二段・八三段：惟喬親王 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%		

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』の講読を通じて、平安時代の物語についての理解を深める。</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』中から一巻を選び受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「松風」巻を読む。光源氏が明石で出会った明石の君は、源氏の帰京後、姫君を出産した。光源氏は明石の君母娘を呼び寄せ、彼女は自分の身の程を思い上京の決心をつけた。源氏の催促に、明石の君は源氏の邸ではなく、明石の尼君が伝領した大堰（おほい）の邸に移ってくる。源氏は嵯峨野の御堂造宮にかこつけて明石の君の許を訪れるが、姫君を自邸に引き取ることを思案する。この姫君こそ源氏の栄華の基盤となる明石の女御である。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成。登場人物について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 清水婦久子編『首書源氏物語 総合・松風』和泉書院 (2) 角川ビギナーズクラシック『源氏物語』角川文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは 第2回 「松風」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第3回 「松風」輪読：その1 第4回 : その2 第5回 : その3 第6回 : その4 第7回 : その5 第8回 人物論：明石の君と源氏の関わりについて。中の品の女とは。 第9回 「松風」輪読：その6 第10回 : その7 第11回 : その8 第12回 : その9 第13回 : その10 第14回 : その11 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%		

授業科目	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年 (注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、前期の日本文学演習Ⅱの続きである。新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の担当を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。『四条宮下野集』の作者が活躍した平安時代後期11世紀後半の文学状況を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店 『四条宮下野集全釈』風間書房		
授業スケジュール	第1回 2年生によるオリエンテーション：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第2回 四条宮下野について：2年生による模範演習1 第3回 四条宮下野集を読む：2年生による模範演習2 第4回 四条宮下野集を読む：1 第5回 四条宮下野集を読む：2 第6回 四条宮下野集を読む：3 第7回 四条宮下野集を読む：4 第8回 四条宮下野集を読む：5 第9回 四条宮下野集を読む：6 第10回 四条宮下野集を読む：7 第11回 四条宮下野集を読む：8 第12回 四条宮下野集を読む：9 第13回 四条宮下野集を読む：10 第14回 四条宮下野集を読む：11 第15回 まとめ		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言20% レポート80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言20% 担当発表80%		

(注) 1年生は演習Ⅰ, 2年生は演習Ⅲ

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、「四条宮下野集」を読む。四条宮下野は11世紀後半、後冷泉天皇の時代に家人として活躍した皇后寛子付きの女房である。その歌集は、詞書が長く随想的な内容を含み、『枕草子』の随想的章段との関連を指摘されている。本演習では、担当者が歌の配列などを参考にしながら、和歌及び詞書の解釈を行ない、全体の構成を読み解いていく。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。『四条宮下野集』の作者が活躍した平安時代後期11世紀後半の文学状況を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平安私家集』岩波書店 『四条宮下野集全釈』風間書房 その他授業中に呈示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：演習の進め方について (辞書、索引の引き方、資料の探し方) 第2回 作品紹介：四条宮下野について 第3回 四条宮下野集を読む：1 第4回 四条宮下野集を読む：2 第5回 四条宮下野集を読む：3 第6回 四条宮下野集を読む：4 第7回 四条宮下野集を読む：5 第8回 四条宮下野集を読む：6 第9回 四条宮下野集を読む：7 第10回 四条宮下野集を読む：8 第11回 四条宮下野集を読む：9 第12回 四条宮下野集を読む：10 第13回 四条宮下野集を読む：11 第14回 四条宮下野集を読む：12 第15回 まとめ		
成績評価の方法	担当発表80%、担当時以外の発言(質問、意見など)20%		

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学講義Ⅴ	担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 地獄ものの草紙を読むー江戸前期ー 【概要】 中世から近世にかけて、「地獄」を舞台として作品が数多く作られた。本講ではそのなかから、源氏や平家の武者たちが地獄で謀叛を起すという奇想天外な物語2作品を講読する。『義経地獄破り』は古浄瑠璃正本、絵巻の形で現存するが滑稽性の要素を持ちながらも宗教色が勝った作品と言える。元禄11年(1698年)に刊行された『小夜嵐』は『義経地獄破り』の影響を受けながらも、滑稽性の要素が勝っている。両者を読み比べることで、中世から近世への文学の質的変容を考えたい。 【到達目標】 仏教についての基本的な知識を得た上で、江戸時代前期の人々の来世に対する認識について把握する。 江戸時代文芸の特色を把握する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント配布 (2) 『甦る絵巻・絵本1 義経地獄破り』(勉誠出版, 2005年)		
授業スケジュール	第1回 導入 文学史における近世 第2回 仏教の世界観について 第3回 古代・中世の仏教について 第4回 『義経地獄破り』を読む(1) 第5回 『義経地獄破り』を読む(2) 第6回 『義経地獄破り』を読む(3) 第7回 『義経地獄破り』を読む(4) 第8回 『義経地獄破り』を読む(5) 第9回 『小夜嵐』を読む(1) 第10回 『小夜嵐』を読む(2) 第11回 『小夜嵐』を読む(3) 第12回 『小夜嵐』を読む(4) 第13回 『小夜嵐』を読む(5) 第14回 『小夜嵐』を読む(6) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	平常時のレポート(30%), 筆記試験(70%)		

授業科目	日本文学講読VI	担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地獄もの草紙をよむー江戸後期ー</p> <p>【概要】江戸後期に作られた地獄を舞台とする「滑稽本」二種を講読する。一つは平賀源内の滑稽本『根無草』。作品の中に当代性がどのように表現されているかを考察しながら読む。もう一つは、薩摩で作られ、写本で伝わる『夢中の夢』を講読し。薩摩藩士が作品にこめた当世批判を読み取る。</p> <p>【到達目標】仏教についての基本的な知識を得た上で、江戸時代後期の人々が文学の中で「あの世」をどのように表現したかについて把握する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 『日本古典文学大系 風来山人集』(岩波書店, 1961年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 江戸前期の「地獄もの」草紙の諸相</p> <p>第2回 『根無草』を読む(1)</p> <p>第3回 『根無草』を読む(2)</p> <p>第4回 『根無草』を読む(3)</p> <p>第5回 『夢中の夢』を読む(1)</p> <p>第6回 『夢中の夢』を読む(2)</p> <p>第7回 『夢中の夢』を読む(3)</p> <p>第8回 『夢中の夢』を読む(4)</p> <p>第9回 『夢中の夢』を読む(5)</p> <p>第10回 『夢中の夢』を読む(6)</p> <p>第11回 『夢中の夢』を読む(7)</p> <p>第12回 『夢中の夢』を読む(8)</p> <p>第13回 『夢中の夢』を読む(9)</p> <p>第14回 『夢中の夢』を読む(10)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	平常時のレポート(30%), 筆記試験(70%)		

授業科目	日本文学講読Ⅷ	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学講読Ⅹ	担当者	橋口 晋作
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 明治の擬古文の一つである、森鷗外の滞独記念三部作「舞姫」・「うたかたの記」・「文つかひ」を、学生が中心になって読み取り、鑑賞して行く。 【概要】 明治の擬古文で書かれた「舞姫」・「うたかたの記」・「文つかひ」を読み、鑑賞する。学生が作品の表現や内容について調べ、資料を作成し、発表しながら、全員で鑑賞して行く。 【到達目標】 本講読での学生の到達目標は、次ぎの3点である。先ず、先行研究を利用して擬古文で書かれた作品を読み、解釈する力をつけることである。次ぎに、担当した部分の発表資料を作成し、発表の準備をする力をつけることである。最後に、全員の前で、資料によりながら、担当した部分を授業することを通して発表力をつけることである。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 森鷗外『舞姫・うたかたの記 他三編』岩波文庫 (2) 新日本古典文学大系 明治編『森鷗外集』岩波書店		
授業スケジュール	第1回 近代の小説の始まりと文体について 第2回 森鷗外のドイツ留学と文筆活動 第3回 一 「舞姫」鑑賞 1 第4回 同 2 第5回 同 3 第6回 同 4 第7回 二 「うたかたの記」鑑賞 1 第8回 同 2 第9回 同 3 第10回 同 4 第11回 三 「文つかひ」鑑賞 1 第12回 同 2 第13回 同 3 第14回 同 4 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60％）＋授業での発表内容（40％）		

授業科目	日本文学演習Ⅳ	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	橋口 晋作
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学演習Ⅴは近代文学を対象とする演習である。受講生は近代文学で卒業研究をまとめるものと考えられる。本演習はこのことを念頭において、作品の解釈・鑑賞の能力を高め、卒業研究を進める力を養うものである。</p> <p>【概要】演習の形で読んで行く作品は、夏目漱石の『草枕』である。「非人情」の旅を求める画家の目を通した世界は、抵抗が多いかもしれないが、注釈書を参照しながら、読み進めて行きたい。受講生が資料を作成して、授業を進めて行く。担当者以外のさまざまな感想を引き出ししながら、作品理解が深まることを期待している。</p> <p>【到達目標】本演習の到達目標の第1は作品を調べる方法に習熟することである。2番目は資料を作成して、それを利用しながら授業を進めて行く力をつけることである。最後に、他の受講生の意見などを聞きながら自分の考えを深め、確立することである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>「草枕」を所収する文庫本（角川文庫の予定）</p> <p>日本近代文学大系『夏目漱石集』Ⅱ 角川書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本文学演習の進め方、夏目漱石の「草枕」時代 1</p> <p>第2回 夏目漱石の「草枕」時代 2</p> <p>第3回 「草枕」輪読1</p> <p>第4回 「草枕」輪読2</p> <p>第5回 「草枕」輪読3</p> <p>第6回 「草枕」輪読4</p> <p>第7回 「草枕」輪読5</p> <p>第8回 中間まとめ、日本文学演習と卒業研究</p> <p>第9回 「草枕」輪読6</p> <p>第10回 「草枕」輪読7</p> <p>第11回 「草枕」輪読8</p> <p>第12回 「草枕」輪読9</p> <p>第13回 「草枕」輪読10</p> <p>第14回 夏目漱石の「草枕」時代 3</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポートの成績（60%）＋発表内容（40%）		

授業科目	日本文学演習Ⅵ	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	南九州の文学Ⅰ	担当者	橋口 晋作
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 鹿児島県を中心とする地域の古典文学を講じ、鑑賞する。 【概要】 鹿児島県を中心とする地域の古典文学を大きく中世以前と近世とに分け、それぞれの時代の韻文、散文、劇文学の順に講じ、鑑賞して行く。 【到達目標】 武の国と見なされて来た南九州にも都で行われていた文学が伝わり、享受されていて、武一辺倒ではなかったことを理解し、郷里を見直してもらう。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 石田忠彦編『鹿児島 文学の舞台』花書院		
授業スケジュール	第1回 上代 和歌 万葉集から 第2回 中古 和歌 歌枕を中心に 第3回 中世 和歌 称名墓志による南九州の歌人 (1) 第4回 同上 同上 (2) 第5回 中世 連歌 南九州の連歌の作者・作品 第6回 上代 散文 古事記から 第7回 中世 散文 中世説話から 第8回 中世 劇文学 能「鳥追舟」を鑑賞する (1) 第9回 同上 同上 (2) 第10回 中世・近世 漢詩 南九州の漢詩史 第11回 近世 和歌 近世南九州の歌集、歌人 第12回 近世 俳諧 近世南九州の俳人 第13回 近世 散文 近世の南九州の物語を鑑賞する 第14回 近世 劇文学 近松作品を中心に 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業の途中で実施する小論文・レポート (40%)		

授業科目	中国文学史Ⅰ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国の文学と社会</p> <p>【概要】2年次は中国文学が社会に果たした役割を概説します。 今でこそ文学は娯楽に過ぎませんが、昔の中国においては社会人として生きていくために必要な技能であり、その能力が人生を左右することもありました。毎回テーマを設定して当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。唐詩や『三国志』など、中国文学の主要なジャンルについても社会との関連を意識しながら紹介していきます。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。 【到達目標】中国文学の存在意義を理解すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会		
授業スケジュール	第1回 文学と社会1：授業の進め方について 第2回 文学と社会2：儒教 第3回 文学と社会3：神話 第4回 文学と社会4：思想 第5回 文学と社会5：皇帝 第6回 文学と社会6：庶民と貴族 第7回 文学と社会7：道教 第8回 文学と社会8：知識人 第9回 文学と社会9：生活 第10回 文学と社会10：遊び 第11回 文学と社会11：文言と白話 第12回 文学と社会12：芸能 第13回 文学と社会13：道楽 第14回 文学と社会14：学問 第15回 文学と社会15：まとめ		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文化の活用</p> <p>【概要】三国志をはじめ、中国文化は日本人にとって今でも価値を持ちつづけています。不思議となくならないこの価値について、伝統的な漢詩文のほか書画・仏教、そしてサブカルチャーまで見渡し、日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。 【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 中国文化の活用1：授業の進め方について 第2回 中国文化の活用2：文字と文章 (1) 第3回 中国文化の活用3：文字と文章 (2) 第4回 中国文化の活用4：文学とかな (1) 第5回 中国文化の活用5：文学とかな (2) 第6回 中国文化の活用6：書 (1) 第7回 中国文化の活用7：書 (2) 第8回 中国文化の活用8：画 (1) 第9回 中国文化の活用9：画 (2) 第10回 中国文化の活用10：仏教 (1) 第11回 中国文化の活用11：仏教 (2) 第12回 中国文化の活用12：文学 (1) 第13回 中国文化の活用13：文学 (2) 第14回 中国文化の活用14：文学 (3) 第15回 中国文化の活用15：まとめ		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国の文学と生活Ⅰ</p> <p>【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 文学と生活1： 授業の進め方について 第2回 文学と生活2： 家族 (1) 第3回 文学と生活3： 家族 (2) 第4回 文学と生活4： 家族 (3) 第5回 文学と生活5： 家族 (4) 第6回 文学と生活6： 家族 (5) 第7回 文学と生活7： 家族 (6) 第8回 文学と生活8： 友人と恋人 (1) 第9回 文学と生活9： 友人と恋人 (2) 第10回 文学と生活10： 友人と恋人 (3) 第11回 文学と生活11： 友人と恋人 (4) 第12回 文学と生活12： 友人と恋人 (5) 第13回 文学と生活13： 友人と恋人 (6) 第14回 文学と生活14： 友人と恋人 (7) 第15回 文学と生活15： まとめ		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国の文学と生活Ⅱ</p> <p>【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 文学と生活1： 授業の進め方について 第2回 文学と生活2： 風物 (1) 第3回 文学と生活3： 風物 (2) 第4回 文学と生活4： 風物 (3) 第5回 文学と生活5： 風物 (4) 第6回 文学と生活6： 風物 (5) 第7回 文学と生活7： 風物 (6) 第8回 文学と生活8： 娯楽 (1) 第9回 文学と生活9： 娯楽 (2) 第10回 文学と生活10： 娯楽 (3) 第11回 文学と生活11： 娯楽 (4) 第12回 文学と生活12： 娯楽 (5) 第13回 文学と生活13： 娯楽 (6) 第14回 文学と生活14： 娯楽 (7) 第15回 文学と生活15： まとめ		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年, 2年 (注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学と鹿児島県の漢文</p> <p>【概要】中国や郷土にゆかりのある漢文を読みます。</p> <p>中国文学を読むことは当然ながら外国文学を読むことであり、作品を通じて日本とは異なる価値観を学ぶことでもあります。しかも日本人は中国文学のことを漢文と呼んで、日本文学と同等またはそれ以上に扱い、自分でも漢文を作ってきました。中国文学と日本で作られた漢文を読み比べることで、それぞれの文化について考えていきます。</p> <p>特に鹿児島県には漢文で書かれた石碑が多数あり、今でも街かどで簡単に見ることができます。鹿児島県の文化も学びながら、漢文読解の訓練をします。</p> <p>全員で読んでいくので十分に予習をしてきてください。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 返り点・送り仮名のない白文の読解力、歴史・社会的事項の調査能力を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 漢文読解1：授業の進め方について 第2回 漢文読解2：中国文学 (1) 第3回 漢文読解3：中国文学 (2) 第4回 漢文読解4：中国文学 (3) 第5回 漢文読解5：中国文学 (4) 第6回 漢文読解6：中国文学 (5) 第7回 漢文読解7：鹿児島県の漢文 (1) 第8回 漢文読解8：鹿児島県の漢文 (2) 第9回 漢文読解9：鹿児島県の漢文 (3) 第10回 漢文読解10：鹿児島県の漢文 (4) 第11回 漢文読解11：鹿児島県の漢文 (5) 第12回 漢文読解12：中国文学と鹿児島県の漢文 (1) 第13回 漢文読解13：中国文学と鹿児島県の漢文 (2) 第14回 漢文読解14：中国文学と鹿児島県の漢文 (3) 第15回 漢文読解15：まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

(注)1年生は演習Ⅰ,2年生は演習Ⅲ。

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学に関する報告書作成とプレゼンテーション、口頭試問</p> <p>【概要】中国文学に関する文献を素材にして、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。</p> <p>発表は文章による報告書、説得を重視するプレゼンテーション、質問への対応にしばられた口頭試問からなり、総合的な表現力向上を図ります。</p> <p>どのステップも社会人に必要な技術であることを常に意識して演習を進めます。</p> <p>【到達目標】中国文学に限らず、社会人一般に求められている企画力の充実を目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 企画力1：授業の進め方について 第2回 企画力2：投書の企画 (1) 第3回 企画力3：投書の企画 (2) 第4回 企画力4：文献を利用した企画 第5回 企画力5：石碑調査の企画 (1) 第6回 企画力6：石碑調査の企画 (2) 第7回 企画力7：石碑調査の企画 (3) 第8回 企画力8：石碑調査の企画 (4) 第9回 企画力9：石碑調査の企画 (5) 第10回 企画力10：論文の読み方 (1) 第11回 企画力11：論文の読み方 (2) 第12回 企画力12：研究の企画 (1) 第13回 企画力13：研究の企画 (2) 第14回 企画力14：研究の企画 (3) 第15回 企画力15：まとめ		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ、Ⅱ	担当者	専攻教員全員
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期、後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させようと専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書</p>		
授業スケジュール	<p>I 第1回 オリエンテーション：卒業論文の進め方 II 第1回 論文作成：その1</p> <p>第2回 論文作成：その1 第2回 論文作成：その2</p> <p>第3回 論文作成：その2 第3回 論文作成：その3</p> <p>第4回 論文作成：その3 第4回 論文作成：その4</p> <p>第5回 論文作成：その4 第5回 論文作成：その5</p> <p>第6回 論文作成：その5 第6回 論文作成：その6</p> <p>第7回 論文作成：その6 第7回 論文作成：その7</p> <p>第8回 論文作成：その7 第8回 論文作成：その8</p> <p>第9回 論文作成：その8 第9回 論文作成：その9</p> <p>第10回 論文作成：その9 第10回 論文作成：その10</p> <p>第11回 論文作成：その11 第11回 論文作成：その11</p> <p>第12回 論文作成：その12 第12回 発表準備：その1</p> <p>第13回 論文作成：その13 第13回 発表準備：その2</p> <p>第14回 論文作成：その13 第14回 発表準備：その3</p> <p>第15回 まとめ 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>I：中間報告 100%</p> <p>II：卒業論文 75%、口頭発表 25%</p>		

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみをもち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用する。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究</p> <p>第2回 18世紀の小説(その一)：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説(その二)：18世紀の小説におけるH. フィールドイング、L. スターン、T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説(その三)：18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説(その四)：J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト、19世紀の小説(その一)：19世紀(ヴィクトリア朝)小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説(その二)：C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説(その三)：W. M. サッカレーの小説、ブロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説(その四)：ダーウィニズムの影響、19世紀後半(ヴィクトリア朝後期)の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト、20世紀の小説(その一)：20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説(その二)：V. ウルフの小説、H. ジェイムズの小説、E. M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説(その三)：D. H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説(その四)：H. G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト、映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(60点)、講義中の小テスト/授業への取り組み(30点)、課題レポート(10点)		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American society and history through poetry and prose. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】 The course will alternate between lectures and group presentations. Students will write poems and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to use creative writing as a tool of literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Braided Creek: A Conversation in Poetry , Jim Harrison and Ted Kooser (Copper Canyon Press, 2003) (2) Leon's Story , Leon Walter Tillage (Farrar, Straus and Giroux, 1997)		
授業スケジュール	第1回 Introduction. Our ideas of poetry. 第2回～第4回 Introduction to the poets Ted Kooser and Jim Harrison, アメリカ合衆国議会図書館桂冠詩人, 2004-2006. 第5回～第7回 Poetry workshop. (Quiz 10%) 第8回 Poetry presentations. (10%) 第9回 Review (Quiz 10%), Introduction to Leon's Story. 第10回 Historical background. 第11回 Reading, discussion 第12回 Reading, discussion 第13回 Poetry presentations (10%). 第14回 Review (Quiz 10%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%); 小テスト, 発表, 詩(50%)。		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】 異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】 広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 文化・異文化とは？ 第2回 コミュニケーションとは？ 第3回 言語・非言語コミュニケーション1 第4回 言語・非言語コミュニケーション2 第5回 言語・非言語コミュニケーション3 第6回 ステレオタイプと偏見 第7回 オリエンタリズム 第8回 価値観 第9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第10回 ディアスポラ 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法1 第14回 異文化コミュニケーションの方法2 第15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法 【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。 【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 書について (書体の特徴とその変遷) 第2回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (細字の書き方) 第6回 " " 第7回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " (細字の書き方) 第11回 " " 第12回 かなの特徴と書き方 (いろは単体) 第13回 " " 第14回 " (連綿とその応用) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楷書・行書の古典学習及び草書の特徴と書法 【概要】 本講座では、楷書・行書と草書の学習に終始する。 書の基本となる書体は楷書であり、日常生活において最も多用される文字は行書である。それらの古典を学ぶことにより、運筆の要領を習得し、文字造形の特徴を把握することに努める。 草書は芸術性が重視される書体で、日常ではその文字がほとんど目にしないが、書の知識を広げ、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。 【到達目標】 楷書・行書の古典の特徴を把握し、草書の特徴と書き方を習得する		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊		
授業スケジュール	第1回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘) 第2回 " " 第3回 " (始平公造像記) 第4回 " " 第5回 行書の古典 (蘭亭叙) 第6回 " " 第7回 " (苕溪詩卷) 第8回 " (吳昌碩詩稿) 第9回 " (風信帖) 第10回 " " 第11回 草書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第12回 " " 第13回 草書の古典 (書譜) 第14回 " " 第15回 " (擬山園帖)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 隷書・篆書の特徴と書法</p> <p>【概要】 書道Ⅲでは隷書と篆書を中心に学習する。 隷書は今から1800年前の漢時代に生まれた書体であるが、その文字は現代でも紙幣等に使用されて生きている。 隷書の技法を学び、造型のおもしろさを実感してもらおう。 篆書は中国最古の文字。金文と小篆のユニークな字形や筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】 隷書・篆書の特徴とその書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 隷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 隷書の古典 (曹全碑の臨書) 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " (礼器碑の臨書) 第8回 " " 第9回 篆書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第10回 " " 第11回 篆書の古典 (散氏盤の臨書) 第12回 " " 第13回 " (石鼓文の臨書) 第14回 " " 第15回 " (趙之謙篆書対聯)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 かなの古典学習と作品制作</p> <p>【概要】 日本の書を代表するかな (古筆) の学習を通して、その芸術性と文字の特徴を学ぶ。 かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追求したい。 後半は書道学習の集大成として創作にチャレンジする。自用印を刻し、創作作品に押印して総仕上げとする。 書の楽しさと魅力を味わってもらうことも目的である。</p> <p>【到達目標】 かなの古典を習得することと創作作品が書けるようになること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 かなの古典 (高野切第1種) 第2回 " " 第3回 " (高野切第3種) 第4回 " " 第5回 " (寸松庵色紙) 第6回 " " 第7回 作品制作 (篆刻—自用印) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " (漢字作品—4字熟語) 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " (調和体作品) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ	担当者	轟 義昭・久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式 (一部演習)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新生入が移行できるためのリテラシー教育, ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】 大学での専門的「勉強」は, 受動的に知識を吸収するだけでは不十分で, あるテーマについて疑問を持ち (批判的検討能力), それについて論理的に議論を展開し, 自らその問題に対して「解答」を与えること (問題解決能力) が求められます。この講義では, その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術—「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」—を段階的に学んでいき, あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】 与えられたテーマについて自らの意見を持ち, その意見を論理的に展開できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 学習技術研究会『知へのステップ 第3版—大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版		
授業スケジュール	第1回 イン트로: 「生徒」から「学生」へ 第2回 「聴く」と「読む」: 積極的な聞き手と読み手になるために 第3回 「深く読む」: 論旨や要点を整理して分析的に進む 第4回 「調べる」と「整理する」: 大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第5回 「まとめる」と「書く」(その一): レポート作成のための効果的なアカデミック・ライティング 第6回 「まとめる」と「書く」(その二): パソコンによるライティング・スキル (レポート作成術) 第7回 「表現する」と「伝える」: 自分の意見をわかりやすく表現して伝える 第8回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (50%) + 授業時の取り組み (50%)		

(注) 7.5回

授業科目	言語学概論	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では, 言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論, 形態論, 統語論, 意味論および語用論, さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に, 身近なことばと私たちの生活, 社会の関連について理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介する		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション: 言語学とはどんな学問か, 授業の概要説明 第2回 音声学・音韻論 (1): 調音音声学, 子音・母音・モーラおよび音素, 音韻規則 第3回 音声学・音韻論 (2): 連濁, 枝分かれ制約 第4回 形態論: 派生, 複合など単語を生み出す仕組み 第5回 統語論: 文の骨組みを作る仕組み 第6回 意味論 (1): 単語の意味 第7回 意味論 (2): 文と文の間の意味関係 第8回 語用論 (1): 間接的言語行為と協調の原則 第9回 語用論 (2): 会話の含意 第10回 語用論 (3): ポライテネスと敬語 第11回 言語コミュニケーションと社会: 対人関係と地域差 第12回 言語獲得のメカニズム: 生成文法と普遍文法, 母語獲得, 外国語獲得 第13回 バイリンガリズム: 言語習得の臨界期, コードスイッチング, 加算・減算のバイリンガリズム 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言や参加度: 30%, 小テスト30%, 期末試験: 40%		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	フィリップ・アダメック																																
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式																																		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students practice asking and answering questions on a variety of topics. Students must note words and ideas that they know how to say in Japanese but do not at first know how to say in English. Students will also propose language-learning tasks that respond to their personal interests. To practice pronunciation, we will perform a song together for students in other sections of Oral Communication I. 【到達目標】 The aim is to increase fluency in English. Students will be made familiar with ways of asking and responding to questions posed about new information.																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) Song lyrics, distributed in class																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1～2回</td> <td>Topics 1 and 2</td> <td>第17～18回</td> <td>Topics 17 and 18</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>Topics 3 and 4</td> <td>第19～20回</td> <td>Topics 19 and 20</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>Topics 5 and 6</td> <td>第21～22回</td> <td>Topics 21 and 22</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>Topics 7 and 8</td> <td>第23～24回</td> <td>Topics 23 and 24</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>Topics 9 and 10</td> <td>第25～26回</td> <td>Topics 25 and 26</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>Topics 11 and 12</td> <td>第27～28回</td> <td>Topics 25 and 26</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>Topics 13 and 14</td> <td>第29回</td> <td>Topic 27</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>Topics 15 and 16</td> <td>第30回</td> <td>実践</td> </tr> </table>			第1～2回	Topics 1 and 2	第17～18回	Topics 17 and 18	第3～4回	Topics 3 and 4	第19～20回	Topics 19 and 20	第5～6回	Topics 5 and 6	第21～22回	Topics 21 and 22	第7～8回	Topics 7 and 8	第23～24回	Topics 23 and 24	第9～10回	Topics 9 and 10	第25～26回	Topics 25 and 26	第11～12回	Topics 11 and 12	第27～28回	Topics 25 and 26	第13～14回	Topics 13 and 14	第29回	Topic 27	第15～16回	Topics 15 and 16	第30回	実践
第1～2回	Topics 1 and 2	第17～18回	Topics 17 and 18																																
第3～4回	Topics 3 and 4	第19～20回	Topics 19 and 20																																
第5～6回	Topics 5 and 6	第21～22回	Topics 21 and 22																																
第7～8回	Topics 7 and 8	第23～24回	Topics 23 and 24																																
第9～10回	Topics 9 and 10	第25～26回	Topics 25 and 26																																
第11～12回	Topics 11 and 12	第27～28回	Topics 25 and 26																																
第13～14回	Topics 13 and 14	第29回	Topic 27																																
第15～16回	Topics 15 and 16	第30回	実践																																
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)																																		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	メアリー・マクセイ																														
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice. 【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, <i>Nice Talking with You 1</i> , Cambridge University Press (2)																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>Introduction, Unit 1</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>Unit 2</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>Unit 3</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>Unit 4</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>Unit 5</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>Unit 6</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>Review 1-6, evaluation</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>Unit 7</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>Unit 8</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>Unit 9</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>Unit 10</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>Unit 11</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>Unit 12</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>Review 7-12, evaluation</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>まとめ/オーラル・レポート</td> </tr> </table>			第1週	Introduction, Unit 1	第2週	Unit 2	第3週	Unit 3	第4週	Unit 4	第5週	Unit 5	第6週	Unit 6	第7週	Review 1-6, evaluation	第8週	Unit 7	第9週	Unit 8	第10週	Unit 9	第11週	Unit 10	第12週	Unit 11	第13週	Unit 12	第14週	Review 7-12, evaluation	第15週	まとめ/オーラル・レポート
第1週	Introduction, Unit 1																																
第2週	Unit 2																																
第3週	Unit 3																																
第4週	Unit 4																																
第5週	Unit 5																																
第6週	Unit 6																																
第7週	Review 1-6, evaluation																																
第8週	Unit 7																																
第9週	Unit 8																																
第10週	Unit 9																																
第11週	Unit 10																																
第12週	Unit 11																																
第13週	Unit 12																																
第14週	Review 7-12, evaluation																																
第15週	まとめ/オーラル・レポート																																
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)																																

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	ジョン・デグルシー
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>Theme. Oral communication on a variety of topics. Summary. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency Aim. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Smart Choice 3, by Ken Wilson		
授業スケジュール	<p>Week 1: Introduction</p> <p>Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped.</p> <p>Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.</p>		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	フィリップ・アダメック																																
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students ask and answer questions on a variety of topics. The students will keep notebooks to record the main ideas of our discussions. 【到達目標】 The aim is to increase fluency in English and bring students to think critically about their own study of the language. Fluent pronunciation will be practiced in part by means of singing a single song as a class. Other elements to be practiced will be direct and indirect speech, question formation, and stating personal views.</p>																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1～2回</td> <td>Introduction</td> <td>第17～18回</td> <td>Topic 6</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>Introduction</td> <td>第19～20回</td> <td>Review and interview</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>Topic 1</td> <td>第21～22回</td> <td>Topic 7</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>Topic 2</td> <td>第23～24回</td> <td>Topic 8</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>Topic 3</td> <td>第25～26回</td> <td>Topic 9</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>Review and interview</td> <td>第27～28回</td> <td>Topic 10</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>Topic 4</td> <td>第29回</td> <td>Topic 11</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>Topic 5</td> <td>第30回</td> <td>Review and interview</td> </tr> </table>			第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6	第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview	第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7	第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8	第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9	第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10	第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11	第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview
第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6																																
第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview																																
第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7																																
第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8																																
第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9																																
第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10																																
第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11																																
第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview																																
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の割合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)																																		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tom Kenny & Linda Woo, <i>Nice Talking with You 2</i> , Cambridge University Press (2)		
授業スケジュール	第1週 Introduction, Unit 1 第2週 Unit 2 第3週 Unit 3 第4週 Unit 4 第5週 Unit 5 第6週 Unit 6 第7週 Review 1-6, evaluation 第8週 Unit 7 第9週 Unit 8 第10週 Unit 9 第11週 Unit 10 第12週 Unit 11 第13週 Unit 12 第14週 Review 7-12, evaluation 第15週 まとめ/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ジョン・デグルシー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>Theme. Oral communication on a variety of topics.</p> <p>Summary. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency.</p> <p>Aim. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<u>Smart Choice 3</u> , by Ken Wilson		
授業スケジュール	Week 1: Introduction Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped. Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students complete textbooks exercises and practice asking and answering questions relating to the conversation topics. 【到達目標】 The aim is to increase fluency by practicing vocabulary and notions that are important to today's students and citizens. We will integrate brainstorming, reading, listening, writing, and role playing in accordance with Greg Goodmacher's outline.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Stimulating Conversation, Greg Goodmacher (Intercom Press, 2008). (2) なし		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨソ 第2回 リーディングとディスカッション Unit 1 第9回 リーディングとディスカッション Unit 8 第3回 リーディングとディスカッション Unit 2 第10回 リーディングとディスカッション Unit 9 第4回 リーディングとディスカッション Unit 3 第11回 リーディングとディスカッション Unit 10 第5回 リーディングとディスカッション Unit 4 第12回 リーディングとディスカッション Unit 11 第6回 リーディングとディスカッション Unit 5 第13回 リーディングとディスカッション Unit 12 第7回 リーディングとディスカッション Unit 6 第14回 実践 (面接) 第8回 リーディングとディスカッション Unit 7 第15回 実践		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently. 【概要】 Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes . 【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Barry Ward, <i>Impact Issues 3</i> , Pearson Longman (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Topic 1 第3回 Topic 2 第4回 Topic 3 第5回 Topic 4 第6回 Topic 5 第7回 Topic 6 第8回 Topic 7 第9回 Topic 8 第10回 Topic 9 第11回 Topic 10 第12回 Topic 11 第13回 Topic 12 第14回 Topic 13 第15回 まとめ/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%) , Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	Oral Communication III	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 nd Year [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Impact Issues Student Book 3 (Longman Publications Richard R Day et al) (2)		
授業スケジュール	第1回-第6回 Key topics from the first half of the textbook based on students own interests 第7回 Review Quiz of first half of semester 第8回-第14回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第15回 Review for final test in test week		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	オーラルコミュニケーションIV	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on (1) a study of English idiomatic expressions using natural dialogs, conversation practice, and listening practice; and (2) speech work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become confident in expressing their ideas in a more formal way through speeches.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Barry Ward, <i>Idioms from Square One</i> , Macmillan Language House / プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction & Speech lesson 1 第2回 Speech lesson 2 第3回 Speech lesson 3 第4回 Speech assignment #1 第5回 Idioms, Unit 13 第6回 Idioms, Unit 14 第7回 Idioms, Unit 15 第8回 Idioms, Unit 16 第9回 Speech assignment #2 第10回 Idioms, Unit 17 第11回 Idioms, Unit 18 第12回 Idioms, Unit 19 第13回 Idioms, Unit 20 第14回 Speech assignment #3 第15回 まとめ/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Attendance & class participation 出席&授業での参加の度合 (30%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (70%)		

授業科目	Oral CommunicationⅣ	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 nd Year [学期] 後期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回-第 4 回 Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第 5 回-第 6 回 World Music and expressing opinions about it 第 7 回 Review Week 第 8 回-第 11 回 Health, Diets and the Pressures of the Mass Media 第 12 回-第 14 回 Travel and plans for the future 第 15 回 Review for final test in test week		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	LL演習 I	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 総合的な英語運用能力の育成を図り、1 年前期では、自然な英語をそのまま聞き取る基礎力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。LL 教室使用。</p> <p>【概要】 21 世紀に入って、意外な変容を呈しているアメリカ社会・文化の様々な側面を紹介したテキストを軸に、国際交流の基礎となる異文化理解を狙いとし、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。LL 教室使用。</p> <p>【到達目標】 自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Akira Morita 他著, <i>Kaleidoscope U.S.A.</i> , 成美堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC®Test Listening 500</i> , 松柏社 (2) John Lander 著, <i>American Voyager</i> ,		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Hot Dogs 第 3 回 Firefighter 第 4 回 The Sounds of Bluegrass 第 5 回 Harlem Reborn 第 6 回 Islam in America 第 7 回 UFO Fever 第 8 回 The Teddy Bear 第 9 回 At-Home Dads 第 10 回 Big Wave Rider 第 11 回 Historic Route 66 第 12 回 Cheerleader 第 13 回 Pets in America 第 14 回 Native American Olympics 第 15 回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅱ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、1年後期では、中級程度の自然な英語をそのまま聞き取る力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】NHK衛星放送のWhat's on Japan と News Today 30 Minutes から採択し、日本社会及び近隣諸国の最近の動向を完結にまとめたテキストを軸に、バランスのとれた中級程度の英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tatsuroh Yamasaki 他著, <i>What's on Japan 3</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 600</i> , 松柏社 (2) Steve Lia 他著, <i>Australia, Here We Come!</i> , 朝日出版		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 "Hashi" of Your Own 第3回 Things for Free 第4回 Phone "Book" 第5回 Metabolic Syndrome 第6回 Citizen Judges 第7回 Eyes on Tokyo 第8回 World Heritage Site 第9回 Pollen Nation 第10回 Ninety-year-old Champion 第11回 Saving Caps Saves Lives 第12回 Branding Japan 第13回 Nation Tested 第14回 Japanese Doctor in Myanmar 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅲ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、2年前期では、多様性のある自然な英語の聴解力の養成に力点を置きながら、より高度な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】前半は、海外で活躍する人々にインタビューした録音素材を基に、話の内容を速解し自分の英語で要約を書いた後、英語でディスカッションする。 後半は、ABC放送のテレビニュース番組 "World News Today" を録画したテキストを基に、揺れ動くアメリカと世界の「現在」を学びながら、バランスのとれた高度な総合的英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】比較的速い自然な英語の聴解力とともに、高度な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Shigeru Yamane 他著, <i>ABC World News 10</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 700</i> , 松柏社 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 E-mail Addicts 第3回 Teenage Drivers: Cameras in the Car 第4回 Key to the World: Kiribati 第5回 Person of the Week: Virginia Tech 第6回 Olympic Reunion 第7回 Beyond Beauty 第8回 A Closer Look: College Costs 第9回 Clock Alarm: Daylight Saving Time 第10回 A Closer Look: Coming to America 第11回 Health Benefits 第12回 Signing Off: No E-mail Fridays 第13回 Back to School: New Amish School 第14回 Creative Retirement Community 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	コミュニケーション概論	担当者	久木田 美枝子																																													
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多文化共生の現代国際社会における、国際理解と英語コミュニケーションについて考察し、望ましい積極的異文化受容の基本的姿勢についても考察する。</p> <p>【概要】前半は、国際理解と英語コミュニケーションについての基本的事項を概説し、後半は、世界各地から日本にやってきた留学生が、それぞれの文化的背景をもちながら、どのように現代日本と関わっているかを扱ったビデオを基に、これからの国際的日本人としてどのような点が重要かも考察していきたい。</p> <p>【到達目標】積極的異文化受容の基本的姿勢を培うとこと同時に、基本的な異文化コミュニケーションの基本的姿勢をも培う。</p>																																															
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) David K. Groff 他著, <i>The "I" in Identity</i>, 南雲堂</p> <p>(2) 随時プリント</p>																																															
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>国際語としての英語</td><td>Unit 1: Australia—Dealing with Cultural Differences</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>〃</td><td>Unit 2: The United States—Overcoming Prejudice</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>〃</td><td>Unit 3: The United States—Religion and Identity</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>国際理解と英語コミュニケーション</td><td>Unit 4: India—Coexistence in a Multicultural Nation</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>〃</td><td>Unit 5: Russia—Living as a Stranger</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>英語社会の言語コミュニケーション</td><td>Unit 6: Malaysia—Dealing with Unfairness</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>〃</td><td>Unit 7: The United States—Racial Tension in the Heartland</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>英語を聴くコミュニケーション</td><td>Unit 8: The United States—Growing through Hardship</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>〃</td><td>Unit 9: Korea—Japan's Closest Neighbor</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>英語を話すコミュニケーション</td><td>Unit 10: Brazil—From Many Cultures, One Nation</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>〃</td><td>Unit 11: The United States—Searching for Identity</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>英語を読むコミュニケーション</td><td>Unit 12: Hong Kong—The 'Fragrant Harbor' and National Identity</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>英語を書くコミュニケーション</td><td>Appendix: Introducing Japanese Culture—Kimono</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>〃</td><td></td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>			第1回	国際語としての英語	Unit 1: Australia—Dealing with Cultural Differences	第2回	〃	Unit 2: The United States—Overcoming Prejudice	第3回	〃	Unit 3: The United States—Religion and Identity	第4回	国際理解と英語コミュニケーション	Unit 4: India—Coexistence in a Multicultural Nation	第5回	〃	Unit 5: Russia—Living as a Stranger	第6回	英語社会の言語コミュニケーション	Unit 6: Malaysia—Dealing with Unfairness	第7回	〃	Unit 7: The United States—Racial Tension in the Heartland	第8回	英語を聴くコミュニケーション	Unit 8: The United States—Growing through Hardship	第9回	〃	Unit 9: Korea—Japan's Closest Neighbor	第10回	英語を話すコミュニケーション	Unit 10: Brazil—From Many Cultures, One Nation	第11回	〃	Unit 11: The United States—Searching for Identity	第12回	英語を読むコミュニケーション	Unit 12: Hong Kong—The 'Fragrant Harbor' and National Identity	第13回	英語を書くコミュニケーション	Appendix: Introducing Japanese Culture—Kimono	第14回	〃		第15回	まとめ	
第1回	国際語としての英語	Unit 1: Australia—Dealing with Cultural Differences																																														
第2回	〃	Unit 2: The United States—Overcoming Prejudice																																														
第3回	〃	Unit 3: The United States—Religion and Identity																																														
第4回	国際理解と英語コミュニケーション	Unit 4: India—Coexistence in a Multicultural Nation																																														
第5回	〃	Unit 5: Russia—Living as a Stranger																																														
第6回	英語社会の言語コミュニケーション	Unit 6: Malaysia—Dealing with Unfairness																																														
第7回	〃	Unit 7: The United States—Racial Tension in the Heartland																																														
第8回	英語を聴くコミュニケーション	Unit 8: The United States—Growing through Hardship																																														
第9回	〃	Unit 9: Korea—Japan's Closest Neighbor																																														
第10回	英語を話すコミュニケーション	Unit 10: Brazil—From Many Cultures, One Nation																																														
第11回	〃	Unit 11: The United States—Searching for Identity																																														
第12回	英語を読むコミュニケーション	Unit 12: Hong Kong—The 'Fragrant Harbor' and National Identity																																														
第13回	英語を書くコミュニケーション	Appendix: Introducing Japanese Culture—Kimono																																														
第14回	〃																																															
第15回	まとめ																																															
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。																																															

(注) 教職必修

授業科目	ビジネス英語	担当者	霧島 S. 怜																														
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Success in Business and A Right Communication Style ビジネスの成果と正しいコミュニケーション能力</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリアの諺が教示しているように, 誰も, 一晚や「有名な先生」の指導で突然, 完璧なウクライナ語や英語で商談を成功させたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば, 将来の仕事) や動機 (例えば, 素敵な彼氏や彼女, 又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため, タガロ語やドイツ語も簡単さ) という志が極めて効果的である... では, 楽しく, 大生らしく, 勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し, 身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 城 由紀子他, "Business Talk" (やさしいオフィス英語), 成美堂. (ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082)</p> <p>(2) 必要に応じて配布する</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>演習の内容, 方法と成績について。ミニ演習。</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>Unit 2. Application Letter.(英和訳, 読解等 ◇)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>同題 (教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>Unit 4. A Job Interview. (◇ ◎)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>Unit 5. Job Offer. (◇ ◎)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>Unit 7. Preparing to Work (◇)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>同 (◎)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>Unit 9. Taking A Message. (◇ ◎)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>Unit 11. Visiting A Client (◇ and ◎)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>Unit 13. Greeting A Visitor at Narita Airport (◇)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>同 (◎)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>Unit 16. Entertaining a Visitor to Kyoto (◇ and ◎)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>Unit 21. The First Business Trip. (◇ and ◎)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>受講生が選択したテーマの学習 (MorC)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。</td></tr> </table>			第1回	演習の内容, 方法と成績について。ミニ演習。	第2回	Unit 2. Application Letter.(英和訳, 読解等 ◇)	第3回	同題 (教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎)	第4回	Unit 4. A Job Interview. (◇ ◎)	第5回	Unit 5. Job Offer. (◇ ◎)	第6回	Unit 7. Preparing to Work (◇)	第7回	同 (◎)	第8回	Unit 9. Taking A Message. (◇ ◎)	第9回	Unit 11. Visiting A Client (◇ and ◎)	第10回	Unit 13. Greeting A Visitor at Narita Airport (◇)	第11回	同 (◎)	第12回	Unit 16. Entertaining a Visitor to Kyoto (◇ and ◎)	第13回	Unit 21. The First Business Trip. (◇ and ◎)	第14回	受講生が選択したテーマの学習 (MorC)	第15回	前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。
第1回	演習の内容, 方法と成績について。ミニ演習。																																
第2回	Unit 2. Application Letter.(英和訳, 読解等 ◇)																																
第3回	同題 (教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎)																																
第4回	Unit 4. A Job Interview. (◇ ◎)																																
第5回	Unit 5. Job Offer. (◇ ◎)																																
第6回	Unit 7. Preparing to Work (◇)																																
第7回	同 (◎)																																
第8回	Unit 9. Taking A Message. (◇ ◎)																																
第9回	Unit 11. Visiting A Client (◇ and ◎)																																
第10回	Unit 13. Greeting A Visitor at Narita Airport (◇)																																
第11回	同 (◎)																																
第12回	Unit 16. Entertaining a Visitor to Kyoto (◇ and ◎)																																
第13回	Unit 21. The First Business Trip. (◇ and ◎)																																
第14回	受講生が選択したテーマの学習 (MorC)																																
第15回	前期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と到達に応じて内容の増減が有り得る。																																
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計																																

授業科目	通訳入門	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の国際化社会に必要とされる通訳の世界について、歴史と現状、将来の展望について概説し、高められた英語運用能力を前提としながら、英日・日英逐次通訳及び同時通訳等の理論と手法を習得する。</p> <p>【概要】通訳理論を概説した後、プロ通訳養成の手法を取り入れ、様々な状況で、具体的な通訳訓練法：リスニング、音読、リピーティング、シャドーイング、スラッシュ・リーディング、スラッシュ・リスニング、順送り訳、メモ取り/メモ化、サイト・トランスレーション、同時サイトトランスレーション、メモリーレッスン、リプロダクション、サマライゼーション、同時通訳、逐次通訳、要約通訳などの手法を習得する。</p> <p>【到達目標】高められた英語運用能力を、実践的な通訳手法に反映させ、「より自然な英語」及び「より自然な日本語」の表現を体得すると同時に、ボランティア通訳などの可能性も探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 日本通訳協会編、『英語通訳への道』, 大修館書店 (2) 柴田バネッサ監修、『通訳トレーニング入門』, アルク</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに 第2回 通訳の現場から 第3回 通訳の世界 第4回 通訳の基礎訓練 第5回 困っている人を助ける 第6回 茶道のいろは 第7回 留守番電話に入った伝言 第8回 特別ゲストを迎えて 第9回 ビジネスの国際化が進む中… 第10回 英語で日本を紹介する 第11回 今日のプレゼンテーションは… 第12回 英語習得の必要性 外国人学生と英語の習得 第13回 ニュースの通訳に挑戦 第14回 " 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学概論	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の諸分野 (形態論, 意味論, 統語論など) の入門</p> <p>【概要】形態論 (語の内部構造) , 意味論, 統語論 (文の構造など) の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】形態論, 統語論, 意味論などについて基礎的な知識を得ること, 英語を分析的に見る力を養うことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 現代の英語 現代における英語の広がり多様性を理解する 第2回 語の成り立ち-形態論(1) 語の語尾変化と接辞-屈折と派生 第3回 語の成り立ち-形態論(2) 複数の語を合わせて1つの語を作る-複合語と句の違い, 内心複合語と外心複合語 第4回 語の成り立ち-形態論(3) 語形を変化させずに品詞を変化させる-転換, その他の語形成過程について 第5回 形態論小テスト, ことばの意味について考える-意味論(1) 上位語・下位語, 同義・類義・反義 第6回 ことばの意味について考える-意味論(2) 比喩 第7回 ことばの意味について考える-意味論(3) 文脈と文法の関係 話題化, be動詞を軸にした倒置 第8回 ことばの意味について考える-意味論(4) 文脈と文法の関係 二重目的語構文 第9回 意味論小テスト, 文の構造-統語論(1) 五文型と文構造の分析-五文型と構成素 第10回 文の構造-統語論(2) 句構造規則 第11回 統語論小テスト, 語用論(1) 理解される意味と文字通りの意味の乖離 第12回 語用論(2) ダイクシス 「行く」と「来る」 第13回 ことばと社会の関係 年齢・性別とことば, 言語と差別 第14回 コーパス英語学 コロケーション 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験 (35%) +小テスト (50%) +宿題と授業への参加状況 (15%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文法	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語の記述文法 【概要】 時制, 相, 名詞, 冠詞, 不定詞, 動名詞の各分野について記述文法を詳しく学ぶ。 【到達目標】 英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い, 英語の理解力・表現力を向上させることを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) Murphy, R. and W. R. Smalzer, <i>Grammar in Use: Intermediate</i> , Cambridge University Press, 久野璋・高見健一, 『謎解きの英文法』, くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 英文法を学ぶ意義を考える 第2回 時制・相(1) 現在形と現在進行形を理解する 第3回 時制・相(2) 過去形と現在完了形を理解する 第4回 時制・相(3) 現在完了進行形を理解する 第5回 さまざまな未来の表現 英語における未来の表現方法を学ぶ 第6回 小テスト1, 名詞・冠詞(1) 名詞における可算・不可算の区別を理解する 第7回 名詞・冠詞(2) 定冠詞と不定冠詞の用法を理解する 第8回 名詞・冠詞(3) 総称表現を理解する 第9回 名詞・冠詞(4) 名詞・冠詞について総復習する 第10回 小テスト2, 準動詞(1) 動詞の補部に現れる動名詞を理解する 第11回 準動詞(2) 動詞の補部に現れる不定詞を理解する 第12回 準動詞(3) 不定詞付き対格を理解する 第13回 準動詞(4) 不定詞と動名詞の使い分けを理解する 第14回 小テスト3, 前置詞の使い分けを理解する 類似した概念を表す前置詞の使い分けを理解する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 前半-英語語彙に見る英語の歴史, 後半-古い英語のテキストに触れる, 英語史における文法変化を知る。 【概要】 この授業ではまず, 世界史・英国史上の主要な出来事を追いつながりながら, 特に借用語に焦点を当て, 英語が形成されていく過程を学ぶ。英語史の大きな流れをつかんだ後, 英語の「古文」に触れながら, 英語ということばが歴史の中でどのように変容したのか学ぶ。 【到達目標】 英語の歴史について基礎的な知識を身につける。英語の文法が現代に至るまでの間にどのように変容したのか理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) Buck, Gary <i>The History of English Language in Simplified English</i> , 英潮社フェニックス, 児馬修, 『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房 (第1章から第9章), 寺澤盾, 『英語の歴史』中公新書1971, 宇賀治正朋, 『現代の英語学シリーズ8 英語史』, 開拓社。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 現代の英語と英語史 現代に残る英語史の遺物を紹介する 第2回 英語史の概観 英語史の大きな流れを学習する 第3回 キリスト教の伝来とアルファベットの成立 古英語期におけるラテン語の英語に対する影響を学習する 第4回 デーン人の侵攻と古ノルド語 古ノルド語の英語に対する影響を学習する 第5回 ノルマン征服 中英語期のフランス語からの借用語について学習する 第6回 英国ルネッサンスと近代英語 近代英語期におけるラテン語の英語に対する影響と, アメリカへの英語の伝播を学習する 第7回 小テスト, 古英語を読む (旧約聖書アダムとイブの物語から) 古英語のテキストを読む 第8回 古英語を読む (前回の続き) 古英語のテキストを読む 第9回 中英語を読む (『カンタベリー物語』から) 中英語のテキストを読む 第10回 英語史における文法変化(1) 人称代名詞 人称代名詞に見られる史的变化を学習する 第11回 英語史における文法変化(2) 疑問文と否定文の形成 助動詞 do の発達を学習する 第12回 英語史における文法変化(3) 動詞・形容詞の構文 動詞・不定詞の補部に見られる史的变化を学習する 第13回 小テスト, 現代英語に見られる変化(1) 単語と文法 現代英語で進行中の変化を学習する (単語・文法) 第14回 現代英語に見られる変化(2) 地域差など 現代英語に見られる方言的特徴を学習する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験 (50%) + テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (10%)		

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声</p> <p>【概要】日本語の音声との相違点に注意を向けながら英語の音声が作られるしくみを学習し、発音練習する。</p> <p>【到達目標】英語の音声がどのように作られるか理解すること、発音技能とリスニング能力を高めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献 毎回紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業の進め方と評価方法を説明する 第2回 発音のしくみ・母音の分類 言語音が作られる仕組みを理解する。母音の分類方法を理解する 第3回 前舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する 第4回 後舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する 第5回 中央母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する 第6回 二重母音 二重母音の特徴を学び、発音・聴解練習する 第7回 子音の分類と鼻音 子音の分類法を学び、鼻音の発音・聴解を練習する 第8回 閉鎖音 閉鎖音の詳細を学び、発音・聴解練習する 第9回 摩擦音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する 第10回 接近音と子音連結 /l/と/h/の区別を学び、発音練習する。日本語では許容されない子音の連結を発音・聴解練習する 第11回 複合語アクセントと等時性 複合語アクセントと英語のリズムの特徴を学び、発音練習する 第12回 音縮小 英語のリズムを作り出す上で重要な機能語の音変化を学び、発音・聴解練習する 第13回 同時調音 周囲の環境による音変化を学び、発音・聴解練習する 第14回 イントネーション イントネーションと意味の関係を学び、発音・聴解練習する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験 (30%) + 小テスト (40%) + 宿題 (30%) (小テストは毎回実施する)		

(注) 教職必修

授業科目	英語表現法 I	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> , Oxford University Press <i>Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1A (begin discussing paragraph organization) 第3回 Unit 1B 第4回 Unit 1C 第5回 Unit 1D 第6回 Unit 1 Composition assignment, first draft 第7回 Unit 1 Composition assignment, second draft 第8回 Unit 2A 第9回 Unit 2B 第10回 Unit 2 Composition assignment, first draft 第11回 Unit 2 Composition assignment, second draft 第12回 Unit 3A 第13回 Unit 3B 第14回 Unit 3 composition assignment, first draft 第15回 Unit 3 composition assignment, second draft		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho I	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year	[学期] 前期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will learn writing skills taking them from simple sentences to paragraphs</p> <p>【概要】 Students will be required to complete two in-class writing assignments. They will also do weekly on a variety of topics. In addition to writing, students will also be required to complete several vocabulary quizzes over the term.</p> <p>【到達目標】 To increase writing fluency</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Effective Academic Writing, The Paragraph, Savage & Shafiei; Oxford University Press</p> <p>(2) Test it Fix it, Grammar, Kenna Bourke; Oxford University Press</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Class orientation</p> <p>第2回 Unit 1</p> <p>第3回 Unit 1</p> <p>第4回 Unit 1</p> <p>第5回 Unit 1</p> <p>第6回 Unit 2</p> <p>第7回 Unit 2</p> <p>第8回 Unit 2</p> <p>第9回 Writing assignment</p> <p>第10回 Writing assignment</p> <p>第11回 Unit 3</p> <p>第12回 Unit 3</p> <p>第13回 Unit 3</p> <p>第14回 Writing assignment</p> <p>第15回 Writing assignment</p>		
成績評価の方法	Writing assignments 50%; Freewriting 15%; Vocabulary quizzes 15; Attendance 10%; Homework 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a continuation of a paragraph writing course. The course will emphasize the organizational principles of good paragraph writing and the step-by-step thinking and writing process.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Students will gradually progress toward multi-paragraph essays.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further master the organizational principles of English writing and polish their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i>, Oxford University Press</p> <p><i>Test It Fix It Pre-intermediate English Grammar</i>, Oxford University Press</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Review</p> <p>第2回 Unit 4A</p> <p>第3回 Unit 4B</p> <p>第4回 Unit 4 composition assignment, first draft</p> <p>第5回 Unit 4 composition assignment, second draft</p> <p>第6回 Discussion of essay writing</p> <p>第7回 Unit 5A</p> <p>第8回 Unit 5B</p> <p>第9回 Unit 5 composition assignment, first draft</p> <p>第10回 Unit 5 composition assignment, second draft</p> <p>第11回 Unit 6A</p> <p>第12回 Unit 6B</p> <p>第13回 Unit 6 composition assignment, first draft</p> <p>第14回 Unit 6 composition assignment, second draft</p> <p>第15回 Grammar Quiz</p>		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, attendance (出席) 10%.		

授業科目	Eigo Hyogen Ho II	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year	[学期] 後期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will learn additional types of paragraph writing rhetoric.</p> <p>【概要】 Students will be required to complete three in-class writing assignments. In addition to weekly writing and vocabulary quizzes.</p> <p>【到達目標】 Building paragraph writing fluency</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回 Unit 4 第2回 Unit 4 第3回 Unit 4 第4回 In-class writing assignment 第5回 In-class writing assignment 第6回 Unit 5 第7回 Unit 5 第8回 Unit 5 第9回 In-class writin gassignment 第10回 In-class writing assignment 第11回 Unit 6 第12回 Unit 6 第13回 Unit 6 第14回 In-class writing assignment 第15回 In-class writing assignemnt		
成績評価の方法	Writing assignments 75%; Freewriting 15%; Vocabulary quizzes 10;		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第2回 Continue discussion of the five-paragraph essay and classification writing 第3回 Classification essay, first draft 第4回 Classification essay, second draft 第5回 Discuss cause and effect writing 第6回 Cause and Effect essay, first draft 第7回 Cause and Effect essay, second draft 第8回 Grammar work 第9回 Grammar work 第10回 Grammar work 第11回 Grammar work 第12回 Discuss argumentative writing 第13回 Argumentative essay, first draft 第14回 Argumentative essay, second draft 第15回 まとめ/Evaluative composition		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, attendance (出席) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho III	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 2 nd year [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a writing course teaches students how to write multi-paragraphs essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments and do three in-class essays.</p> <p>【概要】 Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Students will receive prints covering the points taught in the lesson (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Cause and Effect Essay 第 2 回 Cause and Effect Essay 第 3 回 Cause and Effect Essay 第 4 回 Cause and Effect in-class writing assignment 1 st draft 第 5 回 Cause and Effect in-class writing assignment 2 nd draft 第 6 回 Argumentative Essay 第 7 回 Argumentative Essay 第 8 回 Argumentative Essay 第 9 回 Argumentative in-class writing assignment 1 st draft 第 10 回 Argumentative in-class writing assignment 2 nd draft 第 11 回 Classification Essay 第 12 回 Classification Essay 第 13 回 Classification Essay 第 14 回 Classification in-class writing assignment 1 st draft 第 15 回 Classification in-class writing assignment 2 nd draft		
成績評価の方法	Three in-class essays 75%; Freewriting 15%; Attendance 10%		

授業科目	英語学演習 I	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】 言語獲得理論及びバイリンガル理論などについて精読する。特に、第一言語獲得理論については、英語を母語とする子供がどのような過程を経て大人の言語知識をもつようになるかを考察し、第二言語獲得理論については、第二言語の獲得過程に影響を与える種々の要因、第一言語の影響等を考察し、英語教育との関連についても検討していきたい。なお、小学校英語教育及び通訳理論を取り入れた英語教育についても、様々な角度から考察していく。</p> <p>【到達目標】 現代の英語学及び英語教育に関する事象について、各自が科学的論理的考察ができることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Colin Baker, Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd. (2) 滝沢広人著、『アメリカンスクールではどう英語を教えているか』, はまの出版 ジグリッド塩谷著、『アメリカの子供は英語をどう覚えるか』, はまの出版		
授業スケジュール	第 1 回～第 2 回 Introduction 第 3 回～第 4 回 English Acquisition as Mother Tongue 第 5 回～第 6 回 English Acquisition as Second Language 第 7 回～第 14 回 Careful reading: Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 第 15 回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（意味論）の解説書を精読することによって、意味論でどのような研究がなされているのか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10 日間意味旅行』, ひつじ書房 (第 1 章～第 4 章)</p> <p>(2) 参考文献 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 授業の進め方と評価方法を説明する</p> <p>第 2 回 1 Markedness 教科書第 1 章を精読する</p> <p>第 3 回 1 Markedness (続き) 教科書第 1 章を精読する</p> <p>第 4 回 1 Markedness 問題演習 教科書第 1 章の問題演習を行う</p> <p>第 5 回 2 Opposites & Negatives 教科書第 2 章を精読する</p> <p>第 6 回 2 Opposites & Negatives (続き) 教科書第 2 章を精読する</p> <p>第 7 回 2 Opposites & Negatives 問題演習 教科書第 2 章の問題演習を行う</p> <p>第 8 回 3 Deixis 教科書第 3 章を精読する</p> <p>第 9 回 3 Deixis (続き) 教科書第 3 章を精読する</p> <p>第 10 回 3 Deixis 問題演習 教科書第 3 章の問題演習を行う</p> <p>第 11 回 4 Orientations 教科書第 4 章を精読する</p> <p>第 12 回 4 Orientations (続き) 教科書第 4 章を精読する</p> <p>第 13 回 4 Orientations (続き) 教科書第 4 章を精読する</p> <p>第 14 回 4 Orientations 問題演習 教科書第 4 章の問題演習を行う</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英語学演習 II	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】英語学演習 I を基礎とし、更に卒業研究に必要な英文資料で共通している資料を精読する。</p> <p>【到達目標】卒業研究が、「仮説」「文献検索」「実証」「結論」と進むためのベースとなるように、各自の理論展開に必要なことについて習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Colin Baker, Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd.</p> <p>(2) 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回～第 2 回 Introduction</p> <p>第 3 回～第 4 回 Reference 1, 2</p> <p>第 5 回～第 6 回 Reference 3, 4</p> <p>第 7 回～第 8 回 Reference 5, 6</p> <p>第 9 回～第 15 回 Summarization</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%), レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習Ⅱ	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（主に統語論）の解説書を精読することによって、統語論でどのような研究がなされているか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10日間意味旅行』, ひつじ書房 (第6章～第10章)</p> <p>(2) 参考文献 毎回紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 6 Time: Tense and Aspect 教科書第6章を精読する</p> <p>第2回 6 Time: Tense and Aspect (続き) 教科書第6章を精読する</p> <p>第3回 6 Time: Tense and Aspect 問題演習 教科書第6章の問題演習を行う</p> <p>第4回 7 Aspect in Verbs 教科書第7章を精読する</p> <p>第5回 7 Aspect in Verbs (続き) 教科書第7章を精読する</p> <p>第6回 7 Aspect in Verbs 問題演習 教科書第7章の問題演習を行う</p> <p>第7回 8 Words to Sentences 教科書第8章を精読する</p> <p>第8回 8 Words to Sentences (続き) 教科書第8章を精読する</p> <p>第9回 8 Words to Sentences 問題演習 教科書第8章の問題演習を行う</p> <p>第10回 9 Meaning & Context 教科書第8章を精読する</p> <p>第11回 9 Meaning & Context (続き) 教科書第8章を精読する</p> <p>第12回 9 Meaning & Context 問題演習 教科書第8章の問題演習を行う</p> <p>第13回 10 Combining Sentences 教科書第10章を精読する</p> <p>第14回 10 Combining Sentences 問題演習 教科書第10章の問題演習を行う</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英文学概論	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学の基本的な事項を学び、作品を読んで考える。</p> <p>【概要】高校生までに海外の文学作品に親しんだ者は少ない。そこで、外国文学を学ぶ初心者がイギリス文学に関心を抱けられるように、担当者は「映像作品から学ぶ英文学」「大衆文化における英文学」を意識して講義を行う。第1回目で講義の展開の仕方と文学に関する基本的な事項を説明し、第2～4回目で大衆文化からもイギリス文学を学べることを説明する。第5回目から「詩」「演劇」「小説」という文学のジャンルについて、具体的に作品を取り上げながら鑑賞し、問題点を探究していく。問題点の探究においては、受講生との対話形式を取り入れるので、前もってテキストを読んでおくことが求められる。</p> <p>【到達目標】「詩」「劇」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 榎井迪夫訳『完訳 カンタベリー物語』(上) 岩波文庫 W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『リア王』白水Uブックス W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『マクベス』白水Uブックス エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子『嵐が丘』新潮文庫 厨川文夫・圭子編訳『アーサー王の死』ちくま文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、英文学のジャンル、英文学に関する用語、使用された言語などの解説</p> <p>第2回 大衆文化のなかのイギリス文学 (その一)：『嵐が丘』</p> <p>第3回 大衆文化のなかのイギリス文学 (その二)：「アーサー王伝説」</p> <p>第4回 大衆文化のなかのイギリス文学 (その三)：19世紀イギリス作家J. オースティンの作品</p> <p>第5回 比較文学に基づく作品の鑑賞 (文学と映像)：『マクベス』と黒澤明監督の映画『蜘蛛巣城』</p> <p>第6回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その一)：『カンタベリー物語』のプロローグにおける作者の人間観察術 (皮肉) の考察</p> <p>第7回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その二)：「騎士物語」「粉屋の話」「家扶の話」における宮廷愛と庶民の恋愛</p> <p>第8回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その一)：『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第9回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その二)：『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第10回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その三)：『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第11回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その四)：『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第12回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その一)：『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第13回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その二)：『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第14回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その三)：『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60点), 課題提出・予習を含む授業への取り組み (40点)		

(注) 教職必修

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみをもち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用する。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2) サブテキストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究 第2回 18世紀の小説（その一）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第3回 18世紀の小説（その二）：18世紀の小説におけるH. フィールドディング, L. スターン, T. スモレットの役割 第4回 18世紀の小説（その三）：18世紀後半のゴシック小説 第5回 18世紀の小説（その四）：J. オースティンの小説 第6回 18世紀の小説に関する小テスト, 19世紀の小説（その一）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第7回 19世紀の小説（その二）：C. ディケンズの小説 第8回 19世紀の小説（その三）：W. M. サッカレーの小説, プロンテ姉妹の小説 第9回 19世紀の小説（その四）：ダーウィニズムの影響, 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説 第10回 19世紀の小説に関する小テスト, 20世紀の小説（その一）：20世紀小説の特徴 第11回 20世紀の小説（その二）：V. ウルフの小説, H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説 第12回 20世紀の小説（その三）：D. H. ロレンスの小説 第13回 20世紀の小説（その四）：H. G. ウェルズの小説 第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（60点）、講義中の小テスト/授業への取り組み（30点）、課題レポート（10点）		

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】American society and history through poetry and prose. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】The course will alternate between lectures and group presentations. Students will write poems and make presentations. Quizzes will test comprehension of reading and lecture content.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to use creative writing as a tool of literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <i>Braided Creek : A Conversation in Poetry</i> , Jim Harrison and Ted Kooser (Copper Canyon Press, 2003) (2) <i>Leon's Story</i> , Leon Walter Tillage (Farrar, Straus and Giroux, 1997)		
授業スケジュール	第1回 Introduction. Our ideas of poetry. 第2回～第4回 Introduction to the poets Ted Kooser and Jim Harrison, アメリカ合衆国議会図書館桂冠詩人, 2004-2006. 第5回～第7回 Poetry workshop. (Quiz 10%) 第8回 Poetry presentations. (10%) 第9回 Review (Quiz 10%), Introduction to Leon's Story. 第10回 Historical background. 第11回 Reading, discussion 第12回 Reading, discussion 第13回 Poetry presentations (10%). 第14回 Review (Quiz 10%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%); 小テスト, 発表, 詩(50%)。		

(注) 教職必修

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 シェイクスピアとその時代</p> <p>【概要】 エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「<時代の落とし子>にして<世界の文豪>」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】 初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治 (編注) 『マクベス』 (対訳・注解研究社シェイクスピア選集7)</p> <p>(2) 今西雅章ほか (編) 『シェイクスピアを学ぶ人のために』 (世界思想社)</p> <p>G. L. ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 世界の拡大</p> <p>第2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第3回 人文主義</p> <p>第4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第6回 歴史劇・詩</p> <p>第7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第8回 初期の悲劇</p> <p>第9回 『ハムレット』</p> <p>第10回 『オセロー』</p> <p>第11回 『リア王』</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回 『マクベス』と後期の悲劇</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>		
成績評価の方法	授業参加状況 (予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30%, 学期末試験 70%		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 シェイクスピア『マクベス』講読</p> <p>【概要】 『マクベス』は、真正面からアプローチすれば、主人公が、魔女たちと妻の教唆によって、内なる「悪」と「野心」に目覚め、身の丈に合わない王位を不当な手段でわがものにした末に破滅するまでを描いた悲劇であると要約できるけれども、今回は、少し斜に構えた角度から、この作品を読んでみたい。第一に、シェイクスピア屈指の「女をめぐる劇」としての『マクベス』。第二に、シェイクスピア屈指の「子どもをめぐる劇」としての『マクベス』。第三に、シェイクスピア屈指の「ミッドライフ・クライシス (中年の危機) をめぐる劇」としての『マクベス』。</p> <p>【到達目標】 『マクベス』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『マクベス』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治 (編注) 『マクベス』 (対訳・注解研究社シェイクスピア選集9)</p> <p>(2) 今西雅章ほか (編) 『シェイクスピアを学ぶ人のために』 (世界思想社)</p> <p>G.L.ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 『マクベス』 1.1~1.3</p> <p>第2回 『マクベス』 1.3(続き)~1.6</p> <p>第3回 『マクベス』 1.7~2.1</p> <p>第4回 『マクベス』 2.2~2.3</p> <p>第5回 『マクベス』 2.3(続き)</p> <p>第6回 『マクベス』 2.4(続き)~3.1</p> <p>第7回 『マクベス』 3.1(続き)~3.3</p> <p>第8回 『マクベス』 3.4</p> <p>第9回 『マクベス』 3.5~3.6</p> <p>第10回 『マクベス』 4.1</p> <p>第11回 『マクベス』 4.2~4.3</p> <p>第12回 『マクベス』 4.3(続き)</p> <p>第13回 『マクベス』 5.1~5.3</p> <p>第14回 『マクベス』 5.4~5.9</p> <p>第15回 まとめとふりかえり</p>		
成績評価の方法	授業参加状況 (予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30%, 学期末試験 70%		

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、C.ディケンズの『オリヴァー・ツイスト』と『クリスマス・キャロル』を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈 (Notes) が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス Charles Dickens, <i>The Christmas Carol</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、イギリス文学作品への知識の確認、映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 第2回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第3回 第2章～第5章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第4回 第6章～第8章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第5回 第9章～第11章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第6回 第12章～第16章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第7回 第17章～第21章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第8回 映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞 第9回 映像作品『クリスマス・キャロル』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第10回 第2章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第11回 第3章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第12回 第4章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第13回 第5章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第14回 C.ディケンズの作品研究 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (60点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (40点)		

授業科目	英米文学講読Ⅳ	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J.オースティンの『分別と多感』とH.ジェイムズの『ある貴婦人の肖像』を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈 (Notes) が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス H.ジェイムズの『ある貴婦人の肖像』はプリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、映像作品『ある晴れた日に』の鑑賞 第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞(続き)と解説、テキストの第1章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第3回 第2章～第3章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第4回 第4章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第5回 第5章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第6回 第6章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第7回 第7章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第8回 J.オースティンの作品研究 第9回 映像作品『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 第10回 映像作品『ある貴婦人の肖像』の鑑賞(続き)と解説 第11回 テキストの第1章～第6章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第12回 第7章～第11章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第13回 第12章～第15章を読む：速読とプリントによる問題点の確認 第14回 H.ジェイムズの作品研究 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (60点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (40点)		

授業科目	英語講読	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 1単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成</p> <p>【概要】 授業の目的は、検定対策として、英文読解力を向上させ、英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって250語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で、問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また、一定の時間内に英検2級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。</p> <p>【到達目標】 実用英語技能検定2級、TOEIC 500点以上を取得できる英語のリーディング力と語彙力を身に付ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 坂部俊行・岡島徳昭・W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂 木村理恵子・片野田浩子『5分間 新TOEICテスト・リーディング650』南雲堂		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明，プリント学習（受講生のレベルを確認） 第2回 『英検2級 合格への道』Lesson 1：短文，会話文，説明文，Eメール 『5分間 新TOEICテスト・リーディング650』Unit 1：分詞 第3回 Lesson 2：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 2：接続詞・前置詞 第4回 Lesson 3：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 3：比較・仮定法 第5回 Lesson 4：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 4：関係詞 第6回 Lesson 5：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 5：副詞 第7回 Lesson 6：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 6：形容詞 第8回 Lesson 7：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 7：名詞・動詞 第9回 Lesson 8：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 8：動詞を使ったイディオム 第10回 Lesson 9：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 9：語彙問題 第11回 Lesson 10：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 10：長文穴埋め問題 第12回 Lesson 11：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 11：長文穴埋め問題 第13回 Lesson 12：短文，会話文，説明文，Eメール，Unit 12：長文穴埋め問題 第14回 実践形式の練習（その一）：筆記とリスニング 第15回 実践形式の練習（その二）：まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80点），予習を含む授業への取り組み（20点）で評価する。ただし、県短入学後、英検2級取得者もしくはTOEIC 500点以上の取得者については、それを証明する書類等のコピーを提出した場合、最終成績にボーナス点（10点）を加算する。		

授業科目	英米文学演習 I	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 J.オースティンの作品研究</p> <p>【概要】 セミナーではジェーン・オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み、ヒロインの成長に焦点を当てながら、作者の結婚観と風刺を考察する。また、その映画を鑑賞して、テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。</p> <p>【到達目標】 作者の結婚観と風刺を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Jane Austen 著『エマ』（ペンギンリーダーズ）南雲堂フェニックス		
授業スケジュール	第1回 セミナーの運営方法と説明，映画『エマ』の鑑賞 第2回 映画『エマ』の鑑賞（続き）と作品の解説 第3回 第1章を読む：An Offer of Marriage（プリントによる問題点の確認） 第4回 第2章を読む：A Second Offer（プリントによる問題点の確認） 第5回 第3章を読む：Mr Elton's Choice（プリントによる問題点の確認） 第6回 第4章を読む：Frank Charchill Appears（プリントによる問題点の確認） 第7回 第5章を読む：Mrs Elton Comes to Highbury（プリントによる問題点の確認） 第8回 第6章を読む：The Ball at the Crown Inn（プリントによる問題点の確認） 第9回 第7章を読む：The Trip to Box Hill（プリントによる問題点の確認） 第10回 第8章を読む：A Secret Engagement（プリントによる問題点の確認） 第11回 第9章を読む：The Weddings（プリントによる問題点の確認） 第12回 オースティン作品の映画鑑賞（その一）：『いつか晴れた日に』 第13回 オースティン作品の映画鑑賞（その二）：『プライドと偏見』 第14回 プレゼンテーション：『エマ』に関する課題発表会 第15回 ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表（70点），授業への取り組み（30点）		

授業科目	英米文学演習 I	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学術論文を英語で書く 【概要】 受講者は指導者によって選ばれた題材について2ページの論文を書きます。論文は授業で話し合った英語でのライティング手本に必ず沿っていることとします。 【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践		
成績評価の方法	出席 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	英米文学演習 II	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 E.M.フォスターの作品研究と映像作品から学ぶイギリス文学 【概要】 前半の E.M.フォスターの作品研究では、ネルソン・リーダーズテキストを利用して『眺めのいい部屋』を読み、階級意識に焦点をあてながら、異なる文化間の人間関係の対比を考察する。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。後半は映画化されたイギリス文学作品のなかから学生に研究したい作者と作品を選択させ、作者の文学史上の位置付け、社会に対する作者の視点、作品のテーマなどを各自に分析させて発表させる。 【到達目標】 各人が問題点を探し出し、各人がそれに対する見解・意見を導き出せるようにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』はプリント		
授業スケジュール	第1回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞 第2回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞(続き)と解説, テキスト第1章~第4章を読む: At the Bertolini~"He Murdered his Wife" (プリントによる問題点の確認) 第3回 第5章~第8章を読む: "Be Brave and Love" ~"The Right People for the House" (プリントによる問題点の確認) 第4回 第9章~第12章を読む: "A Letter from Charlotte" ~"Charlotte Arrives" (プリントによる問題点の確認) 第5回 第13章~第17章を読む: "Tennis on Sunday" ~"At the Bertolini" (プリントによる問題点の確認) 第6回 E.M.フォスターの作品研究 第7回~第14回: 映画化されたイギリス文学作品の研究 以下の作者と作品から各自で研究していく。 J. オースティン『エマ』『分別と多感』『高慢と偏見』/E. M. フォスター『眺めのいい部屋』『インドへの道』『ハワーズ・エンド』/C. ディケンズ『オリヴァー・ツイスト』『クリスマス・キャロル』『大いなる遺産』/T. ハーディ『日陰者ジュード』『テス』/H. G. ウエルズ『タイムマシン』『透明人間』『宇宙戦争』『月に一番乗った男たち』/H. ジェイムズ『鳥の翼』『ある貴婦人の肖像』『黄金の杯』/G. オーウェル『1984』『動物農場』/G. グリーン『第3の男』『情事の終わり』/V. ウルフ『ダロウエイ夫人』『オルランド』/D. H. ロレンス『虹』『恋する女たち』『チャタレー夫人の恋人』 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表 (70点), 授業への取り組み (30点)		

授業科目	英米文学演習Ⅱ	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学術論文を英語で書く</p> <p>【概要】 自分で選んだ題材に、前期習得したライティング技術に応用します。指導者との話し合いによって卒業論文のテーマを絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。受講者は教務課によって定められた、卒業論文の最終期限までにいくつかの下書きを提出し、推敲を重ねます。</p> <p>【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	<p>スケジュール:</p> <p>第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践</p>		
成績評価の方法	出席 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	比較文学	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学とは何か</p> <p>【概要】 比較文学は現在も発展しつづけている分野であり、その定義も一様ではない。本講義では「比較」という手法を通して、文学作品を考える新たな視点を発見することを目標とする。本年度はシェイクスピア『ロミオとジュリエット』を軸にして、材源や後世の文学テキストとの影響関係、翻訳、テーマに基づく対比、芸術等とのジャンルを越えた比較など、さまざまな角度から比較文学的手法をみていくことにしたい。</p> <p>【到達目標】 比較文学の研究手法を学び、多角的な視点から文学テキストを分析できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	シェイクスピア (河合祥一郎訳) 『新訳 ロミオとジュリエット』 (角川文庫, 2005)		
授業スケジュール	<p>第1回 比較文学とは?</p> <p>第2回 『ロミオとジュリエット』概観1</p> <p>第3回 『ロミオとジュリエット』概観2</p> <p>第4回 影響の研究: 材源研究</p> <p>第5回 影響の研究: 後世の文学テキスト</p> <p>第6回 上演と翻訳</p> <p>第7回 パロディ 井上ひさし『天保十二年のシェイクスピア』, トム・ストッパード『恋に落ちたシェイクスピア』</p> <p>第8回 対比研究: 『ロミオとジュリエット』と『ピラムスとティスベ』 (オウィディウス『変身物語』) など</p> <p>第9回 対比研究: 『ロミオとジュリエット』と近松半二『妹背山婦女庭訓』</p> <p>第10回 文学と芸術1 美術と音楽</p> <p>第11回 文学と芸術2 バレエ プロコフィエフ『ロメオとジュリエット』</p> <p>第12回 文学と芸術3 オペラとミュージカル グノー『ロメオとジュリエット』, 映画『ウェスト・サイド・ストーリー』</p> <p>第13回 文学と芸術4 映画化作品 『ロミオとジュリエット』, 『ロミオ+ジュリエット』</p> <p>第14回 文学と芸術5 漫画とアニメ 美内すずえ『ガラスの仮面』, アニメ『ロミオ×ジュリエット』</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 4000字のレポート (70%)		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 文化・異文化とは？ 第 2回 コミュニケーションとは？ 第 3回 言語・非言語コミュニケーション1 第 4回 言語・非言語コミュニケーション2 第 5回 言語・非言語コミュニケーション3 第 6回 ステレオタイプと偏見 第 7回 オリエンタリズム 第 8回 価値観 第 9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第 10回 ディアスポラ 第 11回 カルチャーショックと異文化適応 第 12回 翻訳と通訳 第 13回 異文化コミュニケーションの方法1 第 14回 異文化コミュニケーションの方法2 第 15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

(注) 教職必修

授業科目	比較文化講読	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】絵画の見方</p> <p>【概要】ケンブリッジ西洋美術の流れの一冊『絵画の見方』の抜粋版を用いて、やや難しめの英文を精読しながら、文化・社会・時代背景の異なる絵画の見方、比較方法を合わせて学ぶ。輪読形式を取るため、予習は必須である。</p> <p>【到達目標】英文読解能力を向上させると同時に、西洋絵画の見方、比較文化の方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Susan Woodford (鈴木繁夫編注) <i>Looking at Pictures</i> (松柏社, 1994)		
授業スケジュール	第 1回 1 Ways of looking at pictures 第 2回 1 Ways of looking at pictures (つづき) 第 3回 2 History and mythology 第 4回 2 History and mythology (つづき) 第 5回 2 History and mythology (つづき) 第 6回 3 Religious images 第 7回 3 Religious images (つづき) 第 8回 3 Religious images (つづき) 第 9回 3 Religious images (つづき) 第 10回 4 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted 第 11回 4 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (つづき) 第 12回 4 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (つづき) 第 13回 5 Hidden meanings / 6 Quality 第 14回 6 Quality (つづき) / 7 Tradition 第 15回 7 Tradition (つづき)		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography.</p> <p>【概要】 Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	All materials provided by the teacher		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース, 授業についての説明</p> <p>第2回 Choosing the Project theme</p> <p>第3回 - 13回 Planning and implementation of Project</p> <p>第14回 Final Examination (presentation)</p> <p>第15回 Course Review</p> <p>* NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.</p>		
成績評価の方法	<p>A willingness to participate in class is more important than test results. Evaluation will be on class participation, 'group' assignments. There will also be an examination at the end of the course. Assessment criteria: Group work 40%, Class participation 20% and Final Presentation Test 40%. 授業に積極的に参加することが、テスト結果より重視される。評価は、グループテストや宿題のような授業態度により決定される。また、このコースの最後に試験も行う。</p> <p>最終テスト= 40 % グループワーク & 小テスト= 40 % 授業出席&貢献 (予習課題発表や、授業中の発言・質問等含む) = 20 %</p>		

授業科目	アメリカ事情	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 On the troubled origins and present of the United States of America.</p> <p>【概要】 We will discuss a critical, populist history of the United States and explore contemporary topics.</p> <p>【到達目標】 The aims of the course are to raise awareness of various political and cultural aspects of the United States by reference to, notably, Howard Zinn's populist history. Students will choose a subject of research and conduct a single class meeting.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) A People's History of the United States: 1492-Present, Howard Zinn (Perennial, 2003)</p> <p>(2) Interviews, online resources. Adamek 編集</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction. Our views of the United States of America.</p> <p>第2回 Christopher Columbus.</p> <p>第3回 Native peoples, native rights and sovereignty.</p> <p>第4回 Socialism <i>à la américaine</i></p> <p>第5回 Fast food, its origins and meaning</p> <p>第6回 People vs. profits, an old debate</p> <p>第7回 Media analysis: corporate, independent, conservative, liberal</p> <p>第8回 The Occupy Movement and its consequences, pt. 1</p> <p>第9回 The Occupy Movement and its consequences, pt. 2</p> <p>第10回 Student-conducted class meeting</p> <p>第11回 Student-conducted class meeting</p> <p>第12回 Student-conducted class meeting</p> <p>第13回 Student-conducted class meeting</p> <p>第14回 Course review and written reports</p> <p>第15回 Discussion of original documentary proposals</p>		
成績評価の方法	授業への参加 class presence and participation (50%); written report ; student-conducted class meeting (50%).		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	中谷 彩一郎
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ統合にいたる歴史</p> <p>【概要】現在、ヨーロッパはEU加盟国の増加やリスボン条約の発効によって、ますます統合の度合いを強めつつある。その一方、ギリシアの経済危機など、さまざまな問題も抱えている。本講義では、ヨーロッパの長い統合と分裂の歴史について、文化・文明を中心に概観する。なお、参考文献に挙げた2冊ほどどちらもヨーロッパの歴史を概観するのによい。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパの歴史とその統合の意義について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布 ジャック・ル・ゴフ (前田耕作監訳・川崎万里訳) 『子どもたちに語るヨーロッパ史』 (ちくま学芸文庫, 2009) マンフレッド・マイ (小杉亮次訳) 『50のドラマで知るヨーロッパの歴史: 戦争と和解, そして統合へ』 (ミネルヴァ書房, 2010)		
授業スケジュール	第1回 ギリシア: ヨーロッパの基層 第2回 ローマ: ヨーロッパ統合の先駆 第3回 カロリング・ルネサンス: ローマ文化とキリスト教文化の融合 第4回 ビザンツ文化: 東のローマ 第5回 中世の文化: ロマネスクとゴシック, 大学 第6回 ルネサンス: 人文主義 第7回 大航海時代: ヨーロッパ世界の拡大 第8回 宗教改革: カトリックとプロテスタント 第9回 近代ヨーロッパの成立: 主権国家の形成, 啓蒙主義 第10回 17~18世紀の文化: バロックとロココ, 科学革命 第11回 産業革命と市民革命: ヨーロッパの再編 第12回 19世紀の文化: ロマン主義, 写実主義, 自然主義 第13回 20世紀前半: 二つの世界大戦とヨーロッパ 第14回 戦後世界から21世紀へ: ヨーロッパ世界の「再統合」 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%), 筆記試験 (70%)		

授業科目	比較文化演習 I	担当者	中谷 彩一郎
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】書物・読書・読者</p> <p>【概要】本演習では、書物・読書・読者の歴史をテーマに、古今東西の事例を代表的な研究書や研究論文の抜粋を読みと同時、時には実物を見ながら比較していく。そして現在話題になっている電子書籍をはじめとする書物の未来について考えたい。毎回担当者を決めて (一回あたり二人, 一人あたり三回ほど担当予定), 読んだ論文について発表し, 討論する形式を取る。毎回全員に意見を求めるので, 他の参加者も論文をあらかじめ読み, 疑問点等を考えてくること。</p> <p>一人当たり三回ほど発表する中で, 次のことが徐々にできるようになるよう訓練する。</p> <p>(1) 担当箇所をまとめたハンドアウトの作成・発表。</p> <p>(2) (1)に加え, 自らの意見や疑問点を述べられ, さらにテキストを批判的に読むクリティカル・リーディングができるようになる。</p> <p>なお, 扱う資料はL. フェーヴル&H. J. マルタン『書物の出現』, R. シャルティエ&G. カヴァットロ『読むことの歴史』, A. マンゲル『読者の歴史』, 宮下志朗『本を読むデモクラシー』, 今田洋三『江戸の本屋さん』, 橋口侯之介『和本入門』等からの抜粋である。</p> <p>【到達目標】比較文化の研究方法を学び, 卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 イントロダクション 第2回 発表の仕方と見本 第3回 発表とディスカッション (一巡目) 第4回 発表とディスカッション (一巡目つづき) 第5回 発表とディスカッション (一巡目つづき) 第6回 発表とディスカッション (一巡目つづき) 第7回 発表とディスカッション (二巡目) 第8回 発表とディスカッション (二巡目つづき) 第9回 発表とディスカッション (二巡目つづき) 第10回 発表とディスカッション (二巡目つづき) 第11回 発表とディスカッション (三巡目) 第12回 発表とディスカッション (三巡目つづき) 第13回 発表とディスカッション (三巡目つづき) 第14回 発表とディスカッション (三巡目つづき) 第15回 まとめ。演習IIへの橋渡し。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%), 演習全体への積極的な参加態度 (40%)		

授業科目	比較文化演習Ⅱ	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】比較文化演習Ⅰで学んだことを踏まえて、比較文学・比較文化に関連する幅広い分野の論文をできるだけ多く読みこなしていく。10月中は比較文化演習Ⅰの延長として書物に関する英語論文を輪読形式で読み（D. F. McKenzie, <i>Bibliography and the Sociology of Texts</i> の第1章の予定）、11月以降はできるだけ受講者各人の卒業研究と内容あるいは方法的に関係のある資料を割り当てるようにしたい。毎回担当者を決めて（一回あたり二人、一人あたり二回ほど担当予定）、読んだ論文について発表し、討論する形式を取る。他の参加者も論文をあらかじめ読み、疑問点等を考えてくること。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 英語論文輪読1 第3回 英語論文輪読2 第4回 英語論文輪読3 第5回 英語論文輪読4 第6回 発表一巡目と討論 第7回 発表一巡目と討論 第8回 発表一巡目と討論 第9回 発表一巡目と討論 第10回 まとめ1 第11回 発表二巡目と討論 第12回 発表二巡目と討論 第13回 発表二巡目と討論 第14回 発表二巡目と討論 第15回 まとめ2		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、討論への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 日本語日本文学専攻は必修、英語英文学専攻は選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 鈴木一彦・林巨樹 監修『概説日本語学 改訂版』明治書院		
授業スケジュール	第1回 日本語学とは : 国語/日本語と国語学/日本語学 第2回 現代語の音声・音韻1 : 発音器官, 国際音声字母 ※ 第3回 現代語の音声・音韻2 : 母音 ※ 第4回 現代語の音声・音韻3 : 子音 ※ 第5回 現代語の音声・音韻4 : 韻律 ※ 第6回 文字・表記 : 現代日本語の表記の特徴 ※ 第7回 前半のまとめ 第8回 現代語の語彙・意味1 : 語種 第9回 現代語の語彙・意味2 : 語彙の体系 第10回 現代語の文法1 : 品詞論・敬語論 第11回 現代語の文法2 : 構文論 第12回 文章・文体 : 口語/文語・文章語, 書き言葉/話し言葉 第13回 方言 : 国語(公用語)と方言, 新方言, 言語地理学 第14回 言語生活 : 流行語, 若者言葉, 名付け 第15回 まとめ ※印=パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語教育概論	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年、英語日本文学専攻は2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 佐々木泰子 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4回 言語と社会：バイリンガル/マルチリンガル、言語政策、言語変種</p> <p>第 5回 文化と日本語教育：カルチャーショック、ステレオタイプ、高/低コンテクスト文化</p> <p>第 6回 日本語教育とコミュニケーション教育：文化相対主義 異文化トレーニング コミュニケーション・スタイル</p> <p>第 7回 日本語教育と文法：語順 日中対照 言語学</p> <p>第 8回 第二言語としての日本語の習得：誤用分析 言語転移 外国語学習の適性</p> <p>第 9回 日本語教育法 (1) コースデザインとニーズ分析、シラバス・デザイン、カリキュラム</p> <p>第 10回 日本語教育法 (2) 教授法：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 11回 日本語教育法 (3) 教材分析・開発：機能シラバス 構造シラバス 場面シラバス</p> <p>第 12回 日本語教育法 (4) 授業の計画と実施①初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 13回 日本語教育法 (5) 授業の計画と実施②中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 14回 日本語教育法 (6) 評価法：熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

授業科目	対照言語学	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語の共通点・相違点を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2回 日英中の対照 (1)：主語の立て方</p> <p>第 3回 日英中の対照 (2)：主語の顕示と暗示</p> <p>第 4回 日英中の対照 (3)：実際の発話における文の形</p> <p>第 5回 日英中の対照 (4)：時に関する比較</p> <p>第 6回 日英中の対照 (5)：受動態に関する比較</p> <p>第 7回 日英中の対照 (6)：否定に関する比較</p> <p>第 8回 日英中の対照 (7)：接続に関する比較</p> <p>第 9回 日英中の対照 (8)：待遇表現に関する比較①</p> <p>第 10回 日英中の対照 (9)：待遇表現に関する比較②</p> <p>第 11回 日英中の対照 (10)：言語行動に関する比較①</p> <p>第 12回 日英中の対照 (11)：言語行動に関する比較②</p> <p>第 13回 英語母語話者、中国語母語話者に対する日本語教育</p> <p>第 14回 これまでの復習</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、レポート：50%		

授業科目	日本文学史・古典Ⅰ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代(奈良時代以前)から中古(平安時代)の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成23年度日本文学史・近代Ⅰ,Ⅱと同じ) (2)授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション:文学の発生 第2回 上代の文学その1:概観,古事記 第3回 上代の文学その2:日本書紀,風土記 第4回 上代の文学その3:万葉集1 第5回 上代の文学その4:万葉集2 第6回 上代の文学その5:万葉集3 第7回 上代の文学その6:上代の漢詩,説話 第8回 中古の文学その1:概観,古今集以前 第9回 中古の文学その2:和歌,三代集まで 第10回 中古の文学その3:和歌,八代集 第11回 中古の文学その4:和歌,私撰集,歌謡 第12回 中古の文学その5:源氏物語以前の歌物語 第13回 中古の文学その6:源氏物語以前の作り物語 第14回 中古の文学その7:源氏物語 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅰ」として選択

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古(平安時代)の和歌史・物語史から中世(鎌倉・室町時代)文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。</p> <p>時間の都合上、テキストのすべてを取り扱うことはできないが、教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう(平成23年度日本文学史・近代Ⅰ,Ⅱと同じ) (2) 授業中に提示する。		
授業スケジュール	第1回 中古の文学その1:源氏物語 第2回 中古の文学その2:源氏物語以降の物語 第3回 中古の文学その3:歴史物語 第4回 中古の文学その4:日記 第5回 中古の文学その5:随筆 第6回 中古の文学その6:漢詩文 第7回 中世の文学その1:概観 第8回 中世の文学その2:和歌,連歌 第9回 中世の文学その3:漢詩文 第10回 中世の文学その4:軍記 第11回 中世の文学その5:随筆 第12回 中世の文学その6:物語 第13回 中世の文学その7:説話 第14回 中世の文学その8:能・狂言 第15回 まとめ		
成績評価の方法	毎回の感想(ミニレポート)30% 筆記試験70%		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅱ」として選択

授業科目	英文文書処理	担当者	アンネ・ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。 【概要】 Word/Excel を使って、与えられた課題を処理する。 ビジネスレター作成、インターネット、E-mail など。 【到達目標】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント メモリースティック、辞書を持参する。		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 自己紹介 コース説明 第2回 What you can do on a computer 第3回 What you can do on a computer 第4回 What you can do on a computer 第5回 Software and hardware 第6回 How to use the Internet 第7回 Making your own business card 第8回 Using the Internet 第9回 Using the Internet 第10回 Using the Internet 第11回 Using the Internet 第12回 E-mail 第13回 How to write business letters 第14回 Review 第15回 Review		
成績評価の方法	授業への参加状況40% 授業態度20% 筆記(英語)テスト40%		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題 第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第13回 国際社会における諸問題4：対テロ 第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内メーカー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展</p> <p>第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～</p> <p>第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道開拓：JITからJISへの進化と負担転嫁</p> <p>第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	卒業研究	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見をし、卒業論文の作成にあたる。</p> <p>【概要】英語学演習Ⅰ・Ⅱの受講者を対象とし、新言語学、英語学、英語教育のなかで、各自研究テーマを決めて個別指導を受けながら、卒業論文の作成にあたる。</p> <p>【到達目標】英語での卒業論文を作成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時プリント		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 Introduction</p> <p>第3回～第4回 Basic understanding about English linguistics for finding the theme</p> <p>第5回～第7回 Tutorial for writing the paper (content)</p> <p>第8回～第9回 Midterm presentation</p> <p>第10回～第14回 Tutorial for writing the paper (writing)</p> <p>第15回 Reading paper</p>		
成績評価の方法	卒業論文(80%)、プレゼンテーション(20%)で評価する。		

授業科目	卒業研究	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人がテーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>【概要】映像文学という視点に立って、各人が、興味のある英米文学作品に関連した映画、外国文化等に関連した映画のなかで、テーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>*卒業研究論文は日本語で作成してもよい。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】各人のテーマで、「課題探求・解決能力」の集大成として、卒業研究論文を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認 第2回 テーマの選定と絞り込みの指導：過去の事例の紹介 第3回 文献収集の指導：図書館での文献収集およびインターネット検索による文献収集 第4回 テーマの確認、卒業論文の書き方（論の展開の仕方）の指導 第5回 「はじめに」の書き方の指導 第6回 進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その一） 第7回 進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その二） 第8回 進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（その三） 第9回 中間発表（その一） 第10回 中間発表（その二） 第11回 個別指導：提出論文の添削・推敲（その一） 第12回 個別指導：提出論文の添削・推敲（その二） 第13回 個別指導：提出論文の添削・推敲（その三） 第14回 提出前の最終指導：レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語でのSummary作成の指導 第15回 発表会（プレゼンテーション）用の配布資料作りと練習		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（80点）、プレゼンテーション（20点）		

授業科目	卒業研究	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】受講者は各自、英語学の分野から研究テーマを選び、授業でプレゼンテーションをしたり、個別指導を受けながら、卒業論文を作成する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス（卒業研究作成のスケジュールの確認、言語事実収集、参考文献の探し方の指導） 第2回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(1) 第3回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(2) 第4回 テーマ設定と内容について個別指導(1) 第5回 テーマ設定と内容について個別指導(2) 第6回 テーマ設定と内容について個別指導(3) 第7回 中間発表(1) 第8回 中間発表(2) 第9回 中間発表(3) 第10回 内容について個別指導(4) 第11回 内容について個別指導(5) 第12回 内容について個別指導(6) 第13回 卒業研究確定版の発表(1) 第14回 卒業研究確定版の発表(2) 第15回 卒業研究確定版の発表(3)		
成績評価の方法	授業への取り組み（40%）+ 卒業研究（60%）		

授業科目	卒業研究	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 比較文学・比較文化研究の実践 【概要】 自らテーマを選び、比較文化演習で学んできた手法を生かして、卒業研究をおこなう方法を学ぶ。研究の進捗状況を定期的に発表し、お互いに講評し合いながら、書き直していく。なお、夏期休業中にあらかじめ卒業研究の元になるレポートを作成してもらう。 【到達目標】 卒業論文を作成する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 各人の卒論テーマ発表 第 2回 資料の探し方1 第 3回 資料の探し方2 第 4回 論文の構成1 第 5回 論文の構成2 第 6回 論文の構成3 第 7回 中間発表1 第 8回 論文の書き方1 第 9回 論文の書き方2 第 10回 論文の書き方3 第 11回 中間発表2 第 12回 最終発表 第 13回 パワーポイントを使った発表の仕方1 第 14回 パワーポイントを使った発表の仕方2 第 15回 卒業研究発表会の練習		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (20%) , 発表 (30%) , 論文 (50%)		

授業科目	卒業研究	担当者	フィリップ・アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 アメリカとヨーロッパの文化と文学について 【概要】 本、インタビュー、インターネット等の方法を用いて、卒業論文を推敲、作成します。卒業発表会に向けての準備もします。 【到達目標】 英語で学術論文を書くことを教授し、情報の寄せ集めであるレポートと卒業論文の違いを明確にすることが目標です。このゼミでは卒業論文を「反対意見を持つ読者が存在する可能性もありうるが、厳選した事実に基づいたオリジナルの意見」と定義します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	<u>スケジュール:</u> 第1週: 授業紹介 第2～第15週: リサーチ, ライティング, 校正演習		
成績評価の方法	出席(60%), 授業内での発言(40%)。		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ、さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象、目的、研究方法を学び、個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は、生活の機能、生活にかかわる政策、世界の家政学、家政学・生活学の歴史などに焦点をあて、生活科学の基本を学ぶ。後半は、生活のしくみをどのようにとらえるのか、具体的な事例に基づいて解説する。それにより、生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく、逆に個人として見つめ、生活科学の構造を理解する。</p> <p>【到達目標】 生活科学とは何かを理解し、生活を科学的な視点で把握し、生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより、各自が生活科学科で勉学する意義を探索して欲しい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) ヴィンセンティ著、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社 ステイジ、ヴィンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 西村敬子、加藤祥子、早瀬和利『生活を科学する』開隆堂出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 生活とは何か、私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第3回～第4回 生活科学/家政学の対象、目的、体系・領域 第5回～第7回 生活科学/家政学の歴史と未来（日本、アメリカ合衆国、国際家政学会） 第8回～第9回 生活の基本となる人間関係：家族で生活すること、地域・社会の一員であること、公助・互助・自助 第10回～第11回 生活を環境としてとらえる：＜人体－衣服－住居－社会＞のつながりと相互作用 第12回～第13回 生活をデザインする：もののデザイン、生き方のデザイン、社会のデザイン 第14回 生活科学が社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>倉元担当分（50%）：ワークシート、レポート 多々良担当分（50%）：単元ごとのレポート（4回実施）</p>		

授業科目	生活経営学	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 食栄専攻は2年、生活専攻は1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 食栄専攻は選択、生活専攻必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の実態と課題を把握し、主体的な生活経営力を身につける。</p> <p>【概要】 生活の価値・規範とは何かを考える。それに基づき、生活者自身の意思で、様々な生活資源を管理し、それぞれが思い描くライフスタイルを具体化し、社会参加していくプロセスを学ぶ。生活に必要なものやサービス、金銭、時間、人の能力やエネルギー、人間関係など様々な資源をマネジメント（経営）していく力を育成する。</p> <p>【到達目標】 将来の生活像を描き、生き方を選択し実現していくことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本家政学会生活経営部会（編）『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 大藪千穂『仕事・所得と資産選択』日本放送出版協会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 生活の価値・規範とは何か 第2回 生活経営の主体、生活の単位、生活経営力とは何か 第3回 生活のリスクとマネジメント 第4回 マネジメントするもの (1) 生活者自身の健康・知識・経験・生活技術など 第5回 マネジメントするもの (2) 人間関係、家族、親戚、友人、知人、地域 第6回 マネジメントするもの (3) ものやサービス、資産・収入、時間、情報 第7回 家計(1) 家計調査と家計の変化、収入と支出 第8回 家計(2) ライフサイクルの変化、貯蓄と負債 第9回 家計(3) 家計簿、家計診断 第10回 生活経営の組織 (1) 家族 第11回 生活経営の組織 (2) 地域 第12回 生活の社会化と社会保障制度 第13回 ワークライフバランス：働くこと、結婚すること、社会参加すること 第14回 自己実現のための生活設計 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>レポート（50%） および授業時間内の課題（50%）</p>		

授業科目	人間関係論	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義・実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ&概要】 人間関係についての基礎的ダイナミズムを理解することは、人との関わりが不可欠な現代社会においてよりよい生活するためには重要であると考えられる。講義では1) 人間関係における基礎知識の習得, 2) 社会的スキルの理解, 習得, 3) 家族関係の理解の3テーマを主題に, 発達心理学, 社会心理学, 臨床心理学の視点からアプローチする。講義中では, 理解を深めるために適宜, 心理検査やワークを取り入れる。 【到達目標】 ①対人関係の心理についての知識を習得し, 自己や他者を心理学的な視点から理解する。 ②豊かな人間関係を築くためには, 何が必要かを主体的に考え, 自己の対人関係スキルの向上を目指す。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 グループワーク①: クラス開き 第3回 グループワーク②: 構成的グループエンカウンターⅠ 第4回 グループワーク③: 構成的グループエンカウンターⅡ 第5回 人間関係に関する基礎知識①: さまざまな人間関係Ⅰ 第6回 人間関係に関する基礎知識②: さまざまな人間関係Ⅱ 第7回 人間関係に関する基礎知識③: 対人コミュニケーション 第8回 社会的スキル・トレーニング① 社会的スキルとは? 第9回 社会的スキル・トレーニング② SST の実際 第10回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅰ 第11回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅱ 第12回 グループ討議: コミュニケーション能力の育成Ⅲ 第13回 グループ発表 第14回 グループ発表 第15回 まとめ		
成績評価の方法	「レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)」		

授業科目	社会福祉論	担当者	古瀬 徹
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 社会福祉の問題を広く政治や経済の動向の中で考える。 【概要】 1. 社会福祉を形成する基本的な思想を理解する。 2. 日本の社会福祉をより広い概念の中でとらえなおす。 3. 経済活動との関連で社会福祉制度の実際を分析する。 4. 国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。 【到達目標】 日本の社会福祉の大枠を理解し, 市民的な視点から社会福祉政策の方向を探る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	ブログ「現代社会と福祉」においてそのつど掲載します。		
授業スケジュール	第1回 日本社会と社会福祉 第2回 社会福祉の基盤としての人権 第3回 ソーシャルポリシーの概念 (社会福祉・社会保障) 第4回 財政構造 第5回 社会保障給付費 第6回 医療問題と介護問題 第7回 年金問題 第8回 都市・住宅問題 第9回 ドイツ社会と社会政策 第10回 北欧型社会と社会政策 第11回 市場型社会の社会政策 第12回 音楽ケア (言語と音楽) 第13回 園芸ケア (環境と人間) 第14回 国際社会と日本 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言や態度 (50%), レポート (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修 (食物栄養専攻のみ)

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中には様々な成分が含まれている。本講義では、健康な日常生活を営むために必要不可欠な栄養素であるタンパク質、脂質、炭水化物、食物繊維、ビタミンについて、化学構造を含めた基礎的な化学と特徴について理解することに始まり、これらの成分の変化、各種反応、栄養的效果について学習していく。</p> <p>【到達目標】栄養士に必要とされる基礎的な知識である食品中に含まれている各種成分の特徴、性質、栄養効果について基本的な知識を理解することを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: イントロダクション ・食品の分類</p> <p>第2回: 水分 ・水の物理化学的特性 水の生理作用 食品中の水の状態と水分活性</p> <p>第3回: 炭水化物1 ・糖類の分類と化学的特性, 単糖類の構造</p> <p>第4回: 炭水化物2 ・オリゴ糖・多糖類の化学と特性</p> <p>第5回: 炭水化物3 ・炭水化物の栄養効果 食物繊維の特性ならびに栄養効果</p> <p>第6回: タンパク質1 ・タンパク質に分類 アミノ酸の化学と性質</p> <p>第7回: タンパク質2 ・タンパク質の化学と特性 タンパク質の変性</p> <p>第8回: タンパク質3 ・タンパク質の栄養効果・機能</p> <p>第9回: 脂質1 ・脂質の分類 脂肪酸の化学と性質</p> <p>第10回: 脂質2 ・脂質の変化・反応 (自動酸化と防止法)</p> <p>第11回: 脂質3 ・脂質の栄養効果</p> <p>第12回: ビタミン1 ・ビタミンの歴史 脂溶性ビタミンの化学と生理機能</p> <p>第13回: ビタミン2 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能1</p> <p>第14回: ビタミン3 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能2</p> <p>第15回: まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品学Ⅱ	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中に含まれる成分であるミネラルについての化学・栄養効果、食品中の嗜好成分(色素、呈味成分、香り成分)について物理化学的な性質、食品中での変化・反応、栄養効果について学ぶとともに、食品中の有害物質、食品の物性について学習する。植物性食品(穀類、野菜類、果実類など)、動物性食品(畜肉類、魚介類、乳製品、卵など)の特性について学習する。</p> <p>【到達目標】食品中の成分の特性、栄養効果について理解するとともに、植物性食品、動物性食品の特性を理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: ミネラル1 ・ミネラルの栄養効果と機能1</p> <p>第2回: ミネラル2 ・ミネラルの栄養効果と機能2</p> <p>第3回: ミネラル3 ・ミネラルの栄養効果と機能3</p> <p>第4回: 食品色素1 ・クロロフィル, ミオグロビンの化学的性質と食品中での変化・反応</p> <p>第5回: 食品色素2 ・カロテノイド, フラボノイドの化学的性質と変化</p> <p>第6回: 食品色素3 ・酵素的褐変反応, 非酵素的褐変反応</p> <p>第7回: 呈味成分 ・呈味成分の特性</p> <p>第8回: 香り成分 ・食品中の香り成分の特性</p> <p>第9回: 食品中の有害物質 ・植物毒と動物毒の種類</p> <p>第10回: 食品の物性 ・コロイドの化学, 弾性, 粘弾性</p> <p>第11回: 植物性食品1 ・穀類とイモ類の特性</p> <p>第12回: 植物性食品2 ・野菜類と果実類</p> <p>第13回: 動物性食品1 ・畜肉類と魚介類</p> <p>第14回: 動物性食品2 ・牛乳と乳製品</p> <p>第15回: まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品学実験	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中に含まれる成分について実験を通して、これら成分の物理化学的性質を学ぶ。</p> <p>【概要】化学実験では多種多様な薬品、実験器具を使用するため正確な操作を誤ると大きな事故につながる危険性を常にはらんでいる。本実験では講義で学んだ食品成分の性質について実験を通して理解を深めていく。同時に、化学実験に対する取り組み、各種薬品、器具等の正確な操作法、安全対策など化学実験に必要とされる基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】食品中に含まれる各種成分の性質・特性について基本的な知識を習得するとともに、化学実験についての基礎的知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス ・実験概要の説明</p> <p>第2回：実験の基本操作1 ・各種実験器具の操作法</p> <p>第3回：実験の基本操作2 ・天秤、顕微鏡の取り扱い方</p> <p>第4回：試薬作成 ・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方</p> <p>第5回：滴定 ・0.1規定水酸化ナトリウムの作成・評定、市販食酢中の酢酸の定量</p> <p>第6回：糖質1 ・単糖類と二糖類の定性実験</p> <p>第7回：タンパク質1 ・アミノ酸、タンパク質の定性実験</p> <p>第8回：無機質 ・煮干し、きな粉に含まれるカルシウム、リン、鉄の検出</p> <p>第9回：糖質2 ・多糖類に関する定性実験</p> <p>第10回：糖質3 ・市販果汁中の還元糖の定量（ベルトラン法）</p> <p>第11回：油脂 ・油脂の定性実験、ケンカ価、ヨウ素価</p> <p>第12回：タンパク質2 ・酵素によるタンパク質の消化実験</p> <p>第13回：牛乳 ・市販牛乳中のカゼインと乳糖成分の定量</p> <p>第14回：実験の総括 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能2</p>		
成績評価の方法	実験レポート (70%) + 実験への取組姿勢 (30%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品衛生学	担当者	村山 恵美子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と注意点、予防策と解決策を学び、衛生観念を身につける。</p> <p>【概要】近年、食中毒の大規模化、輸入野菜中の残留農薬、新しい感染症や食品汚染物質の増加、偽称表示等、食品の安全性を脅かす多くの問題が生じている。これらに対処するため、法律や規格の制定や改正が行われているが、全面解決に至っていないのが現状である。この講義では、その原因となる微生物や自然毒、化学物質、食品添加物等に対する認識を深め、健康かつ安心・安全な食生活を営めるよう、食中毒や食品の変質、変敗の予防法、食品衛生行政、食品衛生管理等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】日常の生活の中で、衛生に関心を持つようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗重行他著「イラスト食品の安全性」東京教学社 (2) 中村好志・西島基弘編著「食品安全学」同文書院、細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑第2版」建帛社		
授業スケジュール	<p>第1回 食品衛生行政と法規 (衛生行政の対象、関連法規、表示、食品衛生監視員、コーデックス)</p> <p>第2回 食品の変質 (微生物学の基礎、食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防)</p> <p>第3回 食中毒総論 (食中毒の定義、種類と発生状況等)</p> <p>第4回 細菌性食中毒 (サルモネラ属、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター等)</p> <p>第5回 ウィルス性、原虫性食中毒 (ノロウィルス、その他のウィルス、クリプトスポリジウム等)</p> <p>第6回 自然毒食中毒 (動物性、植物性)</p> <p>第7回 食品による感染症 (消化器系感染症、人獣共通感染症)</p> <p>第8回 食品から感染する寄生虫症 (魚介類、獣肉類、飲料水、野菜類)</p> <p>第9回 化学性食中毒と食品汚染化学物質 (農薬、カビ毒、動物用医薬品、その他の汚染物質)</p> <p>第10回 食品衛生管理 (HACCP、食品工場・給食施設における一般衛生管理、家庭における衛生管理)</p> <p>第11回 食品の器具と容器包装 (プラスチック、金属、ゴム、紙等)</p> <p>第12回 食品添加物 (概要、表示方法、安全性評価等)</p> <p>第13回 食品添加物 (種類と用途)</p> <p>第14回 その他の食品の安全性問題 (有機栽培、遺伝子組み換え、放射線照射、牛海綿状脳症等)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、授業中の小テスト (20%)		

(注) 栄養士必修 教職必修

授業科目	食品衛生学実験	担当者	釜田 忠
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日常の食生活から食品の安全性を確保するために必要な知識を実験を通して認識する。</p> <p>【概要】 本実験は微生物実験と化学実験から構成される。微生物実験では、身の回りのあらゆる環境に病原性微生物を始め多くの微生物が存在することを確認することによって、消毒、滅菌等の意義を理解し、食品の安全性の確保のために必要な衛生観念を理解する。</p> <p>一方、化学実験では、食品添加物の使用実態、鮮度判定、水質検査などを通して、日常の食生活に潜む問題点を認識し、安全な食生活について理解する。</p> <p>【到達目標】 身の回りに潜む危険から、安心・安全な食生活を営むために不可欠な衛生に関する知識を習得することを目的とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス1 第2回：微生物基礎実験1 第3回：微生物基礎実験2 第4回：微生物基礎実験3 第5回：布巾・まな板の衛生検査 第6回：大腸菌群の定量実験 第7回：サルモネラ菌 第8回：ブドウ球菌 第9回：耐熱性・紫外線抵抗試験 第10回：ガイダンス2 第11回：合成着色料の検出 第12回：発色剤の定量 第13回：タンパク質の変敗試験 第14回：水質検査 第15回：実験の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃 ・器具の滅菌と培地作成（斜面培地、高層培地、平板培地） ・菌（4種類）の接取・培養、グラム染色による菌の観察 ・菌の形態観察 ・洗い落とし法、拭取り法による総菌数、大腸菌の確認 ・最殻数法による大腸菌の定量 ・市販ひき肉、鶏肉からサルモネラ菌の検出 ・おにぎり中のブドウ球菌の検出、ブドウ球菌の人体付着検査 ・加熱、紫外線の殺菌効果の測定 ・化学実験の概要説明、実験器具の洗浄、微生物実験に使用した器具の後片付け ・市販食品中に含まれる合成着色料（タール色素）の検出 ・市販ハム中の発色剤（亜硝酸）の検出ならびに定量 ・市販魚肉中の揮発性塩基窒素の定量と鮮度判定 ・家庭用飲料水の理化学試験（平常試験） 		
成績評価の方法	実験レポート（70%） + 実験への取り組み（30%）		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品加工学	担当者	釜田 忠
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義・実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食品保存、加工についての概念、基本的な知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 「食品加工」は食品の加工、保藏、包装・表示など加工食品だけでなく保藏食品、包装食品を作ることである。生活様式の変化に伴い、多種多様の食品が生産利用され、需要が高まってきていると同時に安全性の問題など新たな問題も生じ、加工食品に対する正しい知識が求められている。本講義では食品の特性を理解したうえで、加工食品の原理や食品保藏に関する基礎的知識を理解し習得する。</p> <p>【到達目標】 食品加工の基本的知識を理解し、日常の食生活で加工食品を上手に取り入れることによって食生活の改善に役立てる事を到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 露木英男・田島 眞編「食品加工学—加工から保藏まで—」共立出版 (2) プリント		
授業スケジュール	<p>第1回：イントロダクション 第2回：食品加工の原理 第3回：食品保藏の原理1 第4回：食品保藏の原理2 第5回：食品保藏の原理3 第6回：食品の加工1 第7回：食品の加工2 第8回：食品の加工3 第9回：食品の加工4 第10回：食品の加工5 第11回：包装と包装食品 第12回：実習 1 第13回：実習 2 第14回：実習 3 第15回：実習 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品加工の基本理念 ・物理的操作と化学的操作 ・低温保存と水分制御による保存 ・浸透圧の利用、pH、燻煙 ・殺菌による保存、環境ガス ・農産物 ・農産物 ・畜産物 ・水産物 ・乳製品、卵 ・包装の意義、食品の包装 		
成績評価の方法	実習レポート（50%） + テスト（50%）		

授業科目	調理学	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概 要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、また、調理や食物選択が理にかなったものにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 金谷昭子著『食べ物と健康, 調理学』 医歯薬出版 山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』 同文書院</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』 第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 調理学の意義と目的 第 2回 調理と栄養とライフステージ 第 3回 調理操作 加熱操作 第 4回 " 非加熱操作 第 5回 " その他の調理操作 第 6回 調理法 米 第 7回 " 小麦粉 第 8回 " 芋及び豆類 第 9回 " 野菜及び果実類 第 10回 " 食肉類 第 11回 " 魚介類 第 12回 " 卵類及び乳類 第 13回 " 油脂類及び砂糖類 第 14回 " その他 (冷凍食品・市販食品) , 第 15回 グループ発表, まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) ・授業態度及び出席・小テスト・ノート (40%) を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概 要】一食の献立として学習で来るよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版社</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 調理機器の使い方, 調味の割合, 第 2回 和食喫食法: 炊飯, 鰯と昆布のだしの取り方と利用法, 魚の焼き物, , 即席漬物 第 3回 日本料理: 煮干だし, 魚の煮付け, お浸し (下洗), 上新粉の扱い 第 4回 西洋風朝食: 卵の扱い, トマトの湯剥き, 洋風スープ (鶏がらの扱い), パンケーキ 第 5回 中華喫食法: 中華の鶏がらスープ, 中華素材と器具の扱い, 寒天の扱い, (大量調理) 第 6回 日本料理: 炊きおこわ, 炒め煮, 乱切り, あく抜き, わらび粉 第 7回 洋食喫食法: 洋風炊き込み, たまねぎの扱い, 冷製魚の扱い, ラビゴット (ヴィネグレット) ソース, ゼラチンの扱い 第 8回 中華料理: コーンスープ, 春巻き, えびの扱い, 油通し, タピオカ・ココナッツの扱い 第 9回 日本料理: ソーメン, 焼魚 (器具と化粧塩, 鮎の食べ方), いり豆腐, 和え物, 水ようかん 第 10回 西洋料理: 冷製スープ, 果物のサラダ, ひき肉の扱い, カスタードプリン 第 11回 中華料理: 中華麺の扱い, 焼売, 香辛料, 中華風の漬物, 白玉粉の扱い 第 12回 郷土料理: 具沢山の炊き込みご飯 (具の量と調味), ささがき, 寄せ卵, 白和え, ふくれ菓子 第 13回 西洋料理: コンソメスープ, ドライカレー, ポテトサラダ(マヨネーズ作り), レア・チーズケーキ 第 14回 お盆料理: カルのこ汁, 落花生豆腐, にがごりの扱い 第 15回 調理実技復習, まとめ</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%, 調理実習ノート 30%, 実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概要】 和食, 洋食, 中華料理を交互に, 個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム 【到達目標】 献立作成, 衛生観念を身につけ, 給食への応用ができる力を養う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第1回 夏のお盆料理の報告 第2回 日本料理: 栗の扱い, さんまの扱い, 茶碗蒸し, なます, 十五夜団子 第3回 中華料理: 八宝菜, いかの扱い (花いか), くらげの扱い, 中国粥, さつま芋のあめがらめ, 点心について 第4回 日本料理: 行楽弁当 (いなり, 出し巻き卵, きじ焼き, 酢蓮根, 高野豆腐の含め煮), 土瓶蒸し, 小倉ケーキ 第5回 スチームコンベクション料理: 焼き魚・から揚げ (ドライモード), 焼きそば (コンビ), 温野菜・プリン (スチーム), 第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー 第7回 日本料理: さつますもじ (ちらし寿司), 青のりの汁, 芋のそぼろあんかけ, 抹茶饅頭 第8回 日本料理お魚講習: 霜降りの方法と役目, 刺身, かつら剥き魚の三枚おろし, 魚のだし 第9回 正月料理: おせち料理の意味と重箱の詰め方, 雑煮, 飾り切り 第10回 クリスマス料理, ビーフストロガノフ (ブラウンソース), プッシュドノエル 第11回 西洋料理: (ホワイトソース), シュークリーム 第12回 中国の行事食: 春節の意味と代表料理, 中華饅頭 第13回 大量調理への応用 第14回 テーブルマナー (会席料理), 会席料理とは 第15回 調理技術と主菜の作成, まとめ		
成績評価の方法	調理技術試験 40%, 調理実習ノート 30%, 実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル 【概要】 和食, 洋食, 中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し, 食材の持つ特徴 (糊化作用, 凝固作用, 膨張作用など) を十分活かした調理実習カリキュラム 【到達目標】 おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第1回 大量調理の応用 ~10回 和食の応用, 郷土料理, 小麦の応用 (餃子, フルーツパウンドケーキ, パン, クッキー, ソース等) 自作の献立 調理への応用 正月料理: おせち料理, 茶懐石料理 ~13回 西洋料理の応用: クリスマス: ローストチキン, ショートケーキ イタリア料理: パスタ, ピザ 東・東南アジア地区の料理 第14回 テーブルマナー (洋食) 第15回 献立作成から調理技術への完成		
成績評価の方法	調理技術試験 40%, 調理実習ノート 30%, 実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学総論	担当者	倉元 綾子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養学とはなにか。</p> <p>【概要】 健康な生活を営むためには、適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し、国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ、栄養素欠乏症は克服されたが、栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり、生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達、生活環境の変化、科学技術の発達、情報化の進展なども著しい。このように、健康と栄養、食をとりまく問題は、大きな広がりや深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し、栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では、食生活の現状についてのトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】 栄養学の基礎的事項を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行, 高橋正作編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己, 三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部, カーソン『沈黙の春』新潮文庫 NHK取材班『NHKサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体1～6別巻1,2』日本放送出版協会 各 3,200 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 (世界, 日本)</p> <p>第 2回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 (世界, 日本)</p> <p>第 3回 栄養と食生活, 栄養学の歴史 (世界, 日本)</p> <p>第 4回 「消化吸収の妙-胃・腸」</p> <p>第 5回 栄養補給, 消化, 吸収, 栄養素の人体への取り入れ,</p> <p>第 6回 エネルギー代謝, 水分代謝</p> <p>第 7回 非栄養成分と人体 (小テスト)</p> <p>第 8回 「壮大な化学工場-肝臓」</p> <p>第 9回 栄養素とその機能</p> <p>第 10回 糖質の栄養と代謝</p> <p>第 11回 脂質の栄養 (小テスト)</p> <p>第 12回 タンパク質の栄養</p> <p>第 13回 ビタミンの栄養 1</p> <p>第 14回 ビタミンの栄養 2</p> <p>第 15回 無機質の栄養</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	鉾之原 昌
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小児栄養学</p> <p>【概要】 小児期の成長と発達を学び、乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期の特徴を理解し、各期の栄養の概説を述べる。また、各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める</p> <p>【到達目標】 小児の特徴を理解し、小児栄養の成長や発達における影響を把握し、小児が将来長生きできる成人になるように栄養法を考えられることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	『子育て・子育てを支援する小児栄養』堤ちはる, 土井正子編著 萌文書林, 2520 円		
授業スケジュール	<p>第 1回 人の生命と健康, アンケートと</p> <p>第 2回 小児の特徴, 小児期の分類</p> <p>第 3回 小児栄養の必要性と小児の病気の変遷, 保健統計</p> <p>第 4回 小児栄養の特徴, 栄養生理</p> <p>第 5回 乳児栄養特に母乳栄養について</p> <p>第 6回 幼児および学童期栄養, 栄養障害</p> <p>第 7回 小児の病気, 生活習慣病の予防</p> <p>第 8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	吉田 泰与
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ライフステージ別の健康と栄養及び病態栄養療法</p> <p>【概要】 日本人の食事摂取基準を基に食と健康について学習する。エネルギー及び栄養素摂取量の多少に起因する健康障害は、欠乏症または摂取不足によるものだけでなく、過剰によるものも存在する又栄養素摂取量の多少が生活習慣病の予防に関与する場合もある。これらに対応することを目的とした各ライフステージの健康と栄養の理解を深め、さらに病態栄養療法をも学ぶ。</p> <p>【到達目標】 個々に必要なエネルギー、たんぱく質等の栄養素摂取量算出及び栄養ケア・マネジメントの立案ができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 日本病態栄養学会編 『改定第3版 認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック』 メディカルレビュー社 3500円＋税</p> <p>厚生労働省策定 『日本人の食事摂取基準 2010年版』 第一出版 2800円＋税</p> <p>(2) 日本糖尿病協会 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 文光堂 900円＋税</p> <p>医歯薬出版編 『最新 日本食品成分表』 医歯薬出版 1600円＋税</p> <p>(日本食品標準成分表2010 アミノ酸成分表2010 五訂増補脂肪酸成分表 完全収載)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準による個々の推定エネルギー算出</p> <p>第2回 同上 たんぱく質及び他の栄養素摂取量</p> <p>第3回 ライフステージ別の栄養 成人期の生活活動 メタボリック・シンドローム 特定健診 特定保健指導</p> <p>第4回 同上 思春期 妊娠・授乳期 高齢期</p> <p>第5回 病態栄養と栄養療法 消化器疾患 代謝疾患 呼吸器疾患</p> <p>第6回 同上 循環器疾患 腎疾患</p> <p>第7回 同上 血液疾患 他 周産期医療 外科術前術後</p> <p>第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , レポート (40%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学実習	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ライフステージ別の健康と疾病予防, 臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】 妊娠, 乳幼児・・高齢期に至るまでの健康保持・疾病予防, 疾病の臨床的な栄養管理, つまり食品の選択から食品構成, 献立作成, 調理, 供食までを実際に行う。</p> <p>【到達目標】 ライフステージごとの食形態, 疾病により異なる栄養素配分の献立, 常食からの展開ができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 演習・実習 臨床栄養学栄養学各論 医歯薬出版 未定</p> <p>(2) 香川芳子監修 『五訂増補食品成分表2011』 女子栄養大学出版部</p> <p>『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』 第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 成長期 (乳児期, 幼児期, 学童期) の栄養的特徴</p> <p>第2回 妊娠, 授乳期の栄養学的特徴</p> <p>第3回 高齢期の栄養的特徴, 実習 (骨粗鬆症, 咀嚼嚥下困難食)</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 成人期の臨床栄養 (エネルギーコントロール食: 糖尿病食演習, 実習)</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 成人期の臨床栄養 (たんぱく質コントロール食: 腎臓病食演習, 実習)</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 成人期の臨床栄養 (ナトリウムコントロール食: 高血圧食演習, 実習)</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 成人期の臨床栄養 (脂質コントロール食: 脂質異常症食演習, 実習)</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 易消化食の特徴</p> <p>第14回 経腸栄養の特徴</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート50% 出席50%		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】食物栄養の専門知識においては、食物や栄養のことばかりでなく、消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器、組織、細胞を構造的、形態的、機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ、プリントなどとおして、それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学、栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、解剖生理学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント、講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p> <p>(2) NHK 取材班『NHK サイエンススペシャル 驚異の小宇宙・人体1～6別巻1,2』日本放送出版協会 各 3,200 円 『驚異の小宇宙・人体II 脳と心1～6』NHK 出版 各 3,200 円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「生命誕生」人体の構造と機能 (人体の大要、細胞、組織、器官と器官系、個体発生と系統発生)、</p> <p>第2回 人体の構造と機能1 (人体の大要、細胞、組織)</p> <p>第3回 人体の構造と機能2 (器官と器官系、個体発生と系統発生)</p> <p>第4回 生殖系 (生殖器とその機能) (小テスト)</p> <p>第5回 「しなやかなポンプー心臓・血管」循環系 (構成、血液、リンパ系、生理)</p> <p>第6回 循環系 (構成、血液、リンパ系、生理)</p> <p>第7回 呼吸系 (構成、生理) (小テスト)</p> <p>第8回 「なめらかな車携プレーー骨・筋肉」骨格系 (形状と構造、主要骨格とその連結、生理)</p> <p>第9回 筋系 (形状と構造、主要骨格筋、生理) (小テスト)</p> <p>第10回 「生命を守る一免疫」内分泌系 (内分泌腺の構造と機能)</p> <p>第11回 内分泌系 (内分泌腺の構造と機能)</p> <p>第12回 免疫系 (小テスト)</p> <p>第13回 「脳の構造と機能 (記憶、再生)」神経系 (神経系の概要、中枢神経系の構造と機能)</p> <p>第14回 神経系 (末梢神経系の構造と機能、自律神経系の構造と機能)</p> <p>第15回 感覚系 (感覚の種類、視覚器の構造と機能、聴覚器の構造と機能、味覚および嗅覚、体性感覚・内臓感覚、皮膚と体温調節 (皮膚の構造、皮膚の機能、体温の調節))</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%)、テスト (50%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	解剖生理学実験	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての解剖生理学的知識を、実験・観察・スケッチなどを通して、体得し深める。また、食品学実験における定性実験を基礎に、生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて、正確さ、根拠強さ、コミュニケーション能力などを養う。(なお、時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験、観察を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 奥恒行、高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己、三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1,785 円 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 実験の予備知識、実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第2回 骨格観察 (脳神経)</p> <p>第3回 骨格観察</p> <p>第4回 骨格観察</p> <p>第5回 人体モデル観察 (各種臓器) (腎臓解剖)</p> <p>第6回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第7回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第8回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第9回 組織観察 (肝臓、腎臓、脾臓、胃)</p> <p>第10回 血液(1)赤血球数算定、白血球数算定</p> <p>第11回 血液(2)ヘモグロビン量、ヘマトクリット値</p> <p>第12回 血液(3)血糖定量、血中タンパク質定量</p> <p>第13回 血液(4)血清コレステロール測定</p> <p>第14回 ラットの解剖</p> <p>第15回 器具洗浄、そうじ、まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (70%)、予習の状況、実験への取り組み状況 (30%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	生化学Ⅰ	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、糖質、タンパク質の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深める。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】脂質、糖質、タンパク質の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ら『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 生化学を学ぶ意義1 第 2回 生化学を学ぶ意義2 第 3回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 4回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 5回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 6回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など), (小テスト) 第 7回 アミノ酸の代謝 (アミノ基転移と脱アミノ, 尿素回路) 第 8回 アミノ酸の代謝 (アミノ酸の炭素骨格の代謝, 尿素以外の窒素化合物の代謝) 第 9回 アミノ酸の代謝 (アミノ酸代謝論), (小テスト) 第 10回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節) 第 11回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節), (小テスト) 第 12回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など) 第 13回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など) 第 14回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など) 第 15回 糖質の代謝 (解糖系, TCA回路など)</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅱ	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 脂質の代謝 (トリグリセリドの分解, 脂肪酸の酸化) 第 2回 脂質の代謝 (不飽和脂肪酸の酸化, ケトン体の生成・代謝) 第 3回 脂質の代謝 (脂肪酸の生合成など), (小テスト) 第 4回 核酸の代謝 (プリン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解) 第 5回 核酸の代謝 (ピリミジン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解) 第 6回 核酸の代謝 (核酸の合成と分解), (小テスト) 第 7回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学) 第 8回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学) 第 9回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学), (小テスト) 第 10回 生体機能の調節 (ビタミン) 第 11回 生体機能の調節 (ビタミン) 第 12回 生体機能の調節 (ビタミン) 第 13回 生体機能の調節 (ミネラル) (小テスト) 第 14回 生体機能の調節 (水), 血液, 尿 第 15回 生体機能の調節 (水), 血液, 尿</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50%), テスト (50%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定量的分析</p> <p>【概要】生化学は, 食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で, 人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について, 栄養成分の定量分析, 尿, ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて, 正確さ, 根気強さ, コミュニケーション能力などを養う。(なお, 時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験を通して, 生体成分, 栄養成分の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円 奥恒行,高橋正伸編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第 2 回 灰分, 脂肪, 食物繊維の定量 (解説)</p> <p>第 3 回 水分の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 4 回 ステロイドホルモンの分離定性 (解説, 実験)</p> <p>第 5 回 アミラーゼによる酵素実験 (解説, 実験)</p> <p>第 6 回 ビタミン B₂ の定性 (解説, 実験)</p> <p>第 7 回 ビタミン B₁ の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 8 回 タンパク質の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 9 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 10 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 11 回 カルシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 12 回 尿 (1) クレアチニン, カルシウム・マグネシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 13 回 尿 (2) ウロペーパー・タンパク, 糖, アセトン体</p> <p>第 14 回 器具洗浄</p> <p>第 15 回 まとめ, そうじ</p>		
成績評価の方法	レポート (70%), 予習の状況, 実験への取り組み状況 (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	瀬戸口 照夫
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは, 現代社会において, 健康問題が取り上げられているが, その原因を追求する。そして, 人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。生活習慣病を予防し, 健康を維持するため運動がどのような貢献ができるかを学ぶことである。</p> <p>【概要】講義では, 「現代社会の特徴と健康状態」, 「健康とは何か, 健康概念の変遷」, 「これまでの健康づくりとこれからの健康づくり」, 「運動による健康づくり」, 「健康づくりに適切な運動」, 「運動処方」, 「健康と心の健康」, 「健康生活と運動・スポーツ」, 「高齢化社会での運動・スポーツ」を講じていく。</p> <p>【到達目標】自分自身が, 測定で認識した自己の運動作業能力を今以上に高めるための方法を習得することと, 健康的な生活を送るための知識を獲得することを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 九州大学健康科学センター編『健康と運動の科学』大修館書店 1999 年 適宜, プリントによる資料も配布する。		
授業スケジュール	<p>第 1 回: 現代社会の特徴と健康状態 ・健康問題に留意しなければならぬ現代社会</p> <p>第 2 回: 健康とは何か, 健康概念の変遷 ・WHO の保健憲章と今日的健康的定義</p> <p>第 3 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (1) ・疾病対策から健康づくり</p> <p>第 4 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (2) ・消極的健康づくりから積極的健康づくり</p> <p>第 5 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (3) ・健康づくりの統合化</p> <p>第 6 回: 運動による健康づくり (1) ・ウォークによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 7 回: 運動による健康づくり (2) ・ペースウォークによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 8 回: 運動による健康づくり (3) ・ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定</p> <p>第 9 回: 運動による健康づくり (4) ・ペースジョギングにおける身体作業能力の測定</p> <p>第 10 回: 健康づくりに適切な運動 ・測定から得られたデータをもとに自己の運動計画作成</p> <p>第 11 回: 運動処方 ・疾病別の運動処方</p> <p>第 12 回: 運動と心の健康 ・ストレス解消法としての運動</p> <p>第 13 回: 健康生活と運動・スポーツ ・運動・スポーツの生活科</p> <p>第 14 回: 高齢化社会での運動とスポーツ ・年齢に応じた運動・スポーツ</p> <p>第 15 回: まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + ミニレポート (40%) を基準に, 総合的に評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	健康管理概論	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康を維持増進するために、病気の予防法について学ぶ</p> <p>【概要】人口統計及び疾病統計の現状について把握し、疾病の予防、健康維持増進の方法についての知識を習得することで、健康管理についての科学的な考え方や理解を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念について説明できる 2) 健康指標の意義について説明できる 3) 疾病の予防法について列挙できる 4) 主な感染症について、微生物と感染経路について列挙できる 5) 人口統計および疾病統計について把握し、健康維持の具体的方法について説明できる 6) 身の周りの生活環境や労働環境による健康障害について説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 松元秀明 よくわかる公衆衛生 金原出版</p> <p>(2) 国民衛生の動向など</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 健康の概念</p> <p>第 3回 健康の指標 1</p> <p>第 4回 健康の指標 2</p> <p>第 5回 疾病予防</p> <p>第 6回 感染症予防 1</p> <p>第 7回 感染症予防 2</p> <p>第 8回 健康の現状 1 人口統計</p> <p>第 9回 健康の現状 2 疾病統計</p> <p>第 10回 健康増進の施策</p> <p>第 11回 健康増進の実際 1</p> <p>第 12回 健康増進の実際 2</p> <p>第 13回 環境と健康障害</p> <p>第 14回 労働と健康障害</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	公衆衛生学	担当者	波多野 浩道
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】公衆衛生学およびその実践である公衆衛生の昨日、今日、明日</p> <p>【概要】人間の健康擁護のための学的体系つまり公衆衛生学とその実践つまり公衆衛生を理解する上で、基本となる疫学方法論の修得及び保健統計の読み方、主要な概念を修得する。</p> <p>過去に起こった公衆衛生上の出来事や現在のトピックを素材に、公衆衛生リテラシーを獲得できるように、講義と一部演習を取り入れる。</p> <p>【到達目標】公衆衛生学の主要な概念を用いることができる。保健統計の意味を解説できる。新聞報道等の公衆衛生トピックを理解することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 国民衛生の動向 2012/2013 年版, 厚生統計協会</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 公衆衛生とは; 新旧粉ミルク事件, Winslow C.E.A. の定義</p> <p>第 2回 公衆衛生史と New Public Health: WHO の理念と戦略を中心として</p> <p>第 3回 疫学 1: Snow と伝説疫学</p> <p>第 4回 疫学 2: 分析疫学, 介入疫学 (高木兼寛)</p> <p>第 5回 保健統計 1: 人口現象と生命表</p> <p>第 6回 保健統計 2: 健康指標とヘルスケアシステム評価</p> <p>第 7回 環境保健 1: 生態学的環境論と 4 大公害</p> <p>第 8回 環境保健 2: 地球環境保健と新興・再興感染症</p> <p>第 9回 地域保健活動 1 基本理念とヘルスサービスの構造</p> <p>第 10回 地域保健活動 2 母子保健, 学校保健</p> <p>第 11回 地域保健活動 3: 産業保健, 老人保健, 精神保健</p> <p>第 12回 地域保健活動 4: 感染症, 健康危機管理</p> <p>第 13回 公衆衛生行政 1: 健康づくり施策と医療計画</p> <p>第 14回 公衆衛生行政 2: 医療制度改革と社会保障</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%), 小論文 (20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	運動生理学	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身体活動による人体機能の変化について学ぶ</p> <p>【概要】運動を行った際の人体機能の変化を習得することで、運動習慣の必要性に関する科学的根拠を学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格筋の構造を把握し、筋繊維タイプ、筋収縮様式、エネルギー供給系について説明できる 2) 神経系の分類を把握し、ニューロンと興奮伝導、反射について説明できる 3) 運動と酸素摂取、エネルギー代謝について説明できる 4) 運動時の中心・末梢循環について説明できる 5) 運動と各種栄養素および水分摂取との関わりについて説明できる 6) 運動処方の方の6原則を説明できる 7) 老化による身体機能の変化について説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 勝田茂「運動生理20講」朝倉書店、「入門運動生理学」杏林書院</p> <p>(2) オストランド運動生理学、スポーツ栄養学、高所医学、など</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 体力</p> <p>第3回 筋肉1</p> <p>第4回 筋肉2</p> <p>第5回 神経1</p> <p>第6回 神経2</p> <p>第7回 呼吸</p> <p>第8回 エネルギー代謝</p> <p>第9回 循環</p> <p>第10回 運動と栄養1</p> <p>第11回 運動と栄養2</p> <p>第12回 運動処方1</p> <p>第13回 特殊環境と運動</p> <p>第14回 老化と運動</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『栄養士のための給食計画論』, 『栄養士のための給食実務論』 学建書院</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 給食の意義と目的(特定給食施設, 役割), 給食関連法規と行政指導</p> <p>第2回 経営・作業・人事管理</p> <p>第3回 施設・設備管理</p> <p>第4回 食材・原価管理</p> <p>第5回 大量調理, 作業工程</p> <p>第6回 栄養管理</p> <p>第7回 " "</p> <p>第8回 " 献立作成</p> <p>第9回 衛生・安全管理 "</p> <p>第10回 " "</p> <p>第11回 給食施設の種類と特性 "</p> <p>第12回 " "</p> <p>第13回 調査・研究, 栄養教育</p> <p>第14回 " "</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト40%, 試験60%		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅰ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期・後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス 【概要】 給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。 【到達目標】 給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』, 『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010年版』第一出版		
授業スケジュール	オリエンテーション (実習の概要) 献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 食材購入計画・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。 試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする 衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。 実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。 栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。 供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。 評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ (報告発表)		
成績評価の方法	実習ノート (20%) , 報告発表 (10%) , 実習態度及び出席 (70%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学外実習 給食施設 (事業所, 福祉施設など) での栄養士の給食業務 【概要】 学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】 給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』, 『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版, 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 給食施設の概要 2, 給食業務の流れ 3, 給食組織と業務分担および栄養士業務 4, 栄養教育 5, 献立内容 6, 大量調理の技術 7, 食材管理 8, 衛生管理 9, 各調査と評価 10, 実習終了後、学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート (20%) , 報告発表 (10%) , 実習態度および出席 (70%)		

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	給食管理実習Ⅲ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学外実習 給食施設 (学校) での栄養士の給食業務 【概要】 学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】 給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』, 『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』 医歯薬出版, 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』 女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010年版』 第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 給食施設の概要 2, 給食業務の流れ 3, 給食組織と業務分担および栄養士業務 4, 栄養教育 5, 献立内容 6, 大量調理の技術 7, 食材管理 8, 衛生管理 9, 各調査と評価 10, 実習終了後, 学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート (20%), 報告発表 (10%), 実習態度および出席 (70%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	栄養教育論	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概要】 栄養教育は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動の実践と習慣化をさせること、また、生活習慣病の増加に対応するためには、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。 【到達目標】 対象の実態とニーズに沿って、健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大里進子他著『演習栄養教育』 医歯薬 (2) 日本栄養士会編『平成24年度版管理栄養士 栄養士必携』 第一出版		
授業スケジュール	第1回 栄養教育の概念 (目的, 対象, 栄養教育の場, 法的根拠), 栄養教育の歴史 第2回 食行動変容と栄養教育 (行動科学, 個人・集団の態度, 社会の行動変容に関する理論) 第3回 食行動変容と栄養教育の実践 (保育所) 第4回 食行動変容と栄養教育の実践 (学校) 第5回 栄養教育のためのアセスメント (病院) 第6回 栄養教育マネジメント (栄養アセスメント, 栄養ケア, 栄養教育プランニング, 栄養教育の評価など) 第7回 栄養教育におけるカウンセリング 第8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%), 課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修 7.5回

授業科目	栄養指導論	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基本理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】本講義では、対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形づくった背景を正しく理解して、指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解させ、食生活の改善に導く正しい知識や方法を習得させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 厚生労働省策定『日本人の食事摂取基準 (2010年版)』第一出版 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病学会・文光堂 日本栄養士会編『平成24年度版管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第1回 栄養指導の目的、栄養指導の歴史 第2回 食事栄養摂取基準 (身体活動指数、エネルギー) 第3回 食事栄養摂取基準 (各栄養素) 第4回 食品構成 (各栄養素の基準量) 第5回 食品構成 (栄養比率) 第6回 栄養価の算定 (日本食品標準成分表の活用とその留意点) 第7回 各種調査による実態把握 (身体状況) 第8回 各種調査による実態把握 (生活時間) 第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査) 第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査) 第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導) 第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価) 第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動) 第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養) 第15回 まとめと試験 第16回 ライフステージと栄養指導 (妊産婦) 第17回 ライフステージと栄養指導 (乳・幼児期) 第18回 ライフステージと栄養指導 (学童期) 第19回 ライフステージと栄養指導 (思春期・青年期) 第20回 ライフステージと栄養指導 (壮年期) 第21回 ライフステージと栄養指導 (高齢期) 第22回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病) 第23回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 肥満症) 第24回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 高血圧症) 第25回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 糖尿病) 第26回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 脂質異常症) 第27回 学校給食と栄養指導 第28回 病院給食と栄養指導 第29回 事業所給食と栄養指導、福祉施設給食と栄養指導 第30回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%)、課題と小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論実習 I	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習 I では、事業所、学校での栄養指導・教育のシュミレーションを展開し、体験学習により栄養指導・教育に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】対象者（幼児、学童、生徒）への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬「プリント」</p> <p>(2) 日本栄養士会編 『平成24年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導実習の意義と目的</p> <p>第2回 栄養指導の基礎知識（食事摂取基準）</p> <p>第3回 栄養指導の基礎知識（食品構成の作成）</p> <p>第4回 実態把握の方法⑤食品構成の算定実習（その1）</p> <p>第5回 実態把握の方法⑥食品構成の算定実習（その2）</p> <p>第6回 栄養指導の基礎知識（献立作成、食生活指針）</p> <p>第7回 実態把握の方法 栄養・食事調査</p> <p>第8回 実態把握の方法 生活調査</p> <p>第9回 実態把握の方法 身体状況調査</p> <p>第10回 実態把握の方法 体力測定</p> <p>第11回 指導案の作成（基本）</p> <p>第12回 指導案の作成（実践用）</p> <p>第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 その1</p> <p>第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 その2</p> <p>第15回 発表・まとめ</p>		
成績評価の方法	課題（50%）、発表（40%）、出席状況（10%）により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論実習 II	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人・集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように、技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習 II では、病院での栄養指導のシュミレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。 (2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。 (3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬「プリント」</p> <p>(2) 日本栄養士会編 『平成24年版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成①</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成②</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 個別対応の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第8回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第9回 個別対応の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対応の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション その6とまとめ</p>		
成績評価の方法	発表（50%）、授業中に指示する課題と小テスト（40%）、出席状況（10%）により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	公衆栄養学	担当者	米盛 麻美
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式 (発表形式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 集団の健康問題が栄養上どのような因子に基づくのか、問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにしていく。</p> <p>【概要】 日本は、平均寿命延伸のなか、高齢化、医療費増大などの問題を抱えている。よって、障害や寝たきりではない状態で健康的に過ごせる期間である健康寿命の延伸が強く望まれている。そのような現状のなか、不適切な栄養摂取や生活習慣により引き起こされる生活習慣病対策としての、栄養士の活動は益々重要性を帯びている。</p> <p>【到達目標】 食の専門家である栄養士が疾患の予防のために、集団レベル、個人レベルで食生活における問題点を抽出し、その問題解決のために必要な食環境を含めた総合的かつ具体的に有効な方法を示すことができるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学 第3版 講談社サイエンティフィック</p> <p>(2) 栄養科学シリーズNEXT 栄養カウンセリング論 第2版 講談社サイエンティフィック</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 公衆栄養学の概念 第2回 公衆栄養学の歴史 第3回 わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状 第4回 わが国の栄養問題の現状と課題(1) 第5回 わが国の栄養問題の現状と課題(2) 第6回 食事摂取基準 第7回 わが国の栄養政策 第8回 地域栄養学 第9回 栄養疫学 第10回 実技(1) 第11回 実技(2) 第12回 公衆栄養学に必要な統計 第13回 国際栄養 第14回 公衆栄養学総括 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、実技(10%)、出席状況(10%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養情報処理	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養士が健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析、それを総合的に判断する能力を養うことである。</p> <p>【概要】 栄養士には、集めた情報を統計学的に処理し、客観的に評価することが求められている。そのためには、コンピュータを使用し、短時間で必要な情報をできる限り集め、分析するといったことは必要である。そこで、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 本実習は、栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 「プリント」		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育とコンピュータ コンピュータの役割、機能、実際 第2回～第6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 ・第2回 度数分布表、ヒストグラム ・第3回 平均値、標準偏差 ・第4回 棒・円・折れ線グラフ ・第5回 散布図・相関係数 ・第6回 回帰直線 第7回～第12回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 ・第7回 単純集計 ・第8回 クロス集計(オッズ比) ・第9回 確立分布 ・第10回 区間推定(母平均の区間推定、比率の区間推定) ・第11回 仮設の検定(平均の差の検定、比率の検定) ・第12回 クロス集計(独立性の検定) 第13回～第14回 コンピュータによる献立作成、栄養計算 ・第13回 コンピュータによる献立作成 ・第14回 コンピュータによる栄養計算 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、レポート(30%)、出席状況(10%)により評価する。		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅰ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い(将来経験するであろう)疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患(消化管疾患、肝疾患、代謝性疾患)の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 病態生理に基づく疾患の理解1 第2回: 病態生理に基づく疾患の理解2 第3回: 消化管疾患1 第4回: 消化管疾患2 第5回: 消化管疾患3 第6回: 消化管疾患4 第7回: 肝疾患1 第8回: 肝疾患2 第9回: 肝疾患3 第10回: 肝疾患4 第11回: 代謝性疾患1 第12回: 代謝性疾患2 第13回: 代謝性疾患3 第14回: 代謝性疾患4 第15回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業ごとに実施する小テスト(20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い(将来経験するであろう)疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患(循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患など)の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 循環器疾患1 第2回: 循環器疾患2 第3回: 循環器疾患3 第4回: 腎疾患と体液調節1 第5回: 腎疾患と体液調節2 第6回: 腎疾患と体液調節3 第7回: 呼吸器疾患1 第8回: 呼吸器疾患2 第9回: 内分泌疾患1 第10回: 内分泌疾患2 第11回: 血液疾患 第12回: 免疫とアレルギー 第13回: 発熱・感染症 第14回: 小児と妊産婦と臨床検査他 第15回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業ごとに実施する小テスト(20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学実習	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学外実習 病院での栄養士全般の業務による実習 【概要】 県内外の医療現場での2週間の実習で献立作成、給食業務と同様以下のような内容を学ぶ。 1, 医療に携わる他職種と連携を図ったチーム7医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2, 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、臨床栄養指導。 3, 対象者の心理を理解し信頼を得る。 【到達目標】 医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士の栄養管理業務の習得		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 臨床栄養学実習ノート (2) 『臨床栄養学栄養学実習書』 医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 院内における栄養部門の位置と役割 2, 病院給食管理業務の実際 3, 供食状況の実際 4, 病態栄養管理業務の実際 5, 栄養指導業務の実際 6, 栄養教育用媒体および指導評価の方法 実習終了後、報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート (20%) , 報告発表 (10%) , 実習態度および出席 (70%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	病理学	担当者	山田 博久
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 人体等における病気の成り立ち。 【概要】 1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるために同じ部分を繰り返し授業することもあります。 【到達目標】 管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしばった授業も可能ですが、表面的な知識のみあって実際の問題解決能力がない者を育てる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしばって程度の高い授業(医学部3-5年生相当)を行い、以後の自分での勉強を行う力をつけることを目標にします。		
使用教材 (1) テキスト (2) 参考文献	(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学 (2) 特に定めませんが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。 なお管理栄養士国家試験の医学系設問には(1)の教科書のみでは不十分です。講義の中でも説明します。		
授業スケジュール	第1回 病理学で学ぶこと 第2回 炎症, 免疫, 感染症 第3回 循環障害, 循環器, 呼吸器系の疾患 第4回 消化器系, 腎泌尿器系, 神経系, 内分泌系の疾患 第5回 先天異常, 遺伝子異常, 代謝障害, 腫瘍, 血液の疾患, 老化と死 第6回 補足, (症例など) 第7回 補足, (症例など) 第8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (50%) に加え授業中の発言 (25%) や学生からの質問 (25%) を併せて評価する。		

※ 7.5回

授業科目	学校栄養教育論	担当者	町田 和恵・木場 幸子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注)		
授業形態	講義方式		
テーマ, 概要及び到達目標	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校での年間指導計画の下に学校給食の時間や学級活動, 総合的な学習の時間などにおいて, 学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。児童・生徒の栄養に関する指導及び学校給食の管理をつかさどる栄養教諭は, これらを一体的に担う職員として, 教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要がある。学校給食を生きた教材として活用し, 効果的な指導を行うために, 栄養教諭の役割や職務内容, 食文化, 食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し, 学級担任や養護教諭, 学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために, 実践を兼ねた演習を行い, 知識や方法を修得させる。</p>		
使用教材 (1) テキスト (2) 参考文献	(1) 金田雅代『栄養教諭論』建帛社 (2) 坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版 山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習―新しい栄養指導3』東山書房 (3) 文部科学省「食生活学習教材」		
授業スケジュール	第1回～4回 栄養教諭の役割及び職務内容(担当:町田) ・第1回 児童・生徒に対する栄養指導と栄養管理の意義, 現状と課題 (児童・生徒の食事に関する実態把握, 分析等に必要事項を含む) ・第2回 栄養教諭の職務内容, 使命, 役割 ・第3回 学校給食の意義, 役割等 ・第4回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情, 法令及び諸制度 第5回 幼児・児童・生徒の栄養に係る諸課題(担当:町田) 第6回 児童・生徒の栄養に係る諸課題(国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む)(担当:木場) 第7回 食生活に関する歴史的及び文化的事項(担当:町田) 第8回～11回 食に関する指導の方法(対象実態把握等)(担当:木場) ・第8回 食に関する指導に係る全体的な計画の作成(計画・実施・評価) 給食の時間における食に関する指導(地場産品の活用含む) 栄養教諭が行う授業の特性, 発達に応じた食に関する指導, 食生活学習教材の活用 ・第9回 教科における食に関する指導(家庭科, 技術・家政科, 体育科, 保健体育科, その他の教科) 効果的な栄養教諭の授業参画 ・第10回 道徳, 特別活動における食に関する指導 生活科, 総合的な学習の時間における食に関する指導 ・第11回 食物アレルギー等食に関する特別な指導等を要する児童・生徒, 他の児童・生徒への指導上の配慮 第12回～14回 児童・生徒への指導上の配慮(担当:木場・町田) ・第12回 食に関する指導の指導案作り ・第13回 学生が作成した指導案の発表, 相互批評等 ・第14回 模擬授業, 指導効果の評価 ; ; 学校, 家庭, 地域と連携した食に関する指導 第15回 まとめ(担当:木場・町田)		
成績評価の方法	筆記試験の成績(80点), 課題と小テスト(20%)により評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	有機化学概論	担当者	釜田 忠																														
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自然界の物質や人工的に合成された物質の構造、性質、変化学の基礎知識について理解を深める。</p> <p>【概要】食物栄養専攻の専門科目や実験・実習を学んでいく上で化学の知識が要求される。本講義では化学の基礎的な知識を習得するために、原子、化学反応、化学結合、有機化学の基礎的な知識を学習する。</p> <p>【到達目標】食物栄養専攻で履修する専門科目の基礎科目であることを念頭に、「化学」という学問に親しみを感じる。そして、専門科目に必要な基礎的な知識を習得し、これから学んでいく専門科目の理解を一層深める手助けとなることを目標とする。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：ガイダンス</td> <td>・有機化学概論の概要説明</td> </tr> <tr> <td>第2回：原子の構造</td> <td>・電子構造と混成軌道</td> </tr> <tr> <td>第3回：化学結合</td> <td>・共有結合、イオン結合、配位結合、水素結合</td> </tr> <tr> <td>第4回：化学反応</td> <td>・化学反応と反応式</td> </tr> <tr> <td>第5回：酸化・還元</td> <td>・酸化・還元反応</td> </tr> <tr> <td>第6回：溶液の濃度</td> <td>・溶液の濃度（%、モル濃度、規程度）、中和滴定反応</td> </tr> <tr> <td>第7回：有機化合物</td> <td>・有機化合物の特徴、分子式と構造式</td> </tr> <tr> <td>第8回：異性体</td> <td>・構造異性体、立体異性体、光学異性体</td> </tr> <tr> <td>第9回：有機化合物の種類と反応1</td> <td>・脂肪族化合物</td> </tr> <tr> <td>第10回：有機化合物の種類と反応2</td> <td>・アルコール、エーテル、エステル</td> </tr> <tr> <td>第11回：有機化合物の種類と反応3</td> <td>・カルボニル化合物とカルボン酸</td> </tr> <tr> <td>第12回：有機化合物の種類と反応4</td> <td>・芳香族化合物と複素環式化合物乳</td> </tr> <tr> <td>第13回：有機化合物の反応</td> <td>・有機化学反応（付加反応、置換反応 etc）</td> </tr> <tr> <td>第14回：生体高分子</td> <td>・炭水化物とタンパク質</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：ガイダンス	・有機化学概論の概要説明	第2回：原子の構造	・電子構造と混成軌道	第3回：化学結合	・共有結合、イオン結合、配位結合、水素結合	第4回：化学反応	・化学反応と反応式	第5回：酸化・還元	・酸化・還元反応	第6回：溶液の濃度	・溶液の濃度（%、モル濃度、規程度）、中和滴定反応	第7回：有機化合物	・有機化合物の特徴、分子式と構造式	第8回：異性体	・構造異性体、立体異性体、光学異性体	第9回：有機化合物の種類と反応1	・脂肪族化合物	第10回：有機化合物の種類と反応2	・アルコール、エーテル、エステル	第11回：有機化合物の種類と反応3	・カルボニル化合物とカルボン酸	第12回：有機化合物の種類と反応4	・芳香族化合物と複素環式化合物乳	第13回：有機化合物の反応	・有機化学反応（付加反応、置換反応 etc）	第14回：生体高分子	・炭水化物とタンパク質	第15回：まとめ	
第1回：ガイダンス	・有機化学概論の概要説明																																
第2回：原子の構造	・電子構造と混成軌道																																
第3回：化学結合	・共有結合、イオン結合、配位結合、水素結合																																
第4回：化学反応	・化学反応と反応式																																
第5回：酸化・還元	・酸化・還元反応																																
第6回：溶液の濃度	・溶液の濃度（%、モル濃度、規程度）、中和滴定反応																																
第7回：有機化合物	・有機化合物の特徴、分子式と構造式																																
第8回：異性体	・構造異性体、立体異性体、光学異性体																																
第9回：有機化合物の種類と反応1	・脂肪族化合物																																
第10回：有機化合物の種類と反応2	・アルコール、エーテル、エステル																																
第11回：有機化合物の種類と反応3	・カルボニル化合物とカルボン酸																																
第12回：有機化合物の種類と反応4	・芳香族化合物と複素環式化合物乳																																
第13回：有機化合物の反応	・有機化学反応（付加反応、置換反応 etc）																																
第14回：生体高分子	・炭水化物とタンパク質																																
第15回：まとめ																																	
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）																																

授業科目	生物概論	担当者	多田 司																														
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。</p> <p>【概要】生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝子についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大島泰郎 監修『生命科学のための基礎シリーズ 生物』実教出版 2007年 適宜、プリントによる資料も配付する。</p> <p>(2) あれば講義中に紹介する。</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回 ガイダンス：生物概論を学習するにあたって</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回 分子から細胞へ：生体を構成する分子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回 細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回 細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回 遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回 遺伝情報とその複製：遺伝子の本体DNA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回 遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回 生殖と発生：減数分裂と性の決定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回 生殖と発生：配偶子形成と受精、発生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回 生命活動とエネルギー代謝：同化、異化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回 生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA回路、電子伝達系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回 生命活動とエネルギー代謝：光合成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回 個体の構造と機能：内分泌系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回 個体の構造と機能：神経系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回 個体の構造と機能：生体防御</td> <td></td> </tr> </table>			第1回 ガイダンス：生物概論を学習するにあたって		第2回 分子から細胞へ：生体を構成する分子		第3回 細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて		第4回 細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化		第5回 遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ		第6回 遺伝情報とその複製：遺伝子の本体DNA		第7回 遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ		第8回 生殖と発生：減数分裂と性の決定		第9回 生殖と発生：配偶子形成と受精、発生		第10回 生命活動とエネルギー代謝：同化、異化		第11回 生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA回路、電子伝達系		第12回 生命活動とエネルギー代謝：光合成		第13回 個体の構造と機能：内分泌系		第14回 個体の構造と機能：神経系		第15回 個体の構造と機能：生体防御	
第1回 ガイダンス：生物概論を学習するにあたって																																	
第2回 分子から細胞へ：生体を構成する分子																																	
第3回 細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて																																	
第4回 細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化																																	
第5回 遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ																																	
第6回 遺伝情報とその複製：遺伝子の本体DNA																																	
第7回 遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ																																	
第8回 生殖と発生：減数分裂と性の決定																																	
第9回 生殖と発生：配偶子形成と受精、発生																																	
第10回 生命活動とエネルギー代謝：同化、異化																																	
第11回 生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA回路、電子伝達系																																	
第12回 生命活動とエネルギー代謝：光合成																																	
第13回 個体の構造と機能：内分泌系																																	
第14回 個体の構造と機能：神経系																																	
第15回 個体の構造と機能：生体防御																																	
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。																																

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学	担当者	井余田 秀美
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの化学物質について学び、生活の様式や環境との関わりについて考える。</p> <p>【概要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで、自然の物をうまく利用したり、自然にはない有益な物を作り出して、生活のために活用してきている。しかしながら一方で、人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が、人の生活や自然環境を損なってきたりもしている。本講義では、生活の中の化学物質について学ぶ。</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 環境と人にやさしい「化学」田中春彦著(陪風館)をテキストとして使用する。 (2)		
授業スケジュール	第1回 空気 第2回 燃焼 第3回 金属の利用 第4回 水と水溶液 第5回 結晶 第6回 洗剤 第7回 光と物質 第8回 セラミックス 第9回 合成高分子 第10回 天然高分子 第11回 微量栄養素 第12回 化学物質と生体・環境 第13回 資源とエネルギー 第14回 放射能の利用 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験またはレポート		

授業科目	生活化学実験	担当者	井余田 秀美
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中の化学物質について理解し、その正しい取り扱いができるようにする。</p> <p>【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	第1回 実験全般の説明 第2～11回 衣食住の実験 染色 水の硬度 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 吸水性樹脂 食品の塩分濃度 第12～15回 生活環境の実験 pH の測定(生活, 土壌, 酸性雨) 脱酸素剤と使い捨てカイロ 木炭やシリカゲルと吸着		
成績評価の方法	レポート		

授業科目	色彩学	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】 「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』（監修 財団法人日本色彩研究所）</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 色とは：色が見える仕組み 第3回 色の記録・伝達方法1：色名 第4回 色の記録・伝達方法2：表色系 第5回 色の混合：加法混色・減法混色 第6回 照明：演色性 第7回 色彩の心理1：色の見えの効果 第8回 色彩の心理2：色のイメージ 第9回 色彩調和1：色彩調和の基本形式 第10回 色彩調和2：配色技法 第11回 色彩調和論 第12回 色彩計画 第13回 色と文化 第14回 商品と色 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業ごとに実施する小テスト（30%）		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目（学生便覧参照）

授業科目	コンポジション	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グラフィックデザインにおける基礎的なレイアウトの考え方を体験する。</p> <p>【概要】 雑誌・ポスター等のレイアウト研究を活かし、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】 レイアウトの研究・作品制作と講評を通じて、美しいレイアウトとはどういうものかを探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) なし（第1回目に説明する。）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 演習方式の説明等 第2回～第4回 「ドローイングソフトの説明と作図」：基本的な作図方法を学ぶ 第5回～第7回 「コンピュータを使用したレイアウト1」：様々なレイアウトの考え方と方法を体験する 第8回～第10回 「コンピュータを使用したレイアウト2」 第11回～第14回 「コンピュータを使用したレイアウト3」 第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度（30%）、提出作品（70%）で評価		

授業科目	デジタル造形基礎	担当者	北 一浩
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたグラフィックデザインの基礎的な操作法を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、グラフィック編集ソフトウェア「Adobe Illustrator」及び画像編集ソフトウェア「Adobe Photoshop」を使用した、コンピューターでのDTP（デスクトップ・パブリッシング）の基本操作技術を学ぶ。デジタルデザイン論との同時履修が望ましい。</p> <p>【到達目標】 主に印刷（DTP）のデザインワークに取り組むにあたり、基本となるコンピューターの操作とソフトウェアの操作方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：演習方式の説明等</p> <p>第2回 Illustrator 基本操作 1：オブジェクトの作成 線・塗りの設定</p> <p>第3回 実践課題 A：幾何形態色彩構成</p> <p>第4回 Illustrator 基本操作 2：パスの基本知識 ベジエ曲線</p> <p>第5回 実践課題 B：ベジエ曲線による作図</p> <p>第6回 Illustrator 基本操作 3：文字入力 フォント 文字のアウトライン化</p> <p>第7回 実践課題 C：タイポグラフィ構成</p> <p>第8回 Photoshop 基本操作 1：デジタル画像の特性 画像ファイル形式 カラーモードについて</p> <p>第9回 Photoshop 基本操作 2：デジタル画像の切り抜き エフェクト（フィルタ、効果、技法）</p> <p>第10回 実践課題 D：デジタルフォトコラージュ</p> <p>第11回 実践課題 D：デジタルフォトコラージュ</p> <p>第12回 Illustrator + Photoshop 連携：画像の配置 印刷</p> <p>第13回 応用課題：平面作品制作</p> <p>第14回 応用課題：平面作品制作</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	提出作品（70%） 出席と授業態度（30%）		

授業科目	テキスタイルサイエンス	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テキスタイル（布、織物）について、科学的な視点から学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服だけでなくインテリアなどの素材として広く用いられているテキスタイルについて、物理的、科学的基礎事項を中心に、そのデザインや製造工程までを学ぶ。適宜試料の観察や簡単な実験を取り入れ、科学的分析も試みる。</p> <p>【到達目標】 基礎事項を習得し、さらに習得した内容を今後のテキスタイル選択や購入に反映できるようになることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 テキスタイルの構造1：天然繊維</p> <p>第3回 テキスタイルの構造2：合成繊維</p> <p>第4回 テキスタイルの構造3：織物・編物</p> <p>第5回 テキスタイルの外観的性能1：理論</p> <p>第6回 テキスタイルの外観的性能2：観察・実験</p> <p>第7回 テキスタイルの物理的性能1：理論</p> <p>第8回 テキスタイルの物理的性能2：観察・実験</p> <p>第9回 テキスタイルの改良：新素材と機能性付与素材</p> <p>第10回 テキスタイルの製造工程</p> <p>第11回 テキスタイルのデザイン1：色</p> <p>第12回 テキスタイルのデザイン2：柄</p> <p>第13回 インテリアのテキスタイル</p> <p>第14回 鹿児島伝統のテキスタイル：大島紬</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）		

授業科目	ファッション造形基礎	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服の形態を理解し、基礎的な製作技術を習得する。</p> <p>【概要】立体的な人体を平面の布で包むための理論を解説する。ベーシックなデザインのワンピースの製作を通して、採寸・製図・裁断・仮縫い・縫製の流れを把握する。</p> <p>【到達目標】平面の布を立体化していくイメージをつかむ。縫製用具・機器の使用法を理解し、衣服の製作過程を経験する。合理的で美しい縫い方を身につけ、ファッション造形実習での応用につなげる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 八角節子『わかりやすい写真でマスターする 縫い方の基礎の基礎』文化出版局 文化服装学院 (編) 『服飾造形の基礎』文化服装学院教科書出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人体の構造と人体計測</p> <p>第2回 衣服のパターン(1)：平面構成と立体構成</p> <p>第3回 衣服のパターン(2)：ドレーピング</p> <p>第4回 衣服のパターン(3)：ピンワーク</p> <p>第5回 洋裁用具・機器の種類と扱い方</p> <p>第6回 基礎縫い(1) 運針</p> <p>第7回 基礎縫い(2) まつり縫い (普通まつり, 奥まつり, たてまつり, 流しまつり), 丈夫で美しい縫い方</p> <p>第8回 基礎縫い(3) ボタンつけ, スナップつけ, かがり縫い</p> <p>第9回 基礎縫い(4) ミシンとロックミシンの練習</p> <p>第10回 ワンピースの製作(1)：裁断, 印つけ</p> <p>第11回 ワンピースの製作(2)：仮縫い</p> <p>第12回 ワンピースの製作(3)：本縫い</p> <p>第13回 ワンピースの製作(4)：ファスナーつけ</p> <p>第14回 ワンピースの製作(5)：見返し, 裾</p> <p>第15回 ワンピースの製作(6)：まとめ</p>		
成績評価の方法	製作技術 (50%), 作業の着実性 (30%), プレゼンテーション (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	衣生活学	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活における衣服の役割を、ファッション、消費性能、環境、生活文化など多様な視点から考える。</p> <p>【概要】衣服は常に人体の近くにあり、第二の皮膚と言われる。衣服を着ることによって生じる人と衣服の相互作用、社会と衣服の相互作用を基本として、合理的で快適な衣生活を営むために必要な知識と感性について複合的に解説する。</p> <p>【到達目標】現在の衣生活について、近接環境としての衣服、自己表現としての衣服、生活文化としての衣服など多面的にアプローチして論じることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 田村照子『衣環境の科学』建帛社 文化服装学院『アパレル品質論』文化服装学院教科書出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近接環境としての衣服：空気を着る, 光を着る</p> <p>第2回 衣服の機能(1)：人体の構造と衣服の構成</p> <p>第3回 衣服の機能(2)：人体保護, 気候調整, 清潔</p> <p>第4回 衣服の成り立ち(1)：日本服飾史, 和服の構成の特徴</p> <p>第5回 衣服の成り立ち(2)：西洋服飾史, 立体構成の特徴</p> <p>第6回 自己表現としての衣服(1)：デザインとコーディネート, イメージマップ, 外見と評価</p> <p>第7回 自己表現としての衣服(2)：ファッション, モード, スタイル, プレタポルテ, 既製服</p> <p>第8回 自己表現としての衣服(3)：流行のメカニズム, ブランドの価値</p> <p>第9回 衣服の生産：繊維メーカー, テキスタイルメーカー, アパレルメーカー, 生産システム</p> <p>第10回 衣服の流通：アパレル卸売業, 小売業, ファッション情報</p> <p>第11回 衣服の消費：アパレル商品の分類と名称, 品質管理と消費性能, 価格</p> <p>第12回 衣服の取り扱い(1)：洗濯の条件, 洗濯機器, クリーニング</p> <p>第13回 衣服の取り扱い(2)：洗剤・仕上げ加工剤の種類と特徴, 保存</p> <p>第14回 衣生活にかかわる環境問題：資源・エネルギー問題, 化学物質のリスク, 生態系に及ぼす影響</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験 (80%), 授業中の課題 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	生活コロイド学	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。 【概要】 コロイドや界面の学問的基礎を説明し、次に日常の事柄、特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に、生活や環境での関連する事柄を取り上げ、最後に、生体に関する事に触れる。 1 界面とコロイドの基礎 2 環境とコロイド 3 生活とコロイド 4 生体とコロイド 【到達目標】 コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 北原文雄, 「界面・コロイド化学の基礎」講談社 水野上与志子他編, 「被服整理学」建帛社		
授業スケジュール	第 1～3 回 界面とコロイドの基礎 界面とコロイドとは 界面現象 コロイド (ミセル, 高分子, 粒子コロイド) 第 4～13 回 生活とコロイド 繊維, 染色, 洗濯 食品とコロイド 化粧品 第 14 回 環境とコロイド, 産業とコロイド, 生体とコロイド 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	試験またはレポート		

(注) 教職必修

授業科目	食物と栄養	担当者	釜田 忠
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 食品に含まれる成分の物理化学的性質とそれら食品成分の栄養効果について基礎的な知識を理解し、健康的な生活を送るための食生活の改善と栄養改善を目指す。 【概要】 食品学食品成分の化学, 食品成分からみた食品の特性, 食品成分の栄養効果について扱う学問である。一方栄養学はヒトまたは生物が栄養素を摂取し、最終的には栄養改善を図ることを学ぶ学問である。本講義では、健康の維持増進に必要な食品成分 (炭水化物, たんぱく質, 脂質, ビタミン, ミネラル) の基礎的な化学, 特性, 栄養効果について講義する。 【到達目標】 食品に含まれる栄養成分の特性, 栄養効果・生理機能について理解し、自らの食生活の改善に役立てることができる基礎的な知識を習得することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント		
授業スケジュール	第 1 回: イントロダクション • 講義内容の概要 第 2 回: 食品の分類と栄養素 第 3 回: 食品成分 1 • 水分の物理化学的性質と生理機能, 食品中の水の状態と水分活性 第 4 回: 食品成分 2 • 炭水化物 1 (炭水化物分類と物理化学的性質) 第 5 回: 食品成分 3 • 炭水化物 2 (炭水化物の栄養効果と食物繊維の特性と生理機能) 第 6 回: 食品成分 4 • タンパク質 1 (アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質) 第 7 回: 食品成分 5 • タンパク質 2 (タンパク質の栄養効果と生理機能) 第 8 回: 食品成分 6 • 脂質 1 (脂質の物理化学的性質) 第 9 回: 食品成分 7 • 脂質 2 (脂質の反応と栄養効果) 第 10 回: 食品成分 8 • 脂溶性ビタミン特性と生理機能 第 11 回: 食品成分 9 • 水溶性ビタミンの特性と生理機能 1 第 12 回: 食品成分 10 • 水溶性ビタミンの特性と生理機能 2 第 13 回: 食品成分 11 • ミネラルの特性と生理機能 1 第 14 回: 食品成分 12 • ミネラルの特性と生理機能 2 第 15 回: まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	調理学	担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食品素材を基礎的, 系統的, 科学的理論で解明し, 実際に役立てる。</p> <p>【概要】 ・「食物」についての自然科学的学習 ・「食べる側」についての社会科学的学习</p> <p>【到達目標】 調理学の意義を理解し, 実生活に応用できる能力をつける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 調理操作 I 第 3回 調理操作 II 第 4回 調理と味 I 第 5回 調理と味 II 第 6回 食品素材と調理 (果物と嗜好品について) 第 7回 食品素材と調理 (米・小麦について) 第 8回 食品素材と調理 (魚介類・食肉類について) 第 9回 食品素材と調理 (卵・豆について) 第 10回 食品素材と調理 (野菜類について) 第 11回 食品素材と調理 (でんぷん・油脂について) 第 12回 食品素材と調理 (香辛料・加工保蔵食品について) 第 13回 食事計画 第 14回 調理と安全 第 15回 「まとめ」		
成績評価の方法	「筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)」		

授業科目	卒業研究	担当者	多々良 尊子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 安全で快適な衣生活を営むために解決すべき課題について調査・研究し, 成果をまとめる。</p> <p>【概要】 衣生活においてどのような課題があるのか現状分析する。これまでに学習した内容を基に, 研究テーマを設定し, 文献の調べ方や社会調査の方法などを検討し, 実践する。その中から, 問題解決につながる独自の知見をみつける。</p> <p>【到達目標】 衣生活における様々な課題の中から研究テーマを見つけ, それにアプローチする方法を学習する。研究成果を発表することにより, 効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜, プリントを配布する。 (2) 鷲田清一『ファッション学のすべて』新書館 文化服装学院『コーディネートテクニック アパレル編 I』文化出版局		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ~ 第 4 回 研究方法の概説 (テーマの設定, 文献検索の方法, 調査の方法など) 第 5 回 ~ 第 23 回 各自で研究に取り組み, 適宜, 中間報告を行う 第 24 回 ~ 第 27 回 研究のまとめ 第 28 回 ~ 第 29 回 発表準備 第 30 回 口頭発表		
成績評価の方法	研究成果の評価 (60%), 研究発表 (20%), 議論参加の積極性 (20%)		

授業科目	卒業研究	担当者	井余田 秀美
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 自ら研究課題を設定し、課題探求と問題解決の能力を養う。</p> <p>【概要】 生活化学及び生活コロイド学の分野から基礎課題や応用課題を設定し取り組む</p> <p>【到達目標】 実験や演習を行うことにより、衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎5」 近藤保也著「優しいコロイドと界面の科学」</p>		
授業スケジュール	<p>第1～3回 研究課題の決定、参考資料の収集 第4～8回 予備実験 第9～22回 本実験 第23～第24回 まとめ 第25～第27回 論文作成 第28～第29回 発表準備 第30回 発表</p>		
成績評価の方法	口頭発表 (30%) と論文 (70%)		

授業科目	卒業研究	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 学校教育領域、対人関係領域に関する課題について、各自がテーマを設定し、心理学の研究方法を用いて、調査・分析し、成果をまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①□ 「研究」のプロセスを学ぶ ②□ 自分の意見をまとめ、表現できるようにすることを目指す。 ③□ 効果的なプレゼンテーションの方法を身につけることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方 第2回～第5回 心理学の研究方法及び基礎知識 第6回～第27回 テーマ設定、仮説生成、調査、分析、執筆（毎回の報告） 第28、29回 発表準備 第30回 発表会</p>		
成績評価の方法	授業での毎回の報告：30% 卒業論文70%		

授業科目	ビジュアルデザイン論	担当者	丸山 容爾
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人間が創り出してきたもののデザインに焦点を当てて鑑賞・考察し、今後のデザインの方向性を探る。</p> <p>【概要】デザインの変遷と、社会生活への影響を時代ごとの代表的作品を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】講義を通して、身の周りのデザイン作品の「用と美」を探究する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) テキストは、プリントしたものを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「文字の起源」：</p> <p>第3回 「文字と書写体」：世界各地の文字と書写体</p> <p>第4回 「文房四宝 1」：筆・紙・墨・硯</p> <p>第5回 「文房四宝 2」</p> <p>第6回 「書体・印刷 1」：和文・英文書体と印刷</p> <p>第7回 「書体・印刷 2」</p> <p>第8回 「書籍」：書籍の作り</p> <p>第9回 「現代の書籍 装幀」：書籍の編集とデザイン</p> <p>第10回 「現代のポスター」</p> <p>第11回 「欧米の現代デザイン」</p> <p>第12回 「欧米の現代デザイン」</p> <p>第13回 「日本の現代デザイン」</p> <p>第14回 「日本の現代デザイン」</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)，レポート (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	ビジュアルデザイン I	担当者	丸山 容爾
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】各種の平面構成やカラーージュ等を通じて、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】作品制作と講評を通じて、デザイン表現の理論と楽しさを体験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) なし (デザイン用具については、第1回目に説明する。)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」：実習方式の説明等</p> <p>第2回～第4回 「カラーージュ」：雑誌を使用したカラーージュ作成</p> <p>第5回～第7回 「平面構成」：相反するテーマをセットにして、色彩表現する</p> <p>第8回～第10回 「レタリング」：自分の名前を明朝体とゴシック体で書く</p> <p>第11回～第12回 「マーク」：テーマを決めて、マークを作成</p> <p>第13回～第14回 「エンボス」：厚紙によるエンボス作成</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)，提出作品 (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	ファッションデザイン論	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ファッションデザインの基礎を学び、ファッションの意味や表現方法について理解する。</p> <p>【概要】 身につける人の個性や社会性を、衣服やアクセサリなど形のあるものとして表現することがファッションである。人体とのかかわり、個性の表現、安全で快適な近接環境の形成、地域の生活文化など多様な要素から成り立っている。それらを、ファッションを企画・生産する立場と消費する立場の両面から見ていく。</p> <p>【到達目標】 ファッションデザインが、単に形を作るだけでなく、新たな価値を生み出すことだと理解し、自己表現力の向上につなげる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 文化服装学院編『服飾デザイン』文化出版局 千村典生『ファッションの歴史』平凡社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ファッションの意味：人体とのかかわり、社会性、時代性 第2回 ファッションで表現するもの：形のできるもの、できないもの 第3回 基礎デザインの応用(1)：シルエットとパターンの展開 第4回 基礎デザインの応用(2)：カラーコーディネート 第5回 基礎デザインの応用(3)：テクスチャーと柄 第6回 西洋服飾史(1)：古代から中世まで 第7回 西洋服飾史(2)：近世から現代まで 第8回 日本服飾史(1)：和服の成立と染織工芸の歴史 第9回 日本服飾史(2)：和服から洋服へ 第10回 デザイン様式とファッションの表現様式 第11回 ファッションデザイナーの誕生と個性 第12回 ファッションブランド：オートクチュールからファストファッションまで 第13回 ファッションイメージと自己表現 第14回 流行 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験 (80%) , デザインなどの課題 (20%)		

授業科目	ファッション造形 I	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を平面製図法で行う場合、基本となるパターン（原型）の把握が重要であるため、まず、上・下半身衣の原型について理解し、次に、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカートの・パンツ』(文化出版局)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 上半身衣の原型と展開1：製図 第3回 上半身衣の原型と展開2：製図展開 第4回 下半身衣の原型と展開 第5回 スカートの製図 第6回 表布の裁断、印つけ 第7回 仮縫い 第8回 試着、補正 第9回 裏布の裁断、印つけ 第10回 表布の縫製 第11回 ファスナーつけ 第12回 裏布の縫製 第13回 ベルトつけ 第14回 仕上げ 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	デジタルデザイン論	担当者	北 一浩
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたグラフィックデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 参考作品を通して、グラフィックデザインのアナログからデジタルへの変化を学び、また新たなメディアについても講義を行う。 デジタル造形基礎との同時履修が望ましい。</p> <p>【到達目標】 デザインを取り巻く環境を理解し、積極的にデジタル環境に慣れるようにする。また、デザインに携わっていくための知識や心得を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義方式の説明等</p> <p>第2回 グラフィックデザインの歴史</p> <p>第3回 デジタルデザインとは 1：デジタルの手法が普及する以前のグラフィックデザインの検証</p> <p>第4回 デジタルデザインとは 2：デジタルの手法が普及後のグラフィックデザインの検証</p> <p>第5回 デジタルデザインとは 3：デジタルの手法が普及後のグラフィックデザインの検証</p> <p>第6回 デジタルデザインとは 4：ウェブデザイン・映像作品の検証</p> <p>第7回 作品の研究 1：興味のあるグラフィックデザインの調査</p> <p>第8回 作品の研究 2：調査をもとにしたプレゼンテーション</p> <p>第9回 デジタルデザインの流れ 1：教員の過去の作品を題材にデジタルデザインのワークフローの解説</p> <p>第10回 デジタルデザインの流れ 2：教員の過去の作品を題材にデジタルデザインのワークフローの解説</p> <p>第11回 デザインの発想法 1：デザインの方法論 アイデアの出し方</p> <p>第12回 デザインの発想法 2：アイデアフラッシュの実践</p> <p>第13回 デザイナーの研究 1：興味のあるデザイナーの調査</p> <p>第14回 デザイナーの研究 2：調査をもとにしたプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内のプレゼンテーション (70%) 出席と授業態度 (30%)		

授業科目	デジタルデザイン	担当者	北 一浩
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたグラフィックデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】 デジタルデザイン論、デジタル造形基礎からの関連科目として、コンピューターを用いてより実践的な課題制作を行う。 デジタルデザイン論、デジタル造形基礎の履修が望ましい。</p> <p>【到達目標】 基礎デザインで習得した概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：実習方式の説明等</p> <p>第2回～第4回 カレンダー：数字のタイポグラフィデザインを活かしたカレンダーの制作</p> <p>第5回～第7回 4バリエーション：同一のテーマで以下の4種類の手法を用いたビジュアルの制作。 ストレートフォト・パスワーク・デジタルフォトコラージュ・テキストチャーのスキヤニングワーク</p> <p>第8回～第10回 広告制作：クライアントを想定した広告制作</p> <p>第11回～第14回 ブランディングデザイン：企業のブランディングデザイン</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	提出作品 (70%) 出席と授業態度 (30%)		

授業科目	卒業研究	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 2年 [単位] 4単位	[学期] 通年 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野の研究。</p> <p>【概要】 グラフィック・デザイン（芸術）に関連した分野から各自研究テーマを設定し、文献等による研究結果を基にディスカッションを重ねた上で、独自の見解をまとめ、これを発表する。</p> <p>【到達目標】 研究テーマを論文にまとめ、発表する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 参考文献は、研究テーマに合わせてそれぞれに紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 演習方式の説明等</p> <p>第2回～第5回 「研究テーマの検討と設定」</p> <p>第6回～第24回 「参考文献・資料収集」・「まとめとゼミ内発表」</p> <p>第25回～第29回 「まとめとゼミ内発表」</p> <p>第30回 発表</p>		
成績評価の方法	出席と研究態度（30%），論文および発表内容（70%）で評価		

授業科目	住生活学	担当者	揚村 固
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修（注）	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 人間の生活行為と住空間の関連について学ぶ。</p> <p>【概要】 住居の今日的課題について考えるときに、果たすべき役割を理解し、設計に必要な計画学的解決手法を知る。</p> <p>【到達目標】 住居のありかたと選択・取得・設計の際に注意すべきことを修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 内藤ほか「設計に活かす建築計画」 朝国者 2010 ISBN978-4-7615-2484-5</p> <p>(2) 小原二郎ほか「インテリアの計画と設計」 朝国社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 住居計画学1：住居の成立条件とプロセス</p> <p>第2回 住居計画学2：計画と設計の実際</p> <p>第3回 建築と住居1：住居存在</p> <p>第4回 建築と住居2：集合住宅</p> <p>第5回 建築と住居3：福祉施設と医療施設</p> <p>第6回 建築と住居4：公共施設と学校</p> <p>第7回 建築と住居5：図書館 博物館</p> <p>第8回 高齢者と居住：高齢者の特質と住空間</p> <p>第9回 計画・設計：手法と表現の基礎</p> <p>第10回 平面計画1：空間の性質とゾーニング</p> <p>第11回 平面計画2：アクティビティとシークエンス</p> <p>第12回 平面計画3：ユニバーサルデザインと住居・建築</p> <p>第13回 住宅問題：住環境問題 住宅政策</p> <p>第14回 我々はどう住むか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）による。		

(注) 教職必修、二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居史	担当者	揚村 固
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 現代住居を理解するうえで日本居住史の理解が欠かせない。 【概要】 日本固有の伝統のうえに成り立っている日本の住居の歴史とその特質を知る。 【到達目標】 講義では日本建築史を学びながら現代住居との関連でその姿を概括し、世界の住居とも比較しながら検討の材料とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) コンパクト版建築史 日本・西洋 「建築史」編集委員会編著 ISBN9784-4-395-00876-6		
授業スケジュール	第1回 建築史序説 : 歴史と住居 上古の住まい方 竪穴式住居と高床式住居 第2回 古代建築 : 神社建築と住居 仏教建築と住居 貴族住居・都城の成立 第3回 中世の建築と住居1 : 浄土建築 大仏様 禅宗様 主殿造り) 第4回 中世の建築と住居2 : 和洋 折衷様 中世住居から書院の成立 第5回 近世の建築と住居1 : 座敷と玄関の成立 第6回 近世の建築と住居2 : 茶室と数寄屋 第7回 近世の建築と住居3 : 民家 町家と農家 第8回 近代の建築と住居4 : 洋風住宅と近代化 第9回 西洋建築史概論1 : エジプト オリエント ギリシャ 第10回 西洋建築史概論2 : ローマ 初期キリスト教 ビザンチン ロマネスク 第11回 西洋建築史概論3 : ゴシック ルネッサンス バロック リヴァイバル 第12回 西洋建築史概論4 : 産業革命と近代建築 第13回 アジアの住居と集落 : 中国(台湾) 朝鮮半島 インドネシア 第14回 現代の建築と住居 : モダニズム ポストモダニズム 日本現代建築 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%) による。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居・インテリア設計学	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 住居・インテリアのプランニングと図面表現について 【概要】 建築・インテリア設計のプロセスにおいて必要となる「考える図面」と「伝える図面」について理解し、設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでの応用につなげる。具体的には、プランニング(エスキス)や図面表現(平・立・断・展開・天伏・配置図、立体・パース図)、プレゼンテーション等の手法について学ぶ。また、図面表現と関連させながら建築空間を構成する様々なインテリア・エクステリア要素についても学ぶ。 【到達目標】 設計プロセスにおけるプランニングを理解し、図面を用いて他者に建築構想を伝えることができる		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 生活デザイン設計室・サンク『間取りの読み方・描き方』日本実業出版社、増田奏『住まいの解剖図鑑』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第1回 設計のプロセス : 設計の業務内容とプロセス 第2回 様々な図面表現1 : 配置図, 平面図, 立面図 第3回 様々な図面表現2 : 断面図, 展開図, 天井伏図 第4回 透視図1 : 一点透視図 第5回 透視図2 : 二点透視図 第6回 透視図3 : アイソメ図, アクソメ図 第7回 インテリアエレメント1 : 照明, 家具, 設備, 他 第8回 インテリアエレメント2 : 床, 壁, 開口部, 他 第9回 身体寸法と単位空間 : 校内サーベイ 第10回 建築プランニング1 : 設計条件の整理と設定・所要室の広さ 第11回 建築プランニング2 : 敷地のデザイン 第12回 建築プランニング3 : 平面計画 第13回 建築プランニング4 : 外観と断面のデザイン 第14回 建築プレゼンテーション : 作品プレゼンテーションの手法 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の課題 (70%) + レポート (30%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅰ	担当者	揚村 固
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テ ー マ】 設計製図Ⅰ は住居を計画・設計するときに必要な図法と表現法を習得する。 【概 要】 実習は設計製図法の基礎から始め、単位空間から住居空間にいたる計画・設計を行う。 【到達目標】 小住宅の設計に必要な図面製作と模型製作の方法を習得して発表する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 製図基礎1 : 線の種類と意味 模写 第2回 製図基礎2 : 平面記号の練習 模写 第3回 作品研究プレゼンテーション : プレゼンテーション 第4回 小空間の計画 : 平面図 立面図の製作 第5回 小空間の製作 : 断面図 その他の製作 第6回 模型による表現 : 模型表現基礎 第7回 小住宅の計画と設計1 : 作品構想プレゼンテーション 第8回 小住宅の計画と設計2 : 平面計画と平面図1 第9回 小住宅の計画と設計3 : 平面計画と平面図2 第10回 模型製作1 : 模型製作 第11回 模型製作2 : 模型製作 第12回 模型製作3 : 模型製作 第13回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第14回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第15回 成果発表 : プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物 (100%) の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅱ	担当者	揚村 固
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テ ー マ】 各種詳細図の表現法を習得したうえで、小住宅を計画・設計する。模型を製作してこれを完成させる。 <u>注) 住居・インテリア設計学の履修が望ましい。</u> 【概 要】 3世代住宅の計画と設計を行い、図面と模型でこれを表現し、発表する。 【到達目標】 詳細図の表現を修得し、住宅設計の成果をわかりやすくプレゼンテーションする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 平面詳細図1 : 真壁と大壁 第2回 平面詳細図2 : 開口部: ドア 第3回 平面詳細図3 : 開口部: 窓 第4回 平面詳細図4 : 開口部: 和室建具 第5回 平面詳細図5 : 開口部: 木造平面図 第6回 断面詳細図1 : 断面図 第7回 断面詳細図2 : 矩計詳細図 第8回 断面詳細図3 : 計詳細図 第9回 住宅の計画と設計 : 計画と設計 第10回 住宅の計画と設計 : 計画と設計 第11回 住宅の計画と設計 : 模型制作 第12回 住宅の計画と設計 : 模型制作 第13回 住宅の計画と設計 : 模型とプレゼンテーションボードの制作 第14回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第15回 成果発表 : プレゼンテーションとまとめ		
成績評価の方法	成果物 (100%) の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得C科目(学生便覧参照)

授 業 科 目	住居構造学Ⅰ	担当者	徳富 久二																																																												
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式																																																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居を主とする建築物を構成する要素とその特徴および構築するための構造方式について学ぶ</p> <p>【概要】 建物にはたらく力 木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、基礎などの概要と特徴について講述する。</p> <p>【到達目標】 さまざまな構造形式に対応した構工法など建築全般について、二級建築士を受験するための知識を基礎に蓄積する。</p>																																																														
(1) テキスト (2) 参考文献	図説 やさしい建築一般構造, 今村仁美・田中美都, 学芸出版社																																																														
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>建物にはたらく力</td><td>.....</td><td>建物にはたらく力</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>木構造</td><td>1</td><td>木材の特徴と性質</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>〃</td><td>2</td><td>木構造の構造形式</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>〃</td><td>3</td><td>在来工法 枠組壁工法</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>鉄骨造</td><td>1</td><td>鋼材の特徴と性質</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>〃</td><td>2</td><td>鉄骨造の接合と各部の構法</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>鉄筋コンクリート造</td><td>1</td><td>鉄筋とコンクリートの特徴と性質</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>〃</td><td>2</td><td>鉄筋コンクリート造の原理と構造形式</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>〃</td><td>3</td><td>鉄筋の配筋, 各部の構法</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>〃</td><td>4</td><td>壁式鉄筋コンクリート造</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>その他の構造</td><td>.....</td><td>鉄骨鉄筋コンクリート造 プレストレストコンクリート造 基礎</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>下地と仕上げ</td><td>1</td><td>屋根, 壁, 床</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>〃</td><td>2</td><td>天井 防水</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>〃</td><td>3</td><td>開口部 階段</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td><td></td></tr> </table>			第1回	建物にはたらく力	建物にはたらく力	第2回	木構造	1	木材の特徴と性質	第3回	〃	2	木構造の構造形式	第4回	〃	3	在来工法 枠組壁工法	第5回	鉄骨造	1	鋼材の特徴と性質	第6回	〃	2	鉄骨造の接合と各部の構法	第7回	鉄筋コンクリート造	1	鉄筋とコンクリートの特徴と性質	第8回	〃	2	鉄筋コンクリート造の原理と構造形式	第9回	〃	3	鉄筋の配筋, 各部の構法	第10回	〃	4	壁式鉄筋コンクリート造	第11回	その他の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 プレストレストコンクリート造 基礎	第12回	下地と仕上げ	1	屋根, 壁, 床	第13回	〃	2	天井 防水	第14回	〃	3	開口部 階段	第15回	まとめ		
第1回	建物にはたらく力	建物にはたらく力																																																												
第2回	木構造	1	木材の特徴と性質																																																												
第3回	〃	2	木構造の構造形式																																																												
第4回	〃	3	在来工法 枠組壁工法																																																												
第5回	鉄骨造	1	鋼材の特徴と性質																																																												
第6回	〃	2	鉄骨造の接合と各部の構法																																																												
第7回	鉄筋コンクリート造	1	鉄筋とコンクリートの特徴と性質																																																												
第8回	〃	2	鉄筋コンクリート造の原理と構造形式																																																												
第9回	〃	3	鉄筋の配筋, 各部の構法																																																												
第10回	〃	4	壁式鉄筋コンクリート造																																																												
第11回	その他の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 プレストレストコンクリート造 基礎																																																												
第12回	下地と仕上げ	1	屋根, 壁, 床																																																												
第13回	〃	2	天井 防水																																																												
第14回	〃	3	開口部 階段																																																												
第15回	まとめ																																																														
成績評価の方法	筆記試験(60%) + レポート(40%)																																																														

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授 業 科 目	住居構造学Ⅱ	担当者	徳富 久二																																																												
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式																																																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 構造物の安全性と力学との関わりについて学ぶ</p> <p>【概要】 構造物に作用する力によって、構造物の柱、はりなどの部材に生じる力を求め、安全性を検討する</p> <p>【到達目標】 静定構造物、トラスの応力を求め、変形を求める基本的手法、不静定構造物の基本的考え方など2級建築士の基礎としての力学を理解する。</p>																																																														
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント [演習 初等構造力学]																																																														
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>構造物の安全性</td><td>.....</td><td>講義の概要 構造物の安全性を検討するには</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>力の釣合</td><td>1</td><td>表現, 記号と単位,</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>〃</td><td>2</td><td>力の合成と分解, 構造物の支持状態</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>〃</td><td>3</td><td>構造物の反力, 静定と不静定, 安定と不安定</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>片持はり, 単純はり</td><td>1</td><td>応力 力の釣合と軸方向力, せん断力, モーメントと曲げモーメント</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>〃</td><td>2</td><td>応力図(軸方向力図, せん断力図, 曲げモーメント図)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>門型静定ラーメン</td><td>.....</td><td>図式解法と数式解法</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>静定構造物の演習</td><td>.....</td><td>各種静定構造物の応力図</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>トラス骨組の解析</td><td>.....</td><td>力の釣合の表現 切断法</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>材料の試験 応力度</td><td>.....</td><td>応力度とひずみ度 断面内の応力</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>断面の性質</td><td>.....</td><td>断面1次モーメント 断面2次モーメント</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>曲げモーメント, せん断力による応力</td><td>.....</td><td>曲げ応力度, せん断応力度</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>柱の圧縮</td><td>.....</td><td>短柱の圧縮 長柱の圧縮(座屈)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>不静定構造物(1次不静定)</td><td>.....</td><td>不静定構造物の考え方 1次不静定構造物の解法</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td><td></td></tr> </table>			第1回	構造物の安全性	講義の概要 構造物の安全性を検討するには	第2回	力の釣合	1	表現, 記号と単位,	第3回	〃	2	力の合成と分解, 構造物の支持状態	第4回	〃	3	構造物の反力, 静定と不静定, 安定と不安定	第5回	片持はり, 単純はり	1	応力 力の釣合と軸方向力, せん断力, モーメントと曲げモーメント	第6回	〃	2	応力図(軸方向力図, せん断力図, 曲げモーメント図)	第7回	門型静定ラーメン	図式解法と数式解法	第8回	静定構造物の演習	各種静定構造物の応力図	第9回	トラス骨組の解析	力の釣合の表現 切断法	第10回	材料の試験 応力度	応力度とひずみ度 断面内の応力	第11回	断面の性質	断面1次モーメント 断面2次モーメント	第12回	曲げモーメント, せん断力による応力	曲げ応力度, せん断応力度	第13回	柱の圧縮	短柱の圧縮 長柱の圧縮(座屈)	第14回	不静定構造物(1次不静定)	不静定構造物の考え方 1次不静定構造物の解法	第15回	まとめ		
第1回	構造物の安全性	講義の概要 構造物の安全性を検討するには																																																												
第2回	力の釣合	1	表現, 記号と単位,																																																												
第3回	〃	2	力の合成と分解, 構造物の支持状態																																																												
第4回	〃	3	構造物の反力, 静定と不静定, 安定と不安定																																																												
第5回	片持はり, 単純はり	1	応力 力の釣合と軸方向力, せん断力, モーメントと曲げモーメント																																																												
第6回	〃	2	応力図(軸方向力図, せん断力図, 曲げモーメント図)																																																												
第7回	門型静定ラーメン	図式解法と数式解法																																																												
第8回	静定構造物の演習	各種静定構造物の応力図																																																												
第9回	トラス骨組の解析	力の釣合の表現 切断法																																																												
第10回	材料の試験 応力度	応力度とひずみ度 断面内の応力																																																												
第11回	断面の性質	断面1次モーメント 断面2次モーメント																																																												
第12回	曲げモーメント, せん断力による応力	曲げ応力度, せん断応力度																																																												
第13回	柱の圧縮	短柱の圧縮 長柱の圧縮(座屈)																																																												
第14回	不静定構造物(1次不静定)	不静定構造物の考え方 1次不静定構造物の解法																																																												
第15回	まとめ																																																														
成績評価の方法	筆記試験(60%) + レポート(40%)																																																														

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居環境学	担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 快適で環境に優しい住いや建築物の計画</p> <p>【概要】 居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（熱・光・音・空気・水環境）をバランスよく適切に調整しなければならぬ。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社		
授業スケジュール	第1回 気候と建築環境 第2回 建築環境と建築設備 第3回 光環境計画 第4回 照明設備計画 第5回 熱環境計画1 第6回 熱環境計画2 第7回 空調設備計画 第8回 住まいと結露	第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	音環境計画1 音環境計画2 空気環境計画1 (室内空気汚染) 空気環境計画2 (通風、換気) 換気設備計画 給排水設備計画 定期試験
成績評価の方法	筆記試験 (80%) とレポート (20%) で評価する。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居環境学演習	担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身近な居住環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】 居住環境の物理環境（熱・光・音・空気など）の測定を行い、測定データに基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態、環境共生住宅に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)三浦昌生 著, 基礎力が身につく建築環境工学, 森北出版株式会社およびプリント		
授業スケジュール	第1回 クリモグラフの作成と 気候に適した住居形態調査 第2回 日影図の作成と日照環境の 評価 第3回 教室の照度分布測定 第4回 照明計算 第5回 レポート発表会 第6回 屋外気候の測定 第7回 室内気候の測定	第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	定常結露計算 交通騒音測定 教室の騒音測定 レポート発表会 CO ₂ 濃度等の測定と評価 HCHO及び揮発性有機化合物の濃度測定及び評価 環境共生住宅に関する調査 レポート発表会
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度, レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目, インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	建築材料学	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】 住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質 【概 要】 どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。 【到達目標】 講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について、工種毎に理解することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 松本進 『図説 やさしい建築材料』 学芸出版社 (2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社		
授業スケジュール	第 1回 構法と建築材料 第 2回 主要構造部材と仕上材 第 3回 木材1 特性 第 4回 木材2 用法 第 5回 木材3 種類と用法 第 6回 コンクリート1 特性 第 7回 コンクリート2 配合と強度 第 8回 コンクリート3 製作 第 9回 鉄材1 鉄筋 第 10回 鉄材2 鉄骨と接合 第 11回 その他の主要材料 (石・左官・ガラス・建具) 第 12回 材料の力学 (曲がりにくさ) 第 13回 環境にやさしい建築材料 第 14回 材料の積算 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	建築生産	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テ ー マ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ。 【概 要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で、建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。 【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 今村仁美, 田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社 (2) 久富洋, 古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社		
授業スケジュール	第 1回 構法と施工過程 第 2回 木構造と木工事 第 3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事 第 4回 鉄骨構造 その他の構造 第 5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事 第 6回 施工計画と管理 第 7回 契約と実行 第 8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照) 7.5回

授業科目	建築法規	担当者	西菌 幸弘
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (二級建築士資格取得希望者には必須) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 建築物の安全や衛生を守り、都市の防災対策や街並みを形成するための基準である建築基準法 【概要】 建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、社会資本でもある。建築物は、建築基準法など建築法規に適合させる必要がある。建築物の構造安全性、防火規定、室内環境、避難規定、集団規定など建築物の基本法としての建築基準法について、解説する。 【到達目標】 建築物、特に住宅を建築する際に、必要な建築法規の基礎を理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	超入門 建築基準法—イラスト解説による—		
授業スケジュール	第 1回 建築基準法の基礎 1 建築基準法の目的と構成 2 法規を理解するための用語、面積や高さの算定方法等 第 2回 構造耐力に関する規定 1 荷重や外力に対し安全性を確保するための構造計算に関する規定 2 木造、鉄筋コンクリート造等の構造方法に関する規定 第 3回 防火に関する規定 1 耐火建築物等しなければならない特殊建築物 2 火災の拡大を防止する防火区画 第 4回 室内環境に関する規定 1 室内の環境を守る採光・換気 2 シックハウス対策等 第 5回 避難に関する規定 1 安全に避難するための内装制限、廊下や直通階段等 2 排煙設備、非常用照明設備等 第 6回 位置や形状に関する規定 1 都市計画区域内の道路と敷地 2 用途制限 3 容積率、建ぺい率、高さ制限等の形態規制 第 7回 その他の関係法令 1 建築基準法に基づく手続き 2 建築士法、都市計画法の建築関連法 第 8回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照) 7.5回

授業科目	CAD設計	担当者	宍戸 克実
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義(演習を含む)方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 建設の実務において必須のものとなっている CAD を用いて 2次元図面の作成法を学ぶ 【概要】 2次元 CAD の概念と基礎を学び、建築図面の作成法を習得する 【到達目標】 CAD ソフトを使いこなし、基本的な 2次元建築図面を作成することができる		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に指示		
授業スケジュール	第 1回 CAD 設計の概念と基礎 第 2回 基本操作 : 2次元 CAD とレイヤの概念、縮尺、単位 第 3回 基本操作 : 基準線と下書き線 第 4回 基本操作 : 開口部、建具 第 5回 基本操作 : 寸法線、その他 第 6回 平面図 : 基準線と下書き線、躯体と建具 第 7回 平面図 : 設備と家具 第 8回 平面図 : 寸法と室名 第 9回 断面図 : 基準線と下書き線、躯体と建具 第 10回 断面図 : 開口部、建具、寸法線、その他 第 11回 立面図 : 基準線と下書き線、その他 第 12回 立面図 : 仕上げと背景作図 第 13回 プレゼンテーション : データ取り出し、図面加工 第 14回 プレゼンテーション : 図面レイアウト 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	成果物 (100%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得科目、インテリアプランナー登録資格取得B科目(学生便覧参照)

授業科目	卒業研究	担当者	揚村 固
	[履修年次] 2年 [単位] 4単位	[学期] 通年 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居と建築にまつわる興味深いテーマについて独自に設定・探求し、結論を得てプレゼンテーションする。</p> <p>【概要】 住生活学と住居設計学に関連する分野からディスカッションのうえ特定の研究課題を設定する。これまでの知見を整理し、未解決の問題を明らかにして、調査・実験・制作を通して独自の成果をまとめ、これを発表する。（特定の設計課題を意図した住居・建築の設計も含む。）</p> <p>【到達目標】 研究テーマの設定、調査研究、まとめ、発表までのプロセスを経験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) テーマによって適宜		
授業スケジュール	第1回～第3回 研究基礎 第4回～第5回 テーマ設定とプレゼン1 第6回～第8回 テーマ設定と研究方針の検討 第9回～第12回 研究調査 第13回～第15回 中間発表1 第16回～第18回 研究方針の検討 第19回～第22回 調査研究 第23回～第24回 中間発表2 第24回～第27回 研究調査 第28回～第29回 まとめと発表準備 第30回 発表		
成績評価の方法	課題発表 (50%) 研究成果物 (50%)		

授業科目	消費者問題	担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「消費者問題を通して考えるー自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】 規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】 消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護の対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。 (2) 講義時に必要な際は紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、消費者問題概論① 第2回 消費者問題概論② 第3回 消費者問題の歴史 第4回 悪徳商法と消費者問題 第5回 ネット社会と消費者問題 第6回 消費者の権利と法的保護① 第7回 消費者の権利と法的保護② 第8回 消費者金融（クレジット・サラ金）問題 第9回 安心・安全と消費者問題① 第10回 安心・安全と消費者問題② 第11回 商品・サービスと消費者問題① 第12回 商品・サービスと消費者問題② 第13回 消費生活と環境問題 第14回 消費者の未来像ー消費者主権の社会づくり 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、提出物（20%）、定期試験（60%）による総合評価		

授業科目	衣生活学実習	担当者	多々良 尊子
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣生活における消費者の視点は、量から質へ、機能的から感性へと変化している。素材や加工剤の多様化、感性重視の商品開発が行なわれる中で、安全・安心な衣生活を営むためには、消費科学的知識が不可欠である。社会的な問題を抽出し、それを解決するための要因を整理して、今後の課題をまとめる。</p> <p>【概要】衣服の機能性を調べる実験や消費者問題にかかわる演習を行ない、衣生活の安全・安心について考える。また、鹿児島県の衣生活文化について調査する。</p> <p>【到達目標】衣生活にかかわる社会的な課題に主体的に取り組み、解決することができる。鹿児島県の衣生活文化について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 田中直人・箕寺貞子『ユニバーサルファッション』中央法規 日下部信幸『衣生活のもの作りと科学実験』家政教育社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 衣生活の安全・安心にかかわる課題 第2回 衣服の消費性能試験(1) 織物・編物の構造 第3回 衣服の消費性能試験(2) 保温性 第4回 衣服の消費性能試験(3) 吸湿性 第5回 衣服の消費性能試験(4) 織物・編物の製作 第6回 衣服の品質表示の規程と問題点 第7回 衣服のサイズ表示の規程と問題点 第8回 せっけん・洗剤類の表示規程と問題点 第9回 ユニバーサルファッション(1) 動作、姿勢、障がいと衣服の構成、加齢による体型変化とサイズ対応 第10回 ユニバーサルファッション(2) 生活を楽しみ、社会参加を促進するデザイン 第11回 ドレーピングの基礎(1) ピンワーク 第12回 ドレーピングの基礎(2) 素材別別のドレーピング 第13回 鹿児島県の衣生活の歴史 第14回 鹿児島県の伝統的な衣生活について聞き取り調査 第15回 プレゼンテーション</p>		
成績評価の方法	レポート3回(60%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークにおける貢献度(20%)		

授業科目	衣造形実習Ⅲ	担当者	多々良 尊子
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平面構成(和裁)の基礎的な理論と縫製技術を学ぶ。</p> <p>【概要】和服の構成は非常に合理的で、仕立て直しやリメイクが容易で、長く着用できる。一方で、着装が難しく、コーディネートルールも多い。大裁単衣長着を製作し、和服の構成の特徴を理解する。自分で製作したものを自分で着る経験から多くのものを得ることができるはずである。</p> <p>【到達目標】ゆかたの縫製と着付けを習得する。それにより、日本の衣生活文化の理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 高野道子・佐藤孝子『はじめての和裁』永岡書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 和服の種類と構成の特徴 第2回 大裁単衣長着の構成 第3回 和裁の基礎：和裁用具、基礎縫い 第4回 ゆかたの製作(1) 見積もり、柄合わせ、裁断 第5回 ゆかたの製作(2) 身頃の印つけ、背縫い 第6回 ゆかたの製作(3) 衤の印つけ、衤つけ 第7回 ゆかたの製作(4) 脇縫い、脇縫代の始末 第8回 ゆかたの製作(5) 裾～衤下 第9～11回 ゆかたの製作(6) 衤の印つけ、衤つけ、共衤つけ 第12～13回 ゆかたの製作(7) 袖の印つけ、袖つけ 第14回 ゆかたの製作(8) 仕上げ 第15回 ゆかたの着付け</p>		
成績評価の方法	製作技術(70%)、作業の着実性(30%)		

授業科目	生活造形史	担当者	丸山 容爾・多々良 尊子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 長い歴史の中でどのように物が変化してきたかを学ぶと同時に、未来を考える。</p> <p>【概要】 前半は、丸山担当で「商業・工業デザイン」について、後半は、多々良担当で「ファッションデザイン」についての歴史を中心に講義をする。</p> <p>【到達目標】 造形の歴史を探り、私たちとこれからの造形とのつながりを考えていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) テキストは、プリントしたものを配布する。 (2) 参考文献は、講義中に適時示す。		
授業スケジュール	<p>(担当 丸山)</p> <p>第1回 「導入」：講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「産業革命前後のデザイン」：イギリス産業革命時のデザイン</p> <p>第3回 「シノワズリーとジャポニスム」：欧州にシノワズリーとジャポニスムが広まった要因</p> <p>第4回 「ウィリアム・モリスの仕事」：モリスの商会の仕事とプライベート・プレス</p> <p>第5回 「アーツ&クラフツ運動」：ウィリアム・モリス後のデザインの変遷</p> <p>第6回 「アール・ヌーヴォー」：欧州に流行したアール・ヌーヴォーとその時代背景</p> <p>第7回 「アール・デコ」と「アメリカ・マシンエイジ」：アール・デコの時代とデザイン。</p> <p>第8回 「バウハウス」：バウハウスの歴史と活動</p> <p>第9回 「現代のデザイン」 (担当 多々良)</p> <p>第10回 「生活造形の視点から見るファッションデザインの歴史」</p> <p>第11回 「ファッションデザイナーの誕生とオートクチュールの成立」</p> <p>第12回 「ファッションブランドの起源と発展」</p> <p>第13回 「既製服産業におけるデザインの価値」</p> <p>第14回 「ファッションデザイナーの個性 (シャネル、ディオール、川久保玲)」</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)、試験あるいはレポート (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得A科目 (学生便覧参照)

授業科目	調理実習 I	担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 調理について学び、調理に親しむ。</p> <p>【概要】 ・栄養素や食品の知識を学びながら、食品の調理性を活かした調理操作を施す。 ・旬の食材の種類や郷土料理などにふれさせ、郷土の食について学習させる。 ・食事の作法を学び、社会人として配慮すべきマナーを学習させる。</p> <p>【到達目標】 調理に興味を持ち、調理を日常に取り入れる力をつける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実習プリント (2) 山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院、支倉サツキ『調理実習』峯書房		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (調理の意義と目的、実習に当たっての基礎的知識と心得)</p> <p>第2回 果物の調理 (ジャム・マーマレード)</p> <p>第3回 日本料理 (炊飯の調理操作・基本の出汁の調理操作)</p> <p>第4回 西洋料理 (スープストックの調理操作)</p> <p>第5回 中国料理 (湯の種類と調理操作)</p> <p>第6回 テーブルマナー (日本料理の献立形式・食事作法など)</p> <p>第7回 魚の扱い方</p> <p>第8回 日本料理 (初夏の料理と日本茶について)</p> <p>第9回 西洋料理 (小麦を用いた調理：パンの調理)</p> <p>第10回 日本料理 (郷土料理と保存食について)</p> <p>第11回 西洋料理 (ソースの調理操作と種類について)</p> <p>第12回 中国料理 (あめの操作と中国茶について)</p> <p>第13回 日本料理 (精進料理)</p> <p>第14回 西洋料理 (小麦を用いた調理：パスタの調理)</p> <p>第15回 「まとめ」</p>		
成績評価の方法	「実技試験 (30%) + 筆記試験 (30%) + レポート (20%) + 授業ごとの実習内容 (20%)」		

(注) 教職必修

授業科目	調理実習Ⅱ	担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 調理の基礎技術を高める。</p> <p>【概要】 ・栄養素や食品の知識を学びながら、食品の調理性を活かした調理操作を施す。 ・日本の旬の食材や、外国の食材について学習させる。 ・食事の作法を学び、社会人として配慮すべきマナーを学習させる。 ・段取りを考慮した調理操作の習得。</p> <p>【到達目標】 食育の重要性を認識し、行動できる力をつける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実習プリント (2) 山崎清子・島田キミエ『調理と理論』同文書院、「その他未定」		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 果物の調理 (アップルパイ) 第 3回 日本料理 (行楽弁当) 第 4回 中国料理 (薬膳料理) 第 5回 西洋料理 (小麦を用いた調理：パンの調理操作) 第 6回 日本料理 (常備菜) 第 7回 西洋料理 (小麦を用いた調理：ケーキの調理操作) 第 8回 日本料理 (行事食) 第 9回 西洋料理 (行事食) 第 10回 テーブルマナー (西洋料理の献立形式・食事のマナーについて) 第 11回 日本料理 (冬の日本料理) 第 12回 中国料理 (中国の特色ある食材を用いた調理) 第 13回 日本料理 (行事食) 第 14回 西洋料理 (フルコース) 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	「実技試験 (50%) + レポート (30%) + 授業ごとの実習内容 (20%)」		

授業科目	環境生物学	担当者	市川 敏弘
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生態系の基本構造を理解し、生物と環境との相互作用を考察する。さらに、環境の変化や汚染が生物の生活や地球環境に及ぼす影響について具体的な例をあげて考察する。</p> <p>【概要】 主に海の生物と環境を取り扱う。まず、海とはどういうものか、研究史も含めて科学の視点から説明する。次に、鹿児島湾や有明海などの沿岸域、また黒潮などの外洋海域について、環境と生物の特徴を説明する。さらに、海と地球規模での環境変動との関係を最近の研究成果をもとに考察する。</p> <p>【到達目標】 生物と環境について科学の視点から理解を深めることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは使用しない。図表はプリントして配布する。参考図書は講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 地球と生命の歴史：地球の誕生、海の誕生、生命の発生 第 2回 海の研究史：大航海時代、海洋大探検、近代科学としての海の研究 第 3回 陸の生態系と海の生態系：生態系の景観、生物の量と大きさ、食物連鎖の特徴 第 4回 海水の性質と生物の生活：光、水温、塩分、栄養塩 第 5回 海水の運動と生物の生活：海流、深層水の循環、海水の年令、鉛直循環と湧昇流 第 6回 外洋海域の生物と環境：暖かい海と冷たい海、黒潮、プランクトン、深海 第 7回 鹿児島湾の環境と生物：鹿児島湾の季節変化、鹿児島湾の特徴 第 8回 有明海の生物と環境：有明海の特徴、干潟、諫早湾閉め切り堤防の影響 第 9回 サンゴ礁の生物と環境：サンゴ礁の役割、共生 第 10回 マリンスノーの発見：雪を作る、海中の雪、鹿児島湾のマリンスノー、マリンスノーを作る 第 11回 地球温暖化と海：生物ポンプ、二酸化炭素 第 12回 放射性物質の拡散と海の生態系：ビキニ環礁の核実験、原子力発電所と海の生態系 第 13回 海的环境汚染：赤潮、水俣病 第 14回 陸的环境汚染：サイレント・スプリングとレイチェル・カーソン、足尾鉍毒事件と田中正造 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験		

授業科目	地球環境論	担当者	岩船 昌起
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地球環境や自然環境と人間の生活や健康とのかわり 【概要】イチョウやカンアオイ等の植物、サケやシカ等の動物、火山や海岸等の地形・地質を取り上げ、自然環境や地球環境にかかわる基本的な内容を解説したい。そして、環境問題や人間の生活とのかわりや、自然環境と人間の健康とのかわりについても考察したい。なお、休日に巡検（野外授業）で行うことを現時点で考えている。 【到達目標】地球環境や自然環境のしくみにかかわる基本的な事柄と、かつそれらと人間の生活や健康とのかわりを論述できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。ただし、毎回の講義でプリントを配布する。 (2) 講義時に複数の書籍を紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：授業の概要と成績評価の方法等 第 2回 人類発達の時代：第四紀の自然環境の変遷 第 3回 火山とプレートテクトニクス：日本の地形・地質の基礎知識 第 4回 鹿兒島の大地の成り立ち 第 5回 環境と植生：植物生態・植生地理に関する基礎知識 第 6回 環境と動物：動物生態に関する基礎知識 第 7回 氷河時代-ヨーロッパと日本を比較する 第 8回 日本の森は太古の森：周北極植物群と日本の植生 第 9回 遺存種たちは今：スギ、イチョウ、サケ、サルなど 第 10回 自然環境と人間の生理：環境変化と人間の生理的な適応 第 11回 氷河時代と人類の発達 第 12回 環境問題を地球の歴史から考える 第 13回 スライドショーあるいは研究紹介① 第 14回 スライドショーあるいは研究紹介② 第 15回 総まとめ		
成績評価の方法	期末レポート 60%、巡検レポート 25%、小テスト 15%を目安とする。		

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』見洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう？ 第2回 市場経済の仕組み (1)：価格の決定理論 ① 第3回 市場経済の仕組み (2)：価格の決定理論 ② 第4回 市場経済の仕組み (3)：需要曲線と供給曲線を使って現実の経済現象を分析する 第5回 市場経済の仕組み (4)：市場での交換による利益 (余剰分析) 第6回 消費者・企業の行動理論(1)：選択の費用と時間の費用 (機会費用、割引現在価値) 第7回 消費者・企業の行動理論(2)：分業の理論 (絶対優位と比較優位) 第8回 消費者・企業の行動理論(3)：寡占市場での企業行動の理論、独占的競争市場の理論 第9回 国全体の経済の仕組み (1)：GDPの理論 ① 第10回 国全体の経済の仕組み (2)：GDPの理論 ② 第11回 国全体の経済の仕組み (3)：GDP水準の決定理論 ① 第12回 国全体の経済の仕組み (4)：GDP水準の決定理論 ② 第13回 国全体の経済の仕組み (5)：財市場と貨幣市場の同時均衡、財政政策や金融政策の効果 第14回 国全体の経済の仕組み (6)：景気変動の理論 第15回 まとめ (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	文化と社会	担当者	種村 完司
	[履修年次] 1年、2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本における文化とモラルの特徴を概観し、さまざまな社会領域での人間関係、生活と文化、コミュニケーションのあり方を考える。</p> <p>【概要】日本の企業社会や市民生活の現実と特徴を理解し、それと結びついて発生している社会的文化的問題を多面的にとらえることをめざす。特に、夫婦・親子および男女の関係、子どもの生活と文化、若者のコミュニケーション状況、老人の生活と人間関係、等々の実情を具体的にとらえ、今後のあるべき姿を考える。</p> <p>【到達目標】企業社会や市民生活の現実を的確に理解すること。夫婦・親子・男女、子ども、若者、老人をめぐる実情と問題点を具体的につかむこと。それらの課題を自分の問題としてもとらえ、今後自らが生活し活動していく上での目標を見つけること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店		
授業スケジュール	<p>第1回 「文化」とは / 「モラル」とは 第2回 現代日本の社会的モラル・文化の状況とその特徴 第3回 企業中心社会と日本国民の「社会的性格」 第4回 夫婦関係の揺らぎとコミュニケーション病理 (1) 第5回 夫婦関係の揺らぎとコミュニケーション病理 (2) 第6回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (1) 第7回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (2) 第8回 子どもの世界・文化の変容とモラル形成 (3) 第9回 若者の生活・文化と個性化・孤立化 (1) 第10回 若者の生活・文化と個性化・孤立化 (2) 第11回 IT文化と「若者のコミュニケーション不全」 (1) 第12回 IT文化と「若者のコミュニケーション不全」 (2) 第13回 競争主義文化と「老人の孤独と遺棄」 (1) 第14回 競争主義文化と「老人の孤独と遺棄」 (2) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (70%) + 毎回の授業での意見・感想・質問 (30%)		

授業科目	経済情報論	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式 〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 メディアを通して日々接している日本や世界の経済に関するさまざまな情報（経済情報）を、統計データによってより深く理解する基礎力を養う。</p> <p>【概要】 現代経済のさまざまなトピックを採り上げ、統計データを読み取ることによってその経済事象の実像をより深く理解することを主眼におく。加えて、それら経済事象の動きの背景にある動き、及ぼす影響などについて理解を深めることによって、日本や世界の経済をさまざまな視点から見る眼を養う。</p> <p>【到達目標】 経済ニュースに親しむ習慣を身に付け、その内容の大筋を理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) みずほ総合研究所編『22歳からの日本経済入門—すぐに使える経済指標』毎日新聞社、日本経済新聞社編『Q&A 日本経済の基本 100 2011年版』日本経済新聞出版社、東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 新版』有斐閣ブックス</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方／序論：日本の経済の姿を、世界と比較して、世界と結び付けて見ていこう 第2回 経済情報を見る眼：統計データを理解するための基礎知識（名目と実質、前年比と前期比、指数、対GDP比率） 第3回 世界経済をデータで読む（1）：世界金融危機以降、主要国の経済状況はどうなっているのか 第4回 世界経済をデータで読む（2）：新興国経済は、世界の中でどのくらいの存在感なのか 第5回 世界経済をデータで読む（3）：FTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）ほどの程度世界に広がっているのか 第6回 世界経済をデータで読む（4）：ギリシャ問題がなぜユーロ不安につながっているのか 第7回 世界経済をデータで読む（5）：「2つの人口問題」とは何か、何が問題なのか 第8回 世界経済をデータで読む（6）：為替レートの動きや、国際マネーの動きはどうなっているのか 第9回 日本経済をデータで読む（1）：政府の借金残高の状況はどうなっているのか 第10回 日本経済をデータで読む（2）：貿易や日本企業の海外進出の動きはどうなっているのか 第11回 日本経済をデータで読む（3）：地域経済や農業の状況はどうなっているのか 第12回 日本経済をデータで読む（4）：産業の現状はどうなっているのか 第13回 日本経済をデータで読む（5）：国民生活の現状はどうなっているのか 第14回 日本経済をデータで読む（6）：経済のグローバル化を考える 第15回 まとめ（※講義の進み具合によって内容を一部変更する場合があります）</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	消費者問題	担当者	石窪 奈穂美
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式 〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】 規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】 消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護の対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。 (2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、消費者問題概論① 第2回 消費者問題概論② 第3回 消費者問題の歴史 第4回 悪徳商法と消費者問題 第5回 ネット社会と消費者問題 第6回 消費者の権利と法的保護① 第7回 消費者の権利と法的保護② 第8回 消費者金融（クレジット・サラ金）問題 第9回 安心・安全と消費者問題① 第10回 安心・安全と消費者問題② 第11回 商品・サービスと消費者問題① 第12回 商品・サービスと消費者問題② 第13回 消費生活と環境問題 第14回 消費者の未来像—消費者主権の社会づくり 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、提出物（20%）、定期試験（60%）による総合評価		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 〔単位〕 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】 周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】 行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 江頭憲治郎他編、『ポケット六法(平成24年度版)』、有斐閣		
授業スケジュール	第1回 法律による行政の原理：行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則 第2回 行政立法・行政計画：法規命令（委任命令、執行命令）、行政規則、行政計画 第3回 行政行為(1)：公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力 第4回 行政行為(2)：無効の行政行為、取消しうべき行政行為、瑕疵の治癒と転換 第5回 行政行為(3)：行政裁量、裁量行為、羈束行為、比例原則、平等原則 第6回 行政指導：規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政 第7回 行政上の義務履行確保制度：代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政罰 第8回 行政手続法：申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続 第9回 行政不服審査法：審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示 第10回 行政事件訴訟法(1)：抗告訴訟、取消訴訟、事情判決、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議 第11回 行政事件訴訟法(2)：処分性、原告適格、法律の保護する利益説、保護に値する利益説 第12回 行政事件訴訟法(3)：狭義の訴えの利益、無効等確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟 第13回 国家賠償法(1)：代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権 第14回 国家賠償法(2)：公の営造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件 第15回 損失補償：奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準として評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 〔単位〕 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 国民の社会生活の向上を目的として政府が行う経済政策について、その考え方・政策手段・課題に関する基礎を学習する。</p> <p>【概要】 経済政策が必要とされる背景、経済政策に関する思想、伝統的な経済政策の概要から、現代社会における新しい政策課題まで幅広く取り上げて解説し、自分なりに経済政策を評価できる基礎力を養う。</p> <p>【到達目標】 主要な経済政策の意義や政策手段の概要について理解し、その限界や課題について関心や自分の意見を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 山口三十四・足立正樹・丸谷冷史・三谷直紀『経済政策基礎論』有斐閣ブックス 林 俊彦『経済政策』(財)放送大学教育振興会		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：なぜ人々の自由な経済活動に、政府が介入する必要があるのだろうか？ 第2回 経済政策の思想：政府は何どこまで介入（関与）すべき？— 新自由主義と新社会主義、大きな政府と小さな政府 第3回 成長と安定の経済政策 (1)：成長のための経済政策 — 成長政策の手段、発展途上国と経済成長 第4回 成長と安定の経済政策 (2)：安定のための経済政策 — 雇用の改善と物価安定、安定化政策の手段、安定化政策の課題 第5回 所得と資産の分配政策 (1)：所得分配の格差を測る方法、望ましい分配の基準とは 第6回 所得と資産の分配政策 (2)：分配政策の手段（課税制度、社会保障制度）、分配政策の効果と課題 第7回 産業政策 (1)：産業政策の必要性、市場支配力・情報の非対称性と産業政策 第8回 産業政策 (2)：自然独占と規制政策、公益事業の規制緩和と民営化、公共財の供給 第9回 産業政策 (3)：外部性と産業政策、大転換期の日本経済と産業政策 第10回 労働政策 (1)：労働政策の必要性、労働政策の歴史、失業に対する政策 第11回 労働政策 (2)：女性雇用・高齢者雇用・若年雇用に対する政策 第12回 農業と人口問題：グローバル化と農業問題、少子高齢化問題 第13回 環境政策：環境税、温暖化ガスの排出権取引、太陽光発電の推進 第14回 グローバル経済と経済政策：地域経済統合と経済政策 第15回 まとめ (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 前期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困が生まれる理由と、問題解決の方法を考える。</p> <p>【概要】 経済学の基礎を学びながら、賃金、労働時間、その他の労働条件、社会福祉や社会保障の本質や役割について勉強します。受講生のみなさんには、経済学の入門講座としても役立ちます。次学期以降に、企業論、経営組織論、労務管理論を履修したい人は、予めこの授業を履修しておく、理解しやすくなります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因からとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという、視点を獲得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業時間内で指示します。		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について : オリエンテーション</p> <p>第2回 働くことってどういうこと? : 近代労働観の分裂を理解し、問題意識を持つ</p> <p>第3回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (1) : 資本主義経済の基礎を学ぶ</p> <p>第4回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (2) : 資本主義経済の基礎を学ぶ</p> <p>第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらまし作用 : 「常識」の誤りが何故生じるかを理解する</p> <p>第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金 : アルバイトでもらう賃金の仕組みを理解する</p> <p>第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか : 残業、長時間労働はどうして生じるのか</p> <p>第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか : 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する</p> <p>第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 : 貧困化論の問題点を検討する。</p> <p>第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困 : 国家とは何か、社会政策はなぜおこなわれるのかを理解する</p> <p>第11回 帝国主義と協同的労使関係の形成 : 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する</p> <p>第12回 福祉国家と社会政策 : 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる</p> <p>第13回 ケインズ革命の終焉-社会政策から総合社会政策へ : 社会政策の経済政策化をとらえる</p> <p>第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 : グローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる</p> <p>第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題 : 今日の労働者状態と社会政策の現状を考える</p>		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 後期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	民法	担当者	正田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 民法の基本原則と基本ツール</p> <p>【概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法で、共同生活上のルールであると同時に紛争解決の規準となるものです。本講義では、日本の民法典の歴史も概観しながら、特に総則・物権・債権を中心に、財産に関する法を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 契約の交渉、締結、履行、履行されなかった場合の救済手段についての流れを理解する。 2. 未成年者など判断能力が不十分な者の契約締結に関する法規制の目的を理解する。 3. 日常生活の「善意」と法律上の「善意」の違いを理解する 4. 財産上のトラブルが生じたとき、法的にどのような問題が生じているのかを大まかに説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日指定する 講義時に紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：「私法の一般法としての民法」とはどのような意味か</p> <p>第2回 民法の歴史を学ぶ：民法の制定と改正史</p> <p>第3回 人と財産：プレイヤーと道具に関するルール</p> <p>第4回 契約の成立：売買契約と雇用契約はどう違うか</p> <p>第5回 契約締結で生じる問題：錯誤、詐欺</p> <p>第6回 契約を締結する人に関する問題（1）：胎児、不在者はどうなるか</p> <p>第7回 契約を締結する人に関する問題（2）：泥酔者、未成年者、成年被後見人など</p> <p>第8回 所有権の取得：二重譲渡にどう対抗するか</p> <p>第9回 契約の賞味期限：条件、期限、時効</p> <p>第10回 代理：代理人による契約の締結</p> <p>第11回 契約内容の有効性：公序良俗違反をめぐる議論の展開</p> <p>第12回 契約が履行されないとき：債務不履行と損害賠償請求</p> <p>第13回 契約の不完全な履行：危険負担と瑕疵担保責任</p> <p>第14回 不法行為：事故の場合の損害賠償</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらおうレポート (40%) + 試験 (60%)		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代企業の組織・活動と法</p> <p>【概要】 現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由とその役割を説明できる。 (2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 (3) 国際化や情報技術化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 講義ノートと資料をプリントにして配布します。Webサイト (HP) からのダウンロードも利用します。</p> <p>(2) 岩波書店『セレクト六法』などの小型六法全書を持参してください。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 企業法としての商法 (商人・商行為の概念)</p> <p>第2回 企業の成立と商法の適用範囲 / 商法の基本原則</p> <p>第3回 商業登記と電子化社会</p> <p>第4回 商号自由主義とその制限—CI 戦略と商号—</p> <p>第5回 名板貸 (名義貸し) の責任</p> <p>第6回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止—</p> <p>第7回 営業譲渡とその効果</p> <p>第8回 営業所と商業使用人—商業代理人制度—</p> <p>第9回 商業使用人と外観責任</p> <p>第10回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化—</p> <p>第11回 企業取引と普通取引約款</p> <p>第12回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法—</p> <p>第13回 有価証券法の基礎</p> <p>第14回 会社法の基礎 (その1)</p> <p>第15回 会社法の基礎 (その2)</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (100%) によって評価します。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】 産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者に与える影響とメカニズム</p> <p>第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理</p> <p>第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の仕組みの理解</p> <p>【概要】 みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている営利企業は、現金収支に限らず、さまざまな取引を記帳しています。企業はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』（平成24年度版）、中央経済社。（予定） 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』、中央経済社。（予定）</p> <p>(2) 新井清光著、川村義則補訂『現代会計学』（第13版）、中央経済社。（予定）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、簿記って何？：履修登録確認、配布資料（簿記・会計の歴史）、コース・パケット</p> <p>第2回 簿記の意味・目的・種類：テキスト第1章、簿記の基礎概念：テキスト第2章</p> <p>第3回 取引：テキスト第3章、商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表</p> <p>第4回 勘定と仕訳：テキスト第4章</p> <p>第5回 帳簿の記入：テキスト第5章、決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章</p> <p>第6回 決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章</p> <p>第7回 簿記一巡の手続きに関する学習（資料配布）</p> <p>第8回 復習、予習・復習状況の確認：第6回までの資料、場合によっては小テスト</p> <p>第9回 現金預金取引：テキスト第7章</p> <p>第10回 商品売買（3分法）：テキスト第8章</p> <p>第11回 商品売買（3分法）：テキスト第8章</p> <p>第12回 売掛金と買掛金：テキスト第9章</p> <p>第13回 その他の債権と債務：テキスト第10章</p> <p>第14回 復習：テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および筆記試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2012年度の簿記論I, IIは、いずれも後期に開講されます。簿記論Iを履修する学生は、必ずセットで簿記論IIの履修登録を行ってください。

(注2) 2012年度以前に簿記論IIのみを履修済みの学生も2012年度に簿記論Iを履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

	経営学総論	担当者	竹中 啓之
授業科目	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>1</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶに当たって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立つことができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6回 人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第 7回 人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第 8回 人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第 9回 人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。</p> <p>第 10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 12回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。</p> <p>第 13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 コンピュータウイルス：コンピュータウイルスの仕組みと防御法</p> <p>第6回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第7回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説</p> <p>第8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第9回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第10回 周辺機器：モニタ、光学ドライブ、プリンタなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 Web2.0とクラウド：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第12回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第14回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社（著）『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明, 前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第2回 あいさつ状の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識, 社外文書の作成（あいさつ状）</p> <p>第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術, 課題文書作成（表を利用した文書の作成）</p> <p>第4回 図解の利用・・・・・・・・ネット社会の特徴について, 図解を利用した文書の作成</p> <p>第5回 企画書の作成・・・・・・・・デジタル情報の整理法について, 計算式を含む文書の作成（企画書）</p> <p>第6回 案内状の作成・・・・・・・・ネット関連の法律について, 課題文書作成（案内状）</p> <p>第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目, 実技科目）</p> <p>第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目, 実技科目）</p> <p>第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目, 実技科目）</p> <p>第10回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能（段組み, タブ, ヘッダー・フッターなど）, 課題文書作成</p> <p>第11回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成（スタイルの設定, セクション区切りの挿入など）</p> <p>第12回 Excel データの利用・・・・Excel データ（表, グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第13回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書（報告書）の作成（テンプレートの利用, 段落罫線など）</p> <p>第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）		

(注) 経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	統計学	担当者	寛山 榮助
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 集団や自然現象の実態把握を目的とする統計手法とは何か。</p> <p>【概要】 ある集団や自然現象の特性を明らかにし、問題のある場合に改善策を講じたい場合は、対象とする特性を数値化し数学的処理を行って現状を把握し、問題の解決策を探る数理科学的手法の一つが「統計」と呼ばれる手法です。統計学の考えが始まったのは17世紀になってからです。その頃ヨーロッパで誕生した近代国家には、多くの社会問題や経済問題等が発生していました。社会調査では、国家の状態を数字を用いずに記述するというものでした。統計学 (statistics) は国家 (state) という言葉に由来しています。現代では、統計学は数学の応用として集団に関する研究や偶然現象に関する研究をする学問であるとみなされています。</p> <p>われわれは、自然の営みや社会の営みの中で、いろいろな体験を出来るであろうし、その生き方を確かなものに変換できる能力を併せ持っているものと思われる。統計学的手法に感動を覚えながら項目を精選して共感できる講義をモットーに進めることにする。</p> <p>【到達目標】 1 標準偏差や相関係数についての統計手法の意義を理解し、算法に習熟する。 2 正しくデータを読み取ることから生じた記述統計学と推測統計学の意義を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない。</p> <p>(2) 興味・関心・意欲養成に適宜提示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 1 統計学の概要</p> <p>第2回 ・古典統計学 ・近代統計学 (記述統計学, 推測統計学)</p> <p>第3回 2 統計資料の整理</p> <p>第4回 ・度数分布 ・平均値 ・分散 ・標準偏差</p> <p>第5回 ・定理の証明と演習</p> <p>第6回 ・変換による平均値 ・標準偏差の影響</p> <p>第7回 ・度数分布表に基づいた平均値, 標準偏差の算法</p> <p>第8回 3 相関関係と回帰方程式</p> <p>第9回 ・相関 ・相関表 ・相関図</p> <p>第10回 ・1次変換による相関係数の普遍性</p> <p>第11回 ・度数分布表に基づいた相関係数の算法</p> <p>第12回 ・回帰係数の定義 ・回帰直線の方程式</p> <p>第13回 ・回帰直線の方程式の意義</p> <p>第14回 ・正規分布とガウス曲線</p> <p>第15回 ・まとめ</p>		<p>・『統計』に関する履修状況調査</p> <p>・小論「統計に関する授業等への要望」</p> <p>「統計学」小論文</p>
成績評価の方法	筆記試験 (90%), 小論文 (10%)		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己紹介文書作成: ワードソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 提案書作成: インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する ホームページ作成: 自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めて扱うソフトでもすぐ使えるようになる わかりやすいドキュメントを作成する インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 自己紹介文書作成1: ワードを使ったベース文書の作成</p> <p>第3回 自己紹介文書作成2: 表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第4回 自己紹介文書作成3: 写真, 図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第5回 自己紹介文書作成4: 仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第6回 提案書作成1: インターネットによる費用検索</p> <p>第7回 提案書作成2: 表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第8回 提案書作成3: プレゼン資料の作成</p> <p>第9回 提案書作成4: 仕上げ, データ送信のコツ</p> <p>第10回 ホームページ作成1: USBメモリへのソフトの導入, HTML 概念の復習。</p> <p>第11回 ホームページ作成2: 課題設定とページ作成</p> <p>第12回 ホームページ作成3: 資料収集とページ作成</p> <p>第13回 ホームページ作成4: ページ公開</p> <p>第14回 予備</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価・100%)		

授業科目	PC データ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得</p> <p>【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Excel 基本操作確認</p> <p>第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする</p> <p>第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（順位・条件など）</p> <p>第9回～第11回 グラフ作成、編集</p> <p>第12回～第13回 データベース機能</p> <p>第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋試験（60%）		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 取得操作の実践活用</p> <p>【概要】 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p>【到達目標】 PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2) 資料プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回～第4回 演習</p> <p>第5回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況（20%）＋授業内小テスト（20%）＋試験（60%）		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなせるようになる。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、前期のクラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア (プレゼンテーション, PDF ファイル, OCR, 動画編集, HP 作成等) の基本的使い方を学習する。</p> <p>【到達目標】 上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し, 自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時, 資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第 1 回 授業前アンケート (使用ソフトウェアの希望など) 第 2 回 Windows パソコンの基本的な扱い方の復習 第 3 回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (1) 第 4 回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (2) 第 5 回 PDF ファイルの扱い方・OCR の利用 第 6 回 PDF ファイルの扱い方・文書ファイルの統合 第 7 回 PDF ファイルの扱い方・セキュリティ設定 第 8 回 動画ファイルの扱い方・ムービーメーカーの使い方 第 9 回 動画ファイルの扱い方・ムービーの撮影 第 10 回 動画ファイルの扱い方・ムービーの編集 第 11 回 インターネットの応用・地図サイトの活用 第 12 回 ホームページの作成 (1) 第 13 回 ホームページの作成 (2) 第 14 回 ホームページの作成 (3) 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	3 回の課題と試験 (3 : 1) の総合評価		

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立し、一層激しく戦っているという状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 日本の産業政策と行政指導：勧告操短、企業の反発等 第 7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産活法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等 第 14回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p>【到達目標】 金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社（日経文庫）、安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社、岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何か — お金が果たす役割、金融という機能とは？ 第2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み、内国為替と外国為替、全銀システムと銀行間決済 第3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務（預金と貸付）、銀行の収益構造、信用創造メカニズム 第4回 証券会社の役割 (1)：証券（株式・債券）の仕組み、証券発行市場、証券流通市場 第5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、ディーラー業務 第6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能、生命保険と損害保険 第7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割、機関投資家としての役割 第8回 その他の金融機関：信託銀行、投資信託会社、消費者金融会社、クレジットカード会社など 第9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能、市場金利、市場為替レート 第10回 金利とは何か：利子（利息）、利率・利回り、金利はどうやって決まるのか 第11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節、金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策 第12回 金融システムの安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制、預金者保護の制度 第13回 金融システムの安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制、投資家や保険契約者保護の制度 第14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊、世界金融危機ほどのように起こったか 第15回 まとめ (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	未定
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	経済学特講Ⅱ	担当者	野村 俊郎・山本 肇
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 21世紀のクルマ開発からみたモノづくりの未来</p> <p>【概要】 この講義は、低価格化、低燃費化の道を突き進むクルマ開発の現状からモノづくりの未来を展望する。</p> <p>① 1台25万円の衝撃。タタのナノが切り開く21世紀のモータリゼーション。</p> <p>② ガソリン代がタダ。EV（電気自動車）の多様な発展の行き着く所。</p> <p>③ 「軽い」、「電気で動く」が進むエコ（エコノミー&エコロジー）の道</p> <p>④ クルマづくりから見たモノづくりの未来～設計・開発から生産準備、生産、納品、メンテナンスまで～</p> <p>主にトヨタの途上国向け世界戦略車 IMV の事例を紹介しながら、上記のテーマを展開します。野村がコーディネータ、山本が講義担当です。山本氏は米国に本社を置く自動車調査会社の取締役で、現在は主にタイで活動しています。</p> <p>【到達目標】 21世紀のクルマづくりからモノづくりの未来を考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし		
授業スケジュール	<p>第1回 1台25万円の衝撃。タタのナノが切り開く21世紀のモータリゼーション</p> <p>第2回 ガソリン代がタダ。EV（電気自動車）の多様な発展の行き着く所</p> <p>第3回 考える枠組み～フーコーの理論（法、規律、安全装置）～</p> <p>第4回 クルマを作るってどういうこと？（1）設計・開発</p> <p>第5回 " (2) 生産準備 a サプライヤーコンペ</p> <p>第6回 " 生産準備 b 生産技術</p> <p>第7回 " (3) 生産 a プレス</p> <p>第8回 " 生産 b 溶接</p> <p>第9回 " 生産 c 塗装</p> <p>第10回 " 生産 d 組み立て</p> <p>第11回 クルマ作りの工夫（1）TPS</p> <p>第12回 クルマ作りの工夫（2）SPS</p> <p>第13回 クルマ作りの工夫（3）順引き</p> <p>第14回 ボルボとトヨタ～「テイラー主義」から「労働の人間化」へ～</p> <p>第15回 市場化、リーン化、人間化をベースにした21世紀の社会主義～成長、分配、人間化～</p>		
成績評価の方法	レポート		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』（平成24年度版）、中央経済社。（予定）</p> <p>渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』、中央経済社。（予定）</p> <p>(2) 新井清光著、川村義則補訂『現代会計学』（第13版）、中央経済社。（予定）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、配布資料、コース・パッケージ、前期（簿記論Ⅰ）の復習</p> <p>第2回 手形：テキスト第11章</p> <p>第3回 有価証券：テキスト第12章</p> <p>第4回 固定資産：第13章</p> <p>第5回 資本金と引出金：第14章</p> <p>第6回 収益と費用：第15章</p> <p>第7回 消耗品：第15章、税金：第16章</p> <p>第8回 復習、予習・復習状況の確認：第7回までの資料、場合によっては小テスト</p> <p>第9回 帳簿と伝票：第17章</p> <p>第10回 決算と財務諸表（その2）：第18章</p> <p>第11回 決算と財務諸表（その2）：第18章</p> <p>第12回 決算と財務諸表（その2）：第18章</p> <p>第13回 復習：テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第14回 復習：テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況（20%）、および筆記試験（80%）で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パッケージを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 2012年度の簿記論Ⅰ,Ⅱは、いずれも後期に開講されます。簿記論Ⅱを履修する学生は、必ずセットで簿記論Ⅰの履修登録を行ってください。

(注2) 2012年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も2012年度に簿記論Ⅱを履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーン化の進展</p> <p>第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～</p> <p>第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道創設引き：JITからJISへの進化と負担転嫁</p> <p>第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業が創業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】 自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】 資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 国内立地と国際立地</p> <p>第2回 国内立地（1）東北・北海道への立地</p> <p>第3回 国内立地（2）東北・北海道への立地</p> <p>第4回 国内立地（3）東北・北海道への立地</p> <p>第5回 国内立地（4）九州への立地</p> <p>第6回 国内立地（5）九州への立地</p> <p>第7回 国内立地（6）九州への立地</p> <p>第8回 国際立地（1）中国への立地</p> <p>第9回 国際立地（2）南アフリカへの立地（IMV1）</p> <p>第10回 国際立地（3）アルゼンチンへの立地（IMV2）</p> <p>第11回 国際立地（4）ベネズエラへの立地（IMV3）</p> <p>第12回 国際立地（5）</p> <p>第13回 資本の民族性と国際性（1）：国家によって総括された資本と、それを超えていく資本</p> <p>第14回 資本の民族性と国際性（2）：ナショナル、リージョナル、グローバル</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】 ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか？TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】 アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長 第2回 アジア経済への道（1）：経済統合の5段階 第3回 同上（2）：TPPによる完全自由化への道 第4回 同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第5回 中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第6回 同上（2）：社会主義を目指す資本主義 第7回 同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国～改革開放30年の成果～ 第8回 インド経済（1）：インドの概況 第9回 同上（2）：植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第10回 同上（3）：民族資本として成長するTATA 第11回 東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア 第12回 同上（2）：マレーシア、フィリピン、ベトナム 第13回 アジアの未来（1）：中国、インド、日本の役割 第14回 同上（2）：アジア共同体への展望 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその課題について考える。</p> <p>【概要】 貿易や外国為替取引の仕組みを分かりやすく解説するとともに、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。WTO・自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）などで変化する国際経済の実態を紹介し、課題の抽出・討論を行う。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組みを理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 現代世界経済をとらえる<Ver.4> 東洋経済新報社 (2) グローバル・エコノミー 有斐閣アルマ		
授業スケジュール	第1回 開講 貿易と私たちの暮らし 第2回 自由貿易のもたらす利益 第3回 新古典派貿易理論を学ぶ 第4回 グローバル生産システムと貿易 第5回 国際収支からみた貿易の姿 第6回 外国為替市場と為替レート 第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史 第8回 貿易決済の方法 第9回 新しい国際貿易理論を学ぶ 第10回 世界の地域貿易協定の現状 第11回 東アジアの発展と日本の貿易 第12回 鹿児島県の貿易取引の現状 第13回 海外直接投資と労働の国際移動 第14回 開発と環境を考える 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 前期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的要因をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題 第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第13回 国際社会における諸問題4：対テロ 第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス 第15回 まとめ		
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 (〔学期〕 前期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】 異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】 広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 文化・異文化とは？ 第2回 コミュニケーションとは？ 第3回 言語・非言語コミュニケーション1 第4回 言語・非言語コミュニケーション2 第5回 言語・非言語コミュニケーション3 第6回 ステレオタイプと偏見 第7回 オリエンタリズム 第8回 価値観 第9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第10回 ディアスポラ 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法1 第14回 異文化コミュニケーションの方法2 第15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度（40％）、筆記試験（60％）		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】 アジアは, 地理, 歴史, 言語, 文化, 宗教, 民族など, すべての面において多様である。本講義では, 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも, 「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化, 現代においては脱植民地化, 国民国家建設, リージョナリズム (地域主義) の形成という共通性がある。また, 最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し, 分析する。</p> <p>【到達目標】 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス: 講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念: アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1: 植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2: 植民地のようす 第5回 歴史的形成3: 植民地からの独立 第6回 歴史的形成4: 脱植民地化, 国民国家建設, 開発 第7回 歴史的形成5: 冷戦下のアジア 第8回 東南アジア1: インドシナ三国 第9回 東南アジア2: ベトナム戦争の影響 第10回 東南アジア3: タイ, ミャンマー, マレーシア 第11回 東南アジア4: メコン河流域開発 第12回 東南アジアの地域協力体制: ASEANの形成 第13回 アジアにおける協力体制1: ASEANを中心とする協力1 第14回 アジアにおける協力体制2: ASEANを中心とする協力2 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ及び概要】 経済のグローバル化の進展は著しく, 消費者のニーズも多様化していることによって, 貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで, これからは, 輸出入取引の仕組みや外国為替, 貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では, 貿易実務について広く習得し, 貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また, 貿易実務を学習しながら, 貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】 貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院 必要に応じて資料を配付する。		
授業スケジュール	第1回~第4回 輸入編 ・貿易とは, 規制の確認, インコタームズ, 輸入の流れ ・輸入採算, 契約, 海上貨物保険付保 ・決済方法, 通関, 貨物引取り 第5回~第7回 輸出編 ・取引準備・契約, 輸出採算, 輸出流れ ・輸出信用状 ・輸出書類作成 第8回~第9回 外国為替編 ・外国為替の仕組み ・為替リスク ・外国為替と銀行取引 第10回 貨物海上保険, 信用状の実務 第11回 輸出入通関と関税 第12回 仲介貿易 第13回 貿易実例紹介 第14回 貿易実例紹介 第15回 まとめ		
成績評価の方法	期末試験の成績 (70%) に, 授業での発言内容及び予習の状況 (30%) を加味する。		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県とてその例外ではなく、むしろ多く抱える）、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（1） 第 2回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論（2） 第 3回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第 4回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第 5回 農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法 第 6回 農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法 第 7回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第 8回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第 9回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者 第 10回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割 第 11回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第 12回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第 13回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第 14回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第 15回 まとめ「農山漁村地域再生への道標」		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と水商工連携 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地域史	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済のグローバル化の進展と農水産業の地域的動向</p> <p>【概要】 経済のグローバル化が進展する中で、世界、日本、そして鹿児島県における農水産業と農水産物流通の動向を解析し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、日本および鹿児島県の農水産業のありようを展望したい。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本および鹿児島県の農水産業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本および鹿児島県の農水産業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 農水産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農水産物貿易の特徴とフードマイレージ 第 3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第 5回 ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第 6回 食の安全と農水産業：遺伝子組み換えとBSEなど 第 7回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 8回 日本農業の現状と課題：国民経済に占める農業の地位と自給率の推移、農業の近代化と担い手 第 9回 映像でみる戦後日本農業の歩み 第 10回 映像でみる水産業の世界 第 11回 水産業の成立・発展条件と日本の水産業の特徴 第 12回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 13回 鹿児島県の農水産業の歩みと特徴 第 14回 鹿児島県の農水産業再生への道標：六次産業化と都市との交流、食育、スローフード運動と所得補償方式、TPP問題など 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念と理論、そして日本の地方財政制度とその特質、課題に関する内容を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 近年、行財政改革において、地方分権が大きな焦点となる一方で、地方自治体に対しては、国に甘えている、財政改革が足りないといった批判が盛んになされています。しかし、こうした批判では、地方自治とは何か、日本における国と地方自治体との関係はどうなっているのかといった重要な視点が置き去りになっていることがしばしばです。本講義では、そうした重要な視点を踏まえて地方財政に関する理解を深め、地方財政や地方分権について受講者の皆さんが主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 4回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴、三位一体の改革等 第 5回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 6回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 7回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等 第 8回 地方の事務：機関委任事務廃止までの経緯、自治事務と法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論	担当者	田村 達哉
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 非営利組織の現在と未来</p> <p>【概要】 非営利組織 (NPO・Non-Profit Organization) は、学校や福祉、環境、医療、国際協力など様々な分野に広がっています。日本の中で多くの消費者が参加している生活協同組合 (生協) を参考に、現代社会での非営利組織の位置と役割を理解し、非営利組織の特徴を確認します。その中で大学生にとって身近な大学生協の取り組みを紹介し、また、生協以外の多くの NPO 法人についても活動事例を紹介していきます。</p> <p>体験、実感するワークを通して非営利組織を考えてみます。</p> <p>【到達目標】 非営利組織の概要を理解し、組織で働くことと組織のリーダーシップについて意識できるようになることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 島田恒『NPOという生き方』PHP 新書 小暮真久『20円で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター ※臨時プリントも使用</p> <p>(2) 講義にて情報提供</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織って何？</p> <p>第2回 非営利組織と他の組織の違い、共通点 (政府自治体、営利企業との違いや共通性、特徴などを知る)</p> <p>第3回 生活協同組合での取り組み (地域生協や大学生協)</p> <p>第4回 生協以外の非営利組織</p> <p>第5回 組織で働くこと</p> <p>第6回 非営利組織のリーダーシップ</p> <p>第7回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	非営利組織論	担当者	丸田 真悟
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本社会における NPO の役割と可能性</p> <p>【概要】現代日本において NPO は医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。これからは NPO も質が問われる時代です。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について具体的な事例をもとに考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と、これからの可能性と課題について考えます。</p> <p>【到達目標】 NPO に関する基本的な知識を習得する。現代社会における NPO の役割と、それを果たすための課題と可能性を考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 山内直人『NPO入門 (第2版)』日本経済新聞社、雨森孝悦『テキストブック NPO』東洋経済新報社、田尾雅夫、吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 NPO とは何か 「NPO」と「特定非営利活動促進法」</p> <p>第2回 ボランティアと NPO 「ボランティア」</p> <p>第3回 NPO の活動事例 「アート NPO」</p> <p>第4回 行政、企業と NPO 「協働」と「パートナーシップ」</p> <p>第5回 コミュニティと NPO 「公共」と「市民社会」</p> <p>第6回 NPO のマネジメント 「ミッション」と「評価法」</p> <p>第7回 まとめ NPO の可能性と課題 「ネットワーク」と「自立」</p>		
成績評価の方法	レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (学期) 後期 〔単位〕 2単位 (必修/選択) 選択 (授業形態) 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事)」とは。</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関 (ILO) が結成されて以来、「ディーセント・ワーク」の実現はその基本理念だった。講義では、ILO設立の時代的背景や組織の仕組みを概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたのかを振り返る。</p> <p>また、ILO設立から90年以上たった現在、「ディーセント・ワーク」を再度掲げる意義を確認する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 2. 権利侵害に対して、どのような救済手段、救済機関があるのかを知る。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	「知って役立つ労働法 働くときに必要な基礎知識」(内閣府) 授業の時に紹介する		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：労働法とは何だろう</p> <p>第2回 労働法の全体像 (1)：条約・憲法・民法と労働法</p> <p>第3回 労働法の全体像 (2)：労働法の基本理念と労働法の対象、労働組合とは</p> <p>第4回 労働条件決定の根拠：契約と就業規則・労働協約・法令</p> <p>第5回 労働関係の終了 (1)：解雇規制と解雇権の濫用</p> <p>第6回 労働関係の終了 (2)：整理解雇・辞職・合意解約・定年</p> <p>第7回 労働契約の期間：有期労働契約の規制と雇止め法理</p> <p>第8回 労働契約の期間：有期労働契約の規制と雇止め法理</p> <p>第9回 賃金についてのルール：賃金額と支払われ方</p> <p>第10回 労働時間と休憩・休日のルール (1)：法定労働時間と所定労働時間</p> <p>第11回 労働時間と休憩・休日のルール (2)：変形労働時間制、年次有給休暇</p> <p>第12回 安全で快適な職場環境のために：労災、パワーハラスメント・・・</p> <p>第13回 男女がいいきよとはたらくために (1)：性差別の禁止、間接差別の禁止、セクシュアル・ハラスメント</p> <p>第14回 男女がいいきよとはたらくために (2)：母性保護、ワーク・ライフ・バランス、ポジティブ・アクション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業時に提出してもらおう小レポート (40%) + 試験 (60%)		

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (学期) 後期 〔単位〕 2単位 (必修/選択) 選択 (授業形態) 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』(明石書店、2008年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて (1)</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて (2)</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動 (1)</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動 (2)</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動 (3)</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 (〔学期〕 後期) 〔単位〕 2単位 (〔必修/選択〕 選択 (〔授業形態〕 講義方式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント (2)江頭憲治郎他編, 『ポケット六法(平成24年度版)』, 有斐閣		
授業スケジュール	第1回 地方自治の意義: 住民自治, 団体自治, 伝來說, 固有権説, 地方自治の本旨 第2回 地方公共団体の種類: 地方公共団体の構成要素(住民, 区域, 法人格), 都道府県, 市町村 第3回 地方公共団体の区域・事務: 区域, 機関委任事務, 法手受託事務 第4回 住民の権利義務(1): 住民, 条例の制定改廃の請求, 事務監査の請求 第5回 住民の権利義務(2): 議会の解散請求, 議員, 長及び特定職員の解職請求, 住民監査請求 第6回 条例と規則(1): 条例制定権の範囲と限界, 法令先占論, 条例の形式的効力, 実質的効力 第7回 条例と規則(2): 条例制定手続, 条例と罰則, 行政罰, 規則の制定事項 第8回 議会(1): 議会の地位, 町村総会, 議会の組織, 議会の権限, 検査権 第9回 議会(2): 調査権, 請願受理権, 定例会, 臨時会, 議会の運営 第10回 議会(3): 定足数の原則, 会議公開の原則, 過半数議決の原則, 会期不継続の原則 第11回 執行機関(1): 長の地位, 長の権限, 長の職務の代理, 地方公共団体の事務所 第12回 執行機関(2): 行政委員会の意義, 長と行政委員会との関係, 監査委員, 教育委員会 第13回 議会と長との関係: 再議制度, 専決処分, 長に対する不信任議決, 議会の解散 第14回 地方公共団体と国の関係: 国の関与の手続, 法定受託事務の処理基準, 国地方係争処理委員会 第15回 予算: 予算事前議決の原則, 予算公開の原則, 総計予算主義の原則, 予算単一主義の原則		
成績評価の方法	筆記試験(90%)+授業での発言内容(10%)を基準として評価する。		

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成24年度版), 中央経済社。(予定)</p> <p>渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定)</p> <p>(2) 新井清光著, 川村義則補訂『現代会計学』(第13版), 中央経済社。(予定)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:履修登録確認, 配布資料, コース・バケット, 前期(簿記論Ⅰ)の復習</p> <p>第2回 手形:テキスト第11章</p> <p>第3回 有価証券:テキスト第12章</p> <p>第4回 固定資産:第13章</p> <p>第5回 資本金と引出金:第14章</p> <p>第6回 収益と費用:第15章</p> <p>第7回 消耗品:第15章, 税金:第16章</p> <p>第8回 復習, 予習・復習状況の確認:第7回までの資料, 場合によっては小テスト</p> <p>第9回 帳簿と伝票:第17章</p> <p>第10回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第11回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第12回 決算と財務諸表(その2):第18章</p> <p>第13回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第14回 復習:テキストとワークブックを用いた復習</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・バケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 2012年度の簿記論Ⅰ,Ⅱは、いずれも後期に開講されます。簿記論Ⅱを履修する学生は、必ずセットで簿記論Ⅰの履修登録を行ってください。

(注2) 2012年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も2012年度に簿記論Ⅱを履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する機能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する機能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明:講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か:管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1):企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2):人を働く気にさせる動機づけの種類について考える。</p> <p>第5回 組織における人間(3):「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。</p> <p>第6回 組織における人間(4):人は何に満足し、何に不満を感じるのか考える。</p> <p>第7回 年功主義と成果主義を改めて考える:年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。</p> <p>第8回 企業理念と組織文化:企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。</p> <p>第9回 組織構造を知る:組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。</p> <p>第10回 リーダーシップと人事管理:リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。</p> <p>第11回 上司と部下の関係:理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係に考える。</p> <p>第12回 リーダーの役割とは何か(1):リーダー(上司)の役割について考える。</p> <p>第13回 リーダーの役割とは何か(2):リーダー(上司)として適切な行動とは何かを知る。</p> <p>第14回 企業とキャリア:今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験(70%), 授業でのレポート(30%) (予定)</p> <p>詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	労務管理論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位		〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本とドイツの労務管理を比較しながら, 日本の労務管理の動向や問題点を探ります。</p> <p>【概要】 資本の蓄積が進むと, 複雑化した企業内の諸作業の把握と作業管理のための監督者組織の形成など, 企業の計画的運営の必要性が生まれます。これにともない使用者と被雇用者の相互前提性と相互排除性のあり方が発展・変化します。授業では, 使用者と被雇用者の関係をめぐる発展法則を理解し, 日本と海外の労働市場や労使関係の比較を行いながら日本の経営の特徴をとらえ, 今日の財界のグローバル化戦略である新日本的経営の目的と問題点を分析し, 企業社会, 格差社会, ワーキングプア等の社会問題がなぜ形成されたのか, どうすれば解決できるか等を検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p>【到達目標】 資本と賃労働の相互前提性と相互排除性が, 資本の蓄積の中でどのように発展するのかを, その原理の考察と現代日本資本主義・ドイツ資本主義の発展の比較考察をつうじて考察します。</p>		
	(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に指定しません。</p> <p>(2) 清野良榮編著『分析・日本資本主義』文理閣, 朝日吉太郎編著『グローバル化とドイツ経済。社会システムの新展開』文理閣</p>	
授業スケジュール	<p>第1回 労務管理論の対象と経営学の発展 : オリエンテーション</p> <p>第2回 資本・賃労働関係の理解について : 労働市場論を前提にした新しい労使関係論への問題提起</p> <p>第3回 現代資本主義と労使関係の発展 (1) : 現代資本主義の下での労使関係論のとりえ方を学ぶ</p> <p>第4回 現代資本主義と労使関係の発展 (2) : 労使紛争の制度化-コンフリクト理論の科学化をとらえる</p> <p>第5回 現代資本主義と労使関係の発展 (3) : ミドルマネジメントの発達理由を理解する</p> <p>第6回 日本的経営の特徴 (1) : 日本的経営論の検討と年功賃金を軸とする企業構造をとらえる</p> <p>第7回 日本的経営の特徴 (2) : 企業別労働市場分断化と企業主義的労使関係の再生産構造</p> <p>第8回 日本的経営の特徴 (3) : 事業所組合主義の形成と機能を理解する</p> <p>第9回 日本的経営の発展 : 狙われた年功賃金制度改革のあゆみをとらえる</p> <p>第10回 グローバル経済と新日本的経営 (1) : グローバル化と日本財界の新労務管理戦略を理解する</p> <p>第11回 グローバル経済と新日本的経営 (2) : 構造改革路線と格差形成・成果主義 財界の21世紀戦略をとらえる</p> <p>第12回 ドイツ労使関係とグローバル化 (1) : 戦後ドイツの労使関係の枠組をとらえ日本と比較する</p> <p>第13回 ドイツ労使関係とグローバル化 (2) : ドイツ軽罪のグローバル化をとらえる</p> <p>第14回 金融市場危機と雇用破壊の下での労使関係 : リーマンショック後の今日の労使関係と人事・労務政策をとらえる</p> <p>第15回 日本の労務管理の未来について : 現時点での日本的経営の問題と克服の方向を考える</p>		
	成績評価の方法	学期末試験 (100%)	

授業科目	管理会計論	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位		〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
	(1) テキスト (2) 参考文献		
授業スケジュール			
	成績評価の方法		

授業科目	原価計算	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	経営学特講 I	担当者	田原 武志・東 圭太
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経営」を広義にとらえ、手法を具体的に考察する。</p> <p>【概要】 本講義では、「経営」を一般的にイメージする会社経営はもちろんの事、文化祭実行委員会等の組織やそれぞれの家庭、自分自身の人生などを経営（マネジメント）する事はどういう事を学ぶ。それぞれの経営資源の抽出から始まり、次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が、家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本理念のもと、学生諸君とともに経営を学ぶ場とする。</p> <p>【到達目標】 社会人としての様々な局面で、その課題を解決するべく、経営の手法を身につける。</p>		
使用教材	(1) 毎回プリントを用意する。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回～第14回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 (テーマ例) 「世界に通用する(誇れる)鹿児島の良いとは?」「日新公いろは歌の考察」 「鹿児島県立短期大学の経営資源の考察」「企業の果たす社会的責任について」 「コミュニティービジネスの今後について考察」 「経営にコンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「家庭人、社会人としてのリスクマネジメント」「投機と投資の考察」 「人生において貯蓄の意義の考察」「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」等々</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業での発表、レポートの評価、定期試験（プリント・レポート・ノート持ち込み可）の結果（全体で100%）		

授業科目	経営学特講Ⅱ	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】 市場の成熟化や商品のコモディティ化が叫ばれるなか、企業にとって新たな市場戦略の構築が現代的課題となっている。本講義では、グローバリゼーションにおける主要なプレイヤーである多国籍企業に焦点を合わせ、その市場戦略について様々な角度から検討する。</p> <p>【到達目標】 現代多国籍企業の市場戦略とはいかなるものか、われわれの生活とどのように関係しているかを理解する。グローバルな視点に立って、企業・市場・社会の関係性について考察するための視点を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 市場戦略とは何か、現代における市場の特徴 第 3回 多国籍企業とは何か 第 4回 多国籍企業の市場戦略 第 5回 ブランド戦略論 (1) 第 6回 ブランド戦略論 (2) 第 7回 ブランド戦略論 (3) 第 8回 中間試験 第 9回 多国籍企業の市場戦略と文化 第 10回 ソフト・パワー論 第 11回 文化産業 第 12回 多国籍企業の市場戦略と企業の社会性 第 13回 事例分析 (1) 第 14回 事例分析 (2) 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

授業科目	情報管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の考え方について</p> <p>【概要】 情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捕らえようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な要素も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこの部分を中心に、企業における情報の管理について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】 今日の情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。 第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。 第 4回 比重が高まる情報の力について (1)：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。 第 5回 比重が高まる情報の力について (2)：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。 第 6回 メディアリテラシーという考え方について (1)：メディアリテラシー全般について説明する。 第 7回 メディアリテラシーという考え方について (2)：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。 第 8回 メディアリテラシーという考え方について (3)：情報を発信するための考え方を理解する。 第 9回 情報とメディア媒体 (1)：メディアと情報の関係について考える。 第 10回 情報とメディア媒体 (2)：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。 第 11回 情報操作 (1)：情報操作とは何かを説明する。 第 12回 情報操作 (2)：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。 第 13回 情報化の意義と必要性 (1)：企業における情報化の意義と必要性について説明する。 第 14回 情報化の意義と必要性 (2)：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験 (70%)、授業でのレポート (30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営戦略論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略論の基本的知識を習得する</p> <p>【概要】 経営戦略とは、企業が外部環境に適応し、長期的に存続・成長するための意思決定（あるいは、そのような意思決定を行うための指針）である。経営戦略は、組織階層に応じて、企業戦略、事業戦略（競争戦略）、職能別戦略、の3つのレベルに区分できるが、本講義ではとりわけ前二者を中心に解説していく。さらに、グローバル戦略や企業の社会性など、近年の企業経営において重要性を増しているテーマについても講義していく。</p> <p>【到達目標】 経営戦略論における基本概念を知る。それぞれの概念がどのような関係にあるのか、学説史的にどのような流れを辿ってきたのを理解する。本講義で習得した知識を現実の企業に適用し、分析できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 経営戦略とは何か 第 3回 経営理念とドメイン 第 4回 規模の経済性と範囲の経済性、水平統合と垂直統合 第 5回 多角化戦略, M&A と戦略的提携 第 6回 経験曲線と PLC 第 7回 PPM 第 8回 中間試験 第 9回 競争戦略とは何か、競争戦略の学説史 第 10回 ポジショニング・アプローチ 第 11回 資源ベース・アプローチ 第 12回 学習アプローチ, ゲーム論的アプローチ 第 13回 グローバル戦略 第 14回 経営戦略と企業の社会性 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。ところが、これらの企業の暴走がインフレ・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような事態になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p>【到達目標】 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に指定しません</p> <p>(2) 丸山恵也『批判経営学』-学生・市民と働く人のために</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション</p> <p>第2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる</p> <p>第3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる</p> <p>第4回 資本の再生産と領有法則の転変 : 所有法則の変化をとらえる</p> <p>第5回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する</p> <p>第6回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる</p> <p>第7回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する</p> <p>第8回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する</p> <p>第9回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原理解を理解する</p> <p>第10回 銀行と信用, 株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。</p> <p>第11回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる</p> <p>第12回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する</p> <p>第13回 恐慌と戦争 : 資本が国際展開する理由と、海外摩擦を考える</p> <p>第14回 日本の企業集団 (1) 戦前 : 戦前の日本資本主義の特徴をとらえる</p> <p>第15回 日本の企業集団 (2) 戦後 : 戦後の日本資本主義の特徴をとらえる</p> <p>第16回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での日本資本主義の変化をとらえる</p>		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業会計制度とその役割</p> <p>【概要】 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、制度会計の領域に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、制度会計(会社法会計と金融商品取引法会計)を中心として学習するとともに、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。</p> <p>【到達目標】 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 新井清光著, 川村義則補訂『現代会計学』 (第13版), 中央経済社。(予定)</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録確認, コース・パッケージ配布, 会計って何?: テキスト第1章 (総論)</p> <p>第2回 企業会計の仕組み (その1-技術的特徴) : テキスト第2章</p> <p>第3回 企業会計の仕組み (その2-理論的特徴) : テキスト第3章</p> <p>第4回 企業会計制度: 第4章</p> <p>第5回 資産会計: 第5章</p> <p>第6回 負債会計: 第5章</p> <p>第7回 負債会計: 第6章</p> <p>第8回 資本会計: 第7章</p> <p>第9回 損益会計: 第8章</p> <p>第10回 損益会計: 第8章</p> <p>第11回 財務諸表の作成: 第9章</p> <p>第12回 財務諸表の作成: 第9章</p> <p>第13回 連結財務諸表: 第10章</p> <p>第14回 連結財務諸表: 第10章</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>講義への参加度 (発言や質問など) (10%) 筆記試験 (90%) で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パッケージを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 簿記論 I, II を履修済み (履修中) であること, ないし日商簿記検定3級以上の知識があることを前提に講義を行います。

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】 マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。本講義では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】 マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、消費者として、企業がいかなるマーケティング戦略を行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客ニーズや顧客満足を満たすためには、いかなる努力が必要であるかを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 マーケティングの誕生と基本概念 第 3回 標的市場の選択 第 4回 市場・消費者行動分析 第 5回 競争分析 第 6回 製品戦略 第 7回 価格戦略 第 8回 中間試験 第 9回 流通戦略 第 10回 プロモーション戦略 第 11回 ブランド戦略 第 12回 経験価値マーケティング 第 13回 関係性マーケティング 第 14回 グローバル・マーケティング 第 15回 ソーシャル・マーケティング		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治, 『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店		
授業スケジュール	第 1回 序論: 経営工学とは 第 2回 生産スケジューリング 1: どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3回 生産スケジューリング 2: どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4回 工程編成: 均等に作業を割り当てるには 第 5回 プロジェクト管理: プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6回 設備配置: 設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7回 生産計画: 何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8回 作業分析: 作業者の動作を分析する 第 9回 需要予測: 過去のデータから未来を予測する 第 10回 投資計画: お金の現在価値と将来価値 第 11回 配送計画: 配達順序を決める 第 12回 最短経路: 一番近い道を探す 第 13回 在庫問題: 在庫コストを少なくする 第 14回 評価と選択: 複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的なパソコン教室での講義。)	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 この科目では、簿記一巡の手続きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト(エクセル)の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法(成長性、収益性、安全性)について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称: EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network))を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス: 履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像 第2回 会計情報の利用者: 利害関係者、会計情報の入手方法 (EDINETの使い方) 第3回 有価証券報告書: 全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第4回 財務諸表分析1: 財務諸表分析とは、分析の視点 第5回 財務諸表分析2: 安全性分析1 第6回 財務諸表分析3: 安全性分析2 第7回 財務諸表分析4: 収益性分析1 第8回 財務諸表分析5: 収益性分析2 第9回 財務諸表分析6: 成長性分析3 第10回 財務諸表分析7: キャッシュ・フロー分析1 第11回 財務諸表分析8: キャッシュ・フロー分析2 第12回 財務諸表分析9: その他の分析項目 第13回 時系列分析 (2社以上) 第14回 同業他社比較分析 (2社以上) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	講義での発言内容、講義(毎回ではないが)で作成した資料(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

(注1) 履修に際しては、簿記論I, II, 財務会計論を履修済みであることが望ましい。

(注2) 情報リテラシーI, II, PCデータ活用を履修し、単位取得済みであれば、なお望ましい。

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のAccessの操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトのAccessを利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『30時間でマスター Access2007』もしくは『30時間でマスター Access2010』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ		
授業スケジュール	第1回 序論: リレーショナルデータベースの概念 第2回 Accessの操作: Accessとは 第3回 Accessの操作: レコードの並べ替え 第4回 Accessの操作: レコードの追加 第5回 Accessの操作: フォームの作成 第6回 Accessの操作: 選択クエリの作成 第7回 Accessの操作: さまざまなクエリ 第8回 Accessの操作: データベースの設計 第9回 Accessの操作: リレーションシップの作成 第10回 Accessの操作: レポートの作成 第11回 Accessの操作: レポートのアレンジ 第12回 Accessの操作: マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習		
成績評価の方法	講義中の小テスト(40%) + 課題(60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念をExcelに含まれているVBAにより学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBAの利用により、さらに高度なExcelの活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBAを利用したExcelのより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかるExcelVBAプログラミング 第3版』, ソフトバンククリエイティブ (2) 立山秀利, 『ExcelVBAのプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：プログラミングの概念 第2回 マクロ：マクロの登録と実行 第3回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBAの利用：プロシージャ 第5回 VBAの利用：オブジェクト 第6回 VBAの利用：セルの操作 第7回 VBAの利用：演算子 第8回 VBAの利用：条件分岐 第9回 VBAの利用：繰り返し処理 第10回 VBAの利用：変数の利用 第11回 VBAの利用：関数の作成 第12回 VBAの利用：ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：講義の概要 第2回 情報技術の進化：コンピュータやインターネットの歴史 第3回 コンピュータの仕組み1：ハードウェア 第4回 コンピュータの仕組み2：ソフトウェア 第5回 ネットワーク技術1：インターネットの概要 第6回 ネットワーク技術2：インターネットのプロトコル 第7回 コンピュータの利用：データベースとプログラミング 第8回 情報セキュリティ1：共通鍵暗号 第9回 情報セキュリティ2：公開鍵暗号 第10回 シミュレーション1：シミュレーションとは 第11回 シミュレーション2：簡単なシミュレーションを体験する 第12回 意思決定1：意思決定とは 第13回 意思決定2：エクセルのソルバーの利用 第14回 データ分析：エクセルのデータ分析の利用 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

13 第二部商經学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	木戸 裕子・坂上 ちえ子・田口 康明・轟 義昭 瀬口 毅士・竹中 啓之・有村 恵美
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 (注) [授業形態] 講義形式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大の、三つの学科の7人の教員がそれぞれの分野から、世界各国さまざまな時代における「文化」とは何かを考察します。一週間という集中した期間で、さまざまな知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。</p> <p>【到達目標】各国、各時代の文化について、多方面から考え、理解する。また、考えたことを自分のことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン：文化とは (木戸) 第2回 日本古典文学と文化：伊勢物語と絵画 (木戸) 第3回 色を伝える言葉1：色名のはじまり (坂上) 第4回 色を伝える言葉2：色名の現在 (坂上) 第5回 教育と文化1 (田口) 第6回 教育と文化2 (田口) 第7回 大衆文化におけるイギリス文学：映像と文学 (轟) 第8回 大衆文化におけるイギリス文学：黒澤映画の『蜘蛛巣城』と『乱』 (轟) 第9回 消費と文化 (瀬口) 第10回 多国籍企業の市場戦略と文化 (瀬口) 第11回 企業理念と企業文化 (竹中) 第12回 企業文化の役割と限界 (竹中) 第13回 日本の食文化：食と健康 (有村) 第14回 鹿児島島の食文化：郷土料理 (簡単な調理をする予定) (有村) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) と毎回の授業の感想・意見等 (20%) で評価します。		

(注) 前期集中講義期間 (9月19・20日, 24日～28日の7日間)

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の歴史と南九州・南島の歴史</p> <p>【概要】『日本の歴史』では、原始～中世前期についてみていくこととするが、その際、日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していきたい。</p> <p>【到達目標】地元歴史に関心を持つ</p>		
使用教材 (1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜プリントを用意する。 (2) 『鹿児島県の歴史』 (山川出版社, 1999年) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆林武一 『鹿児島島の湊と薩摩藩』 (吉川弘文館, 2002年) 松下浩朝・下野敏見編		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料 第3回 資料と史料 第4回 資料と史料 第5回 旧石器時代・縄文時代 第6回 弥生時代・古墳時代 第7回 隼人の世界 第8回 隼人の世界 第9回 薩摩国正統史を讀む 第10回 平安時代の薩摩・大隅 第11回 平安時代の薩摩・大隅 第12回 夜光貝をめぐる歴史 第13回 カムイヤキ類焼土器をめぐる歴史 第14回 キカイガシマとイオウガシマ 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート(40%) + 授業ごとに実施するまとめと感想(60%)		

授業科目	日本文学	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 九州新幹線鹿児島ルート全線開業に伴い、鹿児島と九州各地、本州との行き来がますます盛んになりそうです。新幹線に限らず交通機関の発達した現代においても、人は旅することで様々な発見をします。そういう発見、体験は文学に豊富な題材をもたらしました。交通機関の発達していない古代において人は旅で何を感じ、どんな文学作品を書いてきたのでしょうか。本講義では旅を描いた文学作品に触れ、各時代の人々の考え方、文化について学びます。</p> <p>【到達目標】 旅をテーマにした様々な文学作品に触れ文学のおもしろさを知る。自分の考えをことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。プリントを用意します。</p> <p>(2) 第1回授業で提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 家にあらばけに盛る飯を・・・『万葉集』の旅</p> <p>第3回 はるばるも来ぬるものかな・・・『伊勢物語』東下りの旅</p> <p>第4回 男もすなる日記といふものを・・・『土佐日記』の旅</p> <p>第5回 二千里の外、故人の心・・・『源氏物語』の旅1</p> <p>第6回 『源氏物語』の旅2</p> <p>第7回 あづま路の道のはてよりも・・・『更級日記』の旅</p> <p>第8回 都出でてけふ九日になりけり・・・『匡衡集』・『赤染衛門集』1</p> <p>第9回 『匡衡集』・『赤染衛門集』2平安時代の転勤事情</p> <p>第10回 月日は百代の過客にして・・・『奥の細道』</p> <p>第11回 薩摩の旅・お江戸の旅・・・『垂邑詩集(すいゆうししゅう)』1</p> <p>第12回 『垂邑詩集』2</p> <p>第13回 江戸の紀行集</p> <p>第14回 鉄道マニアの文豪 内田百閒『阿房列車』</p> <p>第15回 前期定期試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) および講義に関する毎回の感想・意見等 (20%) で評価します。		

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらった実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの見方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：様々な対人関係</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	「レポート (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)」		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 文化・異文化とは？ 第 2回 コミュニケーションとは？ 第 3回 言語・非言語コミュニケーション1 第 4回 言語・非言語コミュニケーション2 第 5回 言語・非言語コミュニケーション3 第 6回 ステレオタイプと偏見 第 7回 オリエンタリズム 第 8回 価値観 第 9回 グローバリゼーションと文化・文明の衝突 第 10回 ディアスポラ 第 11回 カルチャーショックと異文化適応 第 12回 翻訳と通訳 第 13回 異文化コミュニケーションの方法1 第 14回 異文化コミュニケーションの方法2 第 15回 多文化共生		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

授業科目	アジア文化論	担当者	川野 和昭
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州, 南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島 の文化的アイデンティティを確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。		
授業スケジュール	第1回 本講の概要, 目的, 方法, 評価について。アジア地域の確認 第2回～第4回 焼畑文化, 特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島 第5回～第8回 ラオス北部の「竹の焼畑」文化 第9回～第11回 稲作儀礼と稲作神話の比較 第12回～第14回 竹の生活道具の比較 第15回 まとめ		
成績評価の方法	学期末筆記試験 (60%) と授業への意欲 (40%)		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権, 基本的人権の尊重, 平和主義を体系的に理解した上で, 日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに, 基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年, その価値が問直されている一方, 新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では, 国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権, 平和に崇高な価値をおき, その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義, 個人の尊厳の原理に基づき, 個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として, 人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し, 政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 江頭憲治郎他編, 『ポケット六法(平成24年度版)』, 有斐閣		
授業スケジュール	第1回 日本国憲法の意義: 立憲主義, 民主主義, 自由主義, 法の支配の理念 第2回 憲法概論: 国民主権, 基本的人権の尊重, 平和主義, 権力分立主義の理念 第3回 基本権総論: 私人間の権利保障, 基本権の享有主体性, 二重の基準の理論 第4回 包括的権利・参政権: 幸福追求権, プライバシーの権利, 法の下での平等, 選挙に関する憲法原則 第5回 精神的自由権(1): 思想・良心の自由, 信教の自由, 政教分離の原則 第6回 精神的自由権(2): 表現の自由, 検閲の禁止, 知る権利, 学問の自由, 教育の自由 第7回 経済的自由権: 職業選択の自由, 居住・移転の自由, 国籍離脱の自由, 財産権 第8回 受益権: 裁判を受ける権利, 請願権, 国家賠償請求権, 刑事補償請求権 第9回 社会権: 生存権, 環境権, 教育を受ける権利, 労働基本権 第10回 国会(1): 国権の最高機関の意味, 唯一の立法機関の意味, 衆議院の優越 第11回 国会(2): 国会議員の地位, 議員の特権, 国会の活動, 国会と議院の権能 第12回 内閣: 内閣の地位, 内閣総理大臣の権限, 国務大臣の権限, 内閣の責任 第13回 裁判所: 最高裁判所の権限, 統治行為論, 違憲審査制 第14回 財政: 財政民主主義, 租税法律主義, 国費支出議決主義, 公金支出の禁止 第15回 憲法改正: 憲法改正の手続, 憲法改正の限界		
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは, 物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し, 推論する思考過程を身に付ける能力を培い育んでいくことです。一方, 数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は, 諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。そこで, 数学は, 知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は, 前者に力点を置くことが望ましい。すなわち, 数学とは何かとか, 何のために数学を学ぶのか等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】 1 教科としての数学と, 学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成並びに社会生活に役立つ数学的な物の見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 量的な面を考慮して, 特定めない (2) 興味, 関心, 意欲養成に適宜提示する		
授業スケジュール	第1回 1 数学という学問 第2回 2 数学の要請 ・ 数学的帰納法 ・ デカルトの発見的方法 第3回 2 数学の魅力と素数分解の一意性 第4回 2 数学の源 ・ 零0の発見 ・ 完全数 ・ 友愛数 ・ 婚約数 第5回 3 三平方の定理の魅力 第6回 3 ピタゴラス数の折り紙表現 第7回 4 フェルマーの定理の魅力と現代数学 第8回 4 フェルマー数 ・ フェルマー予想の証明 第9回 5 経済や社会の動向を探る現代数学 第10回 5 行列論 (行列と行列式) 第11回 5 行列の経営学への適用とキー作り 第12回 5 クラメルの定理と行列式による3元連立1次連立方程式の解 第13回 5 マルコフの推移行列とマーケット・シェア 第14回 6 特講: ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界 第15回 6 まとめ	履修状況調査と小論文	
成績評価の方法	筆記試験 (90%), 小論文 (10%)		

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・則久 雅司
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [学期] 前期 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】環境問題を、森林(相場), 化学(井余田), 自動車産業(野村), 環境保護行政(則久)の四つの視点から考える</p> <p>【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林(1)：森林の役割 第3回 森林(2)：森林と環境 第4回 化学(1)：汚染物質1 第5回 化学(2)：汚染物質2 第6回 化学(3)：汚染物質3 第7回 化学(4)：汚染物質4 第8回 自動車(1)：ハイブリッド 第9回 自動車(2)：EV 第10回 自動車(3)：LCVとULCV 第11回 自動車(4)：発電と蓄電 第12回 環境保護行政(1)：総論 第13回 環境保護行政(2)：屋久島 第14回 環境保護行政(3)：奄美 第15回 まとめ		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ</p> <p>【概要】自分の頭で考え、そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで、下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き、スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。</p> <p>【到達目標】「相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰しも経験があるのではないのでしょうか。</p> <p>演習形式の本授業は、主に以下の2つの能力の習得・研鑽を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇ これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 <p>これらの能力を身につけることで、必要な情報を正確に受け取れるようになったり、情報を的確に伝達・表現できるようになったり、あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり、その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはらずです。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方の説明 第2回 偏愛マップでコミュニケーション 第3回 わかりやすい文章を書く・1-あいまい文 第4回 わかりやすい文章を書く・2-接続詞の上手な使い方 第5回 わかりやすい文章を書く・3-Eメールの文章 第6回 自己紹介をする・1-自分を紹介するということ 第7回 自己紹介をする・2-みんなの前で話してみよう 第8回 敬語のしくみ・1-3種類の敬語 第9回 敬語のしくみ・2-間違いやすい敬語 第10回 敬語のしくみ・3-敬語を使いこなすために 第11回 想いを伝える・1-想いを伝えるということ 第12回 想いを伝える・2-手紙の執筆 第13回 想いを伝える・3-スピーチの準備 第14回 想いを伝える・4-自分を人に知ってもらうためのスピーチ 第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は次のとおりです。 平素の作業の成果(50%)、学期末に行うまとめテスト(50%) なお、総授業回数1/3に該当する回数分を欠席した場合、単位は認定しないので留意のこと。 授業計画および授業内容の詳細については初回授業時に具体的に説明します。		

(注) 受講者数は20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」、「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】 鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習(チューターの支援あり)を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成23年度実施概要(平成24年度については未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	講義ノート(レポート以外の部分) 30%、グループ討論・発表内容(40%)、レポート(30%)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成23年度実施概要(平成24年度は未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。 実地調査等30%(学習目標①)、グループ討論・発表20%と提案内容20%(学習目標②)、レポート30%(学習目標③)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>〔講師車〕平成23年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月29日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 木戸裕子(文学科教授), 内田昌廣(商経学科教授), 西村道子(株式会社 昴) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 前田幸一(㈱浜島印刷), 丸田真悟(NPO法人かごしまアートネットワーク) 田原武志(㈱アシップ), 野元一臣(㈱ビルメン鹿児島) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月20日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 宇都泰礼(㈱健康家族), 北川隆巳(京セラ株), 青山栄一(㈱フォーバル), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫), 本学卒業生8人(中学校教員, 栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員 <p>※24年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

(注) 24年度は3年生も希望者のみ履修可

14 第二部商経学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 1 単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につける。</p> <p>【概要】授業の前半は、毎回、洋楽で楽しみながら英語の音になじむことからスタートし、英語の音声変化を学ぶとともに、パラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）などの口頭練習で、英語の音やリズムになれ、「自然な英語を聞き取るコツ」「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。</p> <p>授業後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと楽しく海外旅行を擬似体験しながら、ナチュラルスピードの会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、一人で海外旅行をする際に役立つ、基本的な会話表現やフレーズを学習していきます。さらに、海外旅行で遭遇する英語での書類、案内、パンフレットなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>なお、この授業では各自パソコンを使って自分のペースで取り組めるので、リスニングが苦手な人でも心配ありません。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音・易しい表現で、自分の意図を伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用します></p> <p>第 1 回 オリエンテーション：授業内容と進め方の説明 / リスニングとスピーキングのコツ</p> <p>第 2 回 On a Flight: Taking a Seat： 機内での過ごし方① ー機内で座席に着くー</p> <p>第 3 回 On a Flight: Mean Service： 機内での過ごし方② ー機内での食事ー</p> <p>第 4 回 Immigration： 入国の手続き① ー入国審査を受けるー</p> <p>第 5 回 Customs： 入国の手続き② ー税関での申告ー</p> <p>第 6 回 Checking in at a Hotel： ホテルの利用法① ーホテルにチェックインするー</p> <p>第 7 回 Seeing the Room： ホテルの利用法② ー部屋に案内してもらおうー</p> <p>第 8 回 Guest Services： ホテルの利用法③ ー客室でのサービスー</p> <p>第 9 回 Checking Out： ホテルの利用法④ ーホテルをチェックアウトするー</p> <p>第 10 回 Finding a Hotel： 広告から情報を読み取る</p> <p>第 11 回 Tourist Information： 旅行案内所を利用する</p> <p>第 12 回 Taking a City Bus： 市内バスに乗る</p> <p>第 13 回 Taking a Taxi： タクシーに乗る</p> <p>第 14 回 Review： 復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語 I (B)	担当者	霧島 S. 怜
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 1 単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 An Understanding of Spoken Sentences and A Guided Mini- conversation. (相手の理解と会話の試み)</p> <p>【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリアの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で喋り始めたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語やドイツ語も簡単な) という志が極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	L.A. Hill, "Advanced Anecdotes in American English", Oxford Univ.Press [ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082]必要に応じて配布する		
授業スケジュール	<p>第 1 回 演習の内容、方法と成績について。ミニ演習。</p> <p>第 2 回 U 1. A College Dean and A Coach (読解と朗読 ◇ 指導の下でミニ会話の練習 ◎)</p> <p>第 3 回 U 2. The Parents' Expectations (◇ ◎)</p> <p>第 4 回 U 3. The First Day of Business (◇ ◎)</p> <p>第 5 回 U 4. How Do Know About Me? (◇ ◎)</p> <p>第 6 回 U 5. Can You Identify Yourself? (◇ ◎)</p> <p>第 7 回 グループの習熟 A</p> <p>第 8 回 U 8. The Vacations at the Sea Resort (◇ ◎)</p> <p>第 9 回 U 9. A Businessman and A Secretary (◇ ◎)</p> <p>第 10 回 U12. An Impolite Manager (◇ ◎)</p> <p>第 11 回 U14. A Chat About Kids (◇ ◎)</p> <p>第 12 回 グループの習熟 B</p> <p>第 13 回 U15. The First and Perhaps the Last Date (◇ ◎)</p> <p>第 14 回 受講生が選択したテーマの学習 (M)</p> <p>第 15 回 前期学習のまとめ等</p> <p>★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。</p>		
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計		

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れるとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につけ、自分でも使えるようになる。</p> <p>【概要】 授業の前半は、洋楽を使ったエクササイズでウォーミング・アップすることから始め、毎回、シンクローリーディングやシャドーイングといった、聞き取った音とリズムを再現する口頭練習で、「聞く力」と「話す力」をアップさせていきます。授業後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと一緒に海外旅行での様々な場面を楽しく疑似体験しながらリスニング力をつけるとともに、役立つ会話表現やフレーズを学習し、一人でも海外旅行を楽しめる程度の英語力をつけていきます。さらに、海外旅行で遭遇する英語での案内文、地図、メニューなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>【到達目標】 会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語で話される相手の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、自分の意図を伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p><毎回, LL 教室を利用します></p> <p>第 1回 Renting a Car : 車を借りる 第 2回 At a Museum : 美術館にて 第 3回 At a Golf Shop : ゴルフ・ショップにて 第 4回 Going to the Theater : 劇場に行く 第 5回 At a Department Store : デパートで買い物をする 第 6回 Shopping for a Souvenir : おみやげを買う 第 7回 Breakfast at a Hotel : ホテルで朝食 第 8回 Lunch at a Fast-Food Place : ファーストフード店でランチ 第 9回 Making a Dinner Reservation : 夕食の席を予約する 第 10回 Dinner at a Restaurant : レストランで夕食 第 11回 At a Post Office : 郵便局を利用する 第 12回 Making a Phone Call : 日本へ国際電話をかける 第 13回 Lost and Found : 落し物で遺失物取扱所へ行く 第 14回 Review : 復習 第 15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への出席と取り組み状況 (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	霧島 S. 怜
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 A Good Understanding and A Meaningful Mini- conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)</p> <p>【概要】 学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴らしいローマは一夜にしてならず) という有名なイタリヤの諺が教示しているように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導で突然、完璧なウクライナ語や英語で有意義な対話に成功したのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼女や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、タガロ語やドイツ語も簡単さ) という志が極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】 演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	L.A. Hill, "Advanced Anecdotes in American English", Oxford Univ.Press (ISBN 0-19-502603-9) 必要に応じて配布する		
授業スケジュール	<p>第 1回 演習の内容、方法と成績について。ミニ演習。 第 2回 U17. A Diving Lesson (読解と朗読 ◇ 指導の下でミニ会話の練習 ◎) 第 3回 U19. A Client and A Cashier (◇ ◎) 第 4回 U20. The First Baby (◇ ◎) 第 5回 U22. A Lesson of Morals (◇ ◎) 第 6回 グループの習熟 A 第 7回 U23. Don't Get Excited About Small Things (◇ ◎) 第 8回 U24. Two Businessmen at A Party (◇ ◎) 第 9回 U27. A Very Special Restaurant (◇ ◎) 第 10回 U28. An Artist and A Beggar (◇ ◎) 第 11回 U29. A Very Special Visit (◇ ◎) 第 12回 グループの習熟 A 第 13回 St. Valentine's Day (◇ ◎) 第 14回 受講生が選択したテーマの学習 (C) 第 15回 後期学習のまとめ等 ★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。</p>		
成績評価の方法	予習 40% と 演習参加 60% の合計		

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2011年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/6(火) ~9/22(木) ・参加者 26名 ・研修費用 約29万円 (授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料) <p>【到達目標】 「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3~4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄を説明, 前もって課題 (レポート作成) の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定 (約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後には文化に関する授業 (フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題 (研修日誌, 体験記) (50%) とハワイでの研修状況 (50%) で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた中国語を学び、運用能力を高める。</p> <p>【概要】 南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2011年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程: 8月27日 (土) ~9月10日 (土) [15日間] ・参加者: 4名 (文教科日本語日本文学専攻1名, 商経学科経済専攻2名, 生活科学専攻1名) ・費用: 約14万円 (授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】 「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3~4回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題 (レポート作成) の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後にはさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概 要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回 我是上海人 第 2回 我叫王平 第 3回 这里是南京路 第 4回 现在几点了? 第 5回 今天是星期几? 第 6回 你家有几口人? 第 7回 没关系 (中間テスト) 第 8回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9回 四川菜很好吃 (映画) 第 10回 我经常散步 第 11回 牌价是多少? 第 12回 汉语难不难? 第 13回 我没吃蒜 第 14回 我想去超市 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語に親しむ。 【概 要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第 2回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習 第 3回 発音 (2)：複母音の導入、練習 第 4回 発音 (3)：子音の導入、練習 第 5回 挨拶ことば：発音の復習、初対面の挨拶と簡単な会話の導入、練習 (教科書第1課) 第 6回 自己紹介：自己紹介および所属を尋ね合う表現の導入、練習 (教科書第2課) 第 7回 疑問詞：疑問詞を使った疑問文の導入、練習 (教科書第2課) 第 8回 復習 (1)：第1課～第2課の復習 第 9回 動詞述語文：動詞を使った表現の導入、練習 (教科書第3課) 第 10回 連動文：連動文の導入、練習 (教科書第3課) 第 11回 願望を表す表現：願望を表わす助動詞「想」の導入、練習 第 12回 復習 (2)：第3課の復習と応用練習 第 13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14回 復習 (3)：全体の復習 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概 要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級、漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了(中間テスト) 第8回 我不会打日文(映画) 第9回 你知道号码吗?(映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概 要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、前期の復習 第2回 願望を表す表現：願望を表わす助動詞「想」の導入、練習(教科書第4課) 第3回 形容詞述語文：形容詞を使った表現の導入、練習(教科書第4課) 第4回 買い物に用いられる表現の導入、練習(教科書第4課) 第5回 数字(1~100)及び年齢を尋ね合う表現の導入、練習(教科書第5課) 第6回 家族構成を尋ね合う表現の導入、練習(教科書第5課) 第7回 比較の言い方「比」の導入、練習(教科書第5課) 第8回 復習(1)：第4、5課の復習。 第9回 経験を表す表現：経験を表わす「過」の導入、練習(教科書第6課) 第10回 必要を表す表現：必要を表わす「要」の導入、練習(教科書第6課) 第11回 年月日・曜日の言い方：年月日・曜日の言い方の導入、練習(教科書第7課) 第12回 時刻の言い方：時刻の言い方および文末の「了」の導入、練習(教科書第7課) 第13回 前置詞「在」の導入、練習(教科書第7課) 第14回 復習(2)：第6、7課の復習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業への参加度と授業時に実施する小テスト：50%、期末試験：50%		

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ	担当者	瀬戸口 照夫・長岡 良治
	[履修年次] 1年 [学期] 前期, 後期 [単位] 各期1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】 実技では、屋外でテニス、サッカー、ソフトボール、屋内では、バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、ミニサッカー等を課す</p> <p>【到達目標】 それぞれの種目の基礎的運動技術を習得しゲームが出来るようになることが最終目標である</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	選定した種目の基礎技術の練習をした後、ゲームを中心に実施する。 例 1, バドミントン ハイクリヤー, ドロップ, スマッシュ, ヘヤビンの練習後ゲームを実施する。 2, バレーボール, ソフトバレーボール パス, スパイク, サーブの練習後にゲームを実施する。 3, バスケットボール, ミニサッカー パス, シュート練習後ゲームを実施する。 4, テニス フォアハンドストローク, バックハンドストローク, ボレー, サーブの基礎練習後ゲームを実施。		
成績評価の方法	出席状況(50%), 基礎技術 (50%)		

16 第二部商經学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術こつても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のための Word 2007』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでにご学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目50%) + 授業ごとに実施する課題(30%)		

授業科目	情報リテラシー II	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 普段何気なく使っているパソコン・アプリケーションの、仕組みや基本操作を確認する。</p> <p>【概要】 Windows 7 の概念・基本操作を習得し、それをあらゆるアプリケーションに活用する。</p> <p>【到達目標】 ファイル操作、インターネット閲覧・操作(メールを含む)、アプリケーションの活用が確実にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリント</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現在のパソコン活用状況の確認</p> <p>第2回 基本操作(画面の見方・用語の確認)</p> <p>第3回～第4回 メール操作(学内推奨のWebメール・Thunderbirdを使用)</p> <p>第5回～第6回 ファイル・フォルダ操作</p> <p>第7回～第8回 インターネットを活用</p> <p>第9回～第10回 デジカメ・画像を活用</p> <p>第11回 その他の機能(スキャナの活用、PDFファイルについて)</p> <p>第12回 その他の機能(トラブル解決法について)</p> <p>第13回～第14回 前期習得操作の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況(40%) + レポート提出(60%)		

授業科目	情報リテラシーⅡ	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使える力を持とう</p> <p>【概要】 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p>【到達目標】 そこにコンピュータがあるなら、それを臆せず使う気持ちを持たせる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) (2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 コンピュータを起動しよう。OSってなんだろう。 第2回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう 第3回 ブラウザの基本的使い方 第4回 We bメールの送受信 第5回 ファイルとフォルダ 第6回 フラッシュメモリを使おう (メールソフトを使ってメールしよう) 第7回 ホームページを作ってみよう 第8回 クリックひとつで次のページへ 第9回 ペイントで描いた画像をページへ 第10回 携帯から写メール 第11回 HTMLあれこれ 第12回 ホームページに自分のギャラリー (1) 第13回 ホームページに自分のギャラリー (2) 第14回 プレゼンでまとめよう (1) 第15回 プレゼンでまとめよう (2)</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開したホームページとプレゼン作品 (50%) により評価する		

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論	担当者	未定
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』見洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう？</p> <p>第2回 市場経済の仕組み (1)：価格の決定理論 ①</p> <p>第3回 市場経済の仕組み (2)：価格の決定理論 ②</p> <p>第4回 市場経済の仕組み (3)：需要曲線と供給曲線を使って現実の経済現象を分析する</p> <p>第5回 市場経済の仕組み (4)：市場での交換による利益 (余剰分析)</p> <p>第6回 消費者・企業の行動理論(1)：選択の費用と時間の費用 (機会費用, 割引現在価値)</p> <p>第7回 消費者・企業の行動理論(2)：分業の理論 (絶対優位と比較優位)</p> <p>第8回 消費者・企業の行動理論(3)：寡占市場での企業行動の理論, 独占的競争市場の理論</p> <p>第9回 国全体の経済の仕組み (1)：GDPの理論 ①</p> <p>第10回 国全体の経済の仕組み (2)：GDPの理論 ②</p> <p>第11回 国全体の経済の仕組み (3)：GDP水準の決定理論 ①</p> <p>第12回 国全体の経済の仕組み (4)：GDP水準の決定理論 ②</p> <p>第13回 国全体の経済の仕組み (5)：財市場と貨幣市場の同時均衡, 財政政策や金融政策の効果</p> <p>第14回 国全体の経済の仕組み (6)：景気変動の理論</p> <p>第15回 まとめ (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済情報論	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式 〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 メディアを通して日々接している日本や世界の経済に関するさまざまな情報（経済情報）を、統計データによってより深く理解する基礎力を養う。</p> <p>【概要】 現代経済のさまざまなトピックを採り上げ、統計データを読み取ることによってその経済事象の実像をより深く理解することを主眼におく。加えて、それら経済事象の動きの背景にある動き、及ぼす影響などについて理解を深めることによって、日本や世界の経済をさまざまな視点から見る眼を養う。</p> <p>【到達目標】 経済ニュースに親しむ習慣を身に付け、その内容の大筋を理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) みずほ総合研究所編『22歳からの日本経済入門ーすぐに使える経済指標』毎日新聞社、日本経済新聞社編『Q&A 日本経済の基本100 2011年版』日本経済新聞出版社、東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 新版』有斐閣ブックス		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方／序論：日本の経済の姿を、世界と比較して、世界と結び付けて見ていこう 第2回 経済情報を見る眼：統計データを理解するための基礎知識（名目と実質、前年比と前期比、指数、対GDP比率） 第3回 世界経済をデータで読む（1）：世界金融危機以降、主要国の経済状況はどうなっているのか 第4回 世界経済をデータで読む（2）：新興国経済は、世界の中でどのくらいの存在感なのか 第5回 世界経済をデータで読む（3）：FTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）はどの程度世界に広がっているのか 第6回 世界経済をデータで読む（4）：ギリシャ問題がなぜユーロ不安につながっているのか 第7回 世界経済をデータで読む（5）：「2つの人口問題」とは何か、何か問題なのか 第8回 世界経済をデータで読む（6）：為替レートの動きや、国際マネーの動きはどうなっているのか 第9回 日本経済をデータで読む（1）：政府の借金残高の状況はどうなっているのか 第10回 日本経済をデータで読む（2）：貿易や日本企業の海外進出の動きはどうなっているのか 第11回 日本経済をデータで読む（3）：地域経済や農業の状況はどうなっているのか 第12回 日本経済をデータで読む（4）：産業の現状はどうなっているのか 第13回 日本経済をデータで読む（5）：国民生活の現状はどうなっているのか 第14回 日本経済をデータで読む（6）：グローバル経済を考える 第15回 まとめ（※講義の進み具合によって内容を一部変更する場合があります）		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式 〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】 周知のとおり、行政法は通則的典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】 行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 江頭憲治郎他編、『ポケット六法(平成24年度版)』、有斐閣		
授業スケジュール	第1回 法律による行政の原理：行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則 第2回 行政立法・行政計画：法規命令（委任命令、執行命令）、行政規則、行政計画 第3回 行政行為(1)：公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力 第4回 行政行為(2)：無効の行政行為、取消しうべき行政行為、瑕疵の治癒と転換 第5回 行政行為(3)：行政裁量、裁量行為、羁束行為、比例原則、平等原則 第6回 行政指導：規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政 第7回 行政上の義務履行確保制度：代執行、執行罰、直接罰制、行政上の強制徴収、行政罰 第8回 行政手続法：申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続 第9回 行政不服審査法：審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示 第10回 行政事件訴訟法(1)：抗告訴訟、取消訴訟、事情判決、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議 第11回 行政事件訴訟法(2)：処分性、原告適格、法律の保護する利益説、保護に値する利益説 第12回 行政事件訴訟法(3)：狭義の訴えの利益、無効等確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟 第13回 国家賠償法(1)：代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権 第14回 国家賠償法(2)：公の當造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件 第15回 損失補償：奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準として評価する。		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎																														
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期																														
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困が生まれる理由と、問題解決の方法を考える。</p> <p>【概要】 経済学の基礎を学びながら、賃金、労働時間、その他の労働条件、社会福祉や社会保障の本質や役割について勉強します。受講生のみなさんには、経済学の入門講座としても役立ちます。次学期以降に、企業論、経営組織論、労務管理論を履修したい人は、予めこの授業を履修しておく、理解しやすくなります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因からとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという、視点を獲得すること。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 徳に定めない</p> <p>(2) 授業時間内で指示します。</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回 講義の目的と進め方について</td> <td>: オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回 働くことってどういうこと?</td> <td>: 近代労働観の分裂を理解し、問題意識を持つ</td> </tr> <tr> <td>第3回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (1)</td> <td>: 資本主義経済の基礎を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第4回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (2)</td> <td>: 資本主義経済の基礎を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらまし作用</td> <td>: 「常識」の誤りが何故生じるかを理解する</td> </tr> <tr> <td>第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金</td> <td>: アルバイトでもらう賃金の仕組みを理解する</td> </tr> <tr> <td>第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか</td> <td>: 残業、長時間労働はどうして生じるのか</td> </tr> <tr> <td>第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか</td> <td>: 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する</td> </tr> <tr> <td>第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性</td> <td>: 貧困化論の問題点を検討する。</td> </tr> <tr> <td>第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困</td> <td>: 国家とは何か、社会政策はなぜおこなわれるのかを理解する</td> </tr> <tr> <td>第11回 帝国主義と協同的労使関係の形成</td> <td>: 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する</td> </tr> <tr> <td>第12回 福祉国家と社会政策</td> <td>: 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる</td> </tr> <tr> <td>第13回 ケインズ革命の終焉-社会政策から総合社会政策へ</td> <td>: 社会政策の経済政策化をとらえる</td> </tr> <tr> <td>第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性</td> <td>: グローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる</td> </tr> <tr> <td>第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題</td> <td>: 今日の労働者状態と社会政策の現状を考える</td> </tr> </table>			第1回 講義の目的と進め方について	: オリエンテーション	第2回 働くことってどういうこと?	: 近代労働観の分裂を理解し、問題意識を持つ	第3回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (1)	: 資本主義経済の基礎を学ぶ	第4回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (2)	: 資本主義経済の基礎を学ぶ	第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらまし作用	: 「常識」の誤りが何故生じるかを理解する	第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金	: アルバイトでもらう賃金の仕組みを理解する	第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか	: 残業、長時間労働はどうして生じるのか	第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか	: 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する	第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性	: 貧困化論の問題点を検討する。	第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困	: 国家とは何か、社会政策はなぜおこなわれるのかを理解する	第11回 帝国主義と協同的労使関係の形成	: 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する	第12回 福祉国家と社会政策	: 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる	第13回 ケインズ革命の終焉-社会政策から総合社会政策へ	: 社会政策の経済政策化をとらえる	第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性	: グローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる	第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題	: 今日の労働者状態と社会政策の現状を考える
第1回 講義の目的と進め方について	: オリエンテーション																																
第2回 働くことってどういうこと?	: 近代労働観の分裂を理解し、問題意識を持つ																																
第3回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (1)	: 資本主義経済の基礎を学ぶ																																
第4回 資本主義って何だろう? 私たちの社会の秘密 (2)	: 資本主義経済の基礎を学ぶ																																
第5回 賃金 (1) 賃金形態の目くらまし作用	: 「常識」の誤りが何故生じるかを理解する																																
第6回 賃金 (2) 時間賃金・出来高賃金	: アルバイトでもらう賃金の仕組みを理解する																																
第7回 働き過ぎの日本人 どうしたら労働時間は短くなるか	: 残業、長時間労働はどうして生じるのか																																
第8回 労働基準の法律がどうして生まれたか	: 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する																																
第9回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性	: 貧困化論の問題点を検討する。																																
第10回 社会政策と資本主義国家 社会政策本質論争の貧困	: 国家とは何か、社会政策はなぜおこなわれるのかを理解する																																
第11回 帝国主義と協同的労使関係の形成	: 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する																																
第12回 福祉国家と社会政策	: 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる																																
第13回 ケインズ革命の終焉-社会政策から総合社会政策へ	: 社会政策の経済政策化をとらえる																																
第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性	: グローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる																																
第15回 今日の社会政策をめぐる諸問題	: 今日の労働者状態と社会政策の現状を考える																																
成績評価の方法	学期末試験 (100%)																																

授業科目	社会思想	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	民法	担当者	正田 京子
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 民法の基本原則と基本ツール</p> <p>【概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法で、共同生活上のルールであると同時に紛争解決の規準となるものです。本講義では、日本の民法典の歴史も概観しながら、特に総則・物権・債権を中心に、財産に関する法を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 契約の交渉、締結、履行、履行されなかった場合の救済手段についての流れを理解する。 2. 未成年者など判断能力が不十分な者の契約締結に関する法規制の目的を理解する。 3. 日常生活の「善意」と法律上の「善意」の違いを理解する 4. 財産上のトラブルが生じたとき、法的にどのような問題が生じているのかを大まかに説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	後日指定する 講義時に紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：「私法の一般法としての民法」とはどのような意味か 第2回 民法の歴史を学ぶ：民法の制定と改正史 第3回 人と財産：プレイヤーと道具に関するルール 第4回 契約の成立：売買契約と雇用契約はどう違うか 第5回 契約締結で生じる問題：錯誤、詐欺 第6回 契約を締結する人に関する問題（1）：胎児、不在者はどうなるか 第7回 契約を締結する人に関する問題（2）：泥酔者、未成年者、成年被後見人など 第8回 所有権の取得：二重譲渡はどう対抗するか 第9回 契約の賞味期限：条件、期限、時効 第10回 代理：代理人による契約の締結 第11回 契約内容の有効性：公序良俗違反をめぐる議論の展開 第12回 契約が履行されないとき：債務不履行と損害賠償請求 第13回 契約の不完全な履行：危険負担と瑕疵担保責任 第14回 不法行為：事故の場合の損害賠償 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業の時に提出してもらおうレポート (40%) + 試験 (60%)		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代企業の組織・活動と法</p> <p>【概要】 現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を損ない、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。 (2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 (3) 国際化や情報技術化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 講義ノートと資料をプリントにして配布します。Webサイト (HP) からのダウンロードも利用します。 (2) 岩波書店『セレクト六法』などの小型六法全書を持参してください。		
授業スケジュール	第1回 企業法としての商法 (商人・商行為の概念) 第2回 企業の成立と商法の適用範囲 / 商法の基本原則 第3回 商業登記と電子化社会 第4回 商号自由主義とその制限—CI 戦略と商号— 第5回 名板貸 (名義貸し) の責任 第6回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止— 第7回 営業譲渡とその効果 第8回 営業所と商業使用人—商業代理人制度— 第9回 商業使用人と外観責任 第10回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化— 第11回 企業取引と普通取引約款 第12回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法— 第13回 有価証券法の基礎 第14回 会社法の基礎 (その1) 第15回 会社法の基礎 (その2)		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (100%) によって評価します。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理 第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の仕組みの理解</p> <p>【概要】みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている営利企業は、現金収支に限らず、さまざまな取引を記帳しています。企業はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。</p> <p>【到達目標】複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』（平成24年度版）、中央経済社。（予定） 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』、中央経済社。（予定） (2) 新井清光著、川村義則補訂『現代会計学』（第13版）、中央経済社。（予定）		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、簿記って何？：履修登録確認、配布資料（簿記・会計の歴史）、コース・パケット 第2回 簿記の意味・目的・種類：テキスト第1章、簿記の基礎概念：テキスト第2章 第3回 取引：テキスト第3章、商工会議所簿記検定試験許容勘定科目表 第4回 勘定と仕訳：テキスト第4章 第5回 帳簿の記入：テキスト第5章、決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章 第6回 決算と財務諸表（その1）：テキスト第6章 第7回 簿記一巡の手続きに関する学習（資料配布） 第8回 復習、予習・復習状況の確認：第6回までの資料、場合によっては小テスト 第9回 現金預金取引：テキスト第7章 第10回 商品売買（3分法）：テキスト第8章 第11回 商品売買（3分法）：テキスト第8章 第12回 売掛金と買掛金：テキスト第9章 第13回 その他の債権と債務：テキスト第10章 第14回 復習：テキストとワークブックを用いた復習 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および筆記試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2012年度の簿記論 I, II は、いずれも後期に開講されます。簿記論 I を履修する学生は、必ずセットで簿記論 II の履修登録を行ってください。

(注2) 2012年度以前に簿記論 II のみを履修済みの学生も2012年度に簿記論 I を履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

授業科目	経営学総論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】 この講義では、これから経営学を学ぶに当たって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】 経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいつか社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6回 人と企業との関係について (1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第 7回 人と企業との関係について (2)：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第 8回 人と企業との関係について (3)：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第 9回 人と企業との関係について (4)：企業の社会的責任について考える。 第 10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 12回 企業統治について：株式会社を運営している人は、実際には誰なのかを考える。 第 13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験 (70%)、授業でのレポート (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す 		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) 初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度 第 5回 コンピュータウイルス：コンピュータウイルスの仕組みと防御法 第 6回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第 7回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第 8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第 9回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第 10回 周辺機器：モニタ、光学ドライブ、プリンタなど周辺機器の役割、仕組み 第 11回 Web2.0とクラウド：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第 12回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第 13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方 第 14回 学生からの質問と回答：事前に提出された質問を解説 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 富士通オフィス機器株式会社(著)『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』POM出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第2回 あいさつ状の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（あいさつ状） 第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術、課題文書作成（表を利用した文書の作成） 第4回 図解の利用・・・・・・・・ネット社会の特徴について、図解を利用した文書の作成 第5回 企画書の作成・・・・・・・・デジタル情報の整理法について、計算式を含む文書の作成（企画書） 第6回 案内状の作成・・・・・・・・ネット関連の法律について、課題文書作成（案内状） 第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能（段組み、タブ、ヘッダー・フッターなど）、課題文書作成 第11回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成（スタイルの設定、セクション区切りの挿入など） 第12回 Excelデータの利用・・・・Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み 第13回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書（報告書）の作成（テンプレートの利用、段落罫線など） 第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめ		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目50%）+授業ごとに実施する課題（30%）		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年, 3年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる わかりやすいドキュメントを作成する インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 <p>☆注意事項：ワープロや表計算ソフトの基礎的な使用法を習得した学生を対象とする。パソコン初心者の履修は不可。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Webでも公開 (2)		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第6回 提案書作成1：インターネットによる費用検索 第7回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第8回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第9回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成1：USBメモリへのソフトの導入。HTML概念の復習。 第11回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成4：ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価・100%）		

授業科目	PC データ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得</p> <p>【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Excel 基本操作確認</p> <p>第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする</p> <p>第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（順位・条件など）</p> <p>第9回～第11回 グラフ作成、編集</p> <p>第12回～第13回 データベース機能</p> <p>第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (40%) + 試験 (60%)		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 取得操作の実践活用</p> <p>【概要】 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p>【到達目標】 PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2) 資料プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回～第4回 演習</p> <p>第5回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (20%) + 授業内小テスト (20%) + 試験 (60%)		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使う力を持つ</p> <p>【概要】 パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特にHTML5の登場を契機にWebブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこでJavaScriptを用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか考える力をもたせる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) (2) ホームページに紹介されているJavaScriptの記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう (オリエンテーション)</p> <p>第2回 JavaScriptの紹介 (1) HTMLにJavaScriptを組み入れる</p> <p>第3回 JavaScriptの紹介 (2) 繰り返しの処理はどのように行われるのか</p> <p>第4回 JavaScriptの紹介 (3) ソースにコメントをつけよう</p> <p>第5回 JavaScriptの紹介 (4) 画像の位置を制御</p> <p>第6回 JavaScriptの紹介 (5) 画像を動かしてみよう</p> <p>第7回 JavaScriptの紹介 (6) 簡単なゲームにしてみよう</p> <p>第8回 JavaScriptの紹介 (7) 簡単なゲームにしてみよう (その2)</p> <p>第9回 自分でやってみよう (1) 構想</p> <p>第10回 自分でやってみよう (2) 作画</p> <p>第11回 自分でやってみよう (3) アニメーション化</p> <p>第12回 自分でやってみよう (4) アニメーション化</p> <p>第13回 自分でやってみよう (5) アニメーション化</p> <p>第14回 自分でやってみよう (6) ホームページで公開</p> <p>第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開した作品 (50%) により評価する		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 主なアプリケーションソフトの活用</p> <p>【概要】 主に3つのアプリケーションソフトを体験し、パソコン活用の幅を広げる。</p> <p>【到達目標】 習得した各ソフトを利用してそれぞれ課題に基づいた作品 (データ) を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリント (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 プレゼンテーション作成: Microsoft Office PowerPointの操作説明</p> <p>第3回～第4回 プレゼンテーション作成: 課題に基づいて各自作成</p> <p>第5回 プレゼンテーション 発表</p> <p>第6回～第7回 ホームページ作成: KompoZerの操作説明</p> <p>第8回～第11回 ホームページ作成: 課題に基づいて各自作成</p> <p>第12回～第14回 データベース作成: Microsoft Office Accessの操作説明およびデータベースの作成</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (10%) + 各テーマごとの作品提出 (90%)		

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立し、一層激しく戦っているという状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようなつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 日本の産業政策と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産活法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等 第 14回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p>【到達目標】 金融機関の役割や金融市場など金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社（日経文庫）、安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社、岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何かー お金が果たす役割、金融という機能とは？</p> <p>第2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み、内国為替と外国為替、全銀システムと銀行間決済</p> <p>第3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務（預金と貸付）、銀行の収益構造、信用創造メカニズム</p> <p>第4回 証券会社の役割 (1)：証券（株式・債券）の仕組み、証券発行市場、証券流通市場</p> <p>第5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、ディーラー業務</p> <p>第6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能、生命保険と損害保険</p> <p>第7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割、機関投資家としての役割</p> <p>第8回 その他の金融機関：信託銀行、投資信託会社、消費者金融会社、クレジットカード会社など</p> <p>第9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能、市場金利、市場為替レート</p> <p>第10回 金利とは何か：利子（利息）、利子率・利回り、金利はどうやって決まるのか</p> <p>第11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節、金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策</p> <p>第12回 金融システム安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制、預金者保護の制度</p> <p>第13回 金融システム安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制、投資家や保険契約者保護の制度</p> <p>第14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊、世界金融危機まどのように起こったか</p> <p>第15回 まとめ (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	未定
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	経済学特講	担当者	蔵元 淳
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について</p> <p>【概要】 親族法（親子, 兄弟姉妹, 夫婦の各関係）と相続法について, 弁護士経験にもとづき具体的に講義する。 また, 経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。 加えて, 悪徳商法にひっかからないためにこの時間を設け, ネットワークビジネス, 内職商法, 就職商法, デート商法, キャッチセールスなどの被害の手口, 対処の仕方について講義をする。</p> <p>【到達目標】 司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 六法（小六法, 模範六法その他何でも可）を持参願いたい。 (2)		
授業スケジュール	第1回 悪徳商法にひっかからないために, ネットワークビジネス, 内職商法, 就職商法, デート商法, キャッチセールスなどの被害の手口, 対処の仕方について 第2回 婚姻（結婚）とは 第3回 内縁について 第4回 離婚とは 第5回 離婚原因について 第6回 離婚に伴う親権の指定, 財産分与, 慰謝料などについて 第7回 親子（実子）について 第8回 親子（養子）について 第9回 相続とは 第10回 誰が相続するか 第11回 相続の割合はどうなるか 第12回 遺言書について 第13回 遺留分とは, どういうことか 第14回 個人破産とは, どういうことか 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（80%）に授業での発言内容（20%）を加味する。		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】グローバル化が加速する21世紀の世界経済について, その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に, バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで, 日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに, 海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で, 国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】21世紀のグローバル化の現状を制度面と, その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇, 内国民待遇, 数量制限の禁止, ドーハラウンド 第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU 第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか, NAFTA, メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界 第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーン化の進展 第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JITからJISへの進化と負担軽減 第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界 第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS 第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS 第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS 第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	[学期] 後期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業が創業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	第 1回 国内立地と国際立地 第 2回 国内立地 (1) 東北・北海道への立地 第 3回 国内立地 (2) 東北・北海道への立地 第 4回 国内立地 (3) 東北・北海道への立地 第 5回 国内立地 (4) 九州への立地 第 6回 国内立地 (5) 九州への立地 第 7回 国内立地 (6) 九州への立地 第 8回 国際立地 (1) 中国への立地 第 9回 国際立地 (2) 南アフリカへの立地 (IMV1) 第 10回 国際立地 (3) アルゼンチンへの立地 (IMV2) 第 11回 国際立地 (4) ベネズエラへの立地 (IMV3) 第 12回 国際立地 (5) 第 13回 資本の民族性と国際性 (1) : 国家によって総括された資本と、それを超えていく資本 第 14回 資本の民族性と国際性 (2) : ナショナル, リージョナル, グローバル 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	[学期] 前期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか? TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 アジアとヨーロッパ: 統合に向かう成長と統合による成長 第 2回 アジア経済への道 (1) : 経済統合の5段階 第 3回 同上 (2) : TPPによる完全自由化への道 第 4回 同上 (3) : 東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第 5回 中国経済 (1) : 経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第 6回 同上 (2) : 社会主義を目指す資本主義 第 7回 同上 (3) : アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国へ改革開放30年の成果へ 第 8回 インド経済 (1) : インドの概況 第 9回 同上 (2) : 植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第 10回 同上 (3) : 民族資本として成長するTATA 第 11回 東南アジアの経済 (1) : タイとインドネシア 第 12回 同上 (2) : マレーシア、フィリピン、ベトナム 第 13回 アジアの未来 (1) : 中国、インド、日本の役割 第 14回 同上 (2) : アジア共同体への展望 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその課題について考える。</p> <p>【概要】 貿易や外国為替取引の仕組みを分かりやすく解説するとともに、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。WTO・自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）などで変化する国際経済の実態を紹介し、課題の抽出・討論を行う。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組みを理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 現代世界経済をとらえる<Ver.4> 東洋経済新報社</p> <p>(2) グローバル・エコノミー 有斐閣アルマ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 新しい国際貿易理論を学ぶ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 海外直接投資と労働の国際移動</p> <p>第14回 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的, 方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：対テロ</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】 アジアは, 地理, 歴史, 言語, 文化, 宗教, 民族など, すべての面において多様である。本講義では, 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも, 「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化, 現代においては脱植民地化, 国民国家建設, リージョナリズム (地域主義) の形成という共通性がある。また, 最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し, 分析する。</p> <p>【到達目標】 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス: 講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念: アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1: 植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2: 植民地のようす 第5回 歴史的形成3: 植民地からの独立 第6回 歴史的形成4: 脱植民地化, 国民国家建設, 開発 第7回 歴史的形成5: 冷戦下のアジア 第8回 東南アジア1: インドシナ三国 第9回 東南アジア2: ベトナム戦争の影響 第10回 東南アジア3: タイ, ミャンマー, マレーシア 第11回 東南アジア4: メコン河流域開発 第12回 東南アジアの地域協力体制: ASEANの形成 第13回 アジアにおける協力体制1: 「東アジア共同体」について 第14回 アジアにおける協力体制2: 「東アジア共同体」と日本 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって, 地域の持続的な発展に何が必要なのか, 事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて, それに対する政策的処方箋を導出するなど, 地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 地域主義と地方の時代: 地域問題と地域経済論 (1) 第2回 地域主義と地方の時代: 地域問題と地域経済論 (2) 第3回 内発的発展論: 地域社会の再生と持続可能な発展 第4回 地域づくり運動の展開: 地域づくり運動の諸相と課題 第5回 農山漁村地域の活性化 実態編 (1): 農山村地域での地域づくりとその手法 第6回 農山漁村地域の活性化 実態編 (2): 漁村地域での地域づくりとその手法 第7回 資源管理論: コモন্ズの悲劇と広域的資源管理組織 第8回 里海・里山は誰のものか: 地域資源の利用・管理とコンフリクト 第9回 第一次産業の担い手問題: 後継者対策とU・Iターン者 第10回 地域リーダー論: 地域リーダーの特徴, 育成, そして役割 第11回 経営組織論: 地域づくりと経営組織形態 第12回 農山漁村地域の組織問題: 異種間連携とホロニック 第13回 農林水産物の流通機構と価格形成: 付加価値向上に向けての取り組み 第14回 地域システムの形成: ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第15回 まとめ「農山漁村地域再生への道標」		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時実施するレポート(40%)+期末試験 (60%)		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と水商工連携 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地域史	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済のグローバル化の進展と農水産業の地域的動向</p> <p>【概要】 経済のグローバル化が進展する中で、世界、日本、そして鹿児島県における農水産業と農水産物流通の動向を解析し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、日本および鹿児島県の農水産業のありようを展望したい。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本および鹿児島県の農水産業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本および鹿児島県の農水産業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 農水産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農水産物貿易の特徴とフードマイレージ 第 3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第 5回 ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第 6回 食の安全と農水産業：遺伝子組み換えとBSEなど 第 7回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 8回 日本農業の現状と課題：国民経済に占める農業の地位と自給率の推移、農業の近代化と担い手 第 9回 映像でみる戦後日本農業の歩み 第 10回 映像でみる水産業の世界 第 11回 水産業の成立・発展条件と日本の水産業の特徴 第 12回 戦後の日本水産業の歩みと水産業政策の検証：「沿岸漁業等振興法」から「水産基本法」 第 13回 鹿児島県の農水産業の歩みと特徴 第 14回 鹿児島県の農水産業再生への道標：六次産業化と都市との交流、食育、スローフード運動と所得補償方式、TPP問題など 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念と理論、そして日本の地方財政制度とその特質、課題に関する内容を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 近年、行財政改革において、地方分権が大きな焦点となる一方で、地方自治体に対しては、国に甘えている、財政改革が足りないといった批判が盛んになされています。しかし、こうした批判では、地方自治とは何か、日本における国と地方自治体との関係はどうなっているのかといった重要な視点が置き去りにになっていることがしばしばです。本講義では、そうした重要な視点を踏まえて地方財政に関する理解を深め、地方財政や地方分権について受講者の皆さんが主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 4回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴、三位一体の改革等 第 5回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 6回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 7回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等 第 8回 地方の事務：機関委任事務廃止までの経緯、自治事務と法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論	担当者	平田 優・福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 協同組合を中心とした非営利組織の活動や社会的な存立の意義について学ぶ。</p> <p>【概要】 私たちの社会は、政府や企業(営利組織)の活動のみから成り立っているわけではない。最近では非営利組織の役割が注目を集めている。非営利組織とは強制力を伴う政府とも、営利を追求する企業とも異なった組織形態と活動目的を持っている。非営利組織とは営利以外の何らかの目的を達成するために設立された民間の組織であり、その活動分野も、まちづくり、福祉、消費者保護、国際協力など多岐にわたっている。この講義ではまず非営利組織の組織的な特徴について取り上げ、共同組合を中心とするさまざまな非営利組織の活動について紹介していく。</p> <p>【到達目標】 国際的な協同組合の原則や価値についての知識を得ると同時に、非営利組織が果たす社会的な役割について理解を深める</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 川口清史『非営利セクターと共同組合』日本経済評論社 (2) 『21世紀を拓く新しい協同組合論』コープ出版		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的と概要(福田) 第 2回 現代社会における非営利組織1：非営利組織の特徴(福田) 第 3回 現代社会における非営利組織2：歴史的経緯(福田) 第 4回 現代社会における非営利組織3：法的根拠(福田) 第 5回 国際社会で活動する組織：NGO1(福田) 第 6回 国際社会で活動する組織：NGO2(福田) 第 7回 非営利組織の世界的な展開：諸外国の事例(福田) 第 8回 日本の非営利組織：歴史と現在(平田) 第 9回 鹿児島県のNPO(平田) 第 10回 協同組合1：概論(平田) 第 11回 協同組合2：歴史(平田) 第 12回 協同組合3：事業内容(平田) 第 13回 協同組合4：鹿児島県の共同組合(平田) 第 14回 非営利組織の展望(平田) 第 15回 まとめ(福田)		
成績評価の方法	レポート(100%)		

授業科目	労働法	担当者	正田 京子
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」とは。</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、「ディーセント・ワーク」の実現はその基本理念だった。講義では、ILO設立の時代的背景や組織の仕組みを概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたのかを振り返る。</p> <p>また、ILO設立から90年以上たった現在、「ディーセント・ワーク」を再度掲げる意義を確認する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 2. 権利侵害に対して、どのような救済手段、救済機関があるのかを知る。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	「知って役立つ労働法 働くときに必要な基礎知識」(内閣府) 授業の時に紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：労働法とは何だろう 第2回 労働法の全体像(1)：条約・憲法・民法と労働法 第3回 労働法の全体像(2)：労働法の基本理念と労働法の対象、労働組合とは 第4回 労働条件決定の根拠：契約と就業規則・労働協約・法令 第5回 労働関係の終了(1)：解雇規制と解雇権の濫用 第6回 労働関係の終了(2)：整理解雇・辞職・合意解約・定年 第7回 労働契約の期間：有期労働契約の規制と雇止め法理 第8回 労働契約の期間：有期労働契約の規制と雇止め法理 第9回 賃金についてのルール：賃金額と支払わぬ方 第10回 労働時間と休憩・休日のルール(1)：法定労働時間と所定労働時間 第11回 労働時間と休憩・休日のルール(2)：変形労働時間制、年次有給休暇 第12回 安全で快適な職場環境のために：労災、パワーハラスメント・・・ 第13回 男女がいいきよとはたらくために(1)：性差別の禁止、間接差別の禁止、セクシュアル・ハラスメント 第14回 男女がいいきよとはたらくために(2)：母性保護、ワーク・ライフ・バランス、ポジティブ・アクション 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業時に提出してもらおう小レポート(40%) + 試験(60%)		

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】 キャッチセールス、資格商法、マルチ商法などの悪徳商法や外国為替証拠金取引などの金融商品被害ほどのように規制されているのか、危険な製品で受けた消費者の被害ほどのように賠償されるのか、サラ金への規制ほどうなっているのか、公正な競争や表示のための規制ほどうなっているのかなど、われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を、できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】 消費者が直面する具体的諸問題の現状や内容に関心を持ち理解すると共に、消費者が保障されている法律上の制度や諸権利の内容に関心を持ち理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけわかんない』法律文化社		
授業スケジュール	第1回 消費者問題の諸相、消費者の権利、消費者と契約：契約とは何か、契約の拘束力からの離脱 第2回 消費者と契約：消費者契約法(目的、対象、取消権) 第3回 消費者と契約：消費者契約法(不当条項の無効、適格消費者団体による差止請求権) 第4回 消費者と契約：特定商取引法(対象とする取引の概要、ネガティブ・オプション) 第5回 消費者と契約：特定商取引法(訪問販売・電話勧誘販売に関する諸規制、クーリングオフの意味と制度概要) 第6回 消費者と契約：特定商取引法(G通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引に関する諸規制) 第7回 消費者と契約：特定商取引法(連鎖販売取引＝マルチ商法に関する諸規制)、無限連鎖講防止法(ねずみ講の禁止) 第8回 消費者と安全：製造物責任法(目的・製造物の概念・欠陥の概念)。復讐のための第1回模擬演習テスト 第9回 消費者と安全：製造物責任法(責任主体・製造物責任・免責事由) 第10回 消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など 第11回 消費者と信用取引：割賦販売法(割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん) 第12回 消費者と金融商品取引：金融商品取引法(投資家＝消費者保護規制) 第13回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法(消費者保護に關連の深い側面に限定して) 第14回 消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法(景品表示法) 第15回 まとめ。復習のための第2回模擬演習テスト		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント (2)江頭憲治郎他編, 『ポケット六法(平成24年度版)』, 有斐閣		
授業スケジュール	第1回 地方自治の意義:住民自治, 団体自治, 伝來說, 固有権説, 地方自治の本旨 第2回 地方公共団体の種類:地方公共団体の構成要素(住民, 区域, 法人格), 都道府県, 市町村 第3回 地方公共団体の区域・事務:区域, 機関委任事務, 法手受託事務 第4回 住民の権利義務(1):住民, 条例の制定改廃の請求, 事務監査の請求 第5回 住民の権利義務(2):議会の解散請求, 議員, 長及び特定職員の解職請求, 住民監査請求 第6回 条例と規則(1):条例制定権の範囲と限界, 法令先占論, 条例の形式的効力, 実質的効力 第7回 条例と規則(2):条例制定手続, 条例と罰則, 行政罰, 規則の制定事項 第8回 議会(1):議会の地位, 町村総会, 議会の組織, 議会の権限, 検査権 第9回 議会(2):調査権, 請願受理権, 定例会, 臨時会, 議会の運営 第10回 議会(3):定足数の原則, 会議公開の原則, 過半数議決の原則, 会期不継続の原則 第11回 執行機関(1):長の地位, 長の権限, 長の職務の代理, 地方公共団体の事務所 第12回 執行機関(2):行政委員会の意義, 長と行政委員会との関係, 監査委員, 教育委員会 第13回 議会と長との関係:再議制度, 専決処分, 長に対する不信任議決, 議会の解散 第14回 地方公共団体と国の関係:国の関与の手続, 法定受託事務の処理基準, 国地方係争処理委員会 第15回 予算:予算事前議決の原則, 予算公開の原則, 総計予算主義の原則, 予算単一主義の原則		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準として評価する。		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式(黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として, 諸取引の処理と決算に関して学習します。また, 新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により, 最終的に, 財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 渡部ほか『新検定 簿記講義 3級 商業簿記』(平成24年度版), 中央経済社。(予定) 渡部ほか『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』, 中央経済社。(予定) (2) 新井清光著, 川村義則補訂『現代会計学』(第13版), 中央経済社。(予定)		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス:履修登録確認, 配布資料, コース・パッケージ, 前期(簿記論Ⅰ)の復習 第2回 手形:テキスト第11章 第3回 有価証券:テキスト第12章 第4回 固定資産:第13章 第5回 資本金と引出金:第14章 第6回 収益と費用:第15章 第7回 消耗品:第15章, 税金:第16章 第8回 復習, 予習・復習状況の確認:第7回までの資料, 場合によっては小テスト 第9回 帳簿と伝票:第17章 第10回 決算と財務諸表(その2):第18章 第11回 決算と財務諸表(その2):第18章 第12回 決算と財務諸表(その2):第18章 第13回 復習:テキストとワークブックを用いた復習 第14回 復習:テキストとワークブックを用いた復習 第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%), および筆記試験(80%)で評価します。 第1回目の講義においてコース・パッケージを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2012年度の簿記論Ⅰ,Ⅱは, いずれも後期に開講されます。簿記論Ⅱを履修する学生は, 必ずセットで簿記論Ⅰの履修登録を行ってください。

(注2) 2012年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も2012年度に簿記論Ⅱを履修登録できますが, その旨を宗田まで申し出てください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部に在る関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際に重要となる、動機づけの問題について説明する。 第4回 組織における人間（2）：人を働く気にさせる動機づけの種類について考える。 第5回 組織における人間（3）：「組織における人間観」に基づく、様々な経営理論を紹介する。 第6回 組織における人間（4）：人は何に満足し、何に不満を感じるのかを考える。 第7回 年功主義と成果主義を改めて考える：年功主義・成果主義、それぞれの長所と短所を説明する。 第8回 企業理念と組織文化：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。 第9回 組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのかを考える。 第10回 リーダーシップと人事管理：リーダーシップとは何か、人事管理との関連で考える。 第11回 上司と部下の関係：理想的な上司と部下の関係、現実の上司と部下の関係に考える。 第12回 リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第13回 リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第14回 企業とキャリア：今後のキャリアと企業で働くことの意味について考える。 第15回 まとめ		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	労務管理論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本とドイツの労務管理を比較しながら、日本の労務管理の動向や問題点を探ります。</p> <p>【概要】 資本の蓄積が進むと、複雑化した企業内の諸作業の把握と作業管理のための監督者組織の形成など、企業の計画的運営の必要性が生まれます。これにともない使用者と被雇用者の相互前提性と相互排他性のあり方が発展・変化します。授業では、使用者と被雇用者の関係をめぐる発展法則を理解し、日本と海外の労働市場や労使関係の比較を行いながら日本の経営の特徴をとらえ、今日の財界のグローバル化戦略である新日本的経営の目的と問題点を分析し、企業社会、格差社会、ワーキングプア等の社会問題がなぜ形成されたのか、どうすれば解決できるか等を検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p>【到達目標】 資本と賃労働の相互前提性と相互排他性が、資本の蓄積の中でどのように発展するのかを、その原理の考察と現代日本資本主義・ドイツ資本主義の発展の比較考察をつうじて考察します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に指定しません。 (2) 清野良榮編著『分析・日本資本主義』文理閣、朝日吉太郎編著『グローバル化とドイツ経済。社会システムの新展開』文理閣		
授業スケジュール	第1回 労務管理論の対象と経営学の発展 : オリエンテーション 第2回 資本・賃労働関係の理解について : 労働市場論を前提にした新しい労使関係論への問題提起 第3回 現代資本主義と労使関係の発展 (1) : 現代資本主義の下での労使関係論のとりえ方を学ぶ 第4回 現代資本主義と労使関係の発展 (2) : 労使紛争の制度化-コンフリクト理論の科学化をとらえる 第5回 現代資本主義と労使関係の発展 (3) : ミドルマネジメントの発達理由を理解する 第6回 日本の経営の特徴 (1) : 日本の経営論の検討と年功賃金を軸とする企業構造をとらえる 第7回 日本の経営の特徴 (2) : 企業別労働市場分断化と企業主義的労使関係の再生産構造 第8回 日本の経営の特徴 (3) : 事業所組合主義の形成と機能を理解する 第9回 日本の経営の発展 : 狙われた年功賃金制度改革のあゆみをとらえる 第10回 グローバル経済と新日本的経営 (1) : グローバル化と日本財界の新労務管理戦略を理解する 第11回 グローバル経済と新日本的経営 (2) : 構造改革路線と格差形成・成果主義 財界の21世紀戦略をとらえる 第12回 ドイツ労使関係とグローバル化 (1) : 戦後ドイツの労使関係の枠組をとらえ日本と比較する 第13回 ドイツ労使関係とグローバル化 (2) : ドイツ軽罪のグローバル化をとらえる 第14回 金融市場危機と雇用破壊の下での労使関係 : リーマンショック後の今日の労使関係と人事・労務政策をとらえる 第15回 日本の労務管理の未来について : 現時点での日本の経営の問題と克服の方向を考える		
成績評価の方法	学期末試験（100%）		

授業科目	管理会計論	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要			
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール			
成績評価の方法			

授業科目	経営学特講	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】 市場の成熟化や商品のコモディティ化が叫ばれるなか、企業にとって新たな市場戦略の構築が現代的課題となっている。本講義では、グローバリゼーションにおける主要なプレイヤーである多国籍企業に焦点を合わせ、その市場戦略について様々な角度から検討する。</p> <p>【到達目標】 現代多国籍企業の市場戦略とはいかなるものか、われわれの生活とどのように関係しているかを理解する。グローバルな視点に立って、企業・市場・社会の関係性について考察するための視点を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 市場戦略とは何か、現代における市場の特徴 第 3回 多国籍企業とは何か 第 4回 多国籍企業の市場戦略 第 5回 ブランド戦略論 (1) 第 6回 ブランド戦略論 (2) 第 7回 ブランド戦略論 (3) 第 8回 中間試験 第 9回 多国籍企業の市場戦略と文化 第 10回 ソフト・パワー論 第 11回 文化産業 第 12回 多国籍企業の市場戦略と企業の社会性 第 13回 事例分析 (1) 第 14回 事例分析 (2) 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

授業科目	情報管理論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の考え方について</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捕らえようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な要素も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこの部分を中心に、企業における情報の管理について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。</p> <p>第3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。</p> <p>第4回 比重が高まる情報の力について（1）：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。</p> <p>第5回 比重が高まる情報の力について（2）：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。</p> <p>第6回 メディアリテラシーという考え方について（1）：メディアリテラシー全般について説明する。</p> <p>第7回 メディアリテラシーという考え方について（2）：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。</p> <p>第8回 メディアリテラシーという考え方について（3）：情報を発信するための考え方を理解する。</p> <p>第9回 情報とメディア媒体（1）：メディアと情報の関係について考える。</p> <p>第10回 情報とメディア媒体（2）：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。</p> <p>第11回 情報操作（1）：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第12回 情報操作（2）：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。</p> <p>第13回 情報化の意義と必要性（1）：企業における情報化の意義と必要性について説明する。</p> <p>第14回 情報化の意義と必要性（2）：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定）</p> <p>詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	経営戦略論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略論の基本的知識を習得する</p> <p>【概要】 経営戦略とは、企業が外部環境に適応し、長期的に持続・成長するための意思決定（あるいは、そのような意思決定を行うための指針）である。経営戦略は、組織階層に応じて、企業戦略、事業戦略（競争戦略）、職能別戦略、の3つのレベルに区別できるが、本講義ではとりわけ前二者を中心に解説していく。さらに、グローバル戦略や企業の社会性など、近年の企業経営において重要性を増しているテーマについても講義していく。</p> <p>【到達目標】 経営戦略論における基本概念を知る。それぞれの概念がどのような関係にあるのか、学説史的にどのような流れを辿ってきたのを理解する。本講義で習得した知識を現実の企業に適用し、分析できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 経営戦略とは何か 第 3回 経営理念とドメイン 第 4回 規模の経済性と範囲の経済性、水平統合と垂直統合 第 5回 多角化戦略、M&A と戦略的提携 第 6回 経験曲線と PLC 第 7回 PPM 第 8回 中間試験 第 9回 競争戦略とは何か、競争戦略の学説史 第 10回 ポジショニング・アプローチ 第 11回 資源ベース・アプローチ 第 12回 学習アプローチ、ゲーム論的アプローチ 第 13回 グローバル戦略 第 14回 経営戦略と企業の社会性 第 15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。ところが、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような事態になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期に社会政策を受講していると分かりやすいと思います。</p> <p>【到達目標】 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 徳ご指定しません (2) 丸山恵也『批判経営学』-学生・市民と働く人のために		
授業スケジュール	第 1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション 第 2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる 第 3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる 第 4回 資本の再生産と領有法則の転変 : 所有法則の変化をとらえる 第 5回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する 第 6回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる 第 7回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する 第 7回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する 第 8回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原理解を解する 第 9回 銀行と信用、株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。 第 10回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる 第 11回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する 第 12回 恐慌と戦争 : 資本が国際展開する理由と、海外摩擦を考える 第 13回 日本の企業集団 (1) 戦前 : 戦前の日本資本主義の特徴をとらえる 第 14回 日本の企業集団 (2) 戦後 : 戦後の日本資本主義の特徴をとらえる 第 15回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での日本資本主義の変化をとらえる		
成績評価の方法	学期末試験 (100%)		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2007』もしくは『30時間でマスター Access2010』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第2回 Access の操作：Access とは 第3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第4回 Access の操作：レコードの追加 第5回 Access の操作：フォームの作成 第6回 Access の操作：選択クエリの作成 第7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第8回 Access の操作：データベースの設計 第9回 Access の操作：リレーションシップの作成 第10回 Access の操作：レポートの作成 第11回 Access の操作：レポートのアレンジ 第12回 Access の操作：マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第3版』, ソフトバンククリエイティブ (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：プログラミングの概念 第2回 マクロ：マクロの登録と実行 第3回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBA の利用：プロシージャ 第5回 VBA の利用：オブジェクト 第6回 VBA の利用：セルの操作 第7回 VBA の利用：演算子 第8回 VBA の利用：条件分岐 第9回 VBA の利用：繰り返し処理 第10回 VBA の利用：変数の利用 第11回 VBA の利用：関数の作成 第12回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業会計制度とその役割</p> <p>【概要】 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、制度会計の領域に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、制度会計(会社法会計と金融商品取引法会計)を中心として学習するとともに、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。</p> <p>【到達目標】 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 新井清光著, 川村義則補訂『現代会計学』(第13版), 中央経済社。(予定)</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録確認, コース・パケット配布, 会計って何?: テキスト第1章 (総論)</p> <p>第2回 企業会計の仕組み (その1-技術的特徴) : テキスト第2章</p> <p>第3回 企業会計の仕組み (その2-理論的特徴) : テキスト第3章</p> <p>第4回 企業会計制度: 第4章</p> <p>第5回 資産会計: 第5章</p> <p>第6回 資産会計: 第5章</p> <p>第7回 負債会計: 第6章</p> <p>第8回 資本会計: 第7章</p> <p>第9回 損益会計: 第8章</p> <p>第10回 損益会計: 第8章</p> <p>第11回 財務諸表の作成: 第9章</p> <p>第12回 財務諸表の作成: 第9章</p> <p>第13回 連結財務諸表: 第10章</p> <p>第14回 連結財務諸表: 第10章</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>		
成績評価の方法	<p>講義への参加度 (発言や質問など) (10%) 筆記試験 (90%) で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 履修に際しては、簿記論Ⅰ, Ⅱを履修済み(履修中)であること、ないし日商簿記検定3級以上の知識があることを条件とします。

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論: 講義の概要</p> <p>第2回 情報技術の進化: コンピュータやインターネットの歴史</p> <p>第3回 コンピュータの仕組み1: ハードウェア</p> <p>第4回 コンピュータの仕組み2: ソフトウェア</p> <p>第5回 ネットワーク技術1: インターネットの概要</p> <p>第6回 ネットワーク技術2: インターネットのプロトコル</p> <p>第7回 コンピュータの利用: データベースとプログラミング</p> <p>第8回 情報セキュリティ1: 共通鍵暗号</p> <p>第9回 情報セキュリティ2: 公開鍵暗号</p> <p>第10回 シミュレーション1: シミュレーションとは</p> <p>第11回 シミュレーション2: 簡単なシミュレーションを体験する</p> <p>第12回 意思決定1: 意思決定とは</p> <p>第13回 意思決定2: エクセルのソルバーの利用</p> <p>第14回 データ分析: エクセルのデータ分析の利用</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 (70%) + レポート (30%)</p>		

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 マーケティングを体系的に学ぶ</p> <p>【概要】 マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。本講義では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】 マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養うことを目標とする。すなわち、消費者として、企業がいかなるマーケティング戦略を行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客ニーズや顧客満足を満たすためには、いかなる努力が必要であるかを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 マーケティングの誕生と基本概念 第 3回 標的市場の選択 第 4回 市場・消費者行動分析 第 5回 競争分析 第 6回 製品戦略 第 7回 価格戦略 第 8回 中間試験 第 9回 流通戦略 第 10回 プロモーション戦略 第 11回 ブランド戦略 第 12回 経験価値マーケティング 第 13回 関係性マーケティング 第 14回 グローバル・マーケティング 第 15回 ソーシャル・マーケティング		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 中間テストおよびレポート (40%)		

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものから出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p>			
<p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」</p>			
<p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>3年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p>			
<p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p>			
<p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p>			
<p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

19 教職に関する科目

授業科目	教職入門	担当者	田口 康明
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動と服務の関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となる教職員の役割として進路選択を可能にする力の育成、すなわちキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解が深まるが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年 (2) 授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど 第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について 第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師 第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ 第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容 第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談 第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度 第8回 現代の教師の身分と地位2 教員の服務・身分と公務員制度 第9回 学校における分業制の理解 学校での少数職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性 第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験 第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養 第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷 第13回 教師の資質をめぐる動き2 学校評価・教員評価・不適格教員・心の健康 第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度) 30%、筆記試験 70%		

授業科目	教育原理	担当者	田口 康明
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】 教員になるために必要な教育学の知識として、最低限身につけておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史・制度に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践・学校経営の事例の紹介など、今日的なトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】 教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 嶺井正也編『ステップアップ教育学』八千代出版 2010年</p> <p>(2) 参考文献 随時紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて誕生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範学校教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校改革運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革とPISA 1970年代から今までの各国の教育改革とPISAについて理解する</p> <p>第14回 新しい学習指導要領 平成24年度完全実施（中学校）の学習指導要領の改正点について理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート（8：2程度の比率）で評価する。		

授業科目	教育心理学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 教育活動を行ううえで必要となる知識（理論や概念）を提供する科目として教育心理学がある。本講義では、教育心理学の主要テーマである「学習」、「発達」、「評価」、「性格」の4つについて学ぶ。 適切な教育活動を行うには、学習に関する理論や概念を知る必要がある。また、教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに、知識の習得だけでなく、その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。</p> <p>【到達目標】 ①教育心理学に関する知識（概念・理論）の習得 ②教育心理学の観点から教育活動を考える意識を持つ。 ③知識を応用するという意識を高める</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育心理学とは？ 第2回 学習①：学習理論 第3回 学習②：動機づけ 第4回 学習③：学習指導法 第5回 学習④：記憶のメカニズム 第6回 学習⑤：効果的な学習法 第7回 発達①：発達理論①（エリクソンの心理社会的発達理論） 第8回 発達②：発達理論②（ピアジェの認知発達理論） 第9回 発達③：乳幼児期の発達の特徴 第10回 発達④：児童期、青年期の発達の特徴 第11回 評価①：教育評価 第12回 評価②：知能検査 第13回 性格①：パーソナリティ理論 第14回 性格②：パーソナリティ検査 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとに実施する小論文：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	教育行政学概論	担当者	岩橋 法雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本の教育の行政・制度 【概要】日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関（文部科学省、教育委員会）であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解釈をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している＜教育の法律に関すること＞である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。 【到達目標】日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 仙波克也・楠達夫編『現代教育法制の構造と課題』（コレール社刊） (2) 授業中に随時指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型（Administration と Governance）の相違と特質 第2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校（unpopular と popular）の相克。教育の制度と管理運営。 第4回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長（レイマン・コントロールの意味）、教育委員会の役割 第5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会（教育委員会の構成と権限） 第6回 教育関連諸法規の概要 第7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか？（身分上の問題）、対生徒の関係において、何ができて何ができないか？（①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限） 第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

(注) 7.5回

授業科目	教育課程論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期集中 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育課程(カリキュラム) の定義・歴史・現状・課題。現在の学習指導要領との関連。</p> <p>【概要】本来、教育課程(カリキュラム) は、各学校毎に作成されるものであるが、日本には、その教育課程の基準である学習指導要領が存在し各学校種に応じて規定されている。そうした教育課程(カリキュラム) の基本概念及び編成方法、歴史と現状、課題について概説する。また、子どもの学習を促進するカリキュラムづくりのあり方について受講生とともに検討し、学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する方法と力量を形成する。</p> <p>【到達目標】教育課程(カリキュラム) の定義、歴史、現状、課題に関する基礎的認識・概念の習得。2年次の実習に向けて各学校のカリキュラムのねらいと内容を適切に理解する能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に定めない。資料を配付する。</p> <p>(2) 大杉昭英編『中学校学習指導要領(平成20年版)全文と改訂のピンポイント解説』明治図書出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程(カリキュラム) とは何か 教育課程の基本概念や教育課程の編成方法・形式について理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領と教育課程編成、教科書 学習指導要領と各学校の教育課程並びに教科書との関係を把握し、学習指導要領について理解を深める</p> <p>第3回 日本の教育課程行政(学習指導要領) 史 戦後の学習指導要領の編成について理解する</p> <p>第4回 現行の学習指導要領の解説(1) 平成20年の改訂について主に「総則」を理解する</p> <p>第5回 現行の学習指導要領の解説(2) 平成20年の改訂について主に各教科「国語」「英語」「家庭」を理解する</p> <p>第6回 教育目標と教材教具 教育目標と教材・教具の関連について理解し、優れた教材・教具を紹介する。</p> <p>第7回 まとめ 今後の教育課程のあり方を展望する。これまでの学習成果をまとめる。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	国語科教育法	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
成績評価の方法			

授業科目	英語科教育法	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育の大変革期を迎え、現代の英語教育に必要とされる基礎知識と未来への展望を把握すると共に、科学的に分析し、各自が多文化共生社会での望ましい英語教師像をイメージできるようにする。</p> <p>【概要】 日本における英語教育の変遷を把握し、世界の外国語教育、英語教育の指導理念、英語教育の指導法の変遷、言語スキルの指導法、情報技能と指導、授業論などを概説し、現代の指導者に不可欠な国際理解教育についても考察する。実践面としては、ここ数年の東京都中学校英語教育研究会の動向を踏まえつつ、同研究会の研究公開授業などのビデオ等を参考に実習前の英語教育の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】 教育実習前に、現代の英語教育の状況を把握することによって、英語教師としての資質向上に精進すると共に、自立的に、臨機応変に、授業を組み立てていくことをも目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 高梨康雄・高橋正夫著 『新・英語教育学概論』 金星堂 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 日本の英語教育の歴史の変遷 第2回 世界の英語教育、外国語教育の目的 第3回 指導理念を考えるモデル・ケース：小学校英語教育、広い視野からみる外国語学習の目標 第4回 指導法の変遷 第5回 現代の主な指導法、評価論 第6回 言語スキルと指導技術（リスニング、スピーキング） 第7回 言語スキルと指導技術（リーディング、ライティング、コミュニケーション・スキル） 第8回 国際理解教育 第9回 情報技能と指導 第10回 授業展開、学習指導案 第11回 授業研究、外国語学習者の心理 第12回 教師論、教育現場が実習生に求める資質・英語力 第13回 模擬授業 第14回 模擬授業 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業の発言内容（30%）、レポート（70%）で評価する。		

授業科目	家庭科教育法	担当者	長友 悠紀子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 家庭科教師に必要な基礎的知識および指導方法</p> <p>【概要】 中学校における家庭科を指導するために必要な基礎的知識や指導方法を具体的に講義し授業実践力を身につけることをねらいとする。学習指導要領に示された目標、内容の取り扱いの解説を行う。また、学習指導計画の作成や学習指導案の書き方を具体的に指導する。</p> <p>【到達目標】 家庭科教育の理念や問題を踏まえ、望ましい教師像を念頭に置き、実践しようとする人材の育成。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 佐藤文子・川上雅子 改訂版 『家庭科教育法』 高陵社書店 (2) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年9月) 解説一技術・家庭編一』		
授業スケジュール	第1回【家庭科教育法とは】 家庭科教育法を学ぶにあたっての説明および家庭科教育の意義について 第2回【教科教育としての家庭科】 家庭科教育の理念および目標について 第3回【家庭科教育を支える学問】 家庭科教育と家政学、家庭科教育が育む力 第4～5回【家庭科の教師、家庭科の歴史】 家庭科の教師に望まれる要素、歴史の変遷と展望 第6回【小学校の家庭科】 目標、内容、指導上の諸問題 第7～8回【中学校の技術・家庭科】 家庭科の性格、目標、内容、指導上の諸問題 第9回【学習指導の計画】 年間指導計画、領域、題材 第10回【学習指導案の作成】 学習指導案の例、基本学習指導過程 第11回【学習指導法】 学習指導の技術、指導の諸方式について 第12回【実験・実習指導の留意点】 実験実習における基本的留意点について、教具・資料の活用 第13回【教育評価法】 評価の目的、観点、評価法、記述法 第14回【家庭科指導の実際】 家庭科の施設と設備および中学校における調理実習VTR視聴 第15回 まとめ		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋レポート(学習指導案等10%)		

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2) 随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一 道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 中学校教諭2種免許 ※7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年(栄養教諭課程履修者) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を「学校教育全体を通して行う」ことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】栄養教諭として必要な道徳教育に関する基本的な知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『小学校学習指導要領解説 道徳編』『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2) 随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一 道徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 人権教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口 康明
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】 入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】 中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 中学校教諭2種免許 ※7.5回

授業科目	特別活動論	担当者	田口 康明
		〔履修年次〕 2年 (栄養教諭課程履修者) 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小・中学校における「特別活動」の理解</p> <p>【概要】 入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、新学習指導要領等に記載された目標・内容を理解し、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。</p> <p>【到達目標】 小・中学校における「特別活動」について基本的事項を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文科省 (2) 授業において紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容 第6回 「特別活動」の現代的意義 第7回 「体験的活動」「キャリア教育」など 第8回 まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート（2回程度）および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回

授業科目	教育方法学概論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期集中 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶ。</p> <p>【概要】授業について代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して、授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】授業や教育の方法・技術について、「教える」という立場から、分析したり、考えたりすることができる。先輩教師の授業実践から、授業の世界の複雑さや奥深さを捉えることができる。自分なりに「よい授業」に対する考え（授業や教育に対する哲学）を深め、それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)特に定めなし。資料を配付する。</p> <p>(2)日本教育方法学会編『リテラシーと授業改善—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究』図書文化社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業とは何か 近代以前、近代以降の授業の様子を歴史的に考察する</p> <p>第2回 授業を創る(1) 具体的な教材と教育内容、教育目標の関係を理解する</p> <p>第3回 授業を創る(2) 授業のプロセスを構想し、教授行為と学習形態・学習方法について検討する</p> <p>第4回 授業を創る(3) 教育の環境づくりとメディア・教育機器の活用、授業の評価の方法について理解する</p> <p>第5回 授業の技術 ベテラン教員の実践事例に学ぶ</p> <p>第6回 教科書のない授業 総合的な学習の時間の指導法について理解する</p> <p>第7回 まとめ 授業の世界の複雑さと教師という仕事の特異性について理解する。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	教育相談	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不応答等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を、「カウンセリング心理学」、「発達臨床心理学」、「学校心理学」の観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育相談とは？</p> <p>第2回 教育相談の必要性と重要性</p> <p>第3回 教育相談の基本的な考え方</p> <p>第4回 校内支援体制①：役割について</p> <p>第5回 校内支援体制②：連携について</p> <p>第6回 生徒理解の方法①：アセスメントについて</p> <p>第7回 生徒理解の方法②：アセスメントの実際</p> <p>第8回 教師に求められるカウンセリング理論</p> <p>第9回 教師が行うカウンセリング技法Ⅰ</p> <p>第10回 教師が行うカウンセリング技法Ⅱ</p> <p>第11回 心理教育プログラム</p> <p>第12回 教育相談の実際①：不登校のケース</p> <p>第13回 教育相談の実際②：いじめのケース</p> <p>第14回 教育相談の実際③：発達障害のケース</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとに実施する小論文：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学教諭2種免許

授業科目	生徒指導論	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ 第2回 学校心理学的アプローチ 第3回 教師と児童生徒の関係 第4回 児童生徒の仲間関係 第5回 児童生徒における諸問題①：不登校 第6回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第7回 児童生徒における諸問題③：学校ストレス 第8回 授業における生徒指導 第9回 心理教育：ソーシャルスキルトレーニング 第10回 心理教育：構成的グループエンカウンター 第11回 特別支援教育：支援を必要とする子どもたち：発達障害 第12回 特別支援教育：特別支援教育の実際 第13回 進路指導について① 第14回 進路指導について② 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとに実施する小論文：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	生徒指導原論	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ (学校心理学的アプローチ) 第2回 教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第3回 児童生徒における諸問題①：不登校 第4回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第5回 心理教育 第6回 特別支援教育 第7回 進路指導について 第8回 まとめ</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとに実施する小論文：40%、筆記試験：60%		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回

授業科目	教職実践演習 (中学校教諭)	担当者	田口 康明・石川 満佐育・久木田 美枝子・坂上 ちえ子 未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につけている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>授業の概要：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は教科に関する教員が中心になって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材 (模擬授業の映像など) やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用説明を行う。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。) 教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回：[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習 (栄養教諭)	担当者	町田 和恵・木場 幸子・田口 康明・石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につけている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状況に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身につけて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と、教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』、文部科学省 (2007) 『食に関する指導の手引』 (いずれも東山書房)</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演]教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は8:20～12:50までを予定している。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)]食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)]道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)]給食の時間における食に関する指導の重点について、模擬授業や討論活動を行い、学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表]テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。</p>		
成績評価の方法	<p>授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。</p>		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口 康明
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 5単位 〔必修/選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 実習・講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p> <p>この他、「同和教育」に関する講演会を事前又は事後に実施。</p>		
成績評価の方法	<p>実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。</p>		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期集中 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育現場において求められている栄養教育実践力</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって、子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と、給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし、実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的に学習する。主に県内の小、中学校、給食センターで、1週間の実習を行う。</p> <p>【到達目標】 学校教育全般の組織・運営を理解し、栄養教諭職務の全体像を把握する。また、栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし、作成した学習指導案に基づいて授業を行い、食に関する実践的な指導力を身につけるとともに、児童・生徒の理解、定着度を評価する力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <p>1, 指導教諭等からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・サービス 等 <p>2, 児童及び生徒への個別相談、指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導、相談の場の参観、補助 等 <p>3, 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 ・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 ・児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 ・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等 <p>4, 食に関する指導の連携・調整の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観、補助 等 <p>5, 学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
成績評価の方法	実習先評価 (60%) , 実習ノート・参加態度等 (40%) によって総合的に評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。事前指導の内容は、栄養教育実習の意義、目的や実習校での参観・参加・授業実習、学習指導案の説明と作成などである。また、事後指導では各実習生の報告をもとに必要な指導を行う。</p> <p>【到達目標】 本授業では、教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 山本公弘『気がするにできる総合学習・体験学習—新しい栄養指導3』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>事前指導</p> <p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施（1） 班に分かれて授業をする</p> <p>第5回 模擬授業の実施（2） 班に分かれて授業をする</p> <p>事後指導</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理 今後の課題の明確化</p>		
成績評価の方法	発表・提出物 (80%) , 取り組み態度 (20%) を総合的に評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回